

令和元（2019）年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書



自己点検・評価委員会

教育職員		氏名	頁
人間社会学部国際観光学科			
1	副学長・教授	橋本 健夫	1
2	学部長・教授	池永 正人	7
3	学科長・教授	板垣 朝之	14
4	教授	井上 英也	19
5	教授	落合 知子	26
6	教授	熊谷 賢哉	32
7	教授	嶋内 麻佐子	37
8	教授	滝 知則	47
9	教授	田中 誠	61
10	准教授	安部 雅隆	68
11	准教授	乙須 翼	75
12	准教授	尾場 均	83
13	准教授	小島 大輔	91
14	准教授	城前 奈美	100
15	准教授	新藤 照夫	106
16	准教授	谷口 佳菜子	111
17	准教授	Thom W. Rawson	117
19	准教授	早坂 昌彦	125
18	准教授	原 哲弘	130
20	准教授	三浦 知子	137
21	准教授	宮良 俊行	143
22	准教授	山内 美穂	149
23	講師	内田 智子	154
24	講師	川上 直彦	159
25	講師	柴田 あづさ	166
26	講師	神野 周太郎	171
27	講師	Brendan Van Deusen	178
28	講師	松本 知子	184
29	講師	森尾 真之	190
30	助教	John Patrick Owatari-Dorgan	195
31	助教	中島 金太郎	202
32	助教	宮本 彩	210
33	助教	元嶋 菜美香	216
人間社会学部社会福祉学科			
1	副学長・教授	木村 勝彦	222
2	学科長・教授	中村 龍文	232
3	教授	坂本 雅俊	237
4	教授	高島 恭子	242
5	准教授	大畠 啓	249
6	准教授	韓 榮芝	255
7	准教授	柳 智盛	261
8	准教授	脇野 幸太郎	268
9	講師	安藤 佳珠子	274

教育職員		氏名	頁
10	講師	石橋 亜矢	283
11	講師	浦 秀美	292
12	講師	Virág Viktor	299
13	講師	金澤 由佳	308
14	講師	種橋 征子	313
15	講師	中村 美穂	319
16	講師	野田 健	325
17	講師	久田 貴幸	331
18	助教	村上 広美	337
19	助手	毎熊 亜美	346

健康管理学部健康栄養学科

1	学部長・教授	野村 秀一	351
2	学科長・教授	熊井 まどか	357
3	教授	今村 裕行	362
4	教授	岡本 美紀	367
5	教授	古賀 貴子	373
6	教授	柴田 哲雄	380
7	教授	水江 文香	385
8	准教授	林 俊介	391
9	准教授	松尾 嘉代子	398
10	准教授	山口 留美	405
11	講師	小田 和人	410
12	講師	川内 美樹	416
13	講師	川野 香織	422
14	講師	藤井 俊輔	428
15	講師	宮原 恵子	434
16	講師	吉村 亮二	439
17	助手	芦塚 淳美	445
18	助手	射場 仁美	449
19	助手	嘉数 圭祐	453
20	助手	川邊田 晃司	457
21	助手	菊地 優子	461
22	助手	菊池 亮子	465
23	助手	衣笠 輝	469
24	助手	古田 美咲	473
25	助手	吉永 奈津希	477

薬学部薬学科

1	副学長・教授	安東 由喜雄	482
2	学部長・教授	榊原 隆三	496
3	学科長・教授	小林 秀光	502
4	教授	市川 和洋	508
5	教授	大磯 茂	513

教育職員		氏名	頁
6	教授	大庭 義史	519
7	教授	小川 由起子	525
8	教授	椛島 力	532
9	教授	仮屋蘭 博子	538
10	図書館長・教授	岸原 健二	544
11	教授	隈 博幸	551
12	教授	黒川 健児	556
13	教授	佐藤 博	562
14	教授	長岡 寛明	570
15	教授	深澤 昌史	576
16	教授	藤田 英明	582
17	教授	藤原 俊幸	588
18	教授	山口 拓	593
19	教授	山口 辰哉	601
20	教授	山口 泰史	606
21	教授	淀 光昭	613
22	教授	和田 守正	618
23	准教授	一木 裕子	625
24	准教授	宇都 拓洋	632
25	准教授	太田 一寿	641
26	准教授	高井 伸彦	646
27	准教授	田中 宏光	652
28	准教授	西奥 剛	659
29	講師	神谷 誠太郎	664
30	講師	相田 美和	669
31	講師	高崎 伸也	674
32	講師	田中 啓太郎	679
33	講師	出口 雄也	685
34	講師	縄田 陽子	691
35	講師	藤井 佑樹	697
36	講師	藤木 司	703
37	講師	藤本 京子	708
38	講師	吉田 達貞	714
39	助教	榎本 彩乃	720
40	助教	大神 正次	725
41	助教	太田 智絵	730
42	助教	中島 健輔	737
43	助教	中村 沙織	742
44	助教	波多江 日成子	747
45	助教	福森 良	752
46	助教	松下 博昭	757
47	助手	大崎 千尋	762
48	助手	倉岡 卓也	768
49	助手	山口 恭士郎	773

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 橋本 健夫

1. 教育理念

本学が掲げるディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを常に意識し、学生が大学での学びに納得し、主体的に授業に参加するとともに自己学修に励むことができることを目標にして教育を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	9	②⑥⑦
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	②⑥⑦
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	17	②⑤⑥⑦
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	①②④⑤
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	②④⑤⑥⑦
教職実践演習(栄養教諭)	2 / 15 (後期)	2	1	⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	②④⑤⑦
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	20	⑤⑥⑦
教育方法論	15 / 15 (後期)	2	24	①②④⑤⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

ホスピタリティ概論は3年目となり、予想以上に円滑に進むようになった。SAの研修も行ったので、昨年度よりは動きが良い。ただ、受講生へのコメントを十分に返しきれない場合もあり、それが反省点である。また、全くレポートを提出しない学生も存在し、授業のたびに注意がするものの改善されない場合もあり、頭が痛い。

教養セミナーAについては、新学期早々のコミュニケーションはぎこちなかったが、授業回数が進むにつれて円滑になり、面談もスムーズに進んだ。後期の教養セミナーBについても学生との関係はより良好になり、楽しい授業となった。

教育方法論については、教職を希望する学生達であり、予習課題にもよく取り組んでくれた。しかし、課題の提出をしない学生や提出回数の少ない学生もいて、彼らを授業に引き入れるのに苦勞した。

教職実践演習と教育実習の受講生は、目の前に教職があるので、非常に積極的に取り組み、授業の目標は確実に達成できたと思う。ただ、実習中に企業の面接を受けるという学生がおり、その取扱いに苦慮した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	地球環境論	15/15(後期)	2	42

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

次の二つが研究テーマである。

(1) 高等教育の改善・充実に関する研究

時代は、教育の質保証から教育マネジメントに移りつつある。質保証に関する仕組みは、卒業ポートフォリオの作成に よってかなりの部分が可視化されたと思う。この次のステップは教育マネジメントを如何に効果的に行うかである。これに関しては、文部省から指針が示されたが、それを実際にどう具体化するかは大学に任されている。大学教育学会での議論に参加するとともに、米国の学会で意見交換も行った。それをもとに、来年度中にPDCAの具体的策を決めることができるように、研究を進めたい。

(2) 学校教育における理科教育及び総合的な学習の時間の在り方に関する研究

新学習指導要領の実施に伴い、理科ではプログラミングを履修しなければならない。ただ、この教材は価格が高く、一般の学校では十分に学習が行えない危惧がある。また、教員のプログラミングの素養も危うい状況にある。そこで、安価でできるプログラミングの研修会を開いた。そこでは、工学部の教員を講師にして、簡単なプログラムの組み方を学ばせた。この研修会を繰り返すことによって、現場の不安を払しょくしたいと考えている。一方、総合的な学習の時間については、大学の教員養成の段階でも学ばなくてはならなくなった。その内容について、学期で発表するとともに実際の授業で使えるようにまとめた。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	30万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
建学の精神の徹底を図る初年次教育の実践と課題/2020/3/大学教育基盤センター紀要/20頁
/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
納得感とは何か:主体的学びを後押しする心理学的概念を探る(2)/2019/6/9/大学教育学会第
40回大会
建学の精神の徹底を図る初年次教育の実践と課題/2019/12/大学教育学会2019年度課題研究
集会
Is Satisfaction and Making Sense of Learning the Same?/2020/2/39th Annual Conference on the
First-Year Experience

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
理科教育におけるがん教育	科学研究費	2018～2020	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	議長である学長を補佐する役割を担うとともに 教授会で報告を行った。
全学共通教育委員会	委員会	来年度から始まる新しい教養教育について構 想し、教務委員会に送った。
教員資格審査委員会	副委員長	委員長の補佐を務めるとともに教員の資格審 査に加わった。
IRセンター	センター長	教学IRの在り方を議論するとともに、繋いでい くデータの収集に貢献した。
教職課程委員会	委員長	委員長として教職課程を充実させるための議 論を行うとともに、5名の教職への就職に貢献 した。
研究ブランディング事業実施委 員会	委員	今年度は公募がなく、委員会も開かれなかつ た。
人事委員会	副委員長	来年度に向けた人事を粛々と進めた。

教育基盤センター運営委員会	委員長	教育基盤センターの各部門長をお願いをして、機能を向上させた。FDや新任教育研修などの充実も行った。
輸出管理委員会	委員	委員として議論に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

保護者会(宮崎県、大分県)2019年10月12日～13日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習	2019/5～2019/8	離島(壱岐、対馬、上五島)と佐世保市	長崎県
大学入試センター第3委員会委員	2019/5～2020/2	東京駒場	大学入試センター

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
教科科目第三委員会	委員(理科担当)	2018/9/1～ 2020/8/31	大学入試センター
Awesome!Sasebo!Project	評価委員・推進委員	2019/4/1～ 2020/3/31	長崎短期大学長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度も忙しい中で、時間が過ぎていった。この間、国内外の学会への参加や科研の研究にも着手したが、特に後者に関しては、特筆すべき結果を残せなかった。それは2年目ということもあるが、最終年度に向けて「がん教育」の在り方を詰め、目標とする少年少女に向けた絵本の作成にかかりたい。また、大学教育については、本学における教学マネジメントの具体策を作ろうと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 池永 正人

1. 教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	10	①⑥⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	13	①②④⑥
観光地理学	15 / 15 (前期)	2	171	②③⑨
社会科地理歴史科教育法	15 / 15 (前期)	2	4	②④⑦⑨
地理学	15 / 15 (前期)	2	94	②③⑨
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	7	①②④⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	①②④⑥
長崎研究	3 / 15 (前期)	2	55	②③
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	①⑥⑫
地理歴史科教育法	15 / 15 (後期)	2	3	①②⑦⑩
社会科地理歴史科教育法	15 / 15 (後期)	2	4	②④⑦⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	2	①②④⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	12	①②④⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	①②④⑥
教職実践演習(中・高)	1 / 15 (後期)	2	20	①
観光政策論	15 / 15 (後期)	2	127	②③⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光地理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-

観光地理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1
事例研究(観光地理)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
観光自然資源特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	7
地域マネジメント研究方法	15 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

① 授業改善

a) 講義型の授業

【学部】

国際観光学科の専門科目である「地理学」と「観光地理学」は前期に、「観光政策論」は後期にそれぞれ講義を実施した。今年度の大きな授業改善は、3科目いずれの授業において復習の確認問題を毎回の授業で解かせ、その解答をリフレクションカードに書いて提出させたことである。重要な用語を毎回の授業で2問出題し、計27問を解答させた。そして、学期末の定期試験では確認問題の半数を出題し、専門知識を確実に習得させるように務めた。その結果、出席率の向上による受験資格なしの学生が大幅に減少したこと、再試験受験者が全員合格したことなどの効果が得られた。この点は、今年度の有効な改善であった。

学生の遅刻や授業中の私語は少なく、受講態度は概ね良好であった。また、机にお菓子・ペットボトル飲料・水筒などの飲食物を置くことの厳禁と脱帽は、初回から最終回まで口喧しく注意して順守させた。「学力を身に付けるために最も大切なことは、学習環境の整備である」とする信念を貫いた。しかし、授業中に無断で途中退席する学生は相変わらずいるので、注意の仕方や授業方法の工夫が課題として残された。トイレ等でやむを得ず退席する場合は、挙手の合図に会釈して許可する方法は、学生からの不満の意見が複数あったことから今年度やめた。しかし、明らかにトイレ以外の目的で退出する学生がいるので、退出の際は挙手の合図に会釈して許可する方法に戻すことも再考の余地がある。

なお、授業評価の理解度は、「地理学」4.2(日本人学生:4.2 留学生:4.5)、「観光地理学」4.0(日本人学生:3.9 留学生:4.4)、「観光政策論」4.3(日本人学生:4.2 留学生:4.7)であった。

【大学院】

観光学専攻修士課程の特講科目「観光地理特講」(前期)と「観光自然資源特講」(後期)は、シラバスに沿って授業を完結さ、討論・文献講読・討論・知識検査など成績評価は到達目標をクリアすることができた。

b) 演習型の授業

【学部】

国際観光学科の必修科目「専門演習Ⅰ(2年)、Ⅱ(3年)」は、例年どおりフィールドワークを実施した。2年生の前期は長崎県雲仙温泉、後期は熊本県山鹿温泉、3年生の前期は国重要文化財登録

の佐賀県武雄温泉、後期は国立公園雲仙と城下町島原について、観光資源の観察および観光の現状について現地専門家の説明を受けた。事後学習は、両学年とも調査レポートの個別指導を行うと共に、口頭発表についてはいずれの学年もパワーポイントを作成し、人数の少ない2年生(2名)は個別、多い3年生(14名)は班別に発表させた。「専門演習Ⅲ」の4年生13名(10名:2020年3月、3名:2020年9月卒業予定)については、例年同様に卒業論文作成の個別指導に力を入れた。

【大学院】

観光学専攻修士課程の演習科目「事例研究(観光地理)」(後期)は、統計数字の表・グラフ表現、受講者の研究テーマに関連した調査手法の指導を行った。また、「特別研究」については4名の修士論文作成の個別指導を毎週欠かさずに実施した。

地域マネジメント専攻の必修科目「地域マネジメント研究法」(後期)は、1名の受講者の研究テーマに関連した調査手法の助言と地域の概念・地域調査の多角的アプローチについて議論した。

②教育効果

学部・大学院のいずれの講義型・演習型の授業は、昨年度の授業内容の改善が功を奏した部分はあるが、授業以外の校務に費やす時間が多くなり、満足のゆく十分な教材研究ができなかったこと、校務の都合で日程調整ができずに大学院の授業ではフィールドワークが実施できなかったことなどは、次年度に向けての大きな課題である。フィールドワークは、地域調査の手法を学修するとともに観察力・考察力が身に付く効果的な授業であると確信している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

海外 「スイスアルプスの自然療養地の形成に関する研究」 国際山岳リゾートのダヴォスの現地調査(12月)

国内 「国立公園の美観・壮観の観光活用に関する研究」 霧島錦江湾国立公園高千穂峰・大浪池の現地調査(9月)ほか

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
スイスにおける温泉保養地の統合型リゾートの形成/2019/5/日本温泉地域学会(於:静岡県梅ヶ島温泉郷)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	学部長として、人間社会学部が担当する全学共通科目と科目担当者の選定
教員資格審査委員会	委員	学部長・研究科長として、新任教員、昇任教員等の資格審査の提議
防火・防災委員会	委員	長崎国際大学自衛消防隊組織、防滅災共有のFD、防災訓練の実施等
安全衛生委員会	委員	教職員対象定期健康診断、勤務報告書、年次休暇、新型コロナウイルス感染予防等
安全管理委員会	委員	なし
危機管理委員会	委員	新型コロナウイルス感染予防の対策等
人事委員会	委員	学部長・研究科長として、新任教員、昇任教員等の提議要望
輸出管理委員会	委員	教員の海外渡航目的、外国人留学生の入国等の把握

グローバル推進協議会	委員	長崎国際大学「国際化ビジョン」の進捗状況
全学教育会議	委員	学部および大学院研究科の教育方針・教育課程等の説明
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する自己申告書の審議、利益相反マネジメント研究会の開催等
作問委員会	委員	本学独自の入試に関する作問のスケジュール、作問者・校閲者の選定、入試問題の校閲等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学国際観光学会	会長・評議員	会員総会(4月)、研究発表会(11月)、学術誌『観光学論集第15巻』発行(3月)

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

中国・瀋陽市の大学と高校を訪問(留学生募集) 2019年12月2日(月)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	委員	2015/2/1～ 2019/8/31	佐世保市長
九州風景街道推進会議	委員	2018/5/11～ 2020/3/31	国土交通省九州地方整備局長
ながさきサンセットロード推進協議会	委員	2018/5/11～ 2020/3/31	長崎県土木部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院研修	雲仙市の福祉施設 南高愛隣会と雲仙温泉を案内	2019/7/22	社会福祉学科
上海大学短期博物館研修	雲仙・小浜の温泉施設等を案内	2019/7/29	国際観光学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

人間社会学部長・大学院人間社会学研究科長の役職者として、学部・大学院の運営に多くの時間を費やした。教育成果としては、国際観光学科の各種資格取得者が昨年度を上回る増加、社会福祉学科の3福祉国家試験合格者数の増加と合格率の向上があげられる。また、大学院では博士号の学位取得者はいなかったが、観光学専攻と社会福祉学専攻においては修士号の学位取得者を輩出できた。

個人の研究活動については、畢生の研究としているスイスアルプスの短期調査が実現できたことは良かったが、その研究内容を論文に仕上げて学会誌に投稿するには至らなかった。目下、研究論文と著書の執筆に励んでいるところである。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 板垣 朝之

1. 教育理念

近年社会の変化のスピードは著しく早く、その中で「社会人」として活躍するには自らの能力を磨き続けながら、社会に対して常に自らの考え・意見を持って主体的にかかわる事が必要である。そのため私は、学生が以下3点の基本的人間力を習得し、それを常に向上させながら「一人前の社会人」として社会へ巣立ってゆくことを大きな目的に、日々の教育に当たっている。基本的な人間力とは、以下の3点である。

1. 何事に対しても常に自分の考え・意見を持つこと
2. 自分の考え・意見を口頭で開示できること
3. 自分の考え・意見を文章で表現できること

この能力の習得と涵養のために、我々の周りにある主に「観光」に関する事象や動きを追いながら、知識を広め、また深め、広く「社会人としての教養」を高めることを目標として、講義、演習等の授業を構築している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	12	①⑦⑫
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	3	①⑫
キャリア開発C	15 / 15 (前期)	2	317	①②⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	14	⑤⑦⑩
地域観光研究C(ヨーロッパ)	15 / 15 (前期)	2	123	②③⑩
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	13	⑤⑦⑩
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	13	⑤⑦⑩
航空業論	15 / 15 (前期)	2	137	②③⑩
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	①⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	11	⑤⑦⑩
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	13	⑤⑦⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	⑤⑦⑩
ツアープランニング	15 / 15 (後期)	2	99	②③⑩
海外観光資源A	15 / 15 (後期)	2	164	②③⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光経営管理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
観光経営管理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
観光事業特講	5 / 15 (後期)	2/1・2年	2
事例研究(観光経営管理)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学生の上下2極分化が進む中で、下方域学生への対応に苦慮している。このような学生層にとってそもそも科目履修の目的は単に単位取得と考えられ、専門性の高い小職担当の選択科目には本来の学問的興味をもちえていない学生が多い。他の多くの学生が毎回のリフレクションカードに多くのコメントや質問を寄せるのに対し、この層の学生は常に白紙回答であり、居眠り、おしゃべり等も多い。これらの学生を対象として授業内容を再編し何らかの興味を持たせる試みも行ってきたが、このことが逆に上位クラスの本来的な興味を持ち学びの姿勢のある学生への悪影響を惹起し、本来の授業意図の逸脱すら懸念された。この問題は単に授業評価やアンケートの点数を向上させるといった単純な試みではない困難をはらんでいると思料する。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

特になし

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	なし
自己点検・評価委員会	委員	なし
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外

2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州・長崎IR区域整備有識者会議	委員	2019/4/1～ 2021/3/31	長崎県・佐世保市IR 推進協議会 会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

国際観光学科長2期目の人気最後の年であった。増大する学生数と教員数の不足、留学生の日本語能力の向上等、に費やした一年であった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 井上 英也

1. 教育理念

観光産業を日本の主産業への機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりとした国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な“おもてなし”に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1. グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人材の育成。

2. 経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3. 地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	15	⑥⑫
宿泊業論	15 / 15 (前期)	2	94	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	13	②④⑥⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	②④⑥⑦
起業論	15 / 15 (前期)	2	28	②④⑥
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑥⑦⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	15	②④⑥⑦
ホテルオペレーション	15 / 15 (前期)	2	101	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	8	②⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	15	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	15	②④⑥⑦
ブライダルマネジメント	15 / 15 (後期)	2	46	②⑤⑦
ホテルビジネス英語	15 / 15 (後期)	2	50	①②⑦⑨
Hotel Management	15 / 15 (後期)	2	53	②④⑤⑦
ホテル管理論	15 / 15 (後期)	2	63	②⑤⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2019年度にアンケートを実施した授業に対する満足度は以下のとおり。

【宿泊業論】

昨年度の4.4から4.1へと0.3ポイント降下する結果となった。受講者数が昨年から24名増えて120名を超え、3年前の52名から受講生が増え続けている。結果、本科目への興味度に差があることと、グループワークなどアクティブラーニングへの参加意識の違いなどから満足度への悪影響があったのではないかと考える。自由記述には、授業への関心が高い学生のコメントが多いが、大人数のクラスで幅広い受講生が学習意欲を高められるようにすることが課題となっている。準備学習としての課題の与え方、発表の機会を増やすなど、より多くの学生が興味を持ち続けられる工夫をしていきたい。

【起業論】

昨年度の4.1ポイントから0.5ポイント上がり4.6ポイントであった。本授業は、講義と演習により学生

がゼロからビジネスプランを策定する難易度の高い授業だと考えるが、昨年は受講生数が79名と特に演習の指導に無理のある人数であった。今年は32名と適正人数になり、受講生を5名を上限とするチームに分けて6グループであったため、それぞれのチームへの指導が行き届いた結果が満足度に反映したと考える。

来年度は、クラス人数の制限、SAの導入など、本授業の適正人数に配慮した授業運営をけいぞくしたい。

【ホテル管理論】

昨年度の満足度4.2から今年度は4.5に0.3ポイント向上する結果となった。昨年度の結果と各項目別に比較すると、平均点がいつれの項目も0.2～0.3ポイント良化している。満足度の平均点が良化した要因として、昨年度は低評価の1ないし2が5名だったのに対し、今年度は1名に減っており、昨年の反省から理解度を確保する頻度を上げたことが奏功したのではないかと考える。

【ホテルビジネス英語】

本授業は、ホテルのスタッフが最低限必要とされる業務での英会話力の取得を目的としている。そのため、ペアワークを多用し会話を実践することに重きを置いている。

昨年度は、4.6ポイントと予想以上に高い評価であったが、今年度は0.1ポイント悪化し、4.5ポイントとなった。テキスト内容を見直し、より実践的かつ興味を持てる内容に改善したい。

【Hotel Management】

満足度の評価結果は、昨年と変わらず4.5ポイントであった。本科目は英語によりホテル経営を学ぶ実践的な授業である。受講者は、英語のレベルが高い留学生、留学経験のあるGTの学生、英語力が高くない観光マネジメントコースの学生がほぼ同程度履修している。

受講生の英語力に幅がある中、グループワークなどでメンバーが補完し合って学習効果上げられるように工夫をしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
ホテルビジネス検定試験準備講座(補習)	6	22	2020/2/25～2/27

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
- ② グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
- ③ 宿泊業におけるインバウンド戦略

④ 地域の観光振興 –Destination Management Organizationの在り方–

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	0	1	1	7万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 会社成長のカギは外国人材の活躍だ/共著/2019/6/25/株式会社双葉社/2頁～7頁他

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 「欧州型」リゾートをモデルとした地域観光の在り方ー長崎県におけるMICEによる観光の可能性ー
 /2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/47頁～64頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市次世代創業者育成プログラム共同研究事業	佐世保市	2019/4/1～2020/3/31	7万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	センター長	産学官の連携協定締結支援など
教育基盤センター運営委員会	初年次・共通教育部門長	「ホスピタリティ概論」の授業運営など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対応策検討WG	新タイプ2副WG長	事務責任者と共に各項目の取りまとめを行う

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高校出張講義実績

1. 九州文化学園 / 令和元年6月7日 / 於:九州文化学園高校

2. 長崎女子商業高等学校 / 令和元年6月21日 / 於:長崎女子商業

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
OJT指導者育成講習会	2019/11/29	島原有明総合文化会館	長崎県産業労働部

OJT指導者育成講習会	2020/1/17	佐世保市産業支援センター	長崎県産業労働部
第2回宿泊税研究会 「DMOによる地域観光振興の可能性」	2019/6/6	佐世保市役所	佐世保市観光課

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会	委員	2017/07/01～	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会 会長
一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会運営における理事	代表理事	2017/03/01～	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会 事務局長
長崎県観光審議会	会長	2019/2/1～ 2021/1/31	長崎県知事
波佐見町上下水道事業運営審議会	会長	2019/5/1～ 2021/4/30	波佐見町長
長崎県次期総合計画懇話会	委員	2020/2/10～	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度の活動を以下の観点から点検・評価する。

1. 教育

ホテル関連科目については、引き続き、受講生に基礎知識をしっかりと植えつけると共に、実践的な視点を持たせることに注力している。特に今年度は、実務的な知識の習得を目的とした科目である「ホテルオペレーション」において、大幅な外部講師の入れ換えを行った。昨年度まで「ハウステンボス」1社に絞っていた講師から、専門分野に応じて宿泊部門を「日航ホテル」、レストラン部門を「ウォーターマークホテル」、宴会部門を「九十九島フラッグス」に分割したことにより、受講生のより幅広い興味につながった。

また、ホテル関連科目以外では、「起業論」の満足度に改善が見られた。ゼロからビジネスプランを作成し発表することを目標にし、授業形態は、講義と演習を組み合わせたものである。開講から4年目の今年度は、受講生数32名、6グループの編成となり、昨年度の半数になったが、よりきめ細かな指導ができ、学生の理解度の向上につながった。県および市においても学生を対象としたコンテストが始められるようになり、今後も本学から入賞者を輩出できるようにしたい。

全学共通必修科目の「ホスピタリティ概論」については、改編から3年目を終え、今年度から先輩学生のSAに事前研修を果たすことにより、アクティブラーニングを大人数のグループに対して実施する上で効果があった。

ゼミにおいては、引き続き、地域の要望に応える必要もあり、クルーズ船客への寄港地ツアーの企画などを通じて、PBLを実践した。学生の主体性を重んじることで創造性を育み、その成果物を第三者に伝えるコミュニケーション能力を育成したことを通じて、学生自身が成長を感じてくれていることが実感できたことが成果であった。

2. 研究

今年度は、IRの誘致が期待される長崎県観光の将来像を描くことを念頭に、主に欧州でのリゾート地形成の経緯と現状について多くの時間を費やした。特に、IRの原点となるような観光先進地のドイツのバーデンバーデンおよびスイスのレマン湖畔モントルーを調査地に定め、現地にて関係者からヒアリングを行なった。成果としては、研究ノートとしてまとめ、論叢に掲載することができた。

また、人材マネジメントの領域では、日本における外国人人材の活用に関する事例をまとめたものを、理事を務める一般社団法人から出版することができた。

3. 大学運営、社会活動、その他の活動

今年度より、地域連携センター長を拝命し、広く地域の産官学の連携に資する活動を支援している。また、長崎県観光審議会会長、長崎県次期総合計画懇話会委員、波佐見町上下水道事業運営審議会会長など、自治体からの公的な役割も増え、地域活性化の一助となるべく活動している。

以上

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 落合 知子

1. 教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くの割合を占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

大学院教育においては、博物館学を核として学生が取り組む研究分野を最大限に引き出すような指導を心掛けている。また、業績を付けることが重要であることから、大学院生を取り込んだ本の出版を実践している。これまで本学に就任してから2冊の本を雄山閣から出版した。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
博物館実習A	15 / 30 (通年)	1	22	⑦⑪
博物館実習C	15 / 30 (通年)	1	31	⑦⑪
博物館実習C	30 / 30 (前期)	1	3	⑦⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	10	⑥⑫
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	2	⑥⑫
博物館資料保存論	15 / 15 (前期)	2	153	②⑨
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	9	⑥⑫
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	12	②③⑨⑪
生涯学習概論	15 / 15 (前期)	2	200	②⑨
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	7	②⑥⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	②⑥⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	②⑥⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	5	②⑥⑫

専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	⑥⑫
博物館概論	15 / 15 (後期)	2	126	②⑨
博物館資料論	15 / 15 (後期)	2	136	②⑨
日本史	15 / 15 (後期)	2	165	②⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
地域マネジメント論特別演習	5 / 15 (前期)	2	1
特別研究指導Ⅱ	30 / 30 (通年)	4	1
事例研究(博物館)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	2
博物館特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
博物館特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

博物館資料保存論、博物館実習の評価はともに高かった。実習に関しては配慮が必要な学生はもちろんのこと、一人一人に丁寧に指導している。資料保存論も私語に対して厳しくした点を評価された。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本大学理工学部	博物館資料論	1/1(後期)	2	1

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマ

1. 博物館学

- ① 野外博物館
- ② 医療・薬学博物館
- ③ 博物館資料保存論

2. 考古学

3. 文化財学

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	1	0	2	2	80万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

『博物館が壊される』/共著/2019/9/25/雄山閣/257頁～268頁

『京都学研究と文化史の視座』/共著/2019/3/25/芙蓉書房出版/189頁～208頁

『地域を活かすフィールドミュージアム-波佐見焼窯業地のまちづくり-』/編集/2020/2/10/雄山閣/全250頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

「陝西省・甘粛省・ウイグル自治区の観光における博物館活用の研究-中国陝西省・河北省における博物館の現状と観光活用-」/2020/3/25/長崎国際大学論叢第20巻/33頁～46頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「地域文化資源を活用したMLA連携による博物館展示教育の実践」(平成31年度学長裁量経費継続事業)	長崎国際大学	2019/5～2020/3	70万円
「地方自治体と協働した実践的な学芸員教育の試み」(全国博物館学講座協議会西日本部会助成)	全国大学博物館学講座協議会西日本部会	2019/10～2020/90	10万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	平成31年度学長裁量経費に採択され、波佐見町との協働研究を実践した
男女共同参画推進委員会	副委員長	なし

博物館学芸員委員会	委員長	上海大学博物館学研修の受入れに対して ICOM UMAC AWARD 2019の世界第2位を受賞した。
-----------	-----	---

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業対策会議	委員	私立大学等改革総合支援事業の対策検討への協力

(3) 課外活動の指導等

古文書研究会 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

博物館学芸員リーフレットを作成し、オープンキャンパス等で配布。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	6

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市図書館協議会	委員	2015/8/1～ 2022/9/30	佐世保市教育委員会教育長
佐世保市総合計画審議会	委員	2015/11/1～ 2022/12/24	佐世保市長
佐世保地域文化事業団	評議員	2018/4/1～ 2022/5/31	佐世保地域文化事業財団理事長
波佐見町地域産業雇用創出 チャレンジ支援事業	委員	2019/9/5～ 2021/9/4	波佐見町長
波佐見町まち・ひと・しごと創生 推進協議会	委員	2019/7/19～ 2021/7/17	波佐見町長
板橋区郷土資料館運営協議会	委員	2017/10/1～	板橋区教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

波佐見町との包括協定による事業

(地域文化財の悉皆調査・グッズ制作)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学博物館学研修	上海大学学生を博物館学研修として3週間受け入れた。	2019/7/15～ 2019/8/3	長崎国際大学博物館学
観光研修	本学学生を対象として上海大学を基点とした観光研修を行った。	2019/8/19～ 2019/8/23	長崎国際大学博物館学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

- ①2019年度長崎国際大学ベストティーチャー賞
- ②ICOM UMAC AWARD2019 第2位受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

上海大学博物館学研修を受け入れて今年で4回目であり、すべて成功裡に終了している。上海大学からもこの研修を高く評価されており、今後は更なる内容の充実に向けて協議している。また、本学からの研修は3回実践し、こちらも継続的の事業として定着している。また、本学で推進している上海大学博物館学研修について、上海大学側がICOMの組織であるUMACのUMAC AWAYに申請した結果、9月のICOM京都大会において、第2位を受賞した。本研修がICOMに認められたことにより、本学の博物館学の名も世界的に認知されることになったことは非常に大きな業績といえる。

平成31年度学長裁量経費事業は本学博物館学、図書館、波佐見町教育委員会の三者連携事業であるが、この事業を契機として、学部生、大学院生たちの調査研究の場として波佐見町を活用し、学芸員の指導を受けている。今後も共同研究を推進することにより、本学と波佐見町のより良い関係を築いていきたいと考えている。また、波佐見町の学芸員と共編の本を出版し、大学院生にも執筆をさせたことは学生の業績においても影響が大きかったといえる。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 熊谷 賢哉

1. 教育理念

学生に主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
海外観光研修D(オセアニア他)	30 / 30 (通年)	2	22	②③⑩⑪
キャンプ実習指導援助	15 / 15 (通年)	2	6	②④⑪⑫
マリンスポーツⅡ	15 / 15 (前期)	1	11	①②⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	9	①②⑤⑥⑩
ボランティア論	3 / 15 (前期)	2	95	⑩
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ医学	2 / 15 (前期)	2	57	⑨
トレーニング論	15 / 15 (前期)	2	50	②⑦⑧⑩⑪
健康科学	15 / 15 (前期)	2	54	②⑦⑧⑩⑪
レジスタンストレーニング(理論・実践)	8 / 15 (前期)	2	51	⑩⑪
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑥
エアロビクス(陸上・水中)	3 / 15 (前期)	1	13	②⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	①⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	11	①⑥⑪
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	①⑤⑥
レクリエーション活動研究	15 / 15 (後期)	2	17	②④⑤⑥⑪
運動生理学A	15 / 15 (後期)	2	51	②⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	4 / 15 (前期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

受講生が増加する中、納得いく授業展開ができたのではないかと考えている。授業アンケートの評価についても昨年度と同等の評価を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	ライフスポーツ	30/30(前期)	2	72
長崎県立大学	ライフスポーツ	30/30(後期)	2	52
長崎県立大学	地域健康支援論	15/15(後期)	2	62

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ヒト骨格筋の形態と機能の関係
- ・高齢者の健康と身体活動

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Contribution of college student leaders' consciousness towards participants' intention to continue attendance in community sports classes for children/2019/7/The 24th annual congress of the European College of Sport Science

マリンスポーツ実習の心理的効果およびその持続性/2019/9/第68回九州体育・スポーツ学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
『NIUS支援センター』の組織体制およびその業務の確立	長崎国際大学	2019/4/1～2020/3/31	60万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員長	なし
危機管理委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
カリキュラム委員会	委員	学科のカリキュラムの検討
実習委員会	委員	学科の実習(観光研修、インターンシップ、地域連携活動)の調整

(3) 課外活動の指導等

ラグビーサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外

2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
体育・スポーツに関する最新情報	2019/7/27	長崎県立豊玉高等学校	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本健康運動指導士会長崎県支部理事会	理事	2018/4/1～ 2020/3/31	日本健康運動指導士会 長崎県支部
佐世保市東部スポーツクラブきずな理事会	理事	2018/4/1～ 2020/3/31	佐世保市東部スポーツクラブきずな
九州体育・スポーツ学会理事会	理事	2018/4/1～ 2020/3/31	九州体育・スポーツ学会
九州地区大学体育連合理事会	理事	2018/4/1～ 2020/3/31	九州地区大学体育連合

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・教育面:スポーツツーリズムコースの学生をゼミ生(2年～4年)として計32名担当し、そのうち4年生9名の卒論を担当した。また、今年度も教養セミナー(1年生10名)を担当した。
- ・研究面:今年度も学会発表は1本のみにとどまった。
- ・社会面:九州体育スポーツ学会および九州大学体育連合の理事として、学会および連合の運営に積極的に携わることができた。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 嶋内 麻佐子

1. 教育理念

私は現在、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科に所属しており、全学共通科目である「茶道文化」の講義を中心に、専門演習(ゼミ)などの講義を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心(ホスピタリティ)を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、「正午の茶事」と「卒業の茶事」の2回の茶事を通して、学内外よりお客様をお呼びし、数寄屋での茶事を実践する。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	9	②④⑤⑥⑨⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	5	②④⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	63	②⑥⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	15	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	9	①②③④⑤⑥⑨⑩ ⑪⑫

茶道文化ⅡA	15 / 15 (前期)	1	44	②③⑥⑧⑨⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	101	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣA	15 / 15 (前期)	1	34	②④⑥⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	77	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15 / 15 (前期)	1	9	②③⑥⑧⑨⑪⑫
茶道文化ⅣA	15 / 15 (前期)	1	16	②④⑥⑪⑫
茶道文化ⅡA	15 / 15 (前期)	1	61	②③⑥⑧⑨⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	73	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	114	②⑥⑨⑩⑪⑫
長崎研究	3 / 15 (前期)	2	55	②③⑨⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	②④⑤⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅣB	15 / 15 (後期)	1	8	②③④⑥⑪⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	13	②③④⑤⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15 / 15 (後期)	1	13	②③④⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15 / 15 (後期)	1	18	②③④⑥⑪⑫
茶道文化ⅢB	15 / 15 (後期)	1	28	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (後期)	1	17	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡB	15 / 15 (後期)	1	48	②③④⑥⑦⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	61	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	71	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	75	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	96	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	110	②③⑥⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA	4 / 23 (前期)	1.5	103	①②③⑤⑦⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

茶道文化Ⅰ

茶道文化Ⅰのアンケート調査では、前期との比較を見ると100名を超えるクラスでは、どの項目も高くなっている傾向がある。木曜3コマ観光クラスは茶道文化ⅠBの中でも履修者が114名と最多数である。少人数グループでの授業を実施するために、昨年度より、自明堂と不息庵に加えて、講義教室(今年度は2105教室)も併用し、授業を実施している。これにより、従来の12班体制を14班体制にし、1グループの人数を1~2人少なくして指導を行っている。1グループの人数を減らすことで、指導者と学生のコミュニケーションをとることができ、また授業中の点前練習の時間が増え、学習意欲の向上につながったと思われる。また、講義教室での授業はローテーションで行っており、茶室での授業と同様の内容を実践できるように畳を敷く等の工夫を重ねながら行っている。学生は対応力があり、率

先的・積極的に準備、片付けを行うなど、成長が見受けられる。

茶道文化Ⅱ

これまで後期は、濃茶点前後半を習得することが主な内容としていたが、今年度よりオプション授業も授業の内容を取り入れた。学生は、点前修得だけでなく、着付けや花活けなど様々な日本文化に触れる経験をすることができ、全体として充実した授業であったと思う。また、「毎週集中してお手前の練習ができました」「濃茶点前では、落ち着いてすることを意識しました」等のコメントからも茶道の授業が自己修養に繋がっていると見受けられる。茶道文化ⅢやⅣまで履修したいという声や補助員に(SA)を希望する学生も多くあり、学生にとって満足度の高い授業ができたことは、今後も継続していきたい。本クラスには車いすの学生も履修しており、ピアサポーターの支援を借りながら柔軟に対応することができた。これからも多様な学生が履修する事を鑑みて、それぞれの学生に合わせた配慮をしながら授業を展開していくようにする。

茶道文化Ⅲ

茶道文化Ⅲまで履修している学生ということもあり、茶道に取り組む姿勢や、興味関心度は高い水準にあると考えられる。そのため全体平均とは比較において、おおむね良好の数値が出ている。また、本クラスには、グローバルツーリズムコースの学生や補助員(SA)活動をしている学生等、様々な学科の学生が履修しており、コミュニケーション力や協調性を培う機会になっていると思われる。観月茶会を終えた後の学生のレポートからは、「仲間同士の、意思疎通を図り、積極的に行動するように努めた」「自分の役割以外に必要なと思う事など周りを見ながら判断して行動できていたと思う」「臨機応変に対応できた」等のコメントがあり、今まで授業で修得したことを観月茶会で実践することで、考える機会となり、また自己修養に繋がったことが見受けられる。また、今回は茶道文化Ⅳにつながるために、懐石料理についての授業内容を設け、懐石膳の受け渡し等を行った。学生には大変好評で、茶道文化Ⅳの授業について興味を示していた。そのため、自由記述には茶道文化Ⅳまで履修したいという次年度につながるコメントが挙がっていた。茶道文化の集大成として。茶道文化Ⅳを履修し、学生の人間力がより育まれるように指導を行っていきたい。

茶道文化Ⅳ

前期に正午の茶会を実施しており、後期は継続して茶会の動きについて授業を展開することができ、とてもスムーズだったと思う。後期は、履修クラスの変更等もあったため、前期の班編成も考慮しながら、学生や指導者の入れ替えを行った。新たなグループとなったことで、卒業茶会に向けて学生同士がコミュニケーションを密に取り、お互いの役割をカバーし合う場面も見受けられ、協調している様子がよく見られた。茶会の企画や役割、準備、稽古を重ねていく中で自主的に練習を行う班も出るなど、主体的な取り組みがあり、前期以上に学生自身の取り組む姿勢が積極的になっていた。授業の満足度は、非常に高いため、次年度も学生に配慮した対応ができればと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	2/15(前期)	1	55

長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	1/15(後期)	1	188
長崎短期大学	茶道文化Ⅲ	1/15(前期)	1	240
歯科衛生士学院	茶道文化ⅠA	1/15(後期)	1	32
歯科衛生士学院	茶道文化ⅡA	1/15(前期)	1	35
調理師専修学校	カップリングカフェ&リカー	2/15(後期)	1	14
調理師演習学校	調理理論	1/15(後期)	1	27
九州文化学園小学校1年生	日本文化教育	26/35(通年)	1	18
九州文化学園中学校1年生	日本文化教育	26/35(通年)	1	18

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
補助員研修(春季)	20	19~23	2020/3/3, 2020/3/6, 2020/3/12, 2020/3/13, 2020/3/14
補助員研修(夏季)	20	20~22	2019/9/10, 2019/9/11, 2019/9/12, 2019/9/17, 2019/9/19
茶道大会当日	5	442	2019/12/8
茶道大会亭主練習	2	57	2019/11/28
教職員夜茶指導(前期)	10	70	2019/5/8~2019/7/10
教職員夜茶指導(後期)	16	70	2019/9/20~2020/2/19
補助員会議	5	11~16	2019/4/26, 2019/6/12, 2019/11/21, 2019/12/18, 2020/2/6
茶道部指導	8	8~22	2019/10/23, 2019/10/24, 2019/10/28, 2019/10/30, 2019/10/31

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「茶道鎮信流の点前に関する研究」

「茶道と教育について」

「ホスピタリティ概念から捉える亭主と客の相互関係のありかたについて」

[小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業]

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	1	1	30万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業実施報告書/共著/2020/3/長崎国際大学
茶道文化/28頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費(委託研究)「小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業」	長崎国際大学	2019/6～2020/3	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター委員会	アドバイザー	規定の改正、公開講座、まちなか大学、企業連携協力協定、長崎国際大学履修証明プログラム、地域貢献・ボランティアイベントの規約活動内容の把握と今後の活動等、土台作りに貢献した。
産学連携専門委員会	アドバイザー	産学連携専門委員会内規検討や連携協定に関する概要・経緯について検討し、基準について議論し、今後の活動に向けて準備した。今年度は、佐世保市と包括連携企業との話し合いを2回実施し、佐世保市における諸問題について話し合いを行った。また若者人材支援事業活動報告会を実施するなどの事業の取り組みを行った。
学事委員会(卒業生支援)	委員	定例ホームカミングデーを3回企画し、実施した。 また研究室訪問では月例訪問者と訪問内容を学科会議にて報告した。さらに、卒業後の再就職の相談を受ける等、その後の動向を確認。学科の卒業生活動に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
大学教職員の夜茶の研修	茶道文化総括責任者	大学及び九州文化学園内の教職員に対して、週かい(1年間実施)の夜茶(水曜班・木曜班)において茶道の指導を行った。
茶道文化補助員の教育指導	茶道文化総括責任者	大学規定に沿って補助員の選考を行い、春・夏・冬休み中に補助員研修を企画し、技術指導と教育方法の指導を行った。また、授業終了後の反省会や月例研究会を企画し、指導者教育を行った。
長崎短期大学・専修学校部門の教職員の茶道指導	茶道文化総括責任者	短期大学と専修学校教職員に対して、夜茶で、年間数回茶道の指導を行った。さらに12月に茶道大会時期には、教職員と学生に対して点前指導を行った。
九州文化学園小・中学校教員の茶道文化指導	茶道文化総括責任者	小中学校教職員に対して、日本文化教育指導の一環として、夜茶において茶道の点前指導を行った。
第9回ハイスクール茶会inハウステンボス	ハイスクール茶会実行委員長	5月18日ハウステンボスにおいて、県内外の18校の高等学校茶道部を招集し、ハイスクール茶会を企画し活動した。(2,700人)
観月茶会(公開講座)	茶道文化総括責任者	茶道文化履修の52名の学生達の成果発表として、1101教室にて「観月茶会と日本舞踊」(10月)を企画し活動した。(学内外より約200名の参加があった。)
茶道文化4年生の夏の「正午の茶会」・冬の「卒業茶会」	茶道文化総括責任者	茶道文化IVを履修している学生(前後期名)名の成果発表として茶会を企画し、外部から客を招いた。(前期に 回、後期に 回、計回の茶事を企画)
学長裁量経費*再掲(委託研究・「教育資源を活かした企画・運営による学生人材育成事業の構築」(NIUキッズキャンパス))	分担者(地域連携室アドバイザー)	取り組み:地域連携室での広報に向けての話し合いや11月 日開催の「NIUキッズキャンパス」に向け「英語で学ぶ茶道」をグローバルと茶道部の学生とで実施した。

(3) 課外活動の指導等

- ①茶道部顧問 茶道部(100名)の茶道活動支援を行っている。クラブ指導や大学祭をはじめ大学広報に関わる企画内容の学生指導や茶席運営大学の行事等の指導の支援活動を行った。
- ②補助員研修 小中学校茶道指導のための支援活動を行った。
- ③茶道部顧問 茶道部と卒業生含め12人を引率し、福岡での鎮信流全国大会参加において学生支援を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①長崎国際大学入学式「茶道紹介」/2019年4月2日/長崎国際大学(自明堂)
- ②第8回ハイスクール茶会inハウステンボス(19校参加)/2019年5月18日/ハウステンボス
- ④オープンキャンパス「茶道紹介」/2019年7月21日/長崎国際大学(自明堂)

- ⑤オープンキャンパス「茶道紹介」／2019年8月4日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑥オープンキャンパス「茶道紹介」／2019年8月25日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑦観月茶会「立礼での茶道紹介・日本舞踊」／2019年10月18日／長崎国際大学1101
- ⑧保護者会「茶道紹介」／2019年10月6日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑨長崎国際大学大学祭「茶道紹介」／2018年11月2・3日／長崎国際大学(自明堂)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	4

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市広田小学校総合学習による茶道体験「茶の歴史」講義・茶席体験	2019/5/27. 2019/6/3	長崎国際大学自明堂	佐世保市広田小学校 沖田 宏幸 校長
上海大学学生交流「茶の歴史」講義・茶席体験	2019/7/27	長崎国際大学自明堂	上海大学 長崎国際大学 落合教授

観月茶会(公開講座)	2019/10/18	長崎国際大学1101 教室	長崎国際大学地域 連携室
------------	------------	------------------	-----------------

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
NPO法人茶道鎮信流梶の会 (全国組織)	幹事	2012～2020	茶道鎮信流 宗家 松浦章
鎮信流佐世保支部・松清会	幹事	2006～2020	鎮信流佐世保支部 支部長 松浦純二
ハイスクール茶会inハウステンボ ス準備委員会	実行委員長	2011～2020	ハイスクール茶会実 行委員会
第31回国際生物学オリンピック 2020長崎大会	大会実行委員	2019～2020	第31回国際生物学 オリンピック2020長 崎大会事務局 ジム 局長 工藤光子

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①5月に第9回「ハイスクール茶会inハウステンボス」の大会実行委員長として参加:主催 ハイ
スクール茶会実行委員会
- ②年に3回(6月・11月・3月)全国組織「鎮信流梶の会研究会」を大学で実施運営責任者及び幹事と
して参加:主催:鎮信流梶の会(全国組織)
- ③3月に佐世保松清会会員の七通点前審査員として参加 主催:鎮信流佐世保支部松清会
- ④3月に佐世保松清会会員に対して点前の報告と指導者として参加 主催:鎮信流佐世保支部松
清会
- ⑤5月に佐世保松清会会員の奥方による七通点前指導に幹事として参加 主催:鎮信流松浦泰子
(奥方様)
- ⑥11月に佐世保松清会会員の七通点前審査員として参加 主催:鎮信流佐世保支部松清会
- ⑦数回、長崎短期大学と九州文化学園専修学校及び小中学校の教職員に対して茶道指導者とし
て参加、主催:法人九州文化学園

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
中国長崎領事訪問	駐長崎中国領事の劉亜 明総領事に対して茶道 文化紹介を行った。(中 国の留学生が点前を行 い日本人学生が半東) 留学生との対談	2019/6/14	長崎国際大学国際 交流・留学生支援室

香港公開大学関係者訪問	「茶道教育」の概要の説明 お茶とお菓子の頂き方 体験学習	2019/6/26	長崎国際大学国際 交流・留学生支援室
上海大学学生交流	茶道体験・鎮信流紹介	2019/7/27	主催:上海大学博物 館交流団
スカイ学院大学訪問	茶道体験・鎮信流紹介	2019/8/4	スカイ大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

本年度より九州文化学園小・中学校の茶道教育に取り組み、その基盤づくりに貢献した。

7. 受賞等

第9号 長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストアウトリーチ部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、必修の茶道文化Ⅰでは、薄茶点前前半の修得を目標として取り組んだ。グループ学習を実施することで、学生同士が互いに教え合う場面も見られ、学生の興味関心度も強かった。学生数が多いクラスでの正座が出来ない学生指導は難しい点も多く見られた。10人くらいの学生が机と椅子使用の立礼方式となり、限られたスペースでの授業では困難な点もあり、他の学生との間に支障が見られた。茶道文化Ⅲ実施の観月茶会は作年度より公開講座となり、点前と日本舞踊の披露を行い大変好評であった。

今年度より九州文化学園小中学校が開講し、3本柱の一つである茶道教育のシラバス作成と指導を実施した。特に小学1年生の授業では、40分の集中力維持のために様々な工夫を行った。生徒達にとって茶道の時間は、精神面で落ち着きを感じる良い機会となった。

研究面では、学長裁量経費による「小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業」が採択され、九州文化学園小中学校で茶道を学ぶ児童生徒を対象に、茶道の学習による変化、特に人間形成への影響を検証し、大学における教養教育としての茶道教育の深化とレベルアップにつなげるための研究を行った。茶道専門においては、梶の会研究会を大学の施設で年に3回実施し、11月にはNPO法人梶の会総会も開催した。今回の研究会テーマ「飯後の茶事」を実施したことで、教職員夜茶の茶会指導に活用していきたい。6月には2日間宗家の任を受けて、梶の会員に対して点前の指導を行い、点前の疑問点を明らかにした。さらに鎮信流佐世保支部や九州文化学園教職員に対して、研究を開催し報告できたことはとても有意義であった。

広報活動では、大学で開催の入学式を始めオープンキャンパス、保護者会等で茶道部や補助員と

共に「茶道紹介」を企画し、実施した。「NIUキッズキャンパス」で、「英語でお茶を学ぶ」茶室での体験学習を試みた。実施にあたりグローバルツーリズムの学生及び留学生が英語で紹介し、茶道部の学生が茶のたて方等を協同で指導するなど、有意義な取り組みであった。多くの広報活動に貢献すると同時に、在学生の教育活動にも努めることができ意義のある活動であった。

報道関係では、ハイスクール茶会、広田小学校茶道体験、観月茶会、授業での初釜、松芳忌の紹介等、NHKテレビ放送、長崎新聞、佐世保ローカルテレビ佐世保等マスコミ及びInstagramへの露出があった。さらに、長崎新聞NR10月号フロントラインに「人間力育成茶道の中心に」掲載された。

ワーキング・グループ活動として、補助員指導を春・夏休みを利用して、研修や月例研究会を企画し、指導者研修の向上を目指した。さらに実行委員長として、第9回ハウステンボスinハイスクール茶会を企画し2,850人規模の茶会を実施した。

国際交流プログラムでは、上海大学学生に対しての「茶道の歴史」講座、茶道を通し学生間交流を図り本学学生にとっても有意義な交流が出来たと思われる。ぜひ次年度に繋げたいと思っている。今年度も茶道文化の教育内容、それを活かした地域貢献、国際交流等、多くの取り組みができ、教育効果に繋がったことが、高く評価されたことも感慨深いものがある。今後も、これらの実績を地道に継続すると同時に、それぞれの行事や内容の見直しを図っていきたいと思っている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 滝 知則

1. 教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いると思う。この人たちには、この大学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。だが私たちは、これとは別の種類の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障害のある人たちと(今は)ない人たちの文化、地方(農村部)の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働(グループワーク)や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べると、地方(農村部)の社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方(農村部)の地域社会の文化の創造の大変さとすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。

自分自身、都会で働いたり生活したりしたことがある。都会を否定するものではない。同時に、地元で生きること、地元でがんばることに誇りを持つことができる人に、学生たちがなってほしいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいことがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、聞き手に伝わりにくいことが珍しくない。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでもよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。

実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告(考えたことや感じたことの言語化)といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実

習系科目のフィールドは佐世保市三川内町と平戸市である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告(考えたことや感じたことの言語化)を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
地域連携活動ⅠA	15 / 15 (前期)	1	13	②③④⑥
地域連携活動ⅡA	15 / 15 (前期)	1	0	②③④⑥
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	②④⑥⑪
卒業研究	15 / 30 (前期)	4	3	②④⑪
異文化コミュニケーション論	15 / 15 (前期)	2	52	①②⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①②④⑥⑦⑪
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	11	⑥⑩⑪
International Relations	15 / 15 (前期)	2	39	①②③⑥⑨⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	10	①④⑥⑪
国際交流研究	15 / 15 (前期)	2	120	②④⑥⑩
国際関係論	15 / 15 (前期)	2	108	①②⑥⑨
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	4	⑥⑩⑪
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	2	④⑥⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	4	④⑥⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	②④⑥⑪
地域連携活動ⅠB	15 / 15 (後期)	1	4	②③④⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	④⑥⑪
ビジネス文書	15 / 15 (後期)	2	95	①③⑨⑪
政治学	15 / 15 (後期)	2	108	①②⑤⑥⑨⑩
比較文化論	15 / 15 (後期)	2	197	①②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
国際関係特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
国際関係特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
事例研究(国際関係)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

<国際交流研究>

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

H30実績4.1、R1実績4.0、推移-0.1

この科目では、「文化の翻訳」と、「読み手・聴き手の立場を考えて書いたり話したりする」練習をしてもらう。授業の進め方について、改善の余地のあることが示されている。一方で学修内容については、概ね好意的に受け止められていると考える。

内容と教え方の双方について、さらなる改善を引き続き行う。

(2) 受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法

学期末の「今・ここで交流プロジェクト」では、文化の翻訳(グループ内の留学生の文化を日本人学生が教わり、プレゼンでは日本人学生のみが話す(またはこの逆の役割分担))を行ってもらった。

報告の際には、日本人学生と留学生の協働とがんばりが明らかであるチームが多数見られた。担当教員はもちろん感銘を受けた。受講している学生たちの中にも、感銘を受けた人たちが何人もいると思う。例えば次のような事例があった。

ア 発表するとき、日本人学生がプロンプターの役割を果たし、留学生を手伝った事例。

イ 日本でもよく知られている歌の歌詞を、グループ内の中国人留学生から教わり、プレゼンの時間内に中国語で歌った事例。

ウ 留学生の国の料理を、留学生と日本人学生が一緒に作り、試食する。

こうした事例が見られたことを、来年度以降の受講生にも伝え、今後もさらに深い学修をしてもらえるよう、支援していく。

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目(Q3～Q5)

Q3 H30実績4.2、R1実績4.1、推移-0.1

Q4 H30実績4.2、R1実績4.1、推移-0.1

Q5 H30実績4.1、R1実績4.1、推移 0.0

微減ないし横ばいであった。小レポートの提出のしかたに関する改善要求が影響していると思われる(改善のしかたは次に述べる)。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目(Q6～Q11)

Q6 H30実績4.2、R1実績4.1、推移-0.1

Q7 H30実績4.3、R1実績4.1、推移-0.2

Q8 H30実績4.1、R1実績4.2、推移+0.1

Q9 H30実績4.3、R1実績4.2、推移-0.1

Q10 H30実績4.4、R1実績4.3、推移-0.1

Q11 H30実績4.3、R1実績4.1、推移-0.2

主観的には、毎年熱意を込めているつもりではある。しかし、学生たちからの評価が下がった事実を、重く受け止める。

授業で行うべきことが分かりやすくなるよう、伝え方を引き続き工夫する。小レポートの提出のしかたを複数設けたのは、元々は学生たちの負担を減らすつもりである。しかし本人たちにとっては逆であったので、方法を改める。

授業中の飲食について、体調維持のための適切な水分補給は認める旨を、伝える。グループの人数については、「原則〇人」の枠を設ける。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所管

この科目では従来から、国際交流活動の空間軸と時間軸を広くとることに努めている。学生たちが今日の佐世保で行う国際交流を、この文脈の中に位置づけてもらっている。

こうしたねらいの意義を、より多くの学生たちに実感してもらえるよう、内容面と授業の進め方の双方における改善を続けていく。

<異文化コミュニケーション論>

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q13

R1実績4.0

この科目の授業アンケートを今年度初めて実施したため、前年度との比較が、今回はできない。次年度もアンケートに答えてもらい、授業内容の向上に役立てる。

(2) 受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法

授業の前半では言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションにはどのような方法があるかを、簡単な練習を通じて学んでもらった。

私たちが何気なく行う会話が、実は複雑であること、またそれゆえに、より効果的な会話にするための工夫が沢山あることを、学んでもらえたと思う。

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目 (Q3～Q5)

Q3 授業の編成、まとめ、わかりやすさ

R1実績4.4

Q4 シラバスと授業内容の整合性

R1実績4.5

Q5 授業内容に興味を持てたか

R1実績4.3

次年度さらに高い評価が得られるよう、授業内容の検討を重ねる。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目 (Q6～Q11)

Q6 話し方は明瞭か

R1実績4.4

Q7 熱意の感じられる授業か

R1実績4.3

Q8 教科書、参考書、配布プリントの使用は適切か

R1実績4.4

Q9 板書や機器の使用

R1実績4.5

Q10 遅刻や私語への対応

R1実績4.5

Q11 学生の授業参加の促し

R1実績4.5

話す際、文章はできるだけ短くすることを心掛けている。

授業中に複数の学生に発表してもらう際には、日本人学生と留学生の双方に答えてもらうことをこころがけた。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所管

異文化コミュニケーションの履修者には、「コミュニケーションとは何か」への注目が強い学生たちと、「異文化」への注目が強い学生たちがいる。「異文化」への注目が、実質的には「外国の国民文化」であるという学生たちもいる。一方で、同じ言葉を話す人たちの間の「異文化」に注目する人たちもいる。

こうした注目の程度は、年度ごとに異なる。各年度の学生たちの関心のありかたに応じながら、「コミュニケーション」と「異文化」の双方への理解を深めてもらうよう、研究を重ねる。

この科目で取り上げることの中に、「いない」ことがらは、ない。にもかかわらず、「こちらからいないと感じてしまうような書き方」であると受け取られてしまったのは、自分のコミュニケーションに落ち度があったことを示している。この落ち度を重く受け止める。大切なことがら、必要なことがらであると理解してもらえよう、工夫を重ねる。

< 教養セミナーA >

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q10. H30実績 3.7、R1実績 4.1、推移 +0.4

昨年度にくらべ、一定の程度の改善が見られた。下に示すとおり、この結果に影響したこととして、(1) 簡潔で的確な説明、(2) 見本を示してから実施してもらうこと、(3) 学修の進捗度の違いに対応するこ

と、(4) 指導教員にとって耳の痛いことでも、授業に必要・適切な情報は共有すること、(5) 学生の個別のニーズに、本人にとりできるだけ効果が高くなるような方法で対応すること、が考えられる。2020年度もこれらを継続し、かつさらなる改善を行う。

(2) 受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法

(1) 学内の施設見学で、見学箇所の選択は、ゼミ生たちの判断に委ねた。担当教員が通ったことのない経路を、ゼミ生たちが見つけることもあった。この際も、ゼミ生たちのことをほめた。本人たちのやる気の向上に貢献した点があると思われる。

(2) リーディング、ライティングとプレゼンテーションでは、使用するワークシートの数を絞り込んだり、あるいは複数のワークシートを適宜融合させて使ったりした。これは、指導教員からの説明を簡潔にすることに役立った。説明について、指導教員が簡単な手本を示した。それを参考にして、自分たちの選んだ内容について書いたり発表したりしてもらった。

(3) 授業中の活動(問題を解くなど)において進捗度に違いが生じた際には、学修ペースの速い学生たちには次にやるべきことを指示する一方、ペースがゆっくりめの学生たちをそれぞれ手伝った。

(4) 本を紹介することは、その紹介者自身の人物も伝わる。ビブリオバトルを通じて、それまでの授業では分からなかったゼミ生それぞれの人物像が明らかになった。この結果、ゼミ生の中の結びつきが従来以上に深くなったように感じられる。

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目(Q3～Q5)

Q2. H30実績 3.3、R1実績 3.8、推移 +0.5

Q3. H30実績 3.4、R1実績 3.8、推移 +0.4

昨年度に比べ、一定の改善が見られた。さらなる向上に、引き続き努める。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目(Q6～Q11)

Q4. H30実績 3.7、R1実績 4.6、推移 +0.9

Q5. H30実績 4.1、R1実績 4.5、推移 +0.4

Q6. H30実績 4.1、R1実績 4.0、推移 -0.1

Q7. H30実績 4.0、R1実績 4.4、推移 +0.4

Q5 (疑問や質問に誠実に答えたか)

ある週の授業の感想の中に、ある時間の担当教員の指導のしかたが厳しすぎるのではないかとという疑問が提起されたことがあった。翌週の授業冒頭のフィードバックでは、他の感想とともに、これを隠すことなくゼミ内で共有してもらった。

Q6 (学生の参加を促したか)

評価が微減である理由として、ゼミ内のグループを固定していたことが影響しているかと思う。今後

は適切な形で、ゼミ生たちの希望を尊重する。

Q7. (相談に誠実に対応したか)

各ゼミ生が、それぞれ別々の課題に直面していることが分かった(ないしは伺われた)。本人が話をしやすい、あるいは指導教員の話をお聴いてくれやすいタイミングをとらえて、個別に話し合いを持った。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所管

9つの項目で、昨年度に比べて評価が改善した。ただし教養セミナー全体の結果に比べると、さらなる改善の余地がおおいにある。ゼミ生たちにとって分かりやすく、ためになると思ってもらえる授業を行うべく、次年度も引き続き励む。

<政治学>

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

2019年度実績 3.7、2018年度実績 3.9、推移 -0.2

評価が0.2ポイント下がってしまったことを受け止め、(3)以降に示す対応を実施することを通じて、次年度の授業を改善する。

(2) 受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法

ア 国会インターネットTVなどの動画の使用

イ 国会や政党のウェブサイト

(アとイは、教科書の内容を具体的に理解してもらうことに効果があったと考える)

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目(Q3～Q5)

Q3 2019年度実績 3.7、2018年度実績 4.0、推移 -0.3

Q4 2019年度実績 3.9、2018年度実績 4.0、推移 -0.1

Q5 2019年度実績 3.8、2018年度実績 3.9、推移 -0.1

Q3に関しては、政治的な利益の表出・認知、政策の決定、さらには実施という流れの具体例を示すことを増やして、改善する。各学科の学修内容を念頭に、具体例を準備する。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目(Q6～Q11)

Q6 2019年度実績 3.7、2018年度実績 4.1、推移 -0.4

Q7 2019年度実績 3.9、2018年度実績 4.0、推移 -0.1

Q8 2019年度実績 3.9、2018年度実績 4.0、推移 -0.1

Q9 2019年度実績 3.8、2018年度実績 4.2、推移 -0.4

Q10 2019年度実績 3.9、2018年度実績 4.1、推移 -0.2

Q11 2019年度実績 3.9、2018年度実績 4.0、推移 -0.1

Q9に関しては、配布プリントが文字情報中心であることが関係しているかと考える。授業で使用するスライドのコピーを、希望者はマナバからダウンロードできるようにする。

また、授業プリントをマナバにアップロードし、欠席などの理由で必要になった場合にダウンロードできるようにする。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所管

ア 留学生以外と留学生で、評価に若干違いがみられる。すべての学生のニーズに応えることには、困難が伴う。しかし、すべてのニーズへの応答の度合いを高めるべく、次年度では、各学科の学修内容を念頭において授業を行い、応用としてのグループワークとプレゼンテーションを準備しやすくなるようにする。

イ グループプレゼンテーションのテーマ候補として、4学科の各分野に関連するものを探し、例として提示する。また、テーマ決めについての相談を受ける期間を設ける。

<ビジネス文書>

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

2019年度実績 4.2

この科目のアンケートは、今年度初めて実施を依頼した。このため今回は、前年度との比較ができない。ただし下記に示す諸改善を実施する。

(2) 受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法

ア 書類作成の基礎。書類を適切に書く力があれば、口頭でのコミュニケーションで評価されることに通じる旨を、繰り返し伝えた。

イ 練習問題と復習問題を重視したこと。

ウ 可能な限り、教室後方の席を空けるよう求めたこと。私語の削減に一定の効果があつたと考える。

エ 授業の受講に関係しないスマホの使用は中止するよう、求めたこと。
練習問題解答時のネット辞書の使用は認めた。

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目 (Q3～Q5)

Q3 2019年度実績 4.1

Q4 2019年度実績 4.1

Q5 2019年度実績 4.0

授業の内容については、平均並みの評価を得た。教科書に沿って講義を行い、練習問題を授業中に説いてもらった。復習問題のプリントを授業終了時に配布した。次回の授業冒頭で提出してもらっ

た。復習問題の提出の有無を平常点の一部としてカウントした。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目 (Q6～Q11)

Q6 2019年度実績 4.1

Q7 2019年度実績 4.2

Q8 2019年度実績 4.1

Q9 2019年度実績 4.1

Q10 2019年度実績 4.3

Q11 2019年度実績 4.1

ア Q9については、紙ベースのプリントへの記入について、負担を感じる受講生もいたためかと推測する。プリントの使用を継続するが、一定の程度だけでも負担感を減らす方法を検討する。

イ Q11 授業中の私語は少ない。私語が続く場合には、注意喚起を行った。練習問題解答の間には、机間巡視を行った。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所管

ア 今年は昨年に比べ受講生が増えたため、教室が狭いとの意見があった。次年度は受講生数に対して適切な大きさの教室を使えるよう、調整する。

イ 伝えたい事項が多い週に講義時間が伸びてしまい、練習問題を解く時間が少なくなってしまったことがあった。自分で事前に定める時間配分を守る。

ウ 今年度は復習課題を、紙媒体で配布した。次年度はマナバを使い、プリントの配布・回収時間を短縮する。これに伴い、講義中の説明の時間の確保がしやすくなると期待する。

エ 留学生以外の受講生の回答と留学生の回答では、評価に若干の違いがみられる。次年度は、双方の受講生たちのニーズにより対応する授業を作っていく。

(以上)

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
秘書検定3級勉強会(国際観光学科生対象)	7	8	2019/6/11～2019/7/30

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- a. 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響
- b. 国際観光がホストとゲストの相互認識(ナショナリズム)に与える影響
- c. 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動
- d. 引揚げの歴史との対比を通しての国際観光の特徴の把握
- e. バリアフリー対応が佐世保市三川内町のやきもの観光にもたらす可能性の調査

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	1	1	1	35万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
1961年以降の訪日観光客数の推移とアジア太平洋戦争後の日本の国際関係/2020/3/観光学
論集/13頁～18頁/単著/研究ノート
三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査 調査報告書(令和元年度 学長
裁量経費)/2020/3/長崎国際大学大学院人間社会学研究科/1頁～10頁, 36頁～40頁/共著
/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
20世紀後半の日本をめぐる主な国際人口移動の動向/2019/10/長崎国際大学国際観光学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査	長崎国際大学 学長裁量経費	2019/5～2020/2	35万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員長	①委員会(定例会10回、臨時会5回)を開催した。②入学試験ならびにオープンキャンパスの実施を総括した。
全学教育会議	委員	4回の会議に出席し、協議ならびに報告に貢献した。
国際観光学科 公務員・教養課程委員会	委員長	課程の運営を総括した。課程で指定する検定試験の見直しを行った。
国際観光学科 研究倫理委員会	委員長	国際観光学科教員ならびに学科生から提出された研究倫理申請の審査を行った。
長崎国際大学国際観光学会	評議員、編集委員	評議員会では会長が行う学会の運営を、編集委員会では編集委員長が行う学会誌編集作業の編集を、それぞれ補佐した。
人間社会学研究科学務委員会	委員長	学務委員会を開催し(11回)、研究科教授会上程する議題の調整を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学改革総合支援事業WG	タイプ1メンバー	入試・募集委員会の立場から、支援事業調査票の作成に貢献した。

(3) 課外活動の指導等

- ①サイレント・ブルーサークル顧問
- ②ローターアクトクラブ顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市行財政改革推進会議	委員	2019/1～2020/12	佐世保市長
平戸城天守閣及び見奏櫓展示改修実施設計業務審査会	委員	2019/12	平戸市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

a. NIU異文化理解教室

- ①佐世保市立広田小学校 6年生対象、令和元年6月24日、11月18日実施。
- ②九州文化学園高等学校 1年生対象、令和2年2月17日実施。

b. サイレントブルー顧問

c. ローターアクトクラブ顧問

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日本語の手紙交換プロジェクト(国際交流研究)	英国ウォーリック大学の日本語学習者41名と本学の国際交流研究受講者120名が、日本語で書いた手紙を交換する。主にそれぞれの地元の地域社会と観光対象を紹介する。	2019/3～2019/5	ウォーリック大学リー講師、滝
日本語の手紙交換プロジェクト(比較文化論)	英国ウォーリック大学の日本語学習者25名と本学の比較文化論受講者197名が、日本語で書いた手紙を交換する。主にそれぞれの地元の地域社会と観光対象を紹介する。	2019/12～2020/1	ウォーリック大学リー講師、滝

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

公益財団法人合気会 合気道初段(平成29年11月10日、第173440号)。

8. 活動全般についての自己点検・評価

下に示すことがらの実施を通じて、不十分ではあるが、学生たちならびに大学への貢献に引き続き励む。

(1) 教育

ア それぞれの授業における所定の学修目標を、次年度も引き続き実現する。なお学生の間には複数のニーズがあるの で、可能な限りそれぞれに対応し、学生たち本人がまじめにかつ楽しく学修してもらえるよう、手立てを尽くす。

イ ようこそJAPAN外国語コンテストを2年ぶりに実施できた。参加する学生たちにとり、達成感があるイベントと考えられる。次年度も継続して実施したい。

ウ 指導を担当する大学院生が、新年度には増える。入学してくる院生たちの期待に応えられるよう、さらに精進する。

(2) 研究

ア 黒島観光の国際化PRプロジェクトは、研究に協力してくれた学生たち、ならびに共同研究者のローソン講師の貴重な貢献のおかげで、黒島観光協会の認知を得ることができた。新年度はこの成果のうえに、当プロジェクトをさらに発展させる。

イ 三川内焼観光とバリアフリーに関する研究を、次年度はさらに掘り下げていきたい。

ウ NIU異文化理解教室は、QSPの枠組みの中で西九州大学短期大学部との協働でさらなる発展と充実を目指す。

(3) 大学運営

観光学専攻ならびに入試・募集委員会の業務を通じて学んだことを、国際観光学科における業務に活かしていく。

(4) 社会貢献

サイレントブルーとローターアクトクラブの部員たちが、充実した活動を引き続きできるよう、支援する。

(5) 国際交流

英国のウォーリック大学ならびにコベントリー大学と、授業において行っている交流を、今後も継続、発展させたい。

(以上)

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 田中 誠

1. 教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかりと行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしても「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	⑥⑫
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	1	⑥⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	9	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	④
事前・事後指導	5 / 8 (通年)	1	17	④⑦
英語科教育法Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	11	①⑤
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑥
英語科教育法Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	3	①⑤
TOEIC対策A	15 / 15 (前期)	2	89	①⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑥

専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑥
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	⑥⑫
教職実践演習(栄養教諭)	1 / 15 (後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	2	①⑥
英語科教育法Ⅳ	15 / 15 (後期)	2	3	①⑤
英語科教育法Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	5	①⑤
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	8	①⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	10	①⑥
教職実践演習(中・高)	2 / 15 (後期)	2	20	⑤⑦⑩⑪
TOEIC対策B	15 / 15 (後期)	2	73	①⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
グローバルコミュニケーション特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業に関しては、私が最も力を入れている事項であり、今年度も例年通り、熱意のある、わかりやすい授業をすべく努力をしてきた。

前期の「TOEIC対策A」に関しては、毎回の出席カードによる出席だけでなく、例年通り、授業終了時にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらった。そして、学生のコメントに関しては次の授業で、プリントにまとめて返信するようにし、双方向型学習が促進されるように努力をした。また、授業外学修の時間を増やすために、2つの課題を毎回与えた。1つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、2つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにおき、復習がすぐできるような環境も整えた。以上のような例年通りの指導を行うとともに、さらに良い授業となるように、学生の授業の理解度やコメントなどに注意を払い授業を展開した。授業時には、例年通り熱意の感じられる授業を展開できるよう努力をし、授業アンケートの7の「熱意の感じられる授業でしたか」については4.5という高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.3と高評価を得ることができた。次年度も同様の評価を得られるように努力をしたい。

後期の「TOEIC対策B」においても、授業の進め方に関しては、前期の「TOEIC対策A」の方法を踏襲し、同じように努力をし、前期と同様におおむね高い評価を得られた。7の「熱意の感じられる授業でしたか」については4.6であったし、13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.6であった。ともに、4.6点をという高評価を得ることができ、ほっとしている。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、今年度もそれぞれの授業で、双方向型の授業を意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせることができたと思う。例年通り、授業外学修時間を確保するために、毎回の課題も課し、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。今年度は、就職活動の指導もうまくいき、全員が早い

段階で、進路が決まり、ゼミ活動もスムーズに運営することができた。

教職科目に関しては、例年通り、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。新しい学習指導要領については、まだまだ現場でも浸透していない状況ではあるが、中学校の英語の授業も英語で実施することが要求されるようになった。そのためには、高度な英語力が必要となるので、例年に増して英語力の向上にも取り組んだ。今年度は、長崎県の教員採用試験で英語教員に採用も決まり、本当に嬉しく思っている。今後も、採用までつなげることが出来るように、学生と共に努力をしていきたい。

大学院の科目に関しては、履修学生の人数が少ないので、一人一人の学生に対して、その学生の将来のために、今年度も厳しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。

全体を通しての反省としては、学生の学力の差への対応と、やる気のない学生に対しての指導法について、試行錯誤している状況は続いているが、なかなか思ったほどうまくいかない。学生にやる気を出させ、学修時間を延ばすことができるように、これからも適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要がある。いうまでもなく、学力を伸ばすためには、授業外での学びが非常に重要であり、次年度も、さらにポートフォリオ等を活用して、授業外学修時間の増加に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
TOEIC対策講座	9	14	2019/10/17～2019/12/5

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・外国語としての英語教育
- ・教育学
- ・言語学
- ・翻訳研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	卒業ポートフォリオの作成、アセスメント・ポリシーの実施等
全学共通教育委員会	副委員長	全学共通科目に新しい科目を2科目追加した。(ダイバーシティとグローバル市民論、ビッグデータと持続可能社会)
教職課程委員会	委員	今年度は、長崎県の英語の教員採用試験に現役で合格者を出すことができた。
全学教育会議	委員	適切な運営のために委員として尽力した。
人事委員会	委員	適切な運営のために委員として尽力した。
カリキュラム委員会(学科)	委員長	国際観光学科のカリキュラムの適切な運営と、IR関連科目の新設など、魅力的なカリキュラム作りに努めた。
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	委員長	グローバルツーリズムコースの適切な運営に努めた。今年度も所属学生の英語の伸びは顕著であった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業 対策会議 ワーキンググループ(タイプ1)	副WG長	タイプ1の事項の内容を精査し、対応を検討し、高ポイントが取得できるよう尽力した。

IR人材育成指針に関する学科内検討委員会	委員	統合型リゾート(IR)で活躍する国際観光人材の育成に関する指針を検討しとりまとめた。
----------------------	----	--

(3) 課外活動の指導等

- ①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導
- ②TOEIC対策講座 担当
- ③IP TOEIC実施責任者

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①本学開催のオープンキャンパスにおいて、英語教育、留学等の保護者説明担当
- ②第10回高校生外国語暗唱コンテストにおいて、グローバルツーリズムコースの概要説明担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「長崎国際大学教員の日常業務」	2019/4/20	長崎国際大学	長崎国際大学(新任教員向けFD)
「厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー」	2019/4/24	長崎国際大学	長崎国際大学 教務委員会
令和元年度 教員免許状更新講習「楽しく英語を指導するための基礎知識」	2019/6/15	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
教育プログラム開発委員会	委員	2018/4/1～ 2020/3/31	長崎大学地方創生推進本部長
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2019/11～	佐世保市
長崎県教員免許状更新講習連絡協議会	委員	2008/7～	長崎県内大学・短期大学理事長・学長会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎国際大学 国際観光学会 評議員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、全学の教務委員長として、3ポリシーに基づく教育を軌道に乗せることに尽力するとともに

に、卒業ポートフォリオの作成および周知に尽力した。ホスピタリティーブックを使用しての省察は、数を絞って行うことになったが、それでも多くの教員が対応に苦慮している現状は、変わらないように思う。数を絞り出したが、まだこの方式についての様々な意見があることも理解しているので、引き続き、出来るだけ多くの先生方の意見を参考にしながら、少しずつより良いものにしていきたい。

その他の点においては、教務委員会の適切な運営のためには、3学部4学科のそれぞれの意見の調整も必要であり、困難な点もあるが概ね適切に運営することができたと思う。

学科のカリキュラム委員長としては、今年度も学科の教育課程の適切な運営に寄与できたものと考えている。IRのこれからの展開をにらんだカリキュラムの見直しも適切に行われ、次年度から新たな科目が追加される。

グローバルツーリズムコース委員長としてのコース運営に関しても、今年度もグローバルツーリズムコースの授業を担当する教員の献身的な努力により、適切に運営することができた。グローバルの1年生は、今年度はマイナス思考の学生が数名おり、指導に苦勞をしたが、一人一人の学生に丁寧な指導を今後とも続けていきたい。このような指導は、英語担当教員の一人一人の尽力なしでは、達成できないので、英語担当教員の協力を得て、さらに努力していきたい。

上記以外の活動についても、様々な業務遂行のために多忙を極めた。しかしながら、多忙の中でも、一人の教育者として、教育の質保証が適切になされるよう、次年度もさらに努力をしていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 安部 雅隆

1. 教育理念

私は教育理念として2つの考え方を持っている。1点目は「論理的思考の修得」、2点目はこの論理的思考を基礎とした「学生自ら答えを模索する主体性の醸成」である。

上記の教育理念を具現化すべく、まず、講義系の授業ではその日の講義内容を体系的にまとめた冊子資料を私自身が作成している。それを基に講義を展開することにより、論理的な理解を促進するとともに論理的思考を修得してもらう。また、適宜練習課題の時間を設けることにより、その理解や思考をどのように使うのかを経験する。これにより、論理的理解・思考を実践する習慣を各学生に定着させることは無論、自ら難題に向かう姿勢や明確な答えのない事象に自分なりの答えを模索する姿勢を醸成することも目的としている。

また、ゼミ系の授業ではその教育理念はさらに顕著な形で体現している。各ゼミ内で毎回「ケーススタディ」と呼ばれる手法を取り入れており、受講者は教員が予め与えたケースを読んできてゼミに臨む。ケースに潜む解決すべき問題を抽出し、それらをどうやって解決へと導くかを各自で考えなくてはならない。これにより論理的思考力の他、自らその解決策を考える主体性を修得させることができる。加えて、各学生が考えた意見について他のゼミ員と討論することにより自らの考えをブラッシュアップできるのと同時に、他人の考えに対しても理解を示すことで、自らの考えに幅を持たせる意味合いも包含している。

2. 教育活動

(1) 授業 (科目名 / コマ数 (開講時期等) / 単位数 / 単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	13	⑥⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑩⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	14	①⑥⑦⑪
経営学	15 / 15 (前期)	2	171	③⑤⑨
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	⑤⑥⑦
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	④⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑧
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	12	④⑤
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	①⑥
会計学	15 / 15 (後期)	2	75	⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

①会計学

満足度が昨年と比して0.1ポイント下がってしまった点については、真摯に受け止め、決して誤差の範囲であるとは考えないようにしながら、その要因を追求していかなくてはならないと考えている。一方で、高校時代に数学を苦手としてきた文系の履修者がほとんどである中、計算を主体とする本科目がここまで高い満足度や理解度を打ち出せた点については高く自己評価している。今後の方策としては、大きく路線変更する必要は感じられないため、小さな部分で今まで以上にきめ細やかな対応や教授法を意識しながら、一転してポイント上昇が実現できるように誠心誠意努めていきたい。

②経営学

決して悪い結果ではないと受け止めているが、例年同じようなポイント獲得になっており、正直頭打ちになっている印象を受ける。さらに上げていくにはどうしたら良いかを考察しないといけないと考えているが、ひとまず公開授業等を利用して、同規模でこの授業より高いポイントを獲得されている先生の授業を参観したり、アドバイスを頂いたりする必要があると感じている。あと、例年に比較すると【自由記述】欄にややネガティブなコメントが多くなっている。この点についてもひとつひとつ精査していかなくてはならないと感じている。

③教養セミナーA

なにより、満足度含めたどの項目もポイントが向上している点はとてもうれしい。しかしながら、裏を返せば履修生に恵まれたとも言えなくもない。この結果に満足することなく、さらなる授業質向上に努めていきたい所存である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・企業経営
- ・企業会計

- ・学校経営
- ・学校会計
- ・大学評価

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Diego R. Toubes, Julio García del Junco, Masataka Abe(2019) Cross-cultural Analysis of Japanese and Mediterranean Entrepreneurs During the Global Economic Crisis. / 2019/7 / Journal of International & Global Studies. Vol. 10 Issue 2, /47頁～63頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	<p>本年は「認証評価」を受審する年であった。日本高等教育評価機構へ出向した経験を持つ自分としては、その経験を生かし問題のない評価結果を獲得するために意欲を燃やした。その評価結果も大学としても満足出来る水準であったと捉えており、本結果獲得に十分な貢献ができたと考えている。</p> <p>その他の活動についても、会議参加は無論、公開授業のコーディネート等、遺漏なくやり切れたと思っている。</p>

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ①男子テニス部顧問
- ②女子テニス部顧問
- ③男子ゴルフ部顧問
- ④女子ゴルフ部顧問

それぞれ総会や大会への応援、歓送迎会等に足を運び、部員や監督とのコミュニケーションを図るよう努めた。

⑤長崎国際大学ローターアクトクラブ

所属する佐世保ロータリークラブで「RAC委員長」を拝命したことで、本学のローターアクトクラブへの活動を支援した。

具体的には週1回、学内もしくはホテルオークラで開催される「例会」に参加したり、ローターアクトクラブ主催で開催されるイベント等へは必ず参加した。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①進学説明会参加/6月6日/場所:佐世保市体育文化館
- ②広報誌「Top Interview『佐世保には未来がある』」インタビュー記事掲載/11月発刊/月刊はなはな編集部

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外

2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保ロータリー例会卓話 「ハワイ短期留学プログラム」実施報告	2019/5/15	佐世保玉屋	佐世保ロータリークラブ

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保ロータリークラブ 広報活動委員会	委員	2018/7～2019/6	佐世保ロータリークラブ
佐世保ロータリークラブ 親睦活動委員会	委員	2018/7～2019/6	佐世保ロータリークラブ
佐世保ロータリークラブ ハワイ短期留学委員会	副委員長	2018/7～2019/6	佐世保ロータリークラブ
佐世保ロータリークラブ ローターアクトクラブ委員会	委員長	2019/7～現在に至る	佐世保ロータリークラブ

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2019年3月25日～4月6日「国際ロータリー 第2740地区 2018-2019年度 地区大会記念事業『ハワイ短期留学プログラム』」／委員会メンバーとして現地まで同行

②2019年5月18日「ハイスクール茶会 in ハウステンボス」／実行委員として参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞(学生による授業アンケート部門)

《2018年度 学科専門科目「会計学」》

8. 活動全般についての自己点検・評価

担当授業については、概ねその役割を果たせたと感じている。「経営学」「会計学」の授業アンケートについては、どちらも0.1ポイント満足度が下がっていたが、いずれも高い水準で理解度・満足度がキープできており、特に大きな改善が必要であるとの認識はもっていない。一方で、ゼミ活動については2年生・4年生に1名ずつの退学生を輩出してしまい、また4年生に1名卒業延期になる学生がでてしまうなど、悔いの残った年になったと言わざるを得ない。教育自体には特に問題を感じていないが、日々の生活含めた学生のケアが十分に足りなかったのではと反省する次第である。

研究活動については、長年取り組んでいた自身の分野に関する論文(英語)を雑誌に投稿することができた。共著であるが一つの成果として満足いくものであった。

その他大学運営活動や社会活動については多方面で活動させて頂いたが、主としては自己点検評価委員会委員の一人として、本年度受審した認証評価業務に従事した。結果として「適合」を問題なく獲得することができ、また外部に公表されるようなマイナスな指摘も無かった。これにてについては、自身が出向した経験が生かされた形となり、大学に貢献できたのではと自負している。また、社会貢献活動やボランティアについても佐世保ロータリークラブを通じて、一定程度はできていると感じている。

一方で、法人職員としては、小中学校設立・開学に代表されるような学園全体の経営計画の立案及びその実行に従事していたため、相変わらず大学業務との両立の難しさには常に直面させられている状況であった。しかしながら、その状況については周囲から理解していただき、多大なサポートも頂けている状況には心から感謝するところである。

総じて、2019年度は、一教員として果たした役割は、教育面および大学運営では想定通りの働きができたが、ただ一点ゼミ活動において個々の学生へのケアが不十分であったと認識している。研究業績等の成果については、これまで無かった雑誌投稿が実現できた。2020年度は教員という立場から法人職員へと異動し、学科所属の教員ではなくなってしまうが、非常勤講師として複数の科目を担当する運びとなるので、教育面での貢献をさらに高いレベルで目指していきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 乙須 翼

1. 教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどのような特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史(文化や宗教も含む)や社会(法や制度、政治など)との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人(市民)として生きていくために最後に学ぶ場所であると考え、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するという点である。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	⑥⑩⑫
卒業研究	15 / 30 (前期)	4	2	⑩⑫
教育実習A	120 / 120 (通 年)	4	9	④⑪
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	④⑪
事前・事後指導	2 / 8 (通年)	1	17	④⑦⑫
事前・事後指導(栄養)	2 / 8 (通年)	1	1	④⑦⑫
栄養教育実習	40 / 40 (通年)	1	1	④⑪
教育学	15 / 15 (前期)	2	52	②④⑥⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	5	⑤⑥⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑥⑩⑫
教師論	15 / 15 (前期)	2	30	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
教職実践演習(栄養教諭)	3 / 15 (後期)	2	1	①⑤⑥⑦⑩⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	4	①②④⑤⑥⑦⑧⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑥⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	8	⑤⑥⑩⑫
教職実践演習(中・高)	6 / 15 (後期)	2	20	①④⑤⑥⑦⑩⑫
教育原理	15 / 15 (後期)	2	24	①②④⑧⑩
キャリア開発Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	317	①④⑤⑥⑦⑧⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は授業アンケートによる学生の授業に対する満足度の平均が、4.2から4.7という結果であった。科目別に見てみると、前期の教職課程科目の教師論が4.7、後期の教職課程科目の教育原理が4.5、前期の全学共通科目の教育学が4.2であった。その他、教養セミナーが4.7であり、全般的には満足度が高い結果となったが、科目によっては昨年度を下回るものもあった。

授業に関しては、担当科目に1年生科目が多いことから、今年度も、授業中の私語やスマホの使用、課題の提出等に関して注意する場面が多く、定期試験等での成績も例年に比べると低い印象を受

けた。そのため、学生の意欲や関心を授業に惹きつけるという部分でやや苦勞した年であった。授業や教育の場面で特に今年度改善したという部分はないが、毎年使用しているレジュメや資料をよりわかりやすいものとなるように点検、修正し、できるだけ学生が理解しづらい部分を重点的に説明するように心がけた。授業方法に関しては、グループワークや発表などを取り入れ、学生ができるだけ能動的な形で動くように工夫を行った。4年生については、学修の蓄積もあるため、ディスカッションやグループワークなどが教員の指示なしでもうまく展開できたが、やはり1年生、大人数となると、コントロールが難しい場面もあり、次年度に向けて工夫をしていかなければならないと感じた。次年度については、今年度、授業中の学生に対する質問やその応答といった学生とのコミュニケーション場面を多く作った方が学生の満足度が高いという様子も見て取れたため、できるだけ授業中の学生とのコミュニケーションを増やしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	30
長崎外国語大学	教育原理	15/15(前期)	2	11

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
教員採用試験学内模試(試験監督)	20コマ程度	のべ28人	2019/4, 2019/6, 2019/10, 2019/12, 2020/2

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

アメリカの近代家族・公教育成立期における子ども観および貧困児等に対する教育的救済の特徴の解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
教職等支援部門の活動と今後の課題/2020/3/長崎国際大学教育基盤センター紀要第3巻/87
頁～89頁/共著/報告

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

18世紀末アメリカの学校教師と子どものモラルー日曜学校教師ジョン・エリーの子ども観と教育実践を通してー／2019/9／教育史学会第63回大会研究発表(単独)

誰が何のために残した史料から子どもを語るか(ラウンドテーブルテーマ「子ども史研究再考ー記録保存／分析視座／歴史叙述」)／2019/8／日本教育学会第78回大会ラウンドテーブル(共同)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	委員／ファクトブック検討ワーキング・グループ委員	IRコンソーシアムによる学生調査等各種データの結果から国際観光学科生の特徴および経年推移を分析し、学科内教員の意見を取りまとめた上で委員会にて報告を行った。またファクトブック検討ワーキング・グループの委員として意見を提出した。
教職課程委員会	副委員長	・教職課程運営に関わる諸業務(教育実習、介護等体験、履修カルテ、教職実践演習等)を委員長と共に行った。 ・東明中学校の校長より依頼を受け、学校ボランティアの学生への周知・募集・調整・派遣を行った。
教育基盤センター運営委員会	教職等支援部門部門長／教養セミナーワーキング・グループ長／教育基盤センター紀要編集副委員長	・部門長として教職学生向けの課外講座の立案・実施をキャリアセンター等と協力して行った。 ・初年次・教養教育部門内の教養セミナーWGのWG長として教養セミナーの授業計画の立案、テキスト等教材の作成・配信、アンケートの作成・実施・分析などを行った。 ・教育基盤センター紀要編集委員会副委員長として、委員長と共に紀要の査読事務・編集事務等を行った。

初年次教育委員会(国際観光学科内)	委員長	・教養セミナーAについては全学WGによる運営方針に基づき学科内での授業実施のコーディネートを行った。また担当教員への連絡等を逐一行った。 ・教養セミナーBについては国際観光学科独自のセミナープログラムの立案・調整・実施ならびにテキストの作成を行った。また合同セミナーの調整や連絡、運営なども行った。
共同研究予算委員会(国際観光学科内)	委員	学科共同研究予算の執行状況の確認や規程の見直し等の検討を委員として行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
CHサポートセンター学生生活サポート室	相談員	国際観光学科選出の相談員として後期金曜日の昼休みにサポート室に駐在した。
教育基盤センター委員会内教養セミナーワーキング・グループ	ワーキング・グループ長	教育基盤センター委員会活動の欄に記載
IRセンター委員会内ファクトブック検討ワーキング・グループ	委員	IRセンター委員会活動の欄に記載

(3) 課外活動の指導等

教職学生向けの外部講師による教員採用試験対策講座の立案を行い、キャリアセンターとの共催にて3月に特別講座を実施した。実施にあたり、時事通信社との交渉、キャリアセンターとの連絡、学生への周知・連絡等を行い、特別講座の円滑な実施に貢献した。また、今年度は6回の学内模試を実施した他、4年生を中心に、教育論作文の個別指導や願書の添削等、採用試験対策を行った。加えて教職学生については、4月ならびに9月に新規教職学生向けに履修カルテ説明会を開催し、履修カルテ入力指導を昼休み等を用いて行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

募集・就職活動に関わる活動については特に依頼はなかったため行っていないが、オープンキャンパスでは主に保護者への対応(教職関係)を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	5

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成31年度教員免許状更新講習(講座名:子ども達と学校教育)	2019/8/3	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
早岐小学校学校評議員	評議員	2019/4～2020/3 (2011年度より継続)	佐世保市教育委員会
早岐小学校学校支援会議「早岐っ子会」	委員	2019/4～2020/3 (2017年度より継続)	佐世保市立早岐小学校
九州教育学会理事	長崎県選出理事	任期:2019/11～ 2021/11(2018年11 月より)	九州教育学会
九州教育学会紀要編集委員	委員	任期:2019/11～ 2021/11	九州教育学会理事会
九州教育学会第71回大会総合部会担当理事	担当理事	2018/11～2019/11	九州教育学会理事会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

学校ボランティアの斡旋:佐世保市立東明中学校より本学に学校ボランティアの依頼があり、その依

頼に対応する形で、東明中学校校長と本学教職学生との調整役を担い、学生の中学校への引率や派遣などを行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度最も実績・成果が出た点として、まず初年次教育科目の教養セミナーAが挙げられる。昨年度1月よりテキスト作成に向けて教材の見直しと追加、体裁の統一をWG長として担当し、4月からはテキストとマナバでの教材配信を併用した授業運営を開始した。テキストの配布により、見通しを持った授業運営が可能となり、また教材においても各学科で難度を柔軟に調整できるようWG内で工夫した。その結果、各担当教員の負担および不安軽減もあってか、学生による授業アンケートでは、過去5年で最高の評価となった。次年度についてもWG長の予定であり、現在、テキストの改訂作業に取り組んでいる。

次にあげられる成果としては、今年度卒業予定の教職学生のうち、現役合格者が複数名出た(1次試験のみ合格者も含め)ことが挙げられる。勿論、本人達の努力の結果ではあるが、採用試験対策や願書およびレポート添削など、課外で小規模ながら行ってきた支援が少しは実を結んだのではないかと考えている。教職課程については、新カリキュラムの適用や近隣校での教育実習など、近年、国からの要請も多く、また今後も免許制度改革なども予定されているため、次年度についても他大学の動向も見つつ、円滑に教職課程の運営を行っていけるよう尽力したい。また今年度本格的に実施した学校ボランティアについても、学生と現場の先生方とを繋ぎ、実りあるものとなるよう実施要領等を検討していきたい。

今年度の反省点としては、昨年度末に、共著の出版と教養セミナーAのテキスト作成など、仕事が重なったため、やや体調面で万全ではなく、研究面において論文という形で実績が残せなかった点が

挙げられる。ただし今年度は、書籍出版に関わる研究会や学会などへの参加、登壇を活発に行い、資料調査も実施できたため、次年度には論文という形で実績を残したいと考えている。また毎年チャレンジを考えつつ、実現できない科研費についても、次年度については史料調査等の計画を盛り込んだ計画で応募できるよう準備を進めたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 尾場 均

1. 教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」

地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとらわれない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力(社会人基礎力)を身につけるカリキュラムをつねに考えている。

社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
国内観光研修C(西日本)	30 / 30 (通年)	2	35	①⑥
地域連携活動 I A	15 / 15 (前期)	1	45	①⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	⑫
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	11	⑥⑪
専門演習 III A	15 / 15 (前期)	1	8	⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑫
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	74	③
映像文化論	15 / 15 (前期)	2	108	②
コンピュータ基礎演習 II A	15 / 15 (前期)	1	21	③⑪⑫
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	12	⑥⑪⑫
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	105	③
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	114	③
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	⑫
専門演習 III B	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	10	⑥⑪
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	11	⑥⑪
コンピュータ基礎演習 II B	15 / 15 (後期)	1	11	③⑪⑫
情報処理論	15 / 15 (後期)	2	30	②
地域連携活動 I B	15 / 15 (後期)	1	45	①⑪
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	81	③

コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	111	③
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	122	③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

コンピュータ基礎演習1A

私語や居眠りする学生もなく授業が進められている。特に授業の進みが早い・早口など自由記述からはほぼ無くなったことが結果である。しかし機器の使用による授業内容であるため、機器の不具合による授業への影響も見られた。また学生が保有する機器と大学設置のリリースの(version)の差による質問や不満を聞くことも多くあり、大学設備の対応も考えて欲しい。

配布プリントの内容の改善も結果に出ている。

2017年度からの大幅な内容変更が現在の結果となっている。但し満足度が授業内容の数値結果へ反映されていない。記述では満足度を示す内容と見受けられるが、数字ではそれほど高くない。この授業により多くの事を学び、自分のスキル向上を回答する学生が多いことは内容改善の結果だと思われる。今後もこの内容で授業を進めていきたい。毎回の課題の提出率が100%に近いことも学生の満足度につながっていることと思われる。

コンピュータ基礎演習1B

シラバスとの整合性は昨年と同じように実施した。ポートフォリオの活用により、実践的な内容を重視するよう心がけた。昨年度は設問5の「授業内容は興味あるものでしたか」で2や1の評価があったが今年度は0であった。

内容の工夫として昨年より少し高度にしたことで、学生の達成感が向上したと思われる。

授業後に「今日は頑張った」や「今日は完璧にできた」などの笑顔でも報告を見られた。努力する学生へ興味を持たれる授業内容であったと思われる。この効果は自由記述や自由設問でも確認できるため、次年度も同じ内容で実施する。

「この授業で、専門的知識や技能を活用する力を修得できましたか」で結果は4.7である。自由記述にも「社会にでて使える内容」「将来で必要になることを学べた」があり、これまでの授業内容は専門的知識や技能を伸ばす内容は受講者にも伝わったと思われる。最終回のポートフォリオのアンケートには多くの授業に対する満足が書かれた回答を確認することができた。

今後、この授業で得た知識や技能が、役に立つことを期待している。

情報処理論

自由記述に「説明が早い」はなく、授業の方法も学生に受け入れられたと思う。特に板書や機器の使用は情報やプレゼンテーションを指導する専門家として向上することを努力する。学生の意見を聞き、その場で即答することや、学生同士が話して、疑問に残ることはその場で解決することで学生の理解も向上すると思うわれる。

自由記述で授業中の私語に気がつかなかったようだが、何度も気づいたことで、これは留学生同士が私語ではなく授業内容のテーマについて相談していると予想される。

今後も居眠りする学生がいない授業で、学生へ興味を持たせるような内容を工夫したい。これまで授業アンケートで自由記述からも満足度は多く、これまでの講義の中で一番スコアがよかった。

「この授業で、専門的知識や技能を活用する力を修得できましたか」で結果は4.6である。自由記述の中では「普段のニュース等では得られない話を知ることができたりして面白いです。社会に出て当然のように必要となる内容をこの講義で学べて参考になります。」「この授業が一番、今後にかけるし、楽しかったです。」「今の情報社会ですごくためになることばかりでとてもありがたいです。この分野に疎い自分にとってとても助かす授業です。」など多くの評価を得られた。

今後も準備に時間をかけて学生満足度と理解度の向上に努力したい。

映像文化論

初めて「授業中の私語に対して厳しかった。」と自由記述があり、今年度は徹底して注意をすることで、受講者の授業環境の確保を保つことができたが、毎回グループの学生であることで、今後部活動の指導者にも相談して改善に努めたい。

配布プリントに関しては、授業内容の提示をポートフォリオシステムに反映する場合、映像に関してはできないことを学生には事前に説明理解してもらう必要がある。教科書等も検討する。

今回のアンケート結果で気になった点は「教科書、参考書、配布プリントの使用について」である。内容は昨年以上に細かく提示したが、逆に分かりにくくなったと思われる。配布資料は穴埋め式などにする改善も考えたい。

「好きな授業ある、楽しい、面白い」など多くの学生から授業の内容等での自由記述は満足度が高いことがわかる。この授業により映像の分野に興味を持ってもらい、自由記述だけでなくスコアでも満足度を高めたい。内容音量調整や空調についての指摘もあるため施設改善をお願いしたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	情報科学	15/15(通年)	2	34

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

ネットワークを利用した共同学習

「いつでも、どこでも、だれでも」情報機器が使える社会の実現には、環境や年齢に制約されることなくネットワークを利用した情報教育の方法や環境づくり、また情報機器と人間との接点であるインターフェイスを研究し、情報機器によって社会参加を支援すべきと考えている。

学生と教員、そして職員をつなぐ学びの場として、時間や場所にとらわれず、講義の予習・復習をはじめ、学習の履歴や記録を保管して、学びの内容の振り返りや、システム上で小テストの実施や、課題の提出に対して個別指導など授業を支えるシステムを研究する。

またネットワークを利用した共同学習は教員が学生に対して「教える」のではなく、教員を交えて学生同士が「教えあう」ものを促すことであると考えられる。通常の講義・演習以外にも地域連携活動などの実践的な教育であるPBL(プロジェクト型学習)にも対応するシステムを研究する。

プログラム開発

日本語学習SNSプログラム、多言語対応アンケートシステム等、NFC・QRコード多言語システム

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
イノベーション・経営人材育成～ 大学発ベンチャー設立支援事 業～	平成31年度 長崎国際 大学学長裁量経費	2019/6～2020/3	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	副センター長	地域連携、広報に関するすべての事項
産学連携・研究支援センター	副センター長	地域連携の研究に関するすべての事項

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光学科観光マネジメントコース委員会	委員長	学科コースの運営・提案に関する事項
国際観光学科 企画・広報委員会	委員長	学科の広報に関する運営・提案に関する事項
カリキュラム委員会	委員	カリキュラムに関する事項

(3) 課外活動の指導等

ソフトボール部 顧問

起業部サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

テレビ佐世保「佐世保だよ!全員集合」番組作成(月曜20時)/2019年1月~/テレビ佐世保
長崎国際テレビ特番・テレビ佐世保特番等の番組出演による広報活動(出演 NIB長崎放送局 1
件 テレビ佐世保 11件)/2019年度/長崎国際大学

FM佐世保ラジオパーソナリティの活動(毎週日曜日60分生放送)/2019年度/FM佐世保
「佐世保の民話」など地域連携・広報活動での新聞掲載。(長崎新聞3件 西日本新聞1件) /2019年
度/長崎国際大学

SNS、facebook、Instagram、twitter等を使った広報活動(国際観光学科 公式アカウントの運営)
/2019年度/長崎国際大学

第8回Made in SASEBOフォトコンテスト開催/2019年11月/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
公開講座:平戸市「ICT・IoTを活用して新たなライフスタイルとは」	2019/12	平戸市	平戸市役所
公開講座:「課題研究に向けて」	2019/12	佐世保東翔高校	佐世保東翔高校

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ラジオパーソナリティ	パーソナリティ	2009/4/1～	(株)FMさせば

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

2019年7月 平成31年度若者育成支援事業。(ミニコンサート開催)、長崎国際大学

2019年7月 「SASEBOまちなかスタンプラリー」企画運営、まち元気向上委員会

2019年8月 「アメリカンフェスティバル 2018 IN SASEBO」企画運営、佐世保市青年会議所

2019年10月「佐世保の民話」制作発表、佐世保市文化振興課

2019年11月 「YOSAKOIさせば祭」企画運営、佐世保市

2019年11月 「NIUキッズキャンパス、教育資源を活かした企画」子供向けの市民公開講座を開講、長崎国際大学

2019年11月 AUGM長崎およびコンピュータ関連の研究会・ITセミナー等で活動、長崎県内Apple

ユーザグループ3団体

2019年12月「ZENRYOKU50」企画運営、まち元気向上委員会

2019年12月「きらきらフェスティバルinSASEBO」企画運営、まち元気向上委員会

2020年2月「渋谷TANPEN映画祭CLIMAX at佐世保」企画運営、佐世保市、佐世保映画社

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2020国際生物学オリンピックの広報映像を制作した。今年度開催国ベルギー会場、公式ホームページで公開された。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

●研究活動(学会・研究会発表)

SNSを利用した学習システムおよびアンケートシステムなどのシステム開発。

社会人基礎力育成とPBLと関連した地域連携活動の授業実践を研究する。

●大学運営面において

新聞やテレビ、ラジオ等での広報を目的に地域連携活動や関連事業、佐世保市のイベント開催などに大学として積極的に取り組んだ。

地域連携センター副委員長として連携事業に携わった。「NIUキッズキャンパス」で子供向けの市民公開講座を開講した。

観光マネジメントの委員長として教務・学生・募集について教員を取りまとめ運営に従事できた。

「企画・広報委員会」委員長で国際観光学科SNSを運営した。

佐世保フォトコンテストの開催で中高生の応募を増加させた。

●教育面において

今年度も専門演習(ゼミ)でのPBLの実践、講義科目の授業改善、ポートフォリオを活用した新しい授業実践に取り組んだ。また映像制作、番組制作において高度な技術習得の授業内容で教育した。

・ポートフォリオの活用

昨年度に実践したポートフォリオを活用した学生への教育サービス、PBL、学修評価を研究した。

ポートフォリオの活用で学生生活記録、リメディアル教育、コミュニケーション能力や自主性、課題解決力などの社会人基礎力・ジェネリックスキルを備えた人材の育成と活用方法を実践した。

授業の内容におけるPBLの実践、ICT活用についても継続して研究していく。

・社会人基礎力育成

例年同様に「専門演習」および「地域連携活動」の科目でアクティブラーニングによる実践的な教育で学生と行動する機会を作ることができた。

社会人基礎力を育成できた。ポートフォリオの活用やSNSにより、大学内外関係なく連絡を密にしているため、学生の小さな変化を気づくことができた。卒業研究の指導はポートフォリオを活用して、計画的に指導できた。PBLと情報システムの利活用により、学生への教育効果も向上した。

●教育成果

地域連携活動によるPBLで社会人基礎力育成と学生の学びを実践

・「佐世保の民話」絵本の出版

・「渋谷・佐世保短編映画祭」5月より月1回の映画祭の開催および2月にクライマック映画祭の開催

・佐世保市内でアーティストを迎えコンサートを開催

・道守九州大会で高度なパブリックビューイング等の映像演出、会場運営を行った。

・テレビ番組「佐世保だよ全員集合」11本制作 ラジオ番組約48本を制作した。

・小学生向けプログラミング講座のインストラクターを育てた。

・起業部の顧問で3月末に学生による起業を予定している。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 小島 大輔

1. 教育理念

本学におけるわたしの教育に関する責任は、人文地理学を学術のベースとして担当科目を全学科学生、スポーツツーリズム履修学生、教職課程履修学生などの対象別に学生に合わせて教示することである。ディプロマ・ポリシーのもとで、学術的視点でそれぞれの学生が各科目で最低限身につけてほしい能力を修得するために到達目標を設定している。

専門力に関する基礎的知識の評価については、採用試験・資格などにかかる科目は、知識の定着のために、持ち込みを不可とし、用語を中心として基礎的知識をどれだけ有しているかを問う形式にしている。そうでないものは、知識を体系がどれだけ出来上がっているかを問うために、持ち込みを可とし、その情報から用語をどれだけ類別・区別できるかという形態にしている。

一方、授業問題の捉え方、解決の方法を実践させたい。私は、教育の大観的な目標として、「教育の地域資源化」と「地域の教育資源化」を目指して大学教育に従事している。それは、これが二つの側面から社会的要請があるからである。一つは、社会人基礎力を養う有効な手段として、近年新しい形態のインターンシップなどとして注目されている課題解決型学習(PBL)の実践という側面である。もう一つは、近年「場の教育(PBE : Place Based Education)」として「より戻し」が図られている地域と／の教育の関係変化という側面である。

具体的には、PBE・PBLの段階的取組みを実践していきたい。第一のレベルは、初年次教育の際に実施している調べ学習を通じた地域の理解である。第二レベルは、2年次のゼミにて実施していたジェネラルサーベイおよび移動巡検である。第三のレベルは、2年次のゼミにて実施していたテーマ別に調査する調査巡検である。第四のレベルは、実習科目において実施していた地域を志向した課題解決型学習である。私は、大学が非常に優良な教育の場として地域とどのような関係性を築いていくかが、重要な課題であることを常に認識している。さらに、これらの実践によって地域資源としての大学・大学生という認識が広がれば、地域を舞台としたより実践的な活動が可能になり、さらには学生が当事者となる可能性も現れる。この実践は、地域に根差した研究教育活動を行っている地理学の分野の使命の一つと考えている。

また、この教育手法は実践研究と親和性が高い。そこで、研究と教育を完全に分離せず、可能な限り学生を研究に関与させる機会を設けたい。この場合、大学周辺の地域をフィールドとした学生と協同した地域研究、地域課題の解決の成果を残していきたい。学生の氏名を上げた文章等が残ることによって、学生のモチベーションも向上し、また就職活動などの素材にもなり得る。私が目指す教育姿勢と学生の目標が収斂することで活動のパフォーマンス向上も期待できる。学生と向き合う時間を十分に設け、学生の成長と共にスタッフとして成長しその喜びを分かち合っていきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
国内観光研修D(九州・沖縄)	30 / 30 (通年)	2	17	⑩
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	⑩
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	3	⑩
教育実習A	120 / 120 (通 年)	4	9	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	④
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	17	④⑦
スポーツツーリズム	15 / 15 (前期)	2	114	②
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	7	⑥⑨⑫
社会科教育法Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	4	⑩
観光学概論	15 / 15 (前期)	2	235	②
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①③⑥⑦⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	4	⑥⑦⑫
Tourism Geography	15 / 15 (前期)	2	2	②⑥⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	6	⑥⑫
社会科教育法Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	8	②⑥
長崎研究	5 / 15 (前期)	2	55	②⑨
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	⑩
教職実践演習(栄養教諭)	4 / 15 (後期)	2	1	⑤⑦
社会科教育法Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	3	①④⑥⑦⑧⑪
社会科教育法Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	3	①②④⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑩⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	6	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑫
長期インターシップ	7 / 90 (後期)	6	6	⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	⑤⑥⑦⑫
教職実践演習(中・高)	4 / 15 (後期)	2	20	⑤⑦
地誌	15 / 15 (後期)	2	108	②③⑥⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期の授業アンケートは、「観光学概論」において実施した。今年度の授業も例年同様クラスサイズだったが、ポイントを向上させることができた。そこで、次回は以下4点の向上策を実践できればと考え

る。第1に、今年度向上のみられたポートフォリオの「小テスト」で授業キーワードの復習をさらに徹底し、＜準備学習(予習・復習)＞のポイント向上に併せて、単位取得率向上を目指したい。これまで度同様、毎回授業のはじめに前回の授業キーワード復習の実施数をグラフなどで視覚的に表示し、評価点であることを確認して取り組み数の向上と励ましを行う。第2に、確認した授業キーワードの方法を促したい。今年度も、配布資料にメモする書きこみ欄を設けた。だが、今回は穴埋め形式など定期試験への直接的な有用性を強調し、評価基準を下げることなく単位取得率の向上を図る。第3に、授業づくりの改善策として、「①前回の復習→②授業テーマとキー発問→③作業・課題が2回以上ある展開→④まとめ」というパターン化と、そのアウトラインの提示を徹底したい。今年度は時間の都合でアウトライン化ができなかった。これによって、今回できなかった作業・課題などの話して良い時間と、聞く時間のメリハリをつけ、集中力の継続と「ガス抜き」の効果を図る。第4に、今年度実施できなかったリアルタイムに閲覧可能な相互コミュニケーション方法を1回は試行的に実施する。これを、授業アンケートで得られない学生の反応・印象などの情報収集を即時に入手することと、授業への主体的な参加の促しとして活用する。

また、前期は「教養セミナーA」においても実施した。授業内容に大きな変化はなかったが、昨年度から満足度を大幅に減じる結果となってしまった。授業内容はテキスト化もされ、大幅に変わることがないことを前提として、その進め方について、以下2点の向上策を実践できればと考える。第1に、毎時の授業の展開に余裕をもたせるように努め、受講生の疑問・質問や相談に対応する時間に充て、学生のスタートアップの不安を取り除く。授業外での対応も今年同様に実施する。第2に、参加の促しと熱意の体现で、楽しいうちに授業が終えられる工夫を試みる。少しずつ少人数化していることで、異なる特徴・能力、興味・関心をもっている学生を、うまく学習内容の下で活動できるようにセミナー運営により気を配る。

後期の授業アンケートは、「地誌」において実施した。今年度の授業は昨年度とほぼ同規模のクラスサイズだった。クラスサイズの拡大に合わせて変更した昨年度の授業内容と授業方法を基礎にした結果、満足度の微減で維持することができた。専門的な内容に広く興味をもって取り組んでもらえるよう、アクティブ・ラーニングの継続を図ることができればと考える。ただし、それに伴う私語対応が必要であるため、今回は今年度部分的にしか実施できなかったため、以下2点の向上策を継続できればと思う。第1に、授業の流れにメリハリをつけ、作業時間と話しを聴く時間を意識付けさせる。方法として、「①前回のふりかえり→②授業テーマとキー発問→③作業・課題が2回以上ある展開→④まとめ」という授業のパターン化を図り、またそのアウトラインの提示を徹底する。これによって、作業・課題などの対話的な時間と、傾聴の時間のメリハリをつけさせ、集中力の継続とそのため「ガス抜き」の効果を図れると考えている。第2に、映像資料の視聴時に、情報機器を用いて反応が可能な時間帯にリアルタイムの相互コミュニケーション方法を試行的に実施できればと考えている。これによって、授業アンケートで得られない学生の反応・印象などの情報収集を即時に入手し授業にフィードバックすることや、授業への主体的な参加の促しとして活用することが可能となる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	環境論	15/15(前期)	2	36
愛媛大学	国際観光論	15/15(前期)	2	17
長崎県立大学	人文地理学	15/15(後期)	2	131

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
思考力検定勉強会	2	1	2020/2/12

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①都市と観光
- ②地域研究(カナダ)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	25.7万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
スポーツイベントのレガシー効果に関する観光地理学的研究	日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(B) (研究分担者)	2019年度～2022年度	25.7万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員 学生生活サポート室長	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート室の運営 ・ピア・サポート全学組織の運営 ・NIUピア・サポート学生組織顧問 ・「心の健康調査」実施 ・『キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターだより』作成 ・修学支援費申請学生との面接 ・配慮申請者との面接 ・合理的配慮の提供内容決定会議 ・学外実習等に関する学外機関への情報提供内容検討会議
教職課程委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地理歴史・社会科担当 ・介護等体験指導・実習先への挨拶 ・教育実習指導・実習先への挨拶
学事委員会(学科)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季オリエンテーションおよび春季オリエンテーションのとりまとめ・企画担当
実習委員会(学科)	委員	長期インターンシップの主担当
ピア・サポート委員会(学科)	委員	ピア・サポート担当教員の意見交換会実施
公務員・教養課程委員会	委員	思考力検定勉強会担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学長裁量経費「NIUピア・サポート学生組織を通じた課題解決型学習の効果と課題」	分担者	<ul style="list-style-type: none"> ・本学におけるピア・サポート活動のさらなる発展と継続的な実施のため、①本学のピア・サポート活動を支えるNIUピア・サポート学生組織(以下NPS)活動の質向上と組織体制の強化を行うこと、②NPS活動を通じた課題解決型学習による教育的効果を明らかにすることの2点を目的とする取り組みの分担者を担当した。 ・主担当として、NPS執行部を中心に、昨年度作成したバリアフリーマップの修正版作成に以下4点で関わった。①バリア状況再調査(8月)、②内容・表現の再検討(8～11月)、③マップの修正チェック(11～12月)、④大学ホームページ(以下HP)への掲載(2月)。

九州西部地域大学・大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム 国際交流・観光・まちづくり【専門】委員会	担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務責任者連絡会議陪席 ・推進協議会陪席 ・委員会1回開催(司会) ・委員長校担当としての申請書作成における各大学との内容調整 ・国際交流イベントに参加・総括 ・旅行プランコンテスト実施(企画・運営・司会)
九州西部地域大学・大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム 地域産業活性化【専門】委員会	担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務責任者連絡会議参加 ・推進協議会参加 ・委員会出席 ・公開講演会運営(運営・司会) ・講演会実施にかかる各所への挨拶・依頼
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター学生生活サポート室	室員	<ul style="list-style-type: none"> ・後期週1回学生生活サポート室に詰め、学生の相談対応および各種サポート ・学生生活サポート室員の意見交換会実施

(3) 課外活動の指導等

- ①陸上競技部 部長兼監督兼短距離ブロック・コーチ
- ②NIUピア・サポート学生組織顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①進路ガイダンス(国際関係)／5月25日／長崎県立川棚高等学校
- ②オープンキャンパス(学科企画の一部担当:教職模擬授業(社会)担当学生への指導)／7月21日／長崎国際大学
- ③オープンキャンパス(学科企画の一部担当:教職模擬授業(社会)担当学生への指導)／8月4日／長崎国際大学
- ④オープンキャンパス(学科企画の一部担当:教職模擬授業(社会)担当学生への指導)／8月25日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席

2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	欠席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州学生陸上競技連盟	評議員	2014/4～現在に至る	九州学生陸上競技連盟
長崎陸上競技協会理事会	常任理事	2014/4～現在に至る	長崎陸上競技協会
西海地域づくり研究会	事務局員	2014/3～現在に至る	西海地域づくり研究会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
異文化理解教室	貨物列車ゲーム、じゃんけんピラミッド、留学生の母国の文化紹介(6か国・地域)	2019/10/25	佐世保市立花高小学校5年生

異文化理解教室	児童による日本文化紹介・体験(華道、茶道、書道)	2019/11/8	佐世保市立花高小学校5年生
異文化理解教室	留学生の母国の文化紹介、外国語じゃんけん大会、留学生の母国の子ども遊び	2020/1/24	佐世保市立花高小学校5年生

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、授業アンケートは「観光学概論」は昨年度より向上、「教養セミナーA」昨年度より低下、「地誌」は昨年度より低下という結果だった。講義科目において昨年同様私語対応への指摘があった。次年度は作業的な学習と傾聴のメリハリのある授業づくりが必要と思われる。

研究活動については、研究分担者を務める科学研究費の採択があったが、学会発表、論文投稿共になしという結果に1件にとどまってしまった。後述の大学運営活動にエフォートを割いたことが直接の要因である。次年度は、大学運営活動の効率化を図ることが望まれる。

大学運営活動については、全学委員会ではCHサポートセンター学生生活サポート室長として、学生生活サポート室、全学のピア・サポート活動の運営に携わった。また、5年連続で同委員を中心とした学生支援に関する学長裁量経費のプロジェクトにおいてバリアフリーマップの修正を担当した。また、教職課程委員会では、社会・地理歴史の教科指導を担当した。学科内の委員会活動は、学事委員会では秋季・春季オリエンテーションを担当し主担当者のサポートをした。実習委員会では長期インターンシップの主担当を担当した。加えて、QSPの2つの委員会の担当として、委員会参加や書類作成、事業の計画・運営などを担当した。以上のように、かなりのエフォートを要した大学運営活動の効率化を図り、他の活動へのエフォートを大きくする必要がある。

社会活動については、今年度特筆するものはなかった。本来貢献できる分野であるので、今後活かせるようエフォートの調整が必要である。

国際交流については、ボランティア活動として異文化理解教室を実施した。学外の委員は昨年末で任期満了となり2件減少した。

今後も効率化を図ることで各活動のエフォートのバランスをとり、各活動のパフォーマンスの維持ができればと考える。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 城前 奈美

1. 教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	15	⑥⑫
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	2	⑥⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	12	⑪⑫
旅行業法・約款	15 / 15 (前期)	2	140	①⑨
国内旅行実務Ⅱ	8 / 15 (前期)	2	48	①⑥⑨
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	16	⑪⑫
経済学	15 / 15 (前期)	2	156	⑨
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	15	⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	11	⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	15	⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	16	⑥
Japanese Economy	15 / 15 (後期)	2	26	⑤⑥
地域観光研究A(アジア・オセアニア)	15 / 15 (後期)	2	87	⑥⑨
観光経済論	15 / 15 (後期)	2	101	⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究(観光経済)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1
観光経済特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1
観光経済特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	6

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの満足度は、教養セミナー4.0(昨年度4.5)、旅行業法・約款4.5(昨年度4.3)、地域観光研究A(アジア・オセアニア)4.5(昨年度4.2)であった。教養セミナー以外の科目については、昨

年度よりも改善した。旅行業務取扱管理者試験科目でもある旅行業法・約款の授業アンケート結果が上昇したことが、国家試験合格者数の増加にもつながっていると考える。専門演習Ⅱでは、QSPが主催する旅行プランコンテストにおいて、優秀賞ならびに国際観光学科賞を受賞した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	142
九州産業大学	観光政策論	15/15(前期)	2	14

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
旅行業務取扱管理者試験対策特別講座	14	110	2019/4～2019/7の木曜日6限
旅行業務取扱管理者試験の模試と解答解説	3日	110	2019/8/9, 2019/8/20, 2019/8/27
旅行業務取扱管理者試験の直前対策講座	5日	70	2019/8/27～2019/8/31
日商簿記検定の対策講座	13コマと5日	18	2019/10～2020/1の木曜日6限、2020/2/14、2020/2/19～2020/2/22
国内観光研修Dの補助引率(長崎・佐賀)	4日間	18	2020/2/15～2020/2/18

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・アジア諸国の観光・文化・社会経済
- ・DMO
- ・クルーズ

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

外国人観光客にとっての佐世保の魅力と価値の形成/2020/3/国際観光都市佐世保研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし		0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	学部委員が、新たな入試制度の内容に関する打ち合わせを、数回実施した。
人間社会学研究科学務委員会	委員	委員会出席
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	9件の申請書を審査した。
観光学専攻	副専攻長	専攻会議議題の確認作業、専攻内中間発表会の運営、入試問題の作問取りまとめ
カリキュラム委員会(学科内)	委員	委員会出席
募集委員会(学科内)	委員長	学科に依頼された高校等への出張講義のとりまとめ。
研修・地域連携委員会(学科内)	委員	研修担当。委員会出席。
観光マネジメントコース委員会(学科内)	委員	委員会出席
旅行業務取扱管理者養成課程委員会(学科内)	委員長	旅行業務取扱管理者試験に向けた特別講座や直前対策講座、模擬試験の運営、講師。国試・模試の団体受験申込。
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員	委員会出席、査読、印刷業者の相見積もり依頼。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

・準硬式野球部の顧問として、年次計画書や年次報告書、部活動支援費の支出簿などを確認し、年に2回ほど応援に出向いた。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①ハイスクール茶会ボランティア／2019年5月18日／場所:ハウステンボス
- ②福岡県立筑前高等学校への出張講義／2019年6月14日／場所:福岡県立筑前高等学校
- ③佐世保商業高等学校への出張講義／2020年1月28日／場所:佐世保商業高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
クルーズ観光について	2020/1/28	佐世保商業高校	佐世保商業高校弓削教諭

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日商簿記検定	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	佐世保商工会議所 会頭

佐世保市景観審議会	委員	2020/3/1～ 2023/2/28	佐世保市長
-----------	----	------------------------	-------

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①日商簿記検定委員／本学会場の年間3回(2019年6月9日(日)、11月17日(日)、2020年2月23日(日))の検定監督および採点／主催:佐世保商工会議所
- ②日本観光研究学会九州韓国南部支部幹事／2019年6月22日(土)に幹事会、支部会総会、シンポジウムに出席した。／主催:日本観光研究学会
- ③QSP国際交流・観光・まちづくり専門委員会委員長校／第2回着地型旅行プランコンテストの実施・運営。委員会開催(2020年1月25日(土))。／主催:QSP
- ④国際観光都市佐世保研究会／委員会に出席、報告書原稿作成。／主催:佐世保市政策推進センター

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、合計55名のゼミ生(1年9名、2年12名、3年16名、4年17名。修士2年1名)の全員を、卒業もしくは修了、または進級させることができた。ゼミ活動において、QSPが主催する第2回着地型旅行プランコンテストに応募し、優秀賞ならびに国際観光学科賞を受賞できた。また、旅行業務取扱管理者試験の合格者(国内34名、総合7名)を輩出することができた。

大学運営活動については、入試・募集委員会、人間社会学研究科観光学専攻の運営に尽力した。学科においては、5つの委員会に所属し、2つの委員長を務め、特に旅行業務取扱管理者養成課程委員会に注力した。

また、社会活動として、QSP国際交流・観光・まちづくり委員会のリーダー校や、地域活性化委員会の委員校としての任務を遂行した。また、日本観光研究学会九州・韓国南部支部会の活動や、佐世保商工会議所の日商簿記検定委員、佐世保市政策推進センターとの共同研究を積極的に実行した。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 新藤 照夫

1. 教育理念

授業内外での学生との双方向のコミュニケーションを重視し、個々の学生が主体的に学修でき、卒業までにそれぞれ独自のホスピタリティを獲得していくことができるよう、教員としてサポートを行っていくことを教育理念としている。授業においては、安心安全の場を設定し、学生が容易に発言できる環境を保持しながら、アクティブラーニングを通じてプレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力を育成することを主眼としている。

英語関連科目において具体的に実践したいことは、次の3点である。①英語により正確かつ迅速に情報を入手し、自発的に意思疎通を図れるようなバランスの取れた4技能の土台を定着させること、②その土台となる技能をもとに、専門領域に関する情報を英語を通じて受信・発信できる実用的な運用力への応用を図ること、③異文化背景を持つ他者との柔軟な異文化コミュニケーション能力の育成に努めることである。その結果、学生が自らのコミュニケーション能力によって得た情報や文化交流から、知見をより豊かにし、グローバルな視野のもと活躍できる人材になることを理想だと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
英語コミュニケーションA	15 / 15 (前期)	2	52	②⑩⑪
旅行ビジネス英語	15 / 15 (前期)	2	55	②④⑩⑪
English Writing Skills I	30 / 30 (前期)	2	21	①②④⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
言語と文化	15 / 15 (前期)	2	66	②⑩⑪
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	38	①②⑪
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	37	①②⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
English Writing Skills II	30 / 30 (後期)	2	17	①②④⑧
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	25	①②⑪
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	25	①②⑪
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	32	①②⑪
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	27	①②⑪
英語コミュニケーションB	15 / 15 (後期)	2	33	②⑦⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

英語演習ⅡB(薬学科上級)において満足度が4.8という高評価を得た科目もあったが、全学共通の教養セミナーA・Bの評価が昨年度よりも低下したため、学修意欲の低い学生に対する働きかけを強化するなど、次年度に向けての改善が必要である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	43
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	44
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	43
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	39
環太平洋大学	異文化コミュニケーション論	15/15(集中講義)	2	12

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

クライシス・コミュニケーションにおける謝罪の文化的差異

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

クライシス・コミュニケーションにおける謝罪表明の重要性—日本の記者会見事例分析/2020/3/
語用論研究の可能性/261頁～276頁/単著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	副委員長	留学説明会、短期・長期留学事前事後研修を担当するとともに、海外からの来客対応、佐世保市の学生交流事業等に寄与した。
グローバル推進協議会	委員	国際化ビジョンに沿った活動の進捗状況を確認するとともに、今後の欧米圏との交流拡大を含めた次の国際化ビジョンの策定について検討した。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員長	オープンキャンパスの責任者を担務し、新たな企画立案や運営に尽力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・進学ガイダンス系統別分科会「国際・英語」参加/9月10日/佐賀北高校

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許状更新講習 「やり直し英語学」	2019/7/6	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
海外研修(アメリカカリフォルニア州参加者43名)の事前講習 「異文化間コミュニケーションのための英語学習」	2020/1/30	佐世保南高等学校	佐世保南高等学校長

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

実用英語技能検定試験「面接委員」／平成17年4月～現在／公益財団法人日本英語検定協会

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
中国瀋陽市大学生交流事業	交流事業のコーディネーター	2019/9/17～ 2019/9/20	佐世保市国際政策課
第17回留学生日本語弁論大会	審査員および総評	2019/11/2	国際交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学運営においては、GTコースの運営とともに、国際交流委員会副委員長(副センター長)としての任務、学科内のオープンキャンパス委員長としての任務など、全般的に十分に貢献できたものと思われる。教育面に関しては、とくにGTコースの学生を対象とした授業外の指導によるフォローを行うなど、きめ細やかな指導を実践したことで、授業アンケートの高評価とTOEICスコア上昇の結果を得られたと思われる。GT以外の一般の学生の留学希望者が増加に傾いてきたのは、個別に行った課外の指導の成果の表れとも捉えられる。個人の研究面においては、硬式野球部の任務を離れたことで、時間的にも精神的にも余裕ができ、査読付き論文を投稿し、原著論文としての掲載が承認された。今後はこれまでの研究をまとめ上げ、博士論文の完成を目指したい。昨年度までの硬式野球部の業務偏重であった状況からは大きく改善され、教育、研究、社会貢献、学内業務のバランスを維持できるようになった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 谷口 佳菜子

1. 教育理念

- ①主体的に学ぶ姿勢・態度を身につけ、学んだ専門的知識や技能を実践的に活用できる人材の育成を行う。
- ②学生の個性を大事にし、自分の力を十分に発揮できるよう支援する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	11	⑥⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	16	⑤⑥⑦⑩⑪⑫
Tourism Marketing	15 / 15 (前期)	2	16	⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑥⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	⑤⑥⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
マーケティング論	15 / 15 (前期)	2	72	④
学際連携研究	5 / 15 (前期)	2	198	⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	11	⑤⑥⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	12	⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	12	⑤⑥⑦⑩⑪⑫
地域観光研究B(アメリカ)	15 / 15 (後期)	2	53	⑥⑩
観光史	15 / 15 (後期)	2	230	⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光マーケティング特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
観光マーケティング特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
観光事業特講	5 / 15 (後期)	2/1・2年	2
事例研究(観光マーケティング)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「教養セミナーA」では、満足度は、4.6(前年度4.8)となり、前年度より0.2ポイント下がった。全体的には前年度よりポイントが上昇していたものの、満足度はやや下がった。授業内容も全て行うというよ

り、重要な部分を学生に合わせて行ったことがよかったが、授業内容によっては学生の取り組み具合がそれほど熱心でなかったようにも感じた。学生の意見や様子を見ながら授業に工夫していくことが必要であると思う。また、提出物に関しては、未提出者には何度も提出を促したものの全ての提出物を提出した学生は少なかったため、提出方法を検討したい。

「マーケティング論」では、全体の満足度は4.3（前年度4.3）となり、昨年度と同じであった。今年度は、特に社会人になっても有用な基礎知識を意識して授業の中に取り入れた。しかし、アンケート結果により、興味・関心の部分では低く回答した学生もいたため、もう少し学生に身近な事例を取り入れてもよかったと感じた。近年、履修者の人数が多くなったことから、グループワークやプレゼンテーション等の進め方が難しくなっている。特に学生の意欲や理解度に差が見られ、グループの決め方にも一層、工夫が必要になったと感じる。グループ作りの方法を考えるとともに、今後はチームワークを良くするための取り組み（グループ対抗戦）などの検討も必要であると感じた。

「地域観光研究B（アメリカ）」では、全体の満足度は（Q13）4.4（前年4.5）となり、前年度とほぼ同じとなった。授業に参加していた学生は、前年度と同様、アメリカに関心がある学生とほとんど興味がないが履修している学生がいたようである。しかし、1回の授業で講義とワークを組み合わせることと、ポイント制を取り入れることにより参加を促すことができたと思う。また、マナバでほぼ毎回、授業の内容を記入し復習してもらうようにしており、学生の提出具合もよかったと思う。授業アンケートの実施はマナバでの課題提出の前に実施したが、学生はその課題と定期試験の勉強にも活用できるので、毎回学習したことをまとめる作業は重要だと感じた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	アメリカ経済論	15/15(前期)	2	3
長崎大学	アメリカ経済論	15/15(後期)	2	10

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
日本語検定対策講座(前期)	7	6	2019/4/16, 2019/4/23, 2019/5/7, 2019/5/14, 2019/5/21, 2019/5/28, 2019/6/4
日本語検定対策講座(後期)	4	1	2019/10/8, 2019/10/15, 2019/10/29, 2019/11/5

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

DMOの組織運営と連携

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学科で検討が必要な内容(フレッシュマンセミナーの計画・運営、奨学金等のデータ確認)について、他の委員と協力して取りまとめた。また、奨学金の面接を実施した。
学食検討委員会	委員長	学食検討委員会の会議を行い、100円朝食の内容や実施後のアンケート分析を協議した。
駐輪場小委員会	委員	会議にて、駐輪場および駐車場に関して検討を行った。
研修・地域連携委員会	委員長	観光研修および地域連携活動に関する実習概要の検討、履修状況・方法の確認、九州産業大学との単位互換科目に関する進め方を取りまとめた。
学事委員会(学科)	委員	保護者会と卒業式に関して、主担当教員の補佐を行った。

公務員・教養課程委員会(学科)	委員	公務員・教養課程の科目である日本語検定に関する対策講座を実施した。課程に関するカリキュラム等の協議を行った。
-----------------	----	--

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ダンスサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス/7月21日/場所:長崎国際大学

オープンキャンパス/8月4日/場所:長崎国際大学

オープンキャンパス/8月25日/場所:長崎国際大学

大村城南高校模擬授業/9月18日/場所:長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
江上っ子インターナショナルデー(異文化理解教室出前授業)	江上っ子インターナショナルデーのブース参加(ベトナムと韓国の文化の紹介と交流)	2019/11/11	佐世保市立江上小学校
3年生との異文化交流(異文化理解教室出前授業)	(小学生と留学生との交流、ベトナムと中国に関するプレゼンテーションと遊びの紹介、遊びの実践による交流)	2019/11/19	佐世保市立江上小学校
餅つきによる交流(異文化理解教室出前授業)	5年生による餅つきによる交流会に留学生および日本人学生が参加するために引率	2019/12/5	佐世保市立江上小学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面に関して、今年度は特に3年生のゼミ活動では、原哲弘准教授と共同で佐世保市の空き家の活用に関する提案(若者を集めるために古着屋を開店する)を行うとともに、それを実践することができた。この活動では、学内での協力を得られたことで教職員から古着を回収することができた。また、SNSを活用した広告宣伝やさせぼ四ヶ町商店街に協力を仰ぎポスター掲示等を行うことができたことから、2日間のイベントではあったが、幅広い年代の市民との交流を持つことができ、店に足を運んでくれた市内の高校生にも大学での学びについてアピールできたと思う。その他、梅ヶ枝酒造株式会社へのSNSでの広告・宣伝の提案、これまでの佐世保市内で調査・取材してきた内容をまとめたパンフレット作りを実施できたことはよかった。ただし、各ゼミ活動においては、学生の活動に対する意欲を上げるための工夫が必要だという課題が明らかになった。今後はそうした課題を意識しながらゼミ活動を実施して行くようにしたい。

研究に関しては、共同研究で行ってきたDMOの研究について、現地調査とヒアリング調査を実施することはできたが、内容をまとめている途中であり残念ながら論文の執筆までは至らなかった。今年度まとめた内容については、今後の研究につなげていきたい。

大学の運営面では、各委員会での業務に関して、多くの教職員と協力して取り組むことができたことはよかったと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 Thom W. Rawson

1. 教育理念

私達は自らやってみることによって一番良く物事を学ぶ。伝統的な講義において、アイデアや考えは教授から学生へと伝えられる。このような学び方は有効である。しかしながら本当の学びと理解は実際に経験することによって得られると私は思っている。

誰かが、家がどのようにして建てられたについて話をしているのを聞くことにより、あなたが建築について少しは学ぶ事ができるのが良い例である。誰かが家を作っているのをみて、あなたはさらに多くの事を学ぶだろう。しかしながら、一度最初から最後まで実際に家を建てる工程に関われば、その仕事を達成する知識を完全に得る事が出来る。

私が学生たちに英語を教える時、学生たちがその言語を使うときに一番活動的になる。私の講義を聞くことによって耳を慣れさせる事は出来るが、英語を使うスキルは、彼らが実際に練習するまでは基本的なレベルのままである。それらの練習を助けるため、私は学生達に教室の外で学ぶ技術を大事にするように伝えている。良い英語の勉強法を教えてあげて、それに慣れる事により、学生達は授業が終わった後でもずっと学び続ける事が可能である。

We learn things best by doing those things ourselves.

In a traditional lecture, ideas and thoughts are transferred from the teacher to the student. This way of learning can be effective. However, I believe real learning and understanding come from getting firsthand experiences.

A good example is that by listening to someone talk about how a house is built, you can learn a bit about house building. Watching someone making a house, you will learn a lot more. However, once one participates in the actual process of building a house with the builder from start to finish, the knowledge of how to accomplish this task is fully realized.

When I teach English to students, the most active learning happens when the students make use of the language. Listening to my lecture helps to train their ears, but their skills in using English remain at a basic level until they can get firsthand practice. To support these practices, I require students to focus on the skills they need to learn outside of the classroom. By teaching good English study habits, students can carry on with learning long after the class is finished.

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
Practical English I B	30 / 30 (前期)	2	23	①②③④⑤
Practical English IIIA	15 / 15 (前期)	1	31	②③④
English Writing Skills III	30 / 30 (前期)	2	32	④⑧
English Reading Skills I	30 / 30 (前期)	2	22	①④⑪
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	28	①②
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	27	①②
Practical English II B	30 / 30 (後期)	2	18	①②③④⑤
English Reading Skills II	30 / 30 (後期)	2	16	①④⑪
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	26	①②
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	32	①②
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	32	①②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

英語演習 I B

Overall I feel the English Exercises IB curriculum is well-planned and nicely delivered for students to enjoy English communication with classmates. In the future, it would be nicer to have the curriculum more closely tied with the field of study for each group of students. I will continue to try and improve on this offering. However, the primary weakness for me lies in the use of this curriculum with lower-level students.

My impression is that rather than being more strict and unforgiving of students who cannot or do not enjoy learning English, it benefits both the teacher and the students to take a slower approach and give more scaffolding and 1-1 support as students step through the weekly curriculum.

Practical English I B

I have improved the curriculum for Practical English B course and made it more student-focused. Each student continues to be given a chance to succeed at their own level. I hope to continue to

foster student motivation for learning English outside the classroom for use within the class activities. This is the key to Active Learning. The things I need to be aware of are not making the students busy with tasks that aren't supporting the learning goals of building their Academic Skills and clearly I've removed those tasks from the curriculum in this iteration.

Practical English III A

Overall, teaching English Presentation skills continues to be one of the most difficult things to manage. I have a lot of things where I can improve. More one-on-one time with students, more group projects where peer assessment is used for student-to-student guidance, and efforts to make writing class more interesting in general are some of the paths to improvement which I continue to seek. I feel the curriculum was successful, but I won't stop trying to improve it each year.

英語演習 II A

Overall I feel the English Exercises A curriculum is well-planned and nicely delivered for students to enjoy English reading and writing skills practice with classmates across a variety of topics and opportunities. In particular, being able to exchange with students in another country (Colombia and other countries) using an online forum was very beneficial for the students. Students reported the kind and simple explanations that I gave during class helped them to feel comfortable. Some students reported the class was challenging due to the amount of work.

Practical English II B

Overall the work continues in order to improve the curriculum for Practical English B course and hope to continue to foster student motivation for learning English outside the classroom for use within the class activities. This is the key to Active Learning. The things we need to be aware of are not making the students busy with tasks that aren't supporting the learning goals of building their Academic Skills. Also, keeping up with timely feedback helps to build a positive learning environment.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
Teacher Training – Blending Technology in your Classroom	2	3	2019/07/06

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

英語教育EFL/ESL

テクノロジー・ベースの学習

セルフアクセス学習

黒島観光研究

International Virtual Exchange (IVE)

Extensive Reading (ER)

Learning Analytics (LA)

Massive Open Online Courses (MOOCs)

Learning Tools Interoperability (LTI)

Learning Managements Systems (LMSs)

Moodle Mobile Application for NIU (QLEARN)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	5	3	3	140万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Reflections on implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan/
2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/1頁～7頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Weekly Learning Grades: w/Moodle Database & Assignments (and Google Sheets)/2019/9/6/
2019 Hokkaido Moodle Summer Workshop

Making a MOOC: What we've learned so far (roundtable discussion)/2019/11/3/2019 JALT
National Conference

International Virtual Exchange: Logistics, Effects, and Future Directions / 2019/11/7 / 2019

iTECLA Conference, Valencia SPAIN

Advanced Moodle Workshop / 2020/2/26 / 2020 MoodleMoot Japan

Making a MOOC: Recent updates and examples / 2020/2/28 / 2020 MoodleMoot Japan

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(代表)	日本学術振興会	2019/3～2020/4	60万円
科学研究費補助金(分担/前橋工科大学)	日本学術振興会	2019/3～2020/4	20万円
科学研究費補助金(分担/室蘭工業大学)	日本学術振興会	2019/3～2020/4	60万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	副委員長	私は会議に出席しました。研究ジャーナルの英語の要約を編集しました。
グローバルツーリズム委員会	委員	設計されたカリキュラム、学生の活動について報告された、顧問
企画・広報委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

私はグローバルツーリズムコース用のiPadを保守しています。ユーザープロフィールを設定し、アプリケーションをインストールしてアップグレードします。私はiPadがクラスのためにそれらを必要とする誰によってでも使用できる状態にあることを確認します。 / 2014年～現在

私は長崎国際大学と長崎短期大学のQ-LEARN Moodleウェブサイトを管理しています。これらのウェブサイトは教師と生徒のためのMoodle Learning Management Systemです。教師と生徒はオンラインでコースにアクセスできます。このシステムは教室での能動学習をサポートします。 / 2014年～現在

NIU QLEARN Custom Moodle Mobile Application -- developed and launched a mobile application

for all NIU students. Received budget to pay for the app. Project is ongoing. 2019年～現在

私は長崎国際大学の教師と学生両方の技術的ニーズをサポートします。すべての生徒がGoogle Suite for EducationにGoogle Mailアカウントを持っています。私はすべての学生のためにこれらのアカウントを設定します。私は学生と教師が彼らのGoogleアカウントに関して持っている技術的な質問に答えます。/ 2014年～現在

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

グローバルツーリズムコースのためのオープンキャンパスサポート。

第10回高校生外国語暗唱 コンテスト / 2019年11月 / 長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県教育委員会の先生達	2019/7	長崎国際大学	長崎県教育委員会の先生達
諫早商業高校	2020/2	諫早商業高校	Building a Self-Study Program in English

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
Moodle Users Association・実行委員会	秘書	2017/4～2019/9	Moodle Users Association
日本ムードル協会・実行委員会	副委員長研究開発、MUAの連絡係	2015/2～現在	日本ムードル協会
長崎NanKyu JALT全国語学教育学会	企画者	2016/4～現在	JALT Nankyu 全国語学教育学会
アジア太平洋仮想交換機構(APVEA)諮問委員会	諮問委員	2015/7～現在	Asia-Pacific Virtual Exchange Association

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

私は日本のMoodleユーザーのための積極的なボランティアです。私はMoodleインストールの設定、管理、トラブルシューティングの専門知識を持っています。先生と生徒がMoodleを使って学習するのを助けます。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
プリンストン大学(アメリカ)と長崎国際大学交換	Skype, Moodleなどのツールを使用した仮想交換	2015/9～現在	プリンストン大学と長崎国際大学
コベントリー大学(イギリス)と長崎国際大学交流	コベントリー大学のムードルサイトを利用して、学生同士がコラボレーションしてオンラインでつながる	2014/9～現在	コベントリー大学と長崎国際大学
国際バーチャル交換プロジェクト - SENA(コロンビア共和国)および長崎国際大学交換	NIUの学生は、コロンビアや他の多くの国の学生とオンラインでコラボレーションし、交流します。	2016/9～現在	SENA・コロンビアと長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

私はEnglish Firsthand Seriesサポートウェブサイト、MyMobileWorldのテクニカルアドバイザーを務めています。これはピアソンアジアによって開発されたウェブサイトで、日本とアジアの至る所で教師と生徒によって使用されています。/ 2017年～現在

私はXlearning Systems LLCによって開発されたXreading Extensive ReadingのWebサイトのテクニカルアドバイザーを務めています。このウェブサイトは日本とアジアのEFL学習者のための多読活動をサポートするために作られています。/ 2016年～現在

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

動、また大学の指示を分析するために私は学びの分析論を自身の研究に持ち込んだ。私は世界一人気のあるラーニングマネージメントシステム(LMS)である、「ムードル(MOODLE)」の国際的コミュニティにおいて積極的に活動を行っている。

私は大学の目的(ゴール)をサポートし続けて行くつもりである。茶道の集まりに積極的に参加しており、おもてなしの心やサービス精神を盛り込んでいる。授業や、また学部の教職員との関わりにもその技術を取り入れようとしている。グローバルツーリズムプログラムや大学全体の発展を進めるため、尽力していくつもりである。

Since I began working at Nagasaki International University, I have helped to design, deliver, and refine the Global Tourism Course curriculum for both 1st and 2nd-year students. I've also helped to design, deliver and refine the General English course curriculum for 1st-year students.

I've worked hard to make Active Learning a centerpiece in my education philosophy. I teach students how to learn new things and how to be active in their use of the language. I'm also focused on giving students frequent and timely feedback on their activities in order to complete the learning cycle -- assignment -- submission -- feedback -- learning.

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 早坂 昌彦

1. 教育理念

- ・大学卒業後の人生の目的・夢を持ちたい人、そのために大学で自分の強みを主体的に磨いていきたい人を応援する。
- ・自分が生まれ育った地元、またはこの大学がある長崎県・佐世保市に将来役立っていきたくて思っている人を応援する。
- ・留学生を含め、今まで付き合ってきた友達とは違ったタイプの人と知り合い・友達になりたいと思っっている人を応援する。
- ・自治体・企業も含め、この大学の外の人とも積極的に交流・活動していきたくて思っている人を応援する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
比較文化論	15 / 15 (後期)	2	3	②⑤⑥⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	②④⑤⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・教養セミナーB

再履修者のクラスを担当し、個々の学生により能力・モチベーションがばらばらであることがわかったため、平等・均等に指導するのではなく、個々の特性を踏まえ指導することに努めた。具体的には、モチベーションの高い学生には、課題に取り組む中でリーダーとしての経験を積んでもらうよう努め、また、そうでない学生には、とにかく講義に参加してもらい、その参加したことに関して自信を持ってもらえるように努めた。また、なんらかの事情によりモチベーションが上がっていかなくても、だからといってその学生が能力が低いわけではないことが分かり、そのような学生に対しては、今は必ずしもメッセージが伝わらなくても将来伝われば良いと考え、忍耐強く指導を続けた。本講義は評価アンケートの対象外となってしまったが、最終回の学生の反応を踏まえれば、良い評価が得られたものと想像している。また、四名の学生のうち一名は、私の専門演習Ⅱを第一志望にしてくれた。

・比較文化論

アメリカ人2名、オランダ人1名の交換留学生に対し、ディスカッション形式の講義を進行せよとのことであった。とはいえ、漫然と日常のことをディスカッションしていても大学における学びが質的に不十分になると考え、「Culture Map」という通常MBAで用いられる難易度の高いテキストで進行した。結果、学生により多少消化度合いに差があったとは思いますが、結果として良い評価が得られた。また、私にとっても、このテキスト・講義の内容に関し海外の学生から率直なフィードバックが得られ、たいへん有意義であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

・「IR(カジノを含む統合型リゾート)の誘致を念頭に置いた、国際観光人材育成のあり方」

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	100万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「統合型リゾート(IR)で活躍する国際観光人材の育成に関する指針」/2020/2/12/長崎県庁へ報告/2頁/共著/報告書

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
(仮)IR・国際観光人材育成におけるリカレント教育のあり方検討に関する負担金	長崎県	2020/4～2021/3	100万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
統合型リゾート(IR)人材育成指針に関する学内検討委員会	委員長代理	委員長代理として、委員会活動のコーディネート、現地調査等必要な調査、報告書のとりまとめを担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	対象外
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	対象外
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	対象外
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	対象外
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	対象外
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	対象外

2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	対象外
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	対象外
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	対象外

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
出張講義「ホテル、バスガイド、ツアーコンダクターの仕事について」	2019/11/8	聖和女子学院高等学校	人材会社

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
松浦市観光地域づくり推進業務委託企画提案プレゼンテーション審査会	審査委員長	2019/10/11	松浦市地域経済活性化課
国際観光都市佐世保研究会	委員	2019/10~2020/3	佐世保市政策推進センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
異文化理解教室	比較文化論を受講している交換留学生(アメリカ人2名、オランダ人1名)を引率し、小学生との交流活動を行った。	2019/10/25	佐世保市立花高小学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

10月からはじめての常勤教員となり、勝手がわからなかったことから、ご依頼をいただいた案件はなんでも積極的に取り組むというスタンスで臨んだ。結果、担当講義「比較文化論」における学生からの高評価、また、委員長代理としてとりまとめを担当したIRカリキュラム委員会での報告書を長崎県庁に提出する、という成果が得られ、まずまずのスタートであったと自己評価している。

来年度は、積極性は保ちつつも、ある程度領域を自身の専門性・得意分野に絞り、イニシアチブを発揮しつつ、より大きな貢献を大学に対し行えるようにしていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 原 哲弘

1. 教育理念

1. 知識と感情と意志の3つの区分

私の教育は精神世界を3つに区分して、それぞれの成長と状態を観察します。そして、それぞれは評価の方法が違ってきます。座学での取り組みは、知識の量で測り試験という手段で判断することができます。資格取得も同じです。しかし、生きていく上には問題を抱えた時に、自ら考え解決しなくてはならないことが多くあります。言い換えると意志の働きが必要となります。ある問題に対して、自ら取り組み、悩み、苦しみ、そして自ら判断する。判断した後には行動を起こし、実施した結果については、自ら責任を取る。これら一連の意志の働きを最重要視します。従って評価の方法は、試験だけでは測れません。そこには、教師が常に学生と並走しながら共に居ることが重要です。答えを与えるのではなく、並走することです。そうすることにより学生に安心感が生まれ意志の働きが強くなります。教師と学生の適切な関係、ゼミ内での学生の居場所づくり、そして長崎国際大学内における学生の居場所づくり、多様な学生がいる中で、居場所を作ることは学生が学ぶ上で重要な要素です。ですから一人一人違う方法となります。また言い換えると【小さな大学、大きな家族】というテーマでゼミ活動は取り組んできました。

2. 暮らしのデザイン

実務経験を活かしながら実践的な授業を行っています。それは、建築を通して都市や街を見て、さらに都市や街を見て建築を見る。山を見て樹木や、そこに咲く草を見る。大地を見て農作物を味わい、川の水源地を見て河口の海を体験する。いわゆる里海、里山の考えです。また縄文人を含む先人達の営みを知り、その知恵を現代の最先端の技術で再確認する。都市や街が発生するには必然性があり、都市全体と街の一角を比較する事で、大地の特性が浮かび上がります。地歴や史実から見えてくる人々の営みは、他との比較からではなく独自の世界観を生み、土地の持っている唯一無二の社会や景観が観光につながります。地球温暖化に対する循環型社会、少子高齢化に対する地域ネットワークなどサステナブルな視点で時間軸と自然軸、それに長期的な視点に立つ経済軸を企画・創造してでき上がった景観(暮らしのデザイン)が、無くしてしまった大切なものの再生となる事を期待して教育を行っている。

3. 地域との連携

自ら考え、自ら創造し、自ら判断し、自ら行動し、そして自ら責任を取る。成長のキッカケづくりを中心とした教育をしている。その手段として地域に出かけフィールドワークをすることは、学生の成長を促します。大学に居ると全員が国際大学生であり、年齢もほぼ同じ年齢です。しかしフィールドワークでは、高齢者も多く年齢層が幅広い、従って大学生としての自覚が求められ、言葉遣いも細心の注意が必要となります。特に留学生にとってフィールドワークは、社会人に日本語で話すことから事前に練

習を重ね、しかも精神的勇気も必要となります。心が折れそうな経験もあるが、自らの日本語が市民に通じた時の達成感には、本人の心の成長を見ることができます。少子高齢化、後継者不足の地方都市住民にとっては二十歳前後の年齢と触れ合うことは少なく、市民にとっては大学生と会話するだけでも大歓迎なのです。そして二十歳前後の視点で町の問題点や魅力を語れば、街にとっても助かります。学それは学生のニーズを知り、マーケティングすることで若者に対する経営戦略が立てやすくなるのです。従って地域と連携する教育は、学生と市民との双方型の魅力の発見と達成感が得られる教育方法だと言えます。在学生には、中国人(台湾、香港を含む)、韓国人、ベトナム人、ミャンマー、ネパール、インドネシアなど多国籍となっています。更に佐世保市は米軍基地があることでアメリカ人もいます。観光分野ではインバウンド観光を学ぶ環境として適していると言えるでしょう。異文化を理解し、共存することが平和教育には欠かせません。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
地域連携活動 I A	15 / 15 (前期)	1	60	②⑤⑥⑦⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	14	①④⑤⑥⑫
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	3	②④⑤⑥⑫
環境デザイン論	15 / 15 (前期)	2	59	②⑤⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	②④⑤⑥
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	16	②⑤⑥⑦
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	5	②④⑤⑥⑦
観光事業論	15 / 15 (前期)	2	245	②⑨⑪
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	①②④⑤⑦
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	6	①②⑤⑥⑩⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①②④⑤⑥⑦⑪
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	16	①②⑤⑦⑪
地域連携活動 I B	15 / 15 (後期)	1	53	①②⑤⑥⑦⑪
地域振興論	15 / 15 (後期)	2	77	①②⑨⑪
地域の理解と連携	15 / 15 (後期)	2	316	②④⑤⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教育の把握と改善方法

(1) 授業開始前

- ①事前学習ができるように一週間前にポートフォリオに次回の授業内容PDFデータを掲示した。
- ②教室には10分前に到着し、プロジェクターなどの設定を確認し定時に授業ができるように準備をする。

(2) 授業開始 20分間

- ①新聞記事など、現在起こっている事象を説明する。 5分程度
- ②試験に備えて毎回、小テスト形式で前回の授業復習を繰り返す。10分程度

(3) 出席を取る 5分間

- ①カード式だけでなくマナバポートフォリオを活用して出席を取る。番号を告知してアンケートや質問を取る。それによって質疑応答形式の双方向型の授業が可能となる。

(4) 授業再開 60分間

- ①配布したプリントに沿って講義を開始する。
- ②写真、ビデオなどを多用して視覚的に理解できるように促す。
- ③データは、最新のものに差し替える。
- ④私語があった場合は厳しく指摘する。度重なる学生は、減点対象となることを告知する。
- ⑤小テスト時の巡回など、教室内を巡回するようにする。
- ⑥学生とのコミュニケーションをとる。質疑応答形式など。
- ⑦学生に対しては到達目標を明確にする。ルーブリック表の配布
- ⑧ポートフォリオに授業の感想・要望等が毎回、書けるようにする。
- ⑨授業の理解度は、小論文テストを実施して確認する。3回/15回程度
- ⑩授業参加意欲を出すために網掛け、および「 」部分の設問を設ける。
- ⑪授業内容は、パソコンを利用するハイブリッド部分と手書きのアナログ部分を併用する。

(5) 授業終了後 授業当日

- ①出席の確認とコメント
- ②ポートフォリオに教室と学生だけが交流できるサイトを作る。
- ③小論文をポートフォリオで意見交換する。

効果的だった授業方法は、1週間前に授業で配布するプリントをmanabaに掲載して学習を促した
ことである。それによって予習だけでなく復習も容易に行うことができ、しかも、いつでもどこでも、
できる環境にしたことが履修学生にとって良い結果となった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| ① 宣教師と日本の建築職人たち | (人と材料と技術) |
| ② 海洋ルート(佐世保湾と大村湾)から見たツーリズム | (メビウス航路) |
| ③ 日本と韓国間の現在に至る歴史的資源から見る国際交流 | (平和への解決方法) |
| ④ 第6次産業を活用したグリーンツーリズム
光) | (「さいかい元気村」の着地型観光) |
| ⑤ 佐世保市－大宮市場、早岐商店街の再生計画 | (ネットワーク社会) |
| ⑥ 平戸市的山大島におけるアート・プロジェクト | (アート・プロジェクト) |
| ⑦ 川棚町片島魚雷発射試験場跡の活用計画 | (近代化遺産の活用) |
| ⑧ 海に育てられた早岐(国際観光学園都市構想) | (まちづくり) |
| ⑨ 国境観光と防衛力 | (クロスボーダーツーリズム) |

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
西海市の生活の芸術者達/2019/長崎国際大学/国際観光学科・観光学論集、第14巻/53頁/
単著/地域観光

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
「まちがミュージアム」(全町公園化構想) /2020/2/西海市第1回横瀬地区まちづくりシンポジウム
開催
忘れられた横瀬浦天主堂/2019/10/魔鏡研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際観光研究所運営委員会	委員長	メビウス航路 佐世保市民57名参加した佐世保湾と大村湾のクルーズを実施した。地域連携室との共催。 その他、地域連携活動プロジェクト多数。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

1. 佐世保空き家対策

佐世保市、一般社団法人佐世保ラボとの協働による【島地クルサ】佐世保市七区にある3階だけの空き家を学生達や市民と一緒にDIYで作り上げ、夏には「街に恋するリノベーション」に参加して市民に発表をして、冬にはフリーマーケットを開催することで佐世保市空き家の活性化を実践した。

2 西海市のイベント活動

12月に開催される【八の子島ふるさと祭り】を地域連携活動 I Bの授業で履修学生57名が取り組んだ。事前学習から、イベント準備、実施、片付け、そして発表会を実施して、西海市のまちづくりに貢献した。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

大学のオープンキャンパスで広報活動を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外

2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
メビウス航路	2019/10/10	佐世保湾と大村湾	学外・公開講座

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市景観審議会	委員	2015/3/1～ 2019/8/31	佐世保市長
「観光交流都市づくり計画(仮称)」策定専門委員会	専門委員	2015/4/1～	大村市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

熊本地震復興ボランティア活動:倒壊建物の再建、建て替えに関する建築設計アドバイザーを行っている。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1 地域社会

観光まちづくりが、少しずつではあるが市民に理解できるように成って来た。それは佐世保湾に大きな豪華客船が来ることでインバウンド観光客が増えたことが大きな要因である。更に統合型リゾートが話題に上り、観光が重要な産業として認知されていることも挙げられる。従って、これから益々、観光まちづくりの視点で社会システムを構築する必要性を痛感する。

2. 研究活動

ポルトガル宣教師が西海市横瀬地区での布教戦略を、マカオ、リスボンにて調査した。やはり机上の文献だけでなく、現地の空気(気象状況と社会環境)に触れることで多くの理解が生まれ、また日本側の当時の歴史的背景の理解を深める調査することが重要だと言える。

3 教育活動

教養セミナーを含む専門演習

大学生による観光まちづくりコンテスト、八の子島港まつりのプロジェクトに取り組んだ。更に佐世保市の空き屋(島地七区)対策を実施した。常に心がけているのは、一人一人学ぶことができる環境づくりに気を配り、精神的に安定した学びの環境を与えることにある。国別、性別、年齢別、既婚経験者、アルバイトの有無、などなど多岐に渡る個人特性があるのに配慮して、各自に適したスケジュールと課題を課した。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 三浦 知子

1. 教育理念

大学での教育において最も大切な点は、学生が自主的に学ぶことができる環境をつくることである
と考える。大学4年間の学生の成長の可能性は計り知れない。きっかけをつくるのは教員側にあるが、
自主的に学ぶことができるように、できるだけそのプロセスをわかりやすく解説し、普段担当する科目
では、日頃から主体的な学びを進めていけるようなツールを用意し、学生をサポートするというスタ
ンスでいたい。

これからの社会は予期できない課題に直面することが多くなる。またその課題を解決するために柔
軟な発想やさまざまな知識の融合が求められる。こうしたことから、特にゼミ活動では毎年、特定の地
域課題をテーマに設定し、調査を行い、調査した結果を、文献等を参考にしながら論文にまとめる作
業を学生に毎年課している。また、3～4人くらいを目安にグループで取り組ませ、協働する楽しさや
難しさも同時に学ぶよう心がけている。学生の自主性がこれからますます求められると考えている。

学科の実習委員長としても、インターンシップを重要視している。学生の希望している職種を知り、
相手先の実習内容を把握し、実習先に足を運び、大学の学びと就職の間をつなぐ機会を模索して
いる。とりわけ旅行業関連企業については、自分自身の経験や関連の授業を数多く担当しているこ
とから、さらなるブラッシュアップを試みたい。

さまざまな観点から、「持続可能性」は地球規模で重要なキーワードである。持続可能な観光、持続
可能な地域を維持・発展するために、基本に忠実で、かつ継続した学びが不可欠である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
インターンシップA	30 / 30 (通年)	2	30	④⑦⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	3	①②⑥
海外旅行実務Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	40	①⑧⑨
海外観光資源B	15 / 15 (前期)	2	92	①⑧⑨
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑥⑧
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	4	①②⑥
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	2	①⑥⑧
Aviation Industry	15 / 15 (前期)	2	16	①⑤⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	①②⑥
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	1	①⑥⑧
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	3	①⑥⑧

専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	4	①②⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
旅行業論	15 / 15 (後期)	2	88	①⑨⑩
海外旅行実務Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	85	①⑧⑨
国際観光論	15 / 15 (後期)	2	205	⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究(観光事業)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
事例研究(旅行業)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
観光事業特講	5 / 15 (後期)	2/1・2年	2
旅行業特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1
旅行業特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	5

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

アクティブラーニングについては、各科目とも意識して行った。講義形式の大人数の授業でも、熱心な学生に対してはうまくいったと思う。国際観光論に関しては、2年の必修科目であるが、国際観光が変化の真ただ中にあり、この2、3年は量から質へと変化しているところなので、旬な話題を提供することができ、さまざまな課題について、学生と共有できたのはとても貴重な体験だった。ラグビーワールドカップと、東京オリンピックと、スポーツに関連した話題が多かったので、スポーツツーリズムの学生にも国際観光に興味を持ってもらえたのではないかと思う。海外観光資源B、海外旅行実務Ⅰ・Ⅱは、総合旅行業務取扱管理者試験の受験者とそうではない学生の学力差が今年も顕著だったが、特に1年生の履修のある海外旅行実務Ⅰはどの学生も熱心に取り組んでいたと思う。教科書を買っていない学生が増えているので、周知を徹底していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合旅行業取扱管理者試験対策講座	30	20	2019/4～2019/10

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 都市と農村のパートナーシップ
- ② 「食」による地域振興
- ③ インバウンド・ツーリズム

④ 観光地経営

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
武蔵野市セカンドスクール実施地の推移と特徴に関する研究 /2019/12/日本観光研究学会全
国大会学術論文集34/301頁～304頁/共著/論文
「食」による地域活性化(フードツーリズムで地域を活性化する)/2020/1/週刊農林第2402号/12
頁～13頁/単著/総説
「食」による地域活性化(2)(庄内編)/2020/2/週刊農林第2407号/4頁～6頁/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
武蔵野市セカンドスクール実施地の推移と特徴に関する研究 /2019/12/日本観光研究学会第
34回全国大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター(全学)	センター長	令和元年九州北部豪雨に際しては、近隣で団体のボランティア活動を受けないこともあり、義援金を募った。また、岡山県倉敷市真備町へのボランティア活動、また新歓祭や開国祭では活動報告を行った。
ボランティアセンター運営委員会(全学)	委員長	ボランティア活動等について、計5回の委員会を開催し、委員の意見を集約した。

実習委員会(学科)	委員長	長期インターンシップ(ハウステンボス・ホテルオークラJRハウステンボス・ニュージーランド)及び、短期インターンシップ(インターンシップA)の各インターンシッププログラムについて統括した。インターンシップAの主担当をした。
旅行業務取扱管理者養成課程委員会(学科)	委員	総合旅行業務取扱管理者担当として、受験する学生の指導を行った。
国際観光研究所運営委員会(学科)	委員	国際観光研究所の事業について委員会で検討した。宇久町観光協会との共同研究の研究代表として調査を行い、報告書を提出した。
国際観光学会編集委員会	編集委員	観光学論集の発行に向けて、委員会に出席し、査読やスケジュールを管理した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ・日本観光研究学会 九州・韓国南部支部主催の「第12回 大学生論文発表大会」(2019年12月7日九州産業大学にて開催)に、2年生のゼミ学生2名、3年生のゼミ学生4名で論文1編を発表した。論文作成および発表資料の作成について指導した。
- ・第二回着地型旅行プランコンテストに2年生1名、1年生2名、4年生1名で参加し、奨励賞を受賞した。旅行プランの助言や発表の指導をおこなった。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- 1) 宮崎県立日向高等学校で出前講義を行った。2019年7月31日 「国際社会とこれからの観光」(計3コマ)
- 2) オープンキャンパスでエアラインブースを担当し、内定学生にさまざまな職種について高校生に紹介してもらうプログラムを運営した。
 - ①第1回 2019年7月21日(空港オペレーション業務)
 - ②第2回 2019年8月4日(航空会社営業と企画)
 - ③第3回 2019年8月25日(空港ハンドリング業務)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	欠席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	欠席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平戸市文化財審議会	委員	2019/4/1～ 2021/3/31	平戸市教育委員会 教育長
佐世保市観光施設設置及び企業立地奨励措置審議会	委員	2019/4/1～ 2021/3/31	佐世保市観光商工 部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・地域情報誌「みたかのみかた」発行人
- ・東京TAMAタウン誌会会員
- ・ローカル鉄道と地域の未来を考える会、委員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、専門演習に中国、韓国、ネパール、ベトナムと国際色豊かな学生が集まり、学年を超えてゼミ活動に取り組むことができ、共通の「お茶」をテーマに論文発表大会や旅行プランコンテストに向けて研究を行った。総合旅行業務取扱管理者試験については、今年度は3年生が健闘し、合格者が7名、科目合格者は2年生が2名という結果だった。今年ももうひとりの点数の学生が多かったので、来年在期待できる。今年度は引き続き実習委員長として、また就職活動への連携も意図しながら、インターンシップについて、学生、企業、大学の三方面から詳細な考察を行った。研究に関しては、学内の共同研究で宇久町観光協会、学科内でDMO研究をおこなった。また、科学研究費の申請を行った。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 宮良 俊行

1. 教育理念

私の教育理念は、目的を果たすために計画的に最も有効な方法を使いつつ、それを実生活に活かすことによって、人間と社会の進歩・発展に貢献することである。

よって、正規授業やゼミ活動では、生涯スポーツ社会の実現を目指した「する」、「みる」、「ささえる」の立場で活躍できる人材の養成に重きをおいて展開します。

履修する学生には、「スポーツの素晴らしさ、大切さを正しく伝えることができるメッセンジャー」になるために、スポーツに関連する科目を十分理解し、実践できるように学んでほしいと考えており、そのために、基礎知識の習得やその知識を活かした実践を重要視した授業方法を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	13	⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	9	⑫
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	⑫
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	17	⑤⑫
スポーツ社会学	15 / 15 (前期)	2	105	②③④⑤⑥⑩
ジョギング・ウォーキング	6 / 15 (前期)	1	11	⑩⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	14	⑤⑥⑦
スポーツ医学	6 / 15 (前期)	2	57	②⑩⑪⑫
球技A	15 / 15 (前期)	1	37	⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	6 / 15 (前期)	2	7	⑨⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	④⑤⑥⑦⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
保健体育科教育法Ⅱ	9 / 15 (前期)	2	10	⑨⑩
スポーツマネジメント	15 / 15 (前期)	2	71	④⑤⑥⑩
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅳ	15 / 15 (後期)	2	7	⑨⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	④⑤⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	10	④⑤⑥⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	6 / 15 (後期)	2	10	⑨⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	⑤⑥⑦
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩⑪

教職実践演習(中・高)	2 / 15 (後期)	2	20	⑤⑦⑩⑪
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	31	④⑤⑪
コンディショニング	15 / 15 (後期)	1	50	⑩⑪
地域スポーツ	15 / 15 (後期)	2	80	④⑤⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートに関しては、概ね好評であるがここ2、3年配布プリントに関することや授業に内容、進行に関するクレームが数点書かれている。

それらの改善点として、授業の方法を大幅に見直し、IT関連の教材機器を積極的に活用していこうと考えている。

また、個人の授業数の負担が多いので、専門分野以外の授業担当は極力持たないように変えていこうと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	2	86
九州看護福祉大学	バレーボール	8/15(後期)	1	19
佐世保市立看護専門学校	実技と講義	15/15(通年)	1	80

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

地域におけるスポーツ振興とまちづくり

総合型地域スポーツクラブに関する調査・研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	5	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
長崎県保健体育科授業研究会を活用した教員養成の一考察/2020/3/教育基盤センター紀要
第3巻/印刷中/共著/論文
スポーツを専攻する学生へのアダプテッド・スポーツ教育に向けた取り組み～アンプティサッカー・
トップアスリートから学ぶ～/2020/3/教育基盤センター紀要第3巻/印刷中/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Contribution of college student leaders' consciousness towards participants' intention to continue
attendance in community sports classes for children/2019/7/3/The 24th annual congress of the
European College of Sport Science in Prague

形式的授業評価票を用いた地域スポーツ教室の継続意志の測定可能性の検討/2019/9/1/第
68回九州体育・スポーツ学会(鹿児島大学)

アプリを用いたコンディショニングの可能性—心理的競技能力に着目して—/2019/9/10/第70回
日本体育大学(慶応義塾大学)

長崎国際大学スポーツブランド”NIUS”醸成に向けた取り組み/2019/3/14/九州地区大学体育連
合平成30年度春期研修会(熊本)

マリンスポーツ実習の心理的効果およびその持続性/2019/9/1/第68回九州体育・スポーツ学会
(鹿児島大学)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	副委員長	なし
教職課程委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

女子バレーボール部 監督

男子バレーボール部 部長

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

進路ガイダンス/令和2年2月13日/長崎県立口加高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	欠席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和元年度 教員免許状更新講習 「体育・スポーツに関する最新情報「コンディショニング」」	2019/8/19	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
令和元年度 九州地区スポーツ推進委員研究会 佐賀大会 「スポーツを核としたまちづくり」	2020/1/26	神埼市中央体育館	佐賀県スポーツ推進委員協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎県成年女子バレーボールチーム監督

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度を振り返って、研究活動は、論文を投稿するまでに至らなかった。来年度は、運動部活動や地域スポーツに関する論文を提出しようと考えている。

教育活動に関しては、ゼミ生や部活動生に対する生活・学習指導は毎年と変わらず情熱を持って行った。しかし、あまりにもこれらのことに時間がかかりすぎて、自分の研究活動の妨げになっている。授業担当数など来年度以降は改善していこうと思う。

身体的、精神的あるいは家族の事情により今後のことを真剣に考えなければならない。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 山内 美穂

1. 教育理念

自ら考え主体的に行動できる人を育てることが私の教育理念である。

現代社会では以前に比べ情報が簡単に収集できるようになっているが、その実、現代の社会の在り様はますます複雑になっている。インターネットなどから簡単に得られる情報をうのみにしたり、それらから振り回されるのではなく、自ら深く考え、判断し、行動できる人を育成したい。そのために授業や学生の指導では、私が一方的に話すのではなく、できるだけ対話形式で、学生自身で深く思索したり、何かを発見したりしながら問題解決を図るように仕向けたと考えている。

また、これからの社会で特に必要とされている「多様性への理解力」をはぐくむことにも重きをおいている。本学のように、さまざまな文化背景の人々がともに学ぶ環境で、自身とは違う部分を認め、色々な視点から物事を見られるような教育をしたい。そのために、自らも多様性理解力を高める努力を続けながら、学生には色々な年齢や文化背景の人々と交流できるようなチャンスを創出していくことに注力している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
日本語教育実習	30 / 30 (通年)	2	17	⑪
アカデミックジャパニーズ I A	30 / 30 (前期)	2	7	①②⑨⑩
日本語表現法	15 / 15 (前期)	2	125	⑧⑨⑩
アカデミックジャパニーズ I B	30 / 30 (前期)	2	7	②③
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	4	①④⑤⑥
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	5	①④⑤⑥
日本語入門B	15 / 15 (前期)	1	7	②⑨⑪
アカデミックジャパニーズ I A	30 / 30 (後期)	2	4	①②⑨⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥
アカデミックジャパニーズ I B	30 / 30 (後期)	2	11	②③
日本事情 I	15 / 15 (後期)	2	32	①②③⑤⑥
日本文化論	8 / 15 (後期)	2	105	①②④⑤

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期では「教養セミナーA」と「専門演習 I A」で、後期では「アカデミックジャパニーズ I B」と「日本事情 I」でアンケートを実施した。

「教養セミナーA」では4.1～5点、「専門演習 I A」 3.5～5点とアンケートの質問により、評価の幅が大きかった。「教養セミナー」は初めて担当するような科目で、最初は少し戸惑ったが、シラバスや教材も用意されていたため、学生とじっくり対峙することができたため、概ね満足という評価を得られたのではないと思う。「専門演習 I A」では、ゼミ内の留学生と日本人学生との間のレベルを調整するのが容易ではなく、学生によっては、内容が難しすぎたり簡単すぎたものもあったようで、その部分は今後改善する必要がある。

後期は少しずつ授業環境にも慣れ、授業準備も効率的にできるようになった。「アカデミックジャパニーズ I B」は4.5～5点、「日本事情 I」では4.7～5点の評価が得られた。これは、前期に比べ、より学生のニーズに合った授業を実施できるようになったからだと思う。

しかし、学生に予習・復習をさせる工夫がまだまだ必要だとアンケート結果から分かった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
バディ活動における「やさしい日本語」研修会	1	14	2019/10/9

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

日本語教育のための日本語文法。日本語が母語ではない人が日本語を勉強するときには、日本語の色々な文法ルールを学ぶが、日本語教育ではそれらを分かりやすく伝えることが大切である。私は文法研究にコーパスや自然会話データを使用し、自然に使われる日本語の中から文法ルールを発見するのが私の手法である。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大分県は日本語でつうじるけんー『ひるまち にほんご』の取り組みー/2019/九州OPI研究会例会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	論叢の編集、査読
実習委員会	委員	インターンシップの実施、インターンシップ先の開拓

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
日本語バディ活動	なし	日本語能力の低い留学生に対し、日本人学生との1対1のバディシステムを構築

(3) 課外活動の指導等

「留学生を対象とした地域滞在型体験交流体制構築への試み」において、参加留学生の面接と選定、引率、アンケートの実施などを行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市多文化共生セミナー	2020/2/24	佐世保市中央公民館	佐世保市国際政策課

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

地域の日本人と外国出身者が「やさしい日本語」で交流する会「ひるまち にほんご」を大分県別府

市で毎月1回企画・開催した。毎回20名前後の参加者が「やさしい日本語」を介して楽しく交流した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

長崎国際大学に着任して1年目の今年は、慌ただしく過ぎた1年であった。初めて担当する科目もいくつかあったので、授業準備にも時間を要した。また、さまざまな学内の環境やシステムにも不慣れで処理に時間がかかったり、書類が不備であることもあった。2年目からは授業アンケートを通して分かった改善点などに注力しながら、授業の質をさらに上げていこうと思う。また1年でやっと、学内の環境やシステムにも慣れてきたので、今後は提出書類などにも不備のないようにしたい。

一方で、周囲の先生方からのお声かけで、一緒に学長裁量経費獲得にも挑戦し、留学生のための活動も企画することができた。来年度は得られたアンケートなどをもとに活動の継続とともに研究活動を充実させていきたい。

また前任校在籍中から運営してきた地域の日本人と外国出身者の交流活動が新聞やテレビなどで紹介されたことで、佐世保市からもセミナーの依頼があり、佐世保市の担当者とも関係がつくれた。そのことで、佐世保市の「多文化共生」について活動および調査を進めていく足掛かりを得られた。今後は地域に根差した活動や研究もしていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 内田 智子

1. 教育理念

私の教育理念は、「主体的に学ぶ学生」を育成することである。

私の専門分野は日本語学であるが、日本語は、学生たちにとって内省が可能な分野である。よって、授業では、一方的な知識の伝達ではなく、学生個人が自らの日本語を内省し、そこから気付きを得られるようなスタイルを作り上げたいと考えている。その実現のために、学生個人が内省によって答えを発見できる課題を課すように心がけている。

一方で、留学生にとっては、日本語は外国語である。日本語に自信のない留学生も積極的に参加できるよう、母語との比較対照を行わせ、それを日本人学生にも還元することで、より大きな視野から日本語を観察できる学生を育成したいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
語学研修B	30 / 30 (通年)	2	16	④⑥⑦
日本語教育実習	30 / 30 (通年)	2	17	⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	13	④⑪
卒業研究	30 / 30 (前期)	4	1	④⑪
日本語入門A	15 / 15 (前期)	1	7	②④
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	15	④⑩
日本理解A	15 / 15 (前期)	2	7	④⑥
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	16	④⑥
日本語コミュニケーションA	15 / 15 (前期)	2	120	②④⑩
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	④
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	②④
日本語入門A	15 / 15 (前期)	1	7	②④
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	1	④⑪
日本語入門A	15 / 15 (後期)	1	3	②⑪
日本語入門B	15 / 15 (後期)	1	5	②
日本理解A	15 / 15 (後期)	2	10	⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	9	④
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	②④
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	12	④⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	15	④⑥
日本語コミュニケーションB	15 / 15 (後期)	2	57	②④⑩

日本文化論	8 / 15 (後期)	2	105	②⑩
-------	-------------	---	-----	----

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
異文化理解特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1
異文化理解特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前年度までと同様に、前期は教養セミナーAと日本語コミュニケーションA、後期は日本語コミュニケーションBについて授業アンケートを実施した。昨年度までと同様に、日本人学生より留学生の満足度が高くなる結果となった。授業方法等は昨年度までと大きな変更点はなく、スライドと配布プリントを使用し、学生自らに自分が使用する言葉に対する内省をさせる授業とした。「日本語」という普段使用しているものがテーマであることから、取り組みやすかったと思う。また、受講学生の中で留学生の割合が非常に高いことから、語彙レベルや文法レベル、話し方などに気を付けて授業を進めた。

一方で、「日本語コミュニケーション」の科目は、日本語教員養成課程の必修科目となっており、日本語力が低い留学生とともに、日本語を言語学的に分析することを目的とした日本人学生も受講している。レベルをどのあたりに合わせるのかが課題である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
日本語能力試験対策	6	5	2019/6/6, 2019/6/13, 2019/6/21, 2019/6/27, 2019/6/28, 2019/7/1

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

近代日本における音声研究史

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
書評 駒走昭二著『ゴンザ資料の日本語学的研究』/2019/11/名古屋大学国語国文学112/99
頁～106頁/単著/書評

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営センター	委員	岡山県真備でのボランティア活動引率、開国祭でのパネル展示
CHサポートセンター運営委員会	委員	国際観光学科ピアサポート担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター	委員	入学前教育課題の見直し、教養セミナーのテキストの見直し

(3) 課外活動の指導等

ビブリオバトル同好会顧問として同好会運営をサポートした。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

キャリアセンターと連携して、留学生の就職活動サポートを行った。

オープンキャンパスに学科教員として参加した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	公務出張
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎国際大学公開講座「五十音図の謎を探ろう」	2019/6/1	長崎国際大学	長崎国際大学

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

ボランティアセンター運営委員として、6月29日～6月30日に岡山県真備でボランティア活動を行った(学生の引率)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
語学研修B	授業科目「語学研修B」として、韓国の済州大学校で学生交流を行った。	2019/9/16～ 2019/9/21	個人(長崎国際大学)

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

学長裁量経費により、留学生と日本人とのバディシステムを構築した。

7. 受賞等

5月にベストティーチャー賞受賞(授業アンケート部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、留学生の生活への適応、及び日本語力向上を目指し、補講及びバディシステムの構築を行った。今まで日本人の友人が一人もいなかった学生が、定期的に日本人学生と会うことにより、生活への適応、日本語力の向上において一定の成果が得られた。また、教務課予算で学修サポートシステムを運用してもらった。一方で、毎日学費のためのアルバイトに追われ、バディと会う時間が全くとれない留学生の問題も浮上してきている。金銭問題で学習時間のとれない留学生にどう対応していくかが今後の課題である。

今年度より、正式にCHサポートセンター運営委員となり、ピアサポートに関しては、全学単位で本格的に稼働し始め、CHサポートセンターとの連携の下、順調に進めることができた。様々な学生のメンタルケアにおいて、今年度は特に大きな問題が複数起きたため、より有効なシステムの構築を考える必要がある。

研究面に関しては、今年度中に完成予定の論文2本を執筆中である。今年度は昨年度に比べ業務量がかなり増え、学期中は全く研究の時間がとれなかった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 川上 直彦

1. 教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力(①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力)を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業(世界文化遺産論、美術と観光、世界史、History A & B)および専門演習IA～IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組みさせることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力について、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業(英語演習IA～IIB)においては、③と⑤を重視している。③コミュニケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
海外観光研修D(オセアニア他)	- / 30 (通年)	2	-	—
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	2	⑥⑫
世界史	15 / 15 (前期)	2	79	①④⑥⑨⑩
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	3	①⑤⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	35	①②

専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	3	①⑤⑥
美術と観光	15 / 15 (前期)	2	51	①⑨
History A	15 / 15 (前期)	2	5	①⑤⑥⑨⑩
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	⑥⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	1	①⑤⑥
History B	15 / 15 (後期)	2	5	①⑤⑥⑨⑩
世界遺産保全管理論	8 / 15 (後期)	2	10	①⑤⑥⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	26	①②
英語演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	33	①②
世界文化遺産論	15 / 15 (後期)	2	159	①③⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
芸術文化資源特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

世界文化遺産論:(理解度3.9、満足度3.9)

満足度は3.9と昨年度と全く同じ評価であった。任意の課題を3つ課し、やる気がある学生が高得点を取得できるルールとした。やる気のある学生は、満足度が高かったのではと想像する。課題は、やる気のない学生となる。来年度は、そのような学生にも簡単な課題を課し、理解をうながし、講義を少しでも楽しめるように構成していきたい。数人の学生の満足度が、1と2であった。それらの学生の満足度を4にあげるのはほぼ不可能と考える。しかし、評価3をつけた学生に関しては、あと一歩何か足りないのだと感じている。その何かがなんなのかを日々考え来年度の講義に反映させていきたい。

美術と観光:(理解度4.2、満足度4.4)

満足度は4.4と過去最高の評価を得ることができた。時間割が変更したため、昨年度と比べ今年度は学生数が減った。そのため比較的興味のある学生が多く履修してくれたことが高い評価を得る結果になったように感じる。また、任意の課題を3つ課し、やる気がある学生が高得点を取得できるルールとしたことが満足度アップにつながったと考える。しかし、数人の学生の満足度が、3と2であった。来年度は、そのような学生にも簡単な課題を課し、理解をうながし、講義を少しでも楽しめるように構成していきたい。

教養セミナーA:(満足度4.1)

満足度は4.1と悪くはなかった。教養セミナーに関しては、学生との信頼関係を構築することができれば、学生の満足度アップにつながると感じている。この点を意識してがんばっていきたい。また、教養セミナーは非常にジェネラルな学習内容になっているので、学生に興味を持たせるのは難しいと感じている。そのため、繰り返しになるが、学生との信頼構築が満足度に直結すると考えているので、その点を重視して、今後の教養セミナーにつなげていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
英語スキル向上を目的とした課程外教育E-up	1	10	後期毎週火曜日4限

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、「楔形文字史料とGIS (=地理情報システム)を活用した南メソポタミアにおける考古・歴史地理学研究」である。人類史上最古の帝国と定義可能な社会体制は、定住化、農耕・牧畜社会の発達、そして灌漑農耕を基盤にした都市化を経て、古代オリエント、すなわち西アジアのイラク共和国のメソポタミアに約4300年前に出現した。帝国の創始者であるサルゴン王によって築かれた人類最古の帝国の中心都市、すなわち人類最古の首都と定義づけ可能な古代都市「アガデ」が建設されたことが、楔形文字史料の記述からわかっている。しかし、この「アガデ」の所在は、約150年に及ぶ研究の目をすり抜け、未だ発見されていない。本研究は、楔形文字史料に含まれる地理情報を中心に、考古・歴史地理学的観点から理論考察し、この「アガデ」の所在地域の推定を試みる。次に、先に推定した「アガデ」の所在地域のDEM(数値標高モデル)データを取得し、GIS(地理情報(処理)システム)に取り込み、同地域の地形を3D画像として表示する。その後、その3D地形画像に、同地域の近赤外波長データを含む衛星画像をGISに取り込み、重ね合わせ、「アガデ」と推定可能な古代メソポタミア文明特有の丘状遺跡が推定した地域内に存在するのかを探索する。そして、最終的に今後の現地における「アガデ」の遺丘踏査を実施するための基礎データ・ベースとなる遺丘分布図を作成する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会(学科、大学院、全学)	委員	①学科の研究倫理委員として、教員が行う研究13件、学科生の卒業研究37件の計50件の研究倫理審査を行った。 ②大学院の研究倫理委員として、大学院生が行う研究10件前後の研究倫理審査を行った。 ③全学研究倫理委員として、大学全体における研究倫理教育に携わった。
グローバルツーリズムコース委員会	委員	①高校生暗唱コンテストの運営業務全般を担当し、主軸となって、来期以降のグローバルツーリズムコースへの学生確保に向け大きく貢献。 ②前期・後期の国際観光学科所属の全学生対象の英語試験(CASECテスト)の運営・管理業務全般を主軸として担当。 ③グローバルツーリズムコースの新1年生歓迎会の運営業務全般を主軸となって担当。
募集委員(学科)	委員	高校へのお出張講義の運営業務、および自身も主張講義・大学説明を1回行い協働・参画した。
長崎国際大学国際観光学会	役員	長崎国際大学国際観光学会の学会誌の編集に係る作業全般を担当し主軸となり貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①本学の学園祭で実施された高校生を対象とした外国語暗唱コンテストの運營業務全般を担い、来期以降のグローバルツーリズムコースへの学生確保に向けた広報活動に大きく貢献した。

②高校への出張講義・大学説明会をつうじて、来期以降の博物館学芸員課程とグローバルツーリズムコースへの学生確保に向けた広報活動に貢献した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和1年度上海大学博物館研修講義「古代オリエント史概論」	2019/7/18	長崎国際大学	長崎国際大学・上海大学
出張講義「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」	2019/10/28	鎮西学院高校	鎮西学院高校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】作年度より新たに担当となった科目(世界史、History A & B)の特に世界史(前期)とHistory B(後期)の講義・授業内容の充足と改善に1年を通じ多くの時間を費やした。世界史に関しては、65%程まで講義・授業の質の向上を計ることができた。来年度前期の開講まで継続して更なる向上を計り、今年度よりも質の高い講義・授業を提供できるようがんばりたい。History Bに関しては、90%ちかくまで講義・授業の質の向上を計ることができ、2人の欧米からの留学生を含む履修生に英語による質の高い講義を展開することができた。

【研究】研究に関しては、学会誌における「査読有り論文の掲載」という目標が達成できずにいる。しかし、研究をする時間がないながらも、少しずつではあるが研究を前進させることができている。研究に関しても、来年度に繋げ継続して努力していきたい。

【大学運営業務】学科グローバルツーリズム委員として、高校生暗唱コンテスト等の運営業務に積極的に関わっていくことができた。研究倫理委員(学科・大学院・全学)として、教員と学生が行う研究の倫理審査を厳正に実施した。上海大学博物館との提携に係る業務、また学科募集委員として、出前講座や入試関連業務にも貢献することができた。

【長崎国際大学国際観光学会】同学会の役員を務めており、特に学会誌「観光学論集」編集作業を担当し、これまで貢献してきている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 柴田 あづさ

1. 教育理念

私は、留学生の日本語教育と、学部生の日本語教員養成課程を担当する立場から、それぞれに異なる教育理念がある。

まず、留学生に対する日本語教育の教育理念は、「日本の大学教育に対応できる日本語力を育成すること」である。そのため、授業では、新聞記事やドキュメンタリー番組、映画といった生教材を多く取り入れ、日本人の使う自然な日本語に慣れ、これと同様の能力の獲得を促す。

次に、日本語教員養成課程の担当授業の教育理念は、「国内外の日本語教育に貢献できる人材を育成すること」である。そのため、授業では、実際の学習者と接触する機会を設け、日本語教員となるためには、どのような資質を備えるべきか、リフレクションを課して気づきを促す。そして、得られた気づきから、学生の主体的な態度を引き出すとともに、体系的に整理された知識・技術を伝え、専門力と、課題を解決する力を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
日本語教育実習	30 / 30 (通年)	2	17	①②③⑥⑦⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①②③④⑥
教養セミナーB	15 / 15 (前期)	1	7	①②③⑨⑪
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	5	①②③④⑤⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	7	①②③⑪
日本事情Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	60	①②③⑦⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	9	①②③⑤⑦⑨⑪
日本語の研究A	15 / 15 (前期)	2	37	①②③⑦⑨⑩
日本理解B	15 / 15 (前期)	2	7	①②③⑨⑩
日本語教授法A	15 / 15 (前期)	2	28	①②③④⑩⑫
卒業研究	15 / 15 (後期)	4	-	①②③⑥⑦⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	2	①②③⑨
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	4	①②③⑤⑥
日本理解B	15 / 15 (後期)	2	4	①②③⑦⑨
日本事情Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	4	①②③⑦⑨
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	7	①②③⑥⑦⑩
教養セミナーA	15 / 15 (後期)	1	11	①②③④⑥⑦⑨
日本語教授法B	15 / 15 (後期)	2	12	①②③④⑤⑦⑩⑫
日本語の研究B	15 / 15 (後期)	2	12	①②③④⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業アンケートでは、卒業研究制作を行う専門演習ⅢBの履修学生7名(全員留学生)に対して実施した。アンケート実施の結果、平均値が4.76となり、履修学生がこの授業の履修に概ね満足していたことがわかった。

しかし、「授業内容は興味あるものでしたか」という問いの回答のみ、平均値が4.5と低く、課題となった。この要因としては、卒業研究に取り組む意義に対する理解が不足が考えられた。そこで、来年度以降は、第一回目の授業で、授業の目標や目的、進め方などを確認するだけでなく、KJ法などを用いて、この意義について意見を出し合ったり、これに取り組む気持ちを整理し合ったりして、より興味を持ってこの課題に取り組んでもらえるよう、工夫・改善したい。そうすることで、履修生に、大学生活の集大成となる卒業研究をより高い満足と完成度で仕上げてもらえればと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

日本語教育学でも特に留学生と日本人大学生の協働による劇創作をとおした学びに注目し、学習が進む過程の可視化と、その要因を認識するための研究を行っている。また、日本語教員を目指す大学生が必要な資質を深く認識できるよう、教育実習や、学習者との日本語交流の際のリフレクションを重視した教育活動を実践している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

日本留学や日本語学習における関西弁劇制作の教育効果:複線径路・等至性モデル分析から見る留学生Bの変容過程か/2020/2/国際表現言語学会第8回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

学園祭において3,4年のゼミ生が香港菓子の模擬店を出店した際に、機材調達や運営の面で支援をした。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

佐世保東翔高等学校において出前講義をしたことがきっかけとなり、その後、2度にわたり学校行事に呼んで頂いた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外

2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
企画実施「笑いを加えた学びの作り方—小嘶ワークショップ体験 in 福岡・博多—」講師:畑佐一味氏(パデュー大学)	2019/7/13	西南学院大学	福岡ドラマ教育研究会
国際表現言語学会の研究発表1 (Session 1) にて司会を担当した。	2020/2/8	岐阜大学	国際表現言語学会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

(1)福岡ドラマ教育研究会における事務局および会計の担当

(2)「SENSEIメールングリスト」の管理および運営

＜2002年～現在に至る＜ブラジルを中心とした南米の日本語教師の情報交換を目的に開設。向井エリーザ綾子とともにメーリングリストのシステム管理と運営を行っている＞

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

大学内における「Buddyシステム」の構築

日本語教員養成課程関係教員らと学長裁量経費を用い、日本語力の低い留学生を日本人学生が支援するシステムの構築を行った。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、大学内では日本語力が低い留学生支援のための仕組み作り(Buddyシステム)を同僚教員と行い、学外では兼ねてから実施を目指していた落語ワークショップを開催が可能となった。また、授業では、初級日本語と日本語教育実習の運営方法について同僚らに理解を仰ぎ、実践してもらった結果、教育が以前までより円滑且つ効果的に行えるようになった。2,3年生のゼミでは、大学内で留学生が抱える問題や国際交流促進のための方策を検討し、定期試験の注意事項をわかりやすい日本語に書き換えたり、留学生の国の文化を紹介する企画も実施した。何れの活動も効果は目に見えにくいものではあったが、大学や地域の国際化にそれなりに貢献できるものであったのではないかと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 神野 周太郎

1. 教育理念

現在、スポーツの日(旧体育の日)や日本スポーツ協会(旧日本体育協会)といったように、「体育」は「スポーツ」に代替され始めています。それは、スポーツが文化として日本に根付き始めている証拠です。しかし、懸念されるのは体育＝スポーツという認識の広まりです。スポーツは体育と代替可能なものではなく、体育という事実を構成する一要因です。体育は、教科名に留まらない人間の身体(運動・活動)と教育に関するものであり、よって私は「体育、スポーツとは何か」という問いを前提に、それら概念を明確に区別させ、現代における両者の重要性を学生に伝えたいです。

その理由は、第一に保健体育教員の存在意義が、単にスポーツの専門家、部活動の顧問、生活指導をすることではなく、子どもの成長の一端を担う教育者であるということを認識させるためです。第二に、将来学生が地域のスポーツ振興に関わる際、「スポーツがもつ価値」を個々の経験のみでとらえるのではなく、「人間にとって」、「地域にとって」という広い視野で考えられるようにさせるためです。今日スポーツの場は、人々に関わる公共空間(スポーツの公共性)として重要な意義を持つことから、その視点は重要です。

また、体験のサービス化(あらかじめ用意された世界経験)が蔓延する現代に生きる学生にとって、スポーツ演習や実習には、学生が「自らの身体で実際に予測を超えた世界を経験する」という教育的意義があります。体育、スポーツを教育者や指導者といった立場から実践する際、重要なのは自らがその経験の素晴らしさを知っているということです。つまり、その経験は教育者、スポーツ指導者の資質へとつながるのです。この視点は私の研究にも関わっています。

多様で複雑な問題を前に確実性が求められる今日にあって、サービス化された「快」(美的)体験やアカウントビリティが注目されますが、それは実験的で前進的な人間の生き方の消失でもあります。すなわち私の研究は、それでもなお自ら行動し確実と不確実の狭間という際に立ち思考する人間の姿を展望するプラグマティズムに依りつつ、人間の身体活動における「際に立つ経験」の理論化を試みることです。それは、子どもの経験、学び、自己創造、成長を視野に入れた「身体運動する人間」への教育的まなざしでもあり、新たな体育(身体教育)理論構築の試みでもあるのです。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
スポーツ実習C(キャンプ実習)	15 / 15 (前期)	1	31	②④⑤⑪
マリンスポーツⅢ	15 / 15 (前期)	1	2	①⑫
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	⑤

スポーツ実習A	15 / 15 (前期)	1	31	④⑤⑪
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	7	⑤⑥⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ実習A	15 / 15 (前期)	1	14	④⑤⑪
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	2	⑤⑥⑦
スポーツ実習A	15 / 15 (前期)	1	29	④⑤⑪
スポーツ原理	15 / 15 (前期)	2	58	②
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	2	⑤⑥⑦
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	7	⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	12	④⑤⑪
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	21	④⑤⑪
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	26	④⑤⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

自身が担当する科目の背景にある学問(哲学)やスポーツは、アクティブラーニングをとりいれることが安易にみえるがそれは可視的な部分の話である。例えば楽しそうにスポーツや運動に取り組んでいたとして、それがアクティブラーニングであるとは限らない。一つの授業、一つの講義を通して学びが生じなければ意味はない。

とりわけ注意したのは、「全体と個別」という視点である。共通に教えるべきことは何か、それを踏まえて個々は何を考えているのか。そうした配慮がこの一年を通してできたことである。

課題は、講義内容のアップグレードである。情報、論理性、妥当性、良質な発問などを準備したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

月刊誌『現代思想 -いまなぜプラグマティズムか-』(2015年7月号)が特集するプラグマティズム再

評価の背景にあるのは、我々が直面する今日のグローバル化における効率性、可視性、行為遂行性を迫るリスク社会という状況です。そこには、教育のサービス化によって生じた教育現場における説明責任や責任回避に見舞われ教師が追い詰められるという問題もあります。そのような社会状況にあって「進歩」という発想が立ちいかななくなっている今日、それでもなお、前進的で実験的な「思考する＝人間」の精神を蘇らせるものとしてプラグマティズムが再評価されます。そこで着目されるのは、「創造的知性」です。

今日、私たち(あるいは子ども)は、関わる他者、活動場所などを自らある程度選択できる社会に生きています。良いとされるものはSNS等を伝って知ることができ、余暇ではテーマパークや〇〇教室に通って日常を充実させることができます。つまり、私たちは経験を選択することができます。それらの経験は、あらかじめ用意されたサービス化された経験と見ることもできるのです。そこでは不快な出来事は極力排除され、「快」経験のみが選択されがちになってしまいます。しかし、プラグマティズムに寄り添えば、それは人間が想定外の出来事の中で思考の底力を発揮する機会の消失を、創造的知性の喪失を意味するのです。

創造的知性は、生の予測不可能性、偶発性、不確実性の中で偶然を引き受けて前へと投機しながら思考する知性の様式とされます。今日の社会における予測不可能性に対する確実性の希求の中で、デューイのプラグマティズムにみる反基礎付け主義的な人間の生き様は、チャンスの思想として再評価され、「行動せよ、ただし危険を冒して行動せよ」というデューイの言葉からもうかがえるように、不確実性という危機をチャンスに転じて、前に進み続ける行動をいかに活性化するかという問いを背負っているとされます。

教育学領域でもデューイ哲学再評価は顕著です。その流れにあって、私は、プラグマティズムとしてのデューイ哲学を、現在の視点から体育論的に議論し解釈することで、デューイ哲学の新たな姿を体育論的にあらわにすることを試みてきました。それは、「プラグマティック体育」(concept of physical education)という新たな体育概念を提案する試みでもあります。

デューイのプラグマティズム再解釈によりつつ体育論議を展開するにあたって、私はデューイの経験へのまなざしを、「人間が運動を経験する」ことへ接続しました。デューイ経験概念において注目すべきは、相互作用と連続性の原理です。デューイは、経験を「主体と環境の相互作用の結果である」とします。それに依れば、「人間の運動」は、経験が生じる上での根本的な土台であるといえます。さらに、人間が生きている限り、運動することで、走ること、投げること、泳ぐことといった行為を成立させ、ある時は特定の場所へ赴き、人と関わり、活動します。つまり、「人間の運動」は、不断に環境と相互作用する性質を持つ以上、経験の土台なのです。デューイに寄り添う時、その様子は身体活動(physical activity)と表現することができます。

デューイに寄り添って人間が運動を経験することの意味を考察するとき、人間の成長への視点が導かれます。不断に繰り返される経験は、主体が経験を省み、そこから新たな行動を起こすプロセスでもあります。デューイに言わせれば、経験を省み、新たに行動することで、経験を再構成することです。それは、経験を成立させる「人間の運動形式」の修正、運動を支える主体の精神の再構成をも意味しているのです。そして、そのプロセスは、人間が成長すること、探究することとも同義なのです。

人間の経験は、生きている限り不断に生じますが、とりわけ他者との相互作用を経験することは、人

間を共同体へと変容させます。リレー、サッカー、バレーに取り組む子どもたちは、バトンパスやボールのパス回しをする中で、自己が経験の主体者でありながらも、他者にとっては自己が経験の一要因となります。そこでは、他者の動きを予測すること、どうすれば共同行為が成立するかといった複雑な相互作用が展開され経験が成立していきます。その在り様をデュエイは「活動の共同体」と表現しますが、その中で子どもたちは、他者との相互作用において、相対化されつつも、自己を省察的に認識していきます。他者との関わりの中で、彼らは各々の個性を初めて実感的に認識します。他者という自己とは別の自我をもつ存在との関わりは想定外の出来事を生じさせ、思考の底力を呼び覚まし、創造的知性をもたらすのです。その意味で、子どもたちがつくる共同体とは、経験そのものでもあり、教育環境そのものでもあるのです。これまでの流れは、「連続する経験としての身体活動それ自体が教育である」という視点を導くものであり、それはプラグマティック体育という新たな体育概念の展望でもあります。

プラグマティック体育概念の特徴は、共同体概念を内包している点であり、それはデモクラシー論へと接続されるものです。共同体への変容過程は、子どもたちは他者とどのように関わっていくかという問題への直面を意味します。それは多の中でいかに個を維持しつつも共に生きるかという問題であり、そこにデモクラシーの問題があるのです。それは、プラグマティック体育概念を理論化するにあたって、今日の人々が異質な他者と、一人では解決困難な課題に立ち向かっていくことができる創造的知性をいかに子どもに育ませるかという課題を提示しており、現在の社会問題に対峙するものでもあります。

世界や日本の教育界をはじめとする様々な場面においてみられるアカウントビリティーに裏打ちされた実践方法のみが認められるような風潮に対して対峙することでもあります。それは「よい体育(教育)とは何か」、という問いへ接近することです。アカウントビリティーに裏打ちされたものが、「よい」教育実践になり得るのか。知らずのうちに我々はある種の科学主義に対する過信によって思考を放棄しているのではないか。それは、決して「よい教育とは何か」、「よい体育とは何か」という問いには向き合っていないのです。

つまり、私たちは理想の体育(教育)を追求するに当たって、どのように実践を展開するかという視点(方法論)をもちつつも、そもそも体育とは何か、教育とは何か、人間が運動を経験することの意味は何かという原理論的な問いへアプローチすることが重要であると考えられるのです。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	3	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』高橋徹.編(出版社:みらい)/共著/2018/みらい/174頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

体育学における経験概念の検討ーデューイの経験概念を中心としてー/2014/体育哲学研究/
p.23-28/単著/研究報告

体育学における学校体育の本質の一端に関する検討ーデューイの教育学を中心としてー/2014
/東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 第66集/p.33-43/単著/紀要

体育学における成長概念の検討ーデューイの教育学を中心としてー/2015/体育・スポーツ哲学
研究 第37巻 第1号/p.29-44/単著/原著

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

体育における新領域への導入的授業に関する原理的考察ー身体の習慣的運動の再適応化ー/
2019/日本体育学会 第70回大会 一般研究発表

他17件/2013～2019/日本体育学会、日本体育・スポーツ哲学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特筆事項なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

自身が担当する科目の背景にある学問(哲学)やスポーツは、アクティブラーニングをとりいれることが安易にみえるがそれは可視的な部分の話である。例えば楽しそうにスポーツや運動に取り組んでいたとして、それがアクティブラーニングであるとは限らない。一つの授業、一つの講義を通して学びが生じなければ意味はない。

とりわけ注意したのは、「全体と個別」という視点である。共通に教えるべきことは何か、それを踏まえて個々は何を考えているのか。そうした配慮がこの一年を通してできたことである。

課題は、講義内容のアップグレードである。情報、論理性、妥当性、良質な発問などを準備したい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 Brendan Van Deusen

1. 教育理念

My educational philosophy is based on the principle of active learning. Especially for English as a foreign language, students need to do real communicative tasks, and improve based on feedback. As a teacher, this places several responsibilities on me. First, I need to design my classes in a way that I am not talking only as much as necessary, and for as much as possible, students are working on tasks to help them grow. Second, I must provide feedback to students in a timely and helpful manner. This means that before and after class, I need to work very hard to provide the support necessary to help students grow. Whether or not students are good at English at the beginning of the semester is not important. The most important is that they continue to grow.

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	10	⑫
Practical English I A	30 / 30 (前期)	2	22	②③④
English Writing Skills I	30 / 30 (前期)	2	21	④⑩
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	7	④⑤⑦
専門演習 III A	15 / 15 (前期)	1	10	④⑤⑦
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	6	②④⑤
Practical English III B	15 / 15 (前期)	1	32	⑤⑧
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	1	⑦
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	7	⑦⑪⑫
専門演習 III B	15 / 15 (後期)	1	10	④⑤⑦⑫
Practical English II A	30 / 30 (後期)	2	18	②③④
English Writing Skills II	30 / 30 (後期)	2	17	④⑧
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	33	①②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

This year was the second time to supervise a large number of students for their senior thesis. It

was the first time, though, to supervise international students writing their thesis. I have gained a larger understanding of their needs regarding doing research in English. I plan to incorporate more research methods training into my seminar classes as a result.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	英語A	15/15(前期)	1	3
佐賀大学	英語C	15/15(前期)	1	17
佐賀大学	英語B	15/15(前期)	1	2
佐賀大学	英語D	15/15(前期)	1	17

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

English as a Foreign Language (外国語として英語教育)

Virtual Exchange (バーチャルエクスチェンジ)

Extensive Reading (多読)

Task Based Language Teaching (タスクを基にした学修)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan
日本の大学における初年次の英語多読活動についての省察/2020/3/長崎国際大学論叢/1頁～
7頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Making a MOOC: Recent updates and examples/2020/2/Moodle MOOT Japan

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	大学に関する広報
GTコース委員会	委員	GTコースに関する事情、高校生暗唱コンテスト、Global Leadership Forum
国際観光学科OPC委員会	委員	OPC計画、運営
学部教授会	準備担当	会議資料作成、宴会幹事

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

GTコース、E-UPランチと自習、毎週

GTコース歓迎BBQ、4月、場所:本学

GTコースクリスマスパーティ、12月、場所:本学

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

米軍基地ひな祭りお茶会、2月、場所:本学

2018年にNIUGLOBALのインスタ、そしてHP (www.niuglobal.jp) はブログを実施し、維持、更新、拡張も行いました。YouTubeのチャンネルの維持をしました。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席

2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	欠席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	欠席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
5 steps to becoming a global citizen	2019/7/5	福岡県久留米市筑水高等学校	筑水高等学校
5 steps to becoming a global citizen	2019/10/19	福岡市マリンメッセ	夢ナビ

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
GCN学生カンファレンス	イギリスの地チェスター市で6カ国から大学生22名が参加した。GTコース学生2名が参加をしたため、様子の確認をした。	2019/12/2～ 2019/12/6	グローバル・カレッジ・ネットワーク(GCN)

GCN教職員カンファレンス	GCN運営についての協議を行った	2019/12/4～ 2019/12/6	グローバル・カレッジ・ネットワーク (GCN)
川棚中学校イングリッシュ・キャンプ	キャンプは12月16日に開催された。中学校1年生134名と本学生(GTコースと留学生)40名が英語で交流した。10月から川棚中の坪田先生との打ち合わせが始まった。	2019/10～2019/12	川棚中学校
南米コロンビアとの交流	本学生とコロンビアの大学生とのオンラインツールを使用したグループプロジェクトを行った。	2019/9～2019/12	室蘭工科大学
江上小学校	小学校6年生が留学生との交流会をした。	2020/1/24	江上小学校
波佐見東小学校国際交流会	小学校6年生が留学生との交流会をした。	2020/2/18	波佐見東小学校
雛祭りお茶会	毎年、米軍基地の子供たちと本学生が茶道と伝統できな遊びを通じて、交流会を行う。	2020/2/18	本学と佐世保米軍基地ユースセンター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

常に国際交流・留学生支援センターへのサポートをします。

協定書の確認

様々な翻訳および通訳

海外からのお客さんへの対応

派遣留学選抜インタビュー

英語圏からの交換留学生の募集と対応

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学で勤務するにあたり教育、研究、業務、社会貢献が重要だと考えている。改善すべき点はさらに多くの論文を発表することである。来年取りかかる予定の研究計画をいくつか検討中である。今年度

は指示を待つて行動するのではなく、主体的に大学の運営に尽力をしました。特に、英語圏留学生が満足になる為に、様々な手配と支援の尽力をしました。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 松本 知子

1. 教育理念

私自身の専門は、英語学(統語論)・映画を用いた英語教育である。その中でも特に非定形節の統語構造や、映画を用いた効果的な英文法の指導法の研究を行っている。私の教育の理念の大きな支えとなっているものは、程度の差はあれ、そこから派生する「英語の理解や異文化的体験の楽しさ」を学生にも同じように実感してもらいたいという点に尽きる。私は全学共通科目としての英語とグローバルツーリズムコース専門科目のEnglish Reading SkillsとEnglish Writing Skills、教職(外国語)を取得する際に必要な英語学の授業を担当しているが、共通して言えることは、学生が英語を使って社会の多様な価値観や文化と触れ合うことで、国際的な視野を広げ、さらには異文化間コミュニケーションを円滑に行う手助けをしたいと願っている点である。授業で、英語という道具を通じて異文化に触れ、それを理解する楽しさを感じてもらえるのではないかと考えているからである。

このような教育理念のもと、私は、授業で、「英語の授業では英語で考え学ぶ」という姿勢で授業に取り組む雰囲気を作り、多少なりとも英語に触れる機会を多く作っている。そして、英語のインプットの量を増やすことを重視している。インプットの量の不足を補うために、私はeラーニングを活用することにしていて。近年はeラーニング教材を備えたテキストが多く使われるようになってきており、可能な限りそのようなテキストを採用することにしていて。

特に英語力が低い学習者に顕著な特徴として、英語を学習する習慣が身につけていないことが挙げられる。さらには、英語の学習方法が分からないという学生も少なからず存在する。そこで、私はeラーニングを活用したリスニング問題、語彙問題を出したりするなどして、英語学習を習慣化することを目指している。

英語教育においては、大量のインプットだけではなく、適切なアウトプットも必要である。それによって、理想的には修得した知識を定着する手助けとなるからである。そこで、毎回異なるテーマで出来るだけ学生が自分の意見を表現するようなタスクを取り入れ、発音の間違いや文法の誤りなどの些細な点を気にすることなく、修得した語彙や文法形式を活用した発表が出来るような機会を設けている。そのテーマは、正答がないものや解釈が分かれるもの、価値観によって回答が異なるものなどを意図的に選択している。そして、「なぜそう思うのか」という点をできるだけ3点ほど常に明らかにするように学生に指導している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの 類型
English Writing Skills III	30 / 30 (前期)	2	32	④⑧

英語学	15 / 15 (前期)	2	42	①②④⑥⑩
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	31	①②⑥
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	34	①②⑦
English Reading Skills I	30 / 30 (前期)	2	22	①④⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	27	①②⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
English Reading Skills II	30 / 30 (後期)	2	16	①④⑪
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	30	①②④⑦
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	31	①②⑦
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	38	①②⑦
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	40	①②④⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

準備学習

グローバルツーリズムコースの専門の授業に関して、準備学習の量が多すぎるという意見をもらった。課題をすることでどのような力が身につくのかという動機付けに関する説明をもっとしておくべきであった。

遅刻や私語、集中させるための工夫

私語を止めるための工夫が足りなかった。静と動のメリハリ、学生の活動量を増やす、机間巡視の回数を増やす必要がある。

総じて、メリハリのはる授業、変化のある授業、学生と十分にコミュニケーションをとる授業をする必要があるということを今学期も学んだ。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学 教養教育	総合英語I (E5)	15/15(前期)	1	51
長崎大学 教養教育	総合英語I (P2)	15/15(前期)	1	43
長崎大学 教養教育	英コミュIII (2K3)	15/15(後期)	1	37

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①非定形節の統語構造研究
- ②映画を用いた英語教育
- ③Extensive Reading (多読)の活用法
- ④MOOCを活用した英語教育

時制要素を含まない非定形節(不定詞節や仮定法現在節など)の統語構造に関心を持っています。統語構造と意味との関連性に着目し、様々な文法現象の解明、ミニマリストプログラムへの理論的貢献を行うことを目的に研究をしています。また、映画を使った英文法の効果的な指導法についても研究しています。仮定法や前置詞といった習得が難しいといわれている文法項目を取り上げ、その使われる直感をとらえられる指導法を研究しています。Extensive Reading (多読)については、どのようにして学校全体の教養英語の授業で組み込んでいくか、また、Moodle Databaseを活用して、どのような学生主体の活動が可能であるかについて研究しています。さらに、科学研究費を用いた共同研究で、MOOC(大規模公開オンライン講座)の可能性を追求しています。具体的には、観光業界で働く人に向けた英会話学習の講座を作成し、その効果を追求しています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Rhetoric of “Will I See You?” : Based on an Analysis of Fictional Conversations /2019/11/30/
STEM Journal/23頁～44頁/共著/論文
Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan/
2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/1頁～7頁/共著/総説
推量を表すmustとbe bound toの違い/2020/3/英語表現研究Bulletin/5頁/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
推量を表すmustとbe bound toの違い/2019/6/25/第48回日本英語表現学会全国大会
Making a MOOC: What we’ve learned so far/2019/11/2/JALT (全国語学教育学会)第45回年
次国際大会教材展示会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	入試担当者斡旋や出張講義の調整、高大連携関係
教育基盤センター委員会(IR委員)	委員	活動報告の確認、アンケート結果の分析の補助を行った。
学事委員会オリエンテーション担当(学科)	責任者	学生がスムーズに動けるように、春季・秋季オリエンテーションの計画を十分に練った。
募集委員会(学科)	委員	進学説明会や出張講義、AO入試等の調整を行った。
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	書記	コースとしての動きを理解するように努めながら、書記の職務を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

TOEICクラブ 顧問

正式なクラブではないが、学生が自主的にTOEICの勉強会を開く際、教材貸し出しや相談に乗った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①九文中学校訪問／2019年8月19日／場所:長崎国際大学

②九文高校卒入学予定者への入学前教育／2020年3月3日／場所:長崎国際大学→新型コロナ感染拡大防止のため中止

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意

2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	2017/9/1～ 2020/3/31	長崎県県民生活部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
アメリカ短期留学(トロイ大学)	トロイ大学での短期留学引率	2019/8/22～ 2019/8/24	長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Making a MOOC: What we've learned so far	発表者(ラウンドテーブルディスカッション)	2019/11/2	愛知県産業労働センター	JALT International Conference

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

<公務>

今年度も様々な公務に積極的に携わった。入試募集委員会の委員が継続となり、海外入試の担当や語学留学の引率など仕事をし、今年度も貴重な経験をさせていただいた。学科内の募集委員の仕事については、入試担当者や出張講義の担当者の調整を迅速に行った。学科内委員会では春季・秋季オリエンテーションの責任者として、教務課や国留センターとの日程調整を早めに行い、学生と先生方がスムーズに動けるように調整を行った。今後も先生方にわからない点をお尋ねし、助言をいただきながら、自分の意見も大事にして、委員会の仕事に携わっていききたい。グローバルツールリズムコースの教員としては、すべき仕事の内容もわかってきたが、初心を忘れずに積極的に仕事を行っていききたい。今後、自分の意見も積極的に発言したい。

<研究>

単独での論文の執筆が思ったように進められなかった。早朝、スキマ時間を最大限に活用して、論文読み、書きの時間を少しでも確保できるようにしたい。前年に採択された科研費については、多くの時間を費やし、オンラインでの授業作りに励んでいる。今年度は英語教育に関する研究に努めたが、今後も継続しながら、専門の英語学の研究を腰を据えて行う予定である。

<教育>

英語のネイティブの先生方と学生について話をする事が多く、授業の手法や学生への声のかけ方など学ばせていただける機会があったことをありがたく思った。年数が長くなるほど自己流に陥ってしまう傾向があるため、このように教えながら学ぶ機会はとても必要だと反省も兼ねて強く思った。英語演習については、ネイティブの先生方と同じ教科書を使い、e-learningを活用して授業を行うことに慣れてきた。今後は、様々な視点から自分の授業を見直し、工夫をして授業に臨みたいと思う。また、ネイティブの先生方に自分の意見も積極的に発言しながら、より良い授業づくりに励みたいと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 森尾 真之

1. 教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
 人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
 そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
 そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。

1. 「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
2. 「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
3. 「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
国内観光研修A(北海道)	15 / 30 (通年)	2	17	①⑦
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	13	⑤⑥
国内旅行実務 II	15 / 15 (前期)	2	48	⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	⑤⑥
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	12	⑤⑥⑦
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	⑥⑦
国内旅行実務 I	15 / 15 (前期)	2	151	②⑨
国内観光資源	15 / 15 (前期)	2	179	②⑧⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	④⑤⑥⑦⑪
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	11	④⑤⑦⑩
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	12	④⑤⑩
地域産業の魅力	15 / 15 (後期)	2	86	②③⑦⑫
テーマパーク論	15 / 15 (後期)	2	157	②⑥⑦⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義については、分かりやすさを前面に出して、できるだけ学生の興味関心が向くように心がけた。

特に街づくりや起業、地方の魅力など地域社会におけるさまざまな切り口で展開したことは一定の評価ができると思う。特に開講初年度から2年間担当してきた「テーマパーク論」では、テーマパークにおける歴史や経営などの学習を通じて、観光業全体を捉える見方につながるように努めてきた。特に「人」が作ってきた創業の歴史や経営の底流にある考え方を学ぶことで、観光に関わることへの関心を引き上げることにつながることをゴールにし、実務家教員としてはできるだけ社会のリアリティを感じることで、自身のキャリアへの関心を引き上げたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州産業大学	国内観光研修	2/2(後期)	2	5

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国内旅行業務取扱管理者 補修	15	100	2019/4~2019/8
福岡女学院大学池田ゼミ フィールド ワーク事前研修	1	18	2019/10/28

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 大村湾観光圏におけるMICEを目的とした観光メニューの開発
2. 佐世保市ゲートシティ観光圏の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	2	2	204万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「欧州型」レポートをモデルにした地域観光の在り方/2020/3/長崎国際大学論叢/47頁~64頁
/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平戸市観光満足度調査	平戸観光協会	2019/8～2020/3/末日	150万円
インバウンド受け入れのための体制整備業務委託	西海市	2019/12～2020/3/31	54万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	なし
研修委員会	委員	なし
国際生物学オリンピック委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

募集活動:福岡県立久留米高校出張講義(11月30日)

広報活動

1. イベントへ運営の協力による大学協力名義<2件>

バラとワインマラソン(5月・ハウステンボス)

大村湾ZEKKEIライド(10月)

2. プレスリリース

東彼杵グリーンティーツーリズム(12月・長崎新聞)

西海市留学生ホームステイプログラム(9月・長崎新聞)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外

2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
市民公開講座	2019/10/26	本学	地域連携
長崎における観光の将来について	2019/12/11	大村市内	大村経営者研究会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大村市新幹線新駅駅名等検討委員会	副委員長	2019/7/5～ 2020/3/31	大村市長
国際都市佐世保研究会	委員	2019/12～2020/3	佐世保市政策推進センター
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	2020/1/21～ 2021/1/20	東彼杵町長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、前期講義においては国試関連の講義科目が中心となったが、学生が持つ国試受験のハードルを少しでも下げられたことで、国試受験者の増加につながったのではないかと考える。授業アンケートのコメントにも記載したが、国試合格率の向上のための講義の充実を図るためには、少なくとも国内旅行実務科目の非必修化による国試受験者を対象とした内容の濃い講義にすべきであると考えます。

学外活動においては、地域での諸活動に端を発した自治体からの委託事業や委員会への参加要請など、一定の範囲で活動できたと考える。また国際生物学オリンピックの準備における海外視察や諸案件の調整などは講義スケジュールの調整など難しい局面が多く、相当の業務負担であったが、成功に向けての着地点を模索できる方向性が見える段階まで来たのではないかと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 John Patrick Owatari-Dorgan

1. 教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標にしているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気をはかっています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
Practical English I B	30 / 30 (前期)	2	23	①②③④⑤
Practical English I A	30 / 30 (前期)	2	22	②③④
English Reading Skills III	30 / 30 (前期)	2	32	①④⑤⑪
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	34	①②
Japanese Culture A	15 / 15 (前期)	2	21	②⑤⑥
英語演習 I B	15 / 15 (前期)	1	28	①②
Practical English II B	30 / 30 (後期)	2	18	①②③④⑤
Practical English II A	30 / 30 (後期)	2	18	②③④
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	28	①②
Japanese Culture B	15 / 15 (後期)	2	25	②⑤⑥
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	34	①②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

Reading Skills III - I believe that students were very satisfied with this class. Of course, I would like to continue to improve this class. Specifically, I would like to increase student engagement with the class by including more interesting activities. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. In this class, students are required to do a significant amount of work and that may have lowered their satisfaction. To improve student satisfaction with this class, I will try to make the activities more engaging and use more active learning techniques. Furthermore, I will try to offer the students more personal feedback. Finally, I will try to reduce the amount of work that students must do in a relatively short period of time. I believe that students were dissatisfied with the intense homework in the class.

Japanese Culture A - I am happy to see that students are generally satisfied with the class. Of course, I would like to raise student satisfaction a little bit higher. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. I believe that some of the students were not 100% satisfied with the class because they thought the material was too difficult and had too much out of class reading. In general, students commented that they thought the class was interesting. In order to raise student satisfaction, I will try harder to make the reading material in the class more accessible. I will also try to develop new discussion activities to help students feel more engaged with the material. I will also try to use more diverse types of materials such as videos, magazines and comics in the class to help students understand. Furthermore, I will try to reduce the amount of material to give students more time to discuss and help their understanding. Lastly, I want to try to make a wider variety of classroom activities to prevent students from feeling bored with the class.

Practical English IA - I believe that students were very satisfied with this class but there is some room for improvement. Specifically, I think I need to improve my communication with the students. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. There is a lot of work to for students to do in this class so that may have lowered their satisfaction. To improve student satisfaction in this class in the future, I will work to provide students with more face-to-face feedback and make the class activities more engaging. Moreover, I will also work to include more active learning in the class. I will also try to help students understand the connection between the class activities and their study abroad opportunities. I think this will improve student satisfaction and give them better motivation. Furthermore, I plan to try to make the materials more closely connected to the students' English levels.

Practical English IIA - I believe that students are mostly satisfied with the class. Of course, I would like to raise the satisfaction for the class in the future. This class includes a lot of out-of-class

work so that may have hurt student satisfaction. Also, I also believe that some students had trouble understanding some of the activities in the class. Additionally, students were asked to complete a very long and difficult project this semester which may have been less satisfying than several short projects. Next year, I will try to give the students more active feedback during the long project and also try to break the project into shorter sections that are more easily understood. I will also try to give the students more face-to-face feedback to help the student understand how to become better. Finally, I would like to try to improve the classroom experience for students. Specifically, I would like to try to make the explanations and activities easier for students to understand. Also, I would like to give them more time to complete activities so that they feel less stress.

Japanese Culture B – I think that students are generally satisfied with the course. Of course, I would like to improve satisfaction as much as possible. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. I believe that some of the students were not 100% satisfied with the class because the materials used in the class are challenging and require a lot of out-of-class preparation. In order to raise student satisfaction, I will try harder to limit the amount of pre-reading for each lesson. I will also try to develop new discussion activities to help

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀県立大学	International Communication III	15/15(前期)	1	40
佐賀県立大学	Western Culture	15/15(前期)	1	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

外国語として英語教育
異文化間コミュニケーション
英語多読
語彙学習
民族誌学
日本の文化
海外留学

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	3	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan/
2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/1頁～7頁/共著/研究ノート
The Power of Bibliobattle in the ER Classroom/2019/8/PanSIG Journal 2019/-/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
The Power of Bibliobattles in the ER Classroom/2019/5/全国言語教育学会2019 PanSIG
Conference
Making a MOOC: Recent Updates and Examples/2020/2/28/2020 MoodleMoot Japan
Preparing students for study abroad with video journals/2020/2/11/2020 CamTESOL

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(分担)	日本学術振興会	2019/4～2020/3	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学部教授会運営	準備担当者	会議資料を準備する
研究倫理委員会	委員	研究倫理書類を確認する
グローバルツーリズム委員会	委員	GTコースの開発を続けます
企画・広報委員会	委員	アイデアを共有しました。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

GTコースのイベント企画および参加
黒島観光の国際化PRプロジェクト
初年次における英語の多読研修プログラム
NIU 9learn.net アプリ開発

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

NIU暗唱コンテスト 共同主催者
留学生への学校案内パンフレットの編集
佐世保米軍基地でのひなまつり茶会 共同主催者
GTコースのSNSの管理補助など
グローバルリーダーシップフォーラム 共同主催者
川棚英語キャンプ
九文高校本学訪問

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
English Training for Homestay	2019/12～2020/2	山内町 農村環境改善センター	たけおワールドフレンズ

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
異文化間コミュニケーション支部	財務管理者	2018/6～現在	全国語学教育学会
たけおワールドフレンズ 運営委員会	運営委員	2009/4～現在	たけおワールドフレンズ
Nankyu 支部	委員	2016/4～現在	全国語学教育学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

第20回佐賀県高等学校英語スピーチコンテスト 佐賀県大会 審査員

第14回 佐賀県高校生ディベート大会 審査員

医療従事者のための英会話指導

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
コベントリー大学とのオンライン交流	グローバルツーリズム学生達がコベントリー大学の学生とのオンラインで交流	2014/6～現在	Coventry University, UK 長崎国際大学
プリンストン大学オンライン交流	グローバルツーリズム学生達がプリンストン大学の学生とのオンラインで交流	2015/10～現在	Princeton University, USA 長崎国際大学
SENAオンライン交流	英語演習IAとグローバルツーリズム学生達がコロンビアの学生とのオンラインで交流	2015/10～現在	SENA, Colombia
トロイ大学との夏期英語プログラム	グローバルツーリズム学生は1ヶ月間トロイ大学で勉強する。	2019/8	Troy University, USA

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎国際大学の留学アプリケーションを英訳

トロイ大学との夏期英語プログラムに取り組み

アメリカの複数の大学を訪問をすることで、本学の留学の機会を増やすことにも貢献した

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年の私の主な目標であった、グローバルツーリズム学生の英語力を向上においては、TOEICテストでは、1学期につき50ポイント以上のレベルアップに成功しました。IELTSテストにおいても、とても良い結果が出ました。また、私は日本文化と英語演習クラスについて学生からの授業アンケートに基づき、カリキュラムの向上に努め、より良い成果が出たとフィードバックを得ることができました。

私自身の研究においては、2つの論文執筆、3会の学会発表を行いました。

留学における結果として、米国の学校をより多く訪問することにより、定期的な留学生の獲得に努め、より良い交流になるように話し合いを重ねました。現地でのプレゼンテーションの回数を増やし、より多くの米国の生徒の目に触れるようにし、留学生獲得に努めました。また、夏と春の短期交換留学の企画にも力を入れました。

授業や研究以外では、委員会やキャンパス活動に貢献するよう努力し、他の先生ともよく協力できたと思っています。生物学オリンピックにも繋がる事だと思っています。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 中島 金太郎

1. 教育理念

私の教育理念は、理論と実践力を兼ね備えた人材の育成である。

私の担当する博物館学芸員課程は、国家資格である「学芸員」資格取得のための専門的な過程である。学芸員は博物館に関する専門家であり、博物館・美術館はもちろん動物園や水族館に勤務する際にも必須の資格である。資格の取得が就職に結びつく課程であることから、全国的に見ても学芸員を退職した者が自身の経験を基に博物館学を講じている傾向が強い。博物館の実務家教員は、豊富な経験を基にした実務論を教授できる一方で、理論教育が不十分であることが多々指摘されている。博物館学芸員課程は、実務に耐えられる学芸員を養成することが求められる傾向にあるが、裏付けとなる理論を知らずして円滑な実務は不可能であり、理論と実践力の両輪が学芸員養成には必須であると私は考えている。

例えば「展示」は、モノを並べるだけであれば誰でもできるが、各資料の性格や年代、地域性を把握し、他の資料との組み合わせや地域との関連性を考えたうえで展示を行うことで、資料だけでなくその背景までも理解できる展示を作ることができる。また博物館で資料を扱ううえで「保存」が大きな要素となるが、資料を形成する素材の特性を把握し、食害する虫や適切な温湿度の知識を得ることで、より適切な管理・運用が可能となるのである。

このような博物館学の理論を理解し、取り扱い方法などの実践的技術を習得することが、実務に耐えられる学芸員の養成に繋がるのである。一方、実践力については博物館の現場で日々研鑽することで身につくことが期待できるが、理論については自ら学習しない限り大学卒業後に涵養することが難しいことから、私の授業では十分な理論を学習できるような授業構成を意識している。

私の担当する学芸員関連の授業は、講義形式の「博物館展示論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」と実習形式の「博物館実習A～C」がある。これらの科目に加え、講義科目「文化財保護論」「民俗学」と、オムニバス科目「世界遺産保全管理論」、教養セミナーおよび専門演習を講じている。

講義科目ではパワーポイントを使用し、私がこれまで実地調査した事例と写真を多用しながら、各講義テーマの理論を理解できるよう心掛けている。学生からの意見では、一回あたりの学習内容が多いとの指摘があるものの、90分という限られた時間内で理論を教授するためには、内容を多く盛り込まざるを得ない。また、ディスカッションなどによる課題解決は殆ど行わず、講義形式の授業にポートフォリオを組み合わせた授業を行っている。ややもすれば一方的な授業になりかねないが、少しでも多くの事例と知識を学生たちに享受してほしいとの考えから当該形態を採用している。

逆に実習科目では、10名程度の少人数クラスで密度の濃い双方向的な授業を意図している。特に「博物館実習B」では、実際の博物館で勤務する「博物館実習C」の受講に向けて、学芸員として必要な資料の取り扱い方法を指導しているが、資料を取り扱う上で事故があってはならないので、学生の進捗状況をつぶさに確認しながら授業を行っている。当該授業でも、各資料の取扱いに先立っ

て、資料に関する知識や取り扱いの理念等を講義したうえで実習させ、知識と技術の両者を取得できるように心掛けている。

上記に加え、学生たちには長崎や九州だけといった狭い視野ではなく、日本全国的あるいは世界を視野に入れた博物館活動ができる人材となってほしいと考えている。このため、学生たちには馴染みがない可能性があるものの、日本の各地の事例や中国・韓国の事例等も授業内で積極的に使用している。豊富な事例を基に知識を享受することで学生自身の視野を広げ、広く興味を持ってもらい、活躍の幅を広げることも、私が学生に望むことである。

以上、理論と実践力を兼ね備えた人材育成、および視野の広い人材の育成が、私の基本的な教育理念である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
海外観光研修A(アジア)	30 / 30 (通年)	2	7	⑦⑫
博物館実習A	30 / 30 (通年)	1	22	⑦⑩
博物館実習C	30 / 30 (通年)	1	31	⑦⑪⑫
博物館実習C	30 / 30 (前期)	1	3	⑦⑪⑫
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	14	②⑦⑪⑫
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	13	②⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	17	④⑥⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	4	④⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
文化財保護論	15 / 15 (前期)	2	166	②⑨⑩
博物館展示論	15 / 15 (前期)	2	80	②⑨⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	4	④⑥
世界遺産保全管理論	7 / 15 (後期)	2	10	④⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	17	④⑥⑪⑫
博物館情報・メディア論	15 / 15 (後期)	2	108	②⑤⑥⑧⑩⑪
民俗学	15 / 15 (後期)	2	120	②⑨⑩
博物館経営論	15 / 15 (後期)	2	140	②⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は着任2年目となり、昨年度の反省を踏まえ、学生に理解してもらえるようわかりやすい講義および配布資料作成を目標とした。講義のブラッシュアップを進めた結果、配布資料は、前期は冊子体の資料集を配布、後期は講義ごとに配布するかたちを採ったが、いずれも昨年度の不備を修正した。また昨年度は、一回の授業内で講義する内容が多く、学生からの不満もあったことから、十分な内容を担保しつつ無駄を削るよう努力した。また、昨年度は「授業の途中から話が速くなる」などと講義のペース配分に関する指摘が多く挙げられたが、本年度はこのような指摘は無く、概ね改善できたものと思われる。

前期授業アンケートでは、文化財保護論が平均4.3、博物館展示論が平均4.5と、昨年度と比較して学生の評価が向上した。後期授業アンケートでは、博物館経営論が平均4.2、博物館情報・メディア論が平均4.4、民俗学が平均4.2と昨年並みの評価となった。

一方、講義資料に文字が多いため映像や写真を増やしてほしいとの意見や、記述する量が多すぎるとの意見もあり、授業アンケートの結果を踏まえ、次年度に向けて改善を進めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
上海大学博物館学研修	6	13	2019/7/15~2019/8/3

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

2019年度は、主に博物館学と考古学の研究を行った。

①博物館学

元々の研究テーマであった「地域博物館の発達史」の延長として、地域に根差した機関である寺院に設置されている博物館「仏閣博物館」に関する研究を開始した。

②考古学

以前から研究を進めていた伊豆鳥島の人類の痕跡に関する研究を継続している。

本研究については、科学研究費(基盤B)を申請した。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	3	1	1	1	3	3	94.5万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

『近代建築利用博物館事典』/編集/2019/8/25/雄山閣/507頁

『博物館が壊される!—博物館再生への道—』/共著/2019/9/25/雄山閣/270頁中

『地域を活かすフィールドミュージアム-波佐見焼窯業地のまちづくり-』/共著/2020/2/10/雄山閣/352頁

『野外博物館事典 令和元年度中間報告』/共著/2020/3/31/國學院大學博物館学研究室/未定

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

仏閣博物館の定義および概念に関する研究/2020/3/31/『長崎国際大学観光学論集』第15巻/1頁～12頁/単著/論文

陝西省・甘肅省・ウイグル自治区の観光における博物館活用の研究—中国陝西省・河南省・河北省における博物館の現状と観光活用—/2020/3/31/『長崎国際大学論叢』第二十巻/33頁～46頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

仏閣博物館の定義および概念に関する研究/2019/10/5/長崎国際大学国際観光学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
産官学連携によるミュージアムグッズ製作の実践	令和元年度長崎国際大学学長裁量経費	2019/5/30～ 2020/3/31	60万円
陝西省・甘肅省・ウイグル自治区の観光における博物館活用の研究	令和元年度長崎国際大学国際観光学科共同研究費	2019/4/1～2020/3/31	24.5万円
地方自治体と協働した実践的な学芸員教育の試み	全国大学博物館学講座協議会西日本部会 令和元年度研究助成	2019/10/1～ 2020/9/30	10万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営センター(全学)	委員	6月の倉敷ボランティア活動に参加した。また、開国祭のボランティアセンターの展示製作に主体的に携わることができた。
学科会議運営委員会(学科)	委員	書記として学科会議運営に参画した。
学科共同研究費予算委員会(学科)	委員	学科共同研究費の予算編成、執行確認、会議資料及び議事録作成等、委員会の事業に主体的に取り組んだ。
博物館学芸員課程委員会(学科)	委員	博物館学芸員課程の円滑な運営のため、委員会活動を主体的に実施した。
オープンキャンパス委員会(学科)	委員	オープンキャンパスの実施に際して活動を実施した。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	書記、編集委員会の業務補佐等を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
20周年事業準備ワーキンググループ	委員	2020年度に実施する本学の20周年記念事業の準備を担当している。

(3) 課外活動の指導等

① 古文書研究会 顧問

本年度より「古文書研究会」を新設し、顧問に就任した。

会の活動の一環として、波佐見町での文化財調査を実施し、学生に対して調査方法等を指導した。(2020年1月25日)

② 西海市大瀬戸歴史民俗資料館での特別展開催

西海市の大瀬戸歴史民俗資料館の学芸員からの要請で、同館で実施する特別展の展示作業等に協力。

展示作業においては、学生に対して展示方法を指導した。(2019年11月25日)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 博物館学芸員養成課程のリーフレットを作成し、入学説明会、オープンキャンパス等々で活用した。

② 学長裁量経費採択「産官学が連携したミュージアムグッズ製作の実践」に基づき、大学グッズとしてマグカップ2種とコンプラ瓶入り焼酎を製作した。

③ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会助成が採択され、次年度のオープンキャンパスに向けて波佐見町と共同で展示等の事業を行うことを計画している。

④ 大学ホームページのトピックスとして、上海大学研修の報告、ICOM UMAC AWORD 2019受賞(2件)、市民講座の開催案内、Made in SASEBO フォトコンテストの実施報告、国際観光学会研究発表

会の実施報告の5件を申請、アップロードした。市民講座については、10月14日付『長崎新聞』に記事が掲載された。

⑤募集活動の一環として、2019年7月6日に九州文化学園高校の学園内進学説明会にて講師を担当した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
市民講座「再考:長崎、天草の隠れキリシタン魔鏡」	2019/10/26	長崎歴史文化博物館	魔鏡研究会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
波佐見町歴史文化交流館(仮称)建設検討委員会	アドバイザー	2018/4～現在に至る	波佐見町教育委員会

全国大学博物館学講座協議会 西日本部会役員会	委員	2018/4～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会西日本部会
全国大学博物館学講座協議会 全国委員会	委員	2019/5～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①学長裁量経費採択事業に基づく波佐見町との連携事業(グッズ製作、共同調査の実施)。
- ②魔鏡研究会からの依頼により、長崎歴史文化博物館で市民講座「再考:長崎、天草の隠れキリシタン魔鏡」を実施。
- ③長崎県教育委員会文化財担当と連携し、西海市での文化財調査を実施(令和2年2月21日に第一回調査を実施)。
- ④佐世保市教育委員会文化財課と、市内公民館の展示作業、針尾無線塔・無窮洞などでのガイドボランティア業務に関する連携を計画(令和2年度以降実施)。
- ⑤2019年6月29日～30日に「平成30年西日本豪雨」災害ボランティアに参加(岡山県倉敷市)。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
令和元年度上海大学博物館学研修	平成28年度より実施している研修として、当方は資料の取扱い実習(掛軸・卷子本)、見学研修の引率、事務関係業務を担当した。	2019/7/15～ 2019/8/3	長崎国際大学博物館学芸員課程
令和元年度観光研修A(上海コース)	「海外観光研修」の一環として中国上海市を訪問し、上海大学学生と本学学生の交流を核とした研修を実施した。	2019/8/19～ 2019/8/23	長崎国際大学国際観光学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

国際博物館会議が主催する「ICOM UMAC AWRORD 2019」に上海大学博物館学研修の取り組みがノミネートされ、世界第2位を獲得した。(事業全体としての受賞)

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、講義、地域との連携活動、研究活動などの面で力を発揮することができた。

講義の面では、「実践・成果」で示した通り、昨年度を踏まえて多くの面で改善ができたと思われる。一方、授業アンケートの結果では、資料の不備や集中していない学生への対応策などに指摘があり、次年度以降も改善が必要である。本年度を踏まえ、よりわかりやすく的確な講義実践を模索したいと考えている。

地域との連携は、本年度も波佐見町との連携が主であったが、西海市と連携した企画展および魔鏡研究会からの依頼による市民講座を実施できたことが変更点である。また、次年度以降、長崎県教育委員会や佐世保市教育委員会との博物館・文化財関係の連携事業も計画しており、今後も様々な地域と連携した活動を実践していきたい。

研究活動では、助成金の獲得、論文執筆など、比較的充実した研究成果を収めることができた。本年度刊行した単行本は、既存事業の成果をまとめた集大成的なものであり、また『長崎国際大学論叢』の投稿論文も学科共同研究費の調査成果という位置づけである。一方、本年度新たに仏閣博物館に関する研究をスタートし、長崎国際大学国際観光学会で研究発表することができた。現在、研究助成を申請中であるが、助成の有無にかかわらず当該研究を次年度推進する予定である。加えて、他大学の研究者と連携して科研費も申請しており、次年度は研究分野にも力を入れたいと考えている。

また、本年度は1～3年のゼミ・セミナーのみを担当しているが、次年度は現3年生が4年生となり、初めて卒業研究を担当する。筆者の3年ゼミ生は17名在籍しているので、早い段階から卒業研究の執筆を進め、適切に提出・卒業できるよう指導していきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 宮本 彩

1. 教育理念

「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」を教育の柱として、学生のホスピタリティの伸長を支援する。また、学生たちが高い専門性と幅広い見識を獲得できるよう、体系的に整理された知識・技能を伝えるとともに、講義の中にディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、多様な視点での課題認識および課題解決を図る能力を育成する。

教員である私自身も常に学ぶ姿勢・意欲を持ち、学生とともに「学ぶ楽しさ」と「探求した先に見える自分たちなりの答え(納得)」を追求していきたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
スポーツ実習C(キャンプ実習)	15 / 15 (前期)	1	31	⑦
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	13	⑫
ジョギング・ウォーキング	10 / 15 (前期)	1	11	⑤⑥⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	9	④⑥⑩
バイオメカニクス	15 / 15 (前期)	2	59	②⑩
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	13	⑥⑫
陸上競技	15 / 15 (前期)	1	40	④⑤⑥⑦⑪
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	14	④⑥⑦⑩
レジスタンストレーニング(理論・実践)	8 / 15 (前期)	2	51	⑦⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	13	⑤⑥⑦⑩
エアロビクス(陸上・水中)	6 / 15 (前期)	1	13	⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	⑥⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	13	④⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	14	②⑥⑩⑫
測定評価	15 / 15 (後期)	2	63	②④⑤⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

一昨年度および昨年度の授業アンケートの結果を踏まえ、講義科目について授業内容ならびに進め方の見直しを行った。特に、「量が多く、進行するスピードが速い」という指摘を踏まえて、内容の精査を行った。その結果、今年度の授業アンケートによる満足度が微増ではあるが上昇し、平均点を越える結果となった。

また、Manabaを多用したことで、学生へのマンツーマン指導が可能となった印象である。特に専門演習では1つのテーマ(レポート)について何度もやり取りすることで、レポートに対する学生の理解が深まるとともに、私自身も学生の能力の把握と個々の学生への最適な指導方法の検討に役立ったと感じる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	健康と運動	15/15(後期)	15	34

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

競技パフォーマンスを評価することを研究のメインテーマとしている。研究対象はさまざまであるが、近年は障がい者サッカーの1つであるアンプティサッカーの研究に注力している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	3	1	2	2	530万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

The relationship between sprint speed and sprint motion in amputee soccer players./2018/9/
European Journal of Adapted Physical Activity./Open access/共著/原著論文

日本におけるアンプティサッカーの変遷と世界の動向/2019/3/31/長崎国際大学論叢/59頁～
69頁/単著/研究ノート

スポーツを専攻する学生へのアダプテッド・スポーツ教育に向けた取り組み～アンプティサッカー・トップアスリートから学ぶ～／2020/3/31／長崎国際大学教育基盤センター紀要／印刷中のため不明／共著／研究ノート

大学ゼミ・地元企業ジョイント授業の取り組みに関する一報告／2020/3/31／長崎国際大学教育基盤センター紀要／印刷中のため不明／共著／事例報告

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

アンプティサッカー日本代表選手のヒアリング調査から見えてきた競技追及の難しさ／2019/8／第70回日本体育学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
大学のシーズを活用したアンプティサッカーの動作の習得・習熟法の構築	日本私立学校振興・共済事業団・2019年度若手・女性研究者奨励金	2019/4～2020/3	40万円
アンプティサッカーの競技力向上をめざした方向転換走の習得・習熟法の構築	科学研究費助成事業若手研究(B)	2019/4～2023/3	490万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	出産・育児、介護に伴い取得できる休暇ならびに休業等の制度に関するハンドブックを作成
国際観光学科 会議運営	会議資料	定例及委員会主催イベントへの学生動員や当日の運営を行った。臨時学科会議の資料の取りまとめを行った。その他、試験監督の振り分け、専門演習希望調査の取りまとめ等の学科内業務を行った。
国際観光学科 学事委員会	保護者懇談会ならびに卒業式担当	本学開催の保護者懇談会の準備を行った。卒業研究の論文要旨集の取りまとめ及び卒業式の準備を担っている。
国際観光学科 スポーツツーリズムコース委員会	委員	コースの円滑な運営ならびに教育充実に向けて取り組んだ。コース主催イベントの企画・運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

駅伝部 部長

部員の頑張りにより、今年度は九州大会でも上位入賞を果たすなど、躍進を遂げることができた。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

2019年12月8日に実施したアンプティサッカー体験会が長崎新聞に取り上げられた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
障がい者スポーツ指導者協議会・九州ブロック研修会	2020/2/1	長崎市障がい者福祉センター	長崎県障がい者スポーツ指導者協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

学生とともにスポーツイベントおよび大会のボランティアに積極的に参加した。

4月21日(日) 波佐見町ふれあい運動会、6月2日(日) ハウステンボスマラソン、10月13日(日) 大村湾ZEKKEIライド、11月2日・3日 日本アンパティサッカー選手権の運営ボランティアに学生とともに参加した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】

着任3年目となり、経験と反省を活かしながら教育に取り組んだ。初めて4年生を持ち、卒業研究の指導を行い、新たな課題を得ることになったが、学生とともにしっかり取り組めたと自負している。各授業においても、授業計画を見直したことで、ややゆとりある授業進行が可能となり、学生の進捗に合わせて課題を再設定する余裕がでてきたと思う。

【研究活動】

新たに2件の外部研究費に採択いただけたことで、より積極的に研究活動に取り組むことができた。今年度はデータ収集が主となったものの、いくつか発表・公表することができた(学会発表1件、論文採択2件)。

【大学運営活動】

これまでの経験等を基に自らの職務を遂行してきた。

【社会活動】

自分自身だけでなく、学生とともに多くのボランティアに参加できたことが、大きな成果だと考えている。今後もますます大学ならびに学生にかかる期待が大きいことを実感した。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 元嶋 菜美香

1. 教育理念

私の教育理念は、アクティブラーニングを通して学生の主体的な態度を形成したうえで、専門的な知識および技能を伝え、課題解決力を育成することである。

よって講義系の授業では、講義の中に演習を取り入れ、課題解決を通して情報収集能力および専門力を育成することを重視する。実習系の授業では、グループ活動を中心に授業を展開し、コミュニケーション力および協働・課題解決力を育成することを重視する。ゼミでは、学生の主体性を引き出すための予習を課し、それを基にグループ討議およびプレゼンテーションを行うことで、専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力を育成することを重視する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
スポーツ実習C(キャンプ実習)	15 / 15 (前期)	1	31	②④⑤⑫
水泳	11 / 15 (通年)	1	14	⑫
マリンスポーツ I	15 / 15 (前期)	1	27	①⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	13	⑥⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	9	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	④
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	17	④⑦
スポーツ実習A	15 / 15 (前期)	1	35	④⑤⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑥⑧
スポーツ医学	1 / 15 (前期)	2	57	②⑩⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑩
保健体育科教育法Ⅲ	14 / 15 (前期)	2	7	⑨⑩
学校保健学	6 / 15 (前期)	2	8	②⑤
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
保健体育科教育法Ⅱ	13 / 15 (前期)	2	10	⑨⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	9	①⑤⑩
エアロビクス(陸上・水中)	6 / 15 (前期)	1	13	②④⑩⑪
保健体育科教育法Ⅳ	13 / 15 (後期)	2	7	⑨⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	8	①⑤⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
保健体育科教育法Ⅲ	12 / 15 (後期)	2	10	⑨⑩

専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	12	①⑤⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	①⑤⑥⑧
武道	15 / 15 (後期)	1	15	④⑪
教職実践演習(中・高)	2 / 15 (後期)	2	20	⑤⑦⑩⑪
スポーツ心理学	15 / 15 (後期)	2	77	⑤⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期に行われた学校保健学に関して、昨年度の4.7ポイントから0.4ポイント低下した。すべての項目を通して「授業中の自己評価」の得点をもっとも低く、学生が集中して取り組める環境を作ることができなかつたと思われる。次年度は、授業内外の課題を明確にし、学生が意欲的に取り組めるようにしたい。

後期に行われたスポーツ心理学に関して、昨年度と満足度は変化していなかった。できるだけ学生の興味関心に沿った授業内容を展開することができたためであると考え。また、レポートを事前に課し、調べた結果をグループで共有するなどアクティブラーニングを取り入れたことも満足度の向上につながつたと思われる。

後期の保健体育科教育法Ⅲに関して、前期に行われた同授業の満足度と比較して、0.2ポイント向上した。自由記述を見ると教育実習に向けて内容の濃い授業であったことが評価されたと考えられる。また、後半の実践的な内容を集中授業としておこなつたことが評価されたと考えられる。今後は、集中講義の日程を土曜日のみにする、配布プリントなどを工夫することでさらに満足度を高めることができると推測される。

後期に行われた保健体育科教育法Ⅳに関して、昨年度の満足度4.6ポイントを0.3ポイント下回る結果となった。退職教員が担当する集中授業などの関係で非常に変則的なスケジュールであったが、スケジュールの周知が十分に行えていなかったことが原因であると考えられる。また、スケジュールが変更した場合に学生が正確に理解できているかどうかを確認していなかったことは、改善の必要があると思われる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	ライフスポーツ	15/15(通年)	4	90

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

地域スポーツが児童・生徒および保護者の心理におよぼす影響、運動継続に関わる要因
地域スポーツの楽しさに関わる要因検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	1	1	150万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
長崎県保健体育科授業研究会を活用した教員養成の一考察/2020/3/教育基盤センター紀要
第3巻/55頁～64頁/共著/研究ノート
スポーツを専攻する学生へのアダプテッド・スポーツ教育に向けた取り組み～アンパティサッカー・
トップアスリートから学ぶ～/2020/3/教育基盤センター紀要第3巻/35頁～46頁/共著/研究
ノート
中学校武道領域における空手道授業に関する研究 -教員養成課程の模擬授業の検討を通して-
/2020/3/群馬大学研究紀要第37巻/163頁～169頁/共著/原著

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Contribution of college student leaders' consciousness towards participants' intention to continue
attendance in community sports classes for children/2019/7/3/The 24th annual congress of the
European College of Sport Science in Prague
形成的授業評価票を用いた地域スポーツ教室の継続意志の測定可能性の検討/2019/9/1/第
68回九州体育・スポーツ学会(鹿児島大学)
アプリを用いたコンディショニングの可能性—心理的競技能力に着目して—/2019/9/10/第70回
日本体育大学(慶応義塾大学)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平戸市観光満足度調査	平戸市観光協会	2019/10～2020/3	150万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学園祭・学生会の指導・補助を担当
教職課程委員会	委員	保健体育科の科目・学生マネジメントを担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ・剣道サークルの監督として指導および運営を行い、西九州大会(団体戦、個人戦)、全九州学生剣道大会(団体戦)へ大会引率を行った。
- ・野球部副部長として、学業不振の部員に対して面談を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・スポーツツーリズムコースのSNS(Facebook)の記事作成を担当した。
- ・出張講義を1回行った。
- ・オープンキャンパス委員として募集・広報活動に従事した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席

2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許更新講習	2019/5/25	長崎国際大学	文部科学省

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和元年6月ジュニアスポーツ教室 運営、実技指導

令和元年6月スポニチ バラとワインマラソン ボランティア

令和元年6・12月長崎県西彼青年の家 キャンプボランティア

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・「教養セミナーA」において目標としていた満足度4.5以上を達成することができたが、「学校保健学」において目標を達成することができなかった。
- ・国際学会(チェコ)および国内学会にて計3本の学会発表をおこなった。1本の論文を執筆し、学内学会誌へ投稿した。
- ・科研費の申請を行った。
- ・国際観光学会幹事として、学会運営および会計に関する業務を担務した。
- ・近隣住民を対象としたスポーツ教室を実施した。参加者は238名であり、目標とした人数には届かなかった。
- ・教職課程(保健体育科)として授業運営に精力的に携わった。教職OBなどを招いた授業研究会を2回開催した。保健体育科教員を志望する学生への指導を行い、山梨県教員採用試験合格者および私立高校採用試験合格者を輩出した。
- ・学生委員会として学園祭及び学生会の運営に携わり、学生指導を行った。
- ・学長裁量経費の業務分担者として、スポーツブランドのロゴ作成に携わった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 木村 勝彦

1. 教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマニズムの精神及び異なる価値観に対する寛容の精神を涵養することである。

こうした教育理念に従い、まず全学共通教育においては以下に述べるような私独自の教育活動を通して、本学における人材育成に貢献したいと考えている。まず「哲学」においては、歴史上に展開されてきた哲学のさまざまな知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底的に考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成する。また「倫理学」においては、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の人間性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマニズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成する。さらに「宗教学」においては、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。これらの教育活動により、人間社会学部、健康管理学部、薬学部のそれぞれの学びに共通して必要とされるホスピタリティとヒューマニティの精神を身につけさせたいと考えている。

また国際観光学科の専門科目である「観光倫理」や、大学院地域マネジメント専攻及び観光学専攻における諸科目においては、現代社会の主要な社会活動の一つである観光をめぐる倫理的或いは宗教学的な考察を通して、観光とそれを基盤とする地域マネジメントに貢献し得る高度専門職業人の育成に寄与することを目指している。

さらに教職課程科目である「道德教育論」においては、教員を目指す学生たちに道德教育の意義と必要性を教授することにより、子どもの人格形成に大きく関わっていく教員としての心構えと態度を培うことを目指している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
観光倫理	15 / 15 (前期)	2	248	①②③⑧⑨
ホスピタリティ概論	1 / 15 (前期)	2	497	②③⑤⑥⑪
宗教学	15 / 15 (前期)	2	120	①②③⑧⑨
人権と平和	15 / 15 (後期)	2	5	①②③⑤⑨⑩
道德教育論	15 / 15 (後期)	2	21	①②③④⑤⑥⑧⑪ ⑫
倫理学	15 / 15 (後期)	2	98	①②③⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光倫理思想特別演習	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
観光倫理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

○ 授業アンケート

今年度は前期に「宗教学」と「観光倫理」、後期に「倫理学」と「道德教育論」で授業アンケートを実施した。結果は総合満足度が「宗教学」で4.3、「観光倫理」で4.3、「倫理学」で4.3、「道德教育論」で4.8となっており、「観光倫理」で前年度を0.1下回ったものの、他の科目ではすべて前年度を上回る事ができた。

全学共通科目の「宗教学」は1～13の評価項目すべてで4点台をマークしたが、4.5以上を示した項目は7の「熱意が感じられるか」のみであったことは反省点である。特に「予習・復習」に関する評価項目1が4.0、「授業参加の促し」に関する評価項目11が4.1であったことは、アクティブラーニングの試みの不足を示すものとして受けとめている。また「倫理学」も1～13の評価項目すべてで4点台をマークしたものの、4.5以上を示した項目が一つもなく、「予習・復習」に関する評価項目1と「授業態度」に関する評価項目2がいずれも4.1であったことは、アクティブラーニングと学生の積極性を引き出す努力が不足していたものと考えている。

国際観光学科4年生の必修科目である「観光倫理」は1～13の評価項目すべてで4点台をマークしているものの、4.5以上を示した項目が一つもなく、総合満足度が前々年度から連続して低下傾向にあることは反省すべきことと認識している。特に「予習・復習」に関する評価項目1と「授業参加の促し」に関する評価項目11がいずれも4.1であったことは、小職の他の科目と同様にアクティブラーニングの不足を示すものと受けとめているが、今回「授業内容は興味あるものか」を問う評価項目5において4.1であったことは、授業内容の大きな改善の必要性を示すものと考えている。

教職課程科目の「道德教育論」は評価項目1～13のすべてにおいて4.8以上をマークし、「授業内容は興味あるものか」を問う評価項目5と「話し方は明瞭か」を問う評価項目6についてはいずれも4.9であった。前年度までの評価と比較しても格段に向上しており、受講者が教職課程履修者としての高い自覚を有しているという側面もあるものの、授業改善の試みが一定の成果を挙げているものと考えている。

○ 授業改善と教育効果

1) 全学共通科目

「宗教学」では、宗教現象の普遍的構造と特殊な現われを記述する学問としての宗教学の特質を序論として述べた後、宗教現象についてのさまざまなアプローチの方法を示す中で世界の多様な宗教について具体的に説明した。後半には世界三大宗教と呼ばれるキリスト教、イスラム教、仏教の内容を概説した後、日本の宗教史について考察したが、学生たちは宗教現象の多様性に対する高い関心をもって授業に取り組んでいたように思われる。授業方法としては、パワーポイントを利用して内

容を体系的にまとめ、重要語句を配布プリントに記入させるというかたちをとっており、関連する画像や写真をも豊富に提示しているが、特に多様な宗教現象についての具体的な理解を深めるためにはそうした視聴覚資料が不可欠であり、高い教育効果を得ることができたものと考えている。

「倫理学」では、「よく生きる」ことの意味を問う学問としての倫理学の特質を序論として述べた後、特に西洋倫理思想史の主要な学説を、特に人格という概念に的を絞って紹介した。後半には生命の選択や死の判定といった生命倫理の問題を取り上げたが、学生たちは高い関心をもって授業に取り組んでいたように思われる。授業方法としては、パワーポイントを利用して内容を体系的にまとめ、重要語句を配布プリントに記入させるというかたちをとっており、必要に応じて関連する画像や写真をも提示することによって、特に生命倫理に関しては具体的なイメージを抱かせることによって、高い教育成果を得ることができたものと考えている。

2) 人間社会学部国際観光学科専門科目

「観光倫理」では、国内外のさまざまな具体的事例を挙げながら、観光そのものの倫理的問題性や観光開発に伴って生じてくる課題について論じた。内容的には例年、国際観光学科4年次で唯一の必修講義科目であることに鑑み、学科におけるこれまでの学びの総括としての意味をもたせて講義を展開しているが、学生たちは概して真面目な受講態度をもって授業に臨んでおり、内容についても高い理解度を示していると言えよう。特に、人間の死や戦争・災害などに関わるダークツーリズムの倫理的問題については、高い関心と真摯な受講態度を示していたと言えよう。授業方法としては、パワーポイントを利用して内容を体系的にまとめ、重要語句を配布プリントに記入させるというかたちをとっており、具体的事例の提示が必要なこの授業では高い教育効果を発揮したものと考えている。しかしながら、今年度については受講生が250人(回答者数は214名)と非常に多く、授業中の私語等が例年と比較するとやや目立ったことが、評価全体の低下の大きな要因となっていることがうかがわれる。この点についての対応・改善に努めたい。

3) 教職課程科目

「道徳教育論」では、まず新学習指導要領における「道徳科」の意義と位置づけについて述べた後に、道徳科の授業における教材・資料の選択の仕方や授業内容の組み立て方について考察した。次に、全員に学習指導案を作成させ、これまではその発表と質疑応答を実施してきた。しかし、今年度はそれを改めて、学習指導案に即した模擬授業の導入部分を実施させた上で、相互批評を行わせることにより、より積極的な授業参加を実現することができたと考えている。この授業を通して、生徒たちにとって有意義で魅力的な道徳科の授業とはいかにあるべきかについて、学生たちに十分な理解と知見を獲得させることができたように思われる。この授業の眼目は、道徳科の授業の技術的向上や知識の獲得もさることながら、人間としての生き方や価値観に関わる道徳科の教育的意義についての認識を深めさせることにある。今年度のこの授業の受講生は例年にも増して熱心かつ真摯に授業に取り組み、十分な成果を挙げていると言えるであろう。

4) 大学院人間社会学研究科修士課程観光学専攻

今年度の「観光倫理特講」の受講生は修士課程の1年次生3名であり、その内訳は日本人学生が1名、留学生が2名であった。観光倫理に関するテキスト講読の後、受講生各自の研究テーマに関する観光倫理の具体的問題に関する発表とディスカッションで授業を進めた。各自熱心に授業に参加し

ていたが、基礎的な観光学の知識の不足及び留学生の日本語能力の不足に、どのように対処すればよいかに苦慮した。想定していた教育効果が得られなかったと反省している。

5) 大学院人間社会学研究科博士後期課程地域マネジメント専攻

今年度の「観光倫理思想特別演習」の受講生は2年次1名であり、上海大学の職員として勤務している者であるため、上海大学博物館課程の学生の研修引率で来日した際の集中講義というかたちで対応した。あらかじめ英文テキストの読解・まとめを課題として与え、それをめぐって授業を行ったが、遠隔地に居住する学生の指導に限界を感じざるを得なかった。受講生自身も能力はある程度高いものの、必ずしも熱心とは言えず、大学院生にふさわしい厳格な指導ができなかったことを大いに反省している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
教育実習事前指導(人権講話)	1	13	2019/4/5
上海大学博物館研修団(博物館課程及び社会学院)に「日本文化論」	2	35	2019/7/19

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 宗教現象についての哲学的研究
- ② 宗教と観光の関係をめぐる聖地ツーリズム研究
- ③ 観光倫理の構築に関する研究
- ④ ダークツーリズムの倫理的問題性に関する研究
- ⑤ 長崎のカトリック教会群とキリスト教関連遺産に関する研究
- ⑥ 道德教育の今日的意義と推進に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「大人の徳育」再考/2019/12/「徳育通信」第7号/1頁/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員長	国際交流のあり方と海外大学との協定締結に関する審議検討の統括
教員資格審査委員会	副委員長	教員の新規採用及び昇任における資格審査に関わる審議検討の統括補助
人事委員会	委員長	各学部・学科における教員の新規採用・昇任人事の計画及び選考手順に関する審議検討の統括
輸出管理委員会	委員長	教職員及び学生の海外渡航等に伴う科学情報等の輸出管理に関する審議検討の統括
国際交流・留学生支援センター	センター長	国際交流及び留学生支援に関する業務の統括
産学連携・研究支援センター	センター長	産学連携とそれに関連する研究の支援に関する業務の統括
グローバル推進協議会	委員	本学のグローバル化推進のための方針策定と構想に関する審議検討
全学教育会議	委員	本学の教育のあり方に関する全体的な方針の策定と進捗状況の確認に関する審議検討
自己点検・評価委員会	委員	本学の教育・研究に関する自己点検・評価の方針策定と実施状況の確認に関する審議検討
防火・防災委員会	委員	学内の防火・防災のシステム構築と避難訓練等の実施に関する審議検討
危機管理委員会	委員	学内の危機管理システムの構築とその運用に関する審議検討

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	会長	長崎県への誘致が期待されているIR(Integrated Resort 統合型リゾート)のメリット及びデメリットを学術機関として学問的に検討し、自治体等に提言を行う
NIU-IBO2020実行委員会	委員長	2020年に本学での開催が予定されている「生物学オリンピック」の実施に関する諸事項を検討し、実施計画を策定・遂行する

(3) 課外活動の指導等

- ① アーチェリー部顧問
- ② 硬式野球部顧問・部長
- ③ サッカー部顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 福祉系大学経営者協議会主催「発達障害のある学生に対する教育的支援」研修会/2019年3月20日/国際医療福祉大学赤坂キャンパス/本学の学生支援に関する事例報告
- ② 長崎国際大学同窓会沖縄支部会及び同窓会/2019年7月6日/沖縄県那覇市・沖縄県市町村自治会館(南部合同庁舎)/同窓会理事及び副学長として参加・説明
- ③ 長崎国際大学保護者懇談会沖縄会場/2019年7月6日/沖縄県那覇市・沖縄県市町村自治会館(南部合同庁舎)/副学長として参加・挨拶
- ④ 文部科学省高等教育企画室課長及び係長によるプラットフォームに関するヒアリング/2019年7月26日/本学本部棟2階応接室/九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の実務担当教員として対応
- ⑤ 国際大学間ネットワーク担当者会議/2019年9月13日/広島国際大学広島キャンパス/副学長として参加・討論
- ⑥ 長崎国際大学保護者懇談会本学会場/2019年10月6日/長崎国際大学体育館・2101教室/副学長として参加・挨拶
- ⑦ 留学生日本語スピーチコンテスト/2019年11月2日/長崎国際大学1101教室/「開国祭」において国際交流・留学生支援センター主催、センター長として審査委員長を務め挨拶・審査・表彰、QSP事業の一環として西九州大学の留学生との交流イベントも実施(佐世保ケーブルテレビで放送)
- ⑧ 私学事業団による私立大学等改革総合支援事業に関するヒアリング/2019年11月26日/本学本部棟2階応接室/副学長として対応
- ⑨ 着地型旅行プランコンテスト/2020年1月25日/長崎国際大学1101教室/QSPの「国際交流・観光・まちづくり専門委員会」主催の事業として、他のQSP参画大学の学生グループも参加して実施(コンテストにおけるすべてのプレゼンテーションを佐世保ケーブルテレビで連続放送)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	11

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度第3期の認証評価の評価員を経験して	2019/7/10	アルカディア市ヶ谷「富士」	公益財団法人日本高等教育評価機構主催「令和元年度評価充実協議会」
徳育推進フォーラム開催に寄せて	2019/9/28	佐世保市文化体育会館コミュニティセンターホール	佐世保徳育推進会議・佐世保市
地域づくりは人づくり	2019/9/28	佐世保市広田地区公民館	広田地区自治協議会
令和元年度団長座談会	2019/12/13	グランドヒル市ヶ谷東館「白樺」	公益財団法人日本高等教育評価機構

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市総合計画審議会	委員	2015/11/1～ 2019/12/24	佐世保市長
私立大学教育研究活性化整備事業委員会	審査協力委員	2012/9/4～	文部科学省高等教育局長
評価システム改善検討委員会	委員	2018/4/1～ 2020/3/31	公益社団法人日本高等教育評価機構
佐世保市教育振興基本計画策定検討委員会	委員長	2019/7/22～ 2020/3/31	佐世保市教育委員会
佐世保徳育推進会議	会長	2011/4/1～現在	佐世保徳育推進会議、佐世保市
学校法人九州文化学園評議員会	評議員	2017/4/1～現在	学校法人九州文化学園
長崎国際大学同窓会「悠和会」	理事	2010/4/1～現在	長崎国際大学同窓会「悠和会」
日本宗教学会	理事・評議員	2010/4/1～現在	日本宗教学会
西日本宗教学会	運営委員	2013/4/1～現在	西日本宗教学会
筑波大学哲学・思想学会	評議員	2018/10/1～現在	筑波大学哲学・思想学会
長崎県日中親善友好協会佐世保支部	理事	2018/7/9～現在	長崎県日中親善友好協会佐世保支部長(佐世保市長)

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
香港公開大学副学長一行の受入れ	学術・学生交流プログラムに関する協定の締結について協議	2019/6/26	国際交流・留学生支援センター
中国・上海大学博物館課程学生の研修プログラム	本学と交流協定を締結している上海大学の学生研修に対応	2019/7/16～ 2019/7/30	国際交流・留学生支援センター、国際観光学科
中国・上海大学社会学院学生の研修プログラム	本学と交流協定を締結している上海大学の学生研修に対応	2019/7/16～ 2019/7/23	国際交流・留学生支援センター、社会福祉学科
中国・広東文理職業学院副理事長一行の受入れ	交流協定を締結している大学の表敬訪問で、今後の交流の実質化について協議	2019/11/5	国際交流・留学生支援センター

台湾・国立台中科技大学創立百周年記念式典及び関連行事への出席	創立百周年記念式典の来賓として招待され、関連する諸行事に参加	2019/11/30～ 2019/12/3	国際交流・留学生支援センター
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------	----------------

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
2019日中私立大学学長シンポジウム	中国の私立大学関係者とのシンポジウムで、長崎国際大学の国際交流の実践について報告	2019/10/19	大阪市・大阪私学会館	上海私学教育協会、和風教育集団
記念講演「日本仏教の歴史と文化」	国立台中科技大学創立百周年行事の一環として、同大学語文学院で講演	2019/12/2	国立台中科技大学中正ビル・国際会議ホール	国立台中科技大学語文学院

(3) その他特記すべき活動

- ① 中国・厦門大学嘉庚学院客員教授、2013/9～現在
- ② 日中友好親善協会佐世保支部理事、2018/7/9～現在
- ③ 私立大学協会「国際交流推進協議会」参加、アルカディア市ヶ谷、2019/9/17

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度も副学長と国際交流・留学生支援センター長を兼任したほか、国際交流委員会、輸出管理委員会、人事委員会の委員長をも兼任したため、それぞれのセンター・委員会に関する業務と会議をこなさなければならなかった。副学長として担うべき全学的事項の所掌や、全学教授会の議題整理及び議事進行等が中心業務であったが、それに加えて国際交流・留学生支援の業務、採用人事・昇格人事の整理と実施、輸出管理の体制整備等に多くの時間と労力を費やさなければならなかった。

国際交流・留学生支援センター長としての業務のうち、まず国際交流の面では、年度内に中国・韓国をまったく訪問することがないなど、例年に比べるとやや低調であった。しかしながら、これまで交渉を重ねてきた大学間交流について、交流協定の調印を積極的に進めたほか、海外からの賓客や来学者との応接・交渉に積極的に従事した。また、中国私立大学協会の主催による日中私立大学学長シンポジウムには3回連続して参加し、発表を行って実績を挙げることができたほか、国立台中科技大学の百周年記念式典に来賓として招待され、語文学院で記念講演を行うなどの成果も残すことができた。なお昨年度拝命した日中友好親善協会佐世保支部の理事については、今年度も継続し

ている。次に留学生募集の面では、海外大学訪問は少なかったものの、これまでの活動で培ってきた人脈や関係が、多くの優秀な留学生の獲得に実を結んできていると自負している。今年度新設の産学連携・研究支援センター長をも拝命したが、これについては次年度以降、体制整備の完成をまって本格的な活動を開始することになる。

学外から委嘱された委員等のうち、公益財団法人日本高等教育評価機構の評価員については、今年度も評価団長として評価チームを統括し、評価受審校への実地調査や意見調整を行うなど、認証評価の作業に多大な時間と労力を割かれることになった。しかしながら、今年度本学が認証評価を受審するに際して、小職の経験と知見が一定程度の貢献を果たし得たものと自負しており、その意味では外部委員の仕事が本学での業務に有機的に接続していると考えている。また平成29年度から委嘱されている同機構の評価システム改善検討委員会については、今年度も委員を委嘱され、機構による機関別認証評価第3クールに向けて策定した評価基準等の実効性等に関する審議に参画した。ほぼ毎月委員会に出席する必要があるが、評価員の業務とも併せて負担は大きかったが、日本高等教育評価機構内においては一定の評価を得て、存在感を示すことができたものと考えている。特に今年度に関しては、7月に開催された「評価充実協議会」においてパネルディスカッションのパネリストの重責を与えられ、ほとんどすべての会員校の代表の前で意見を述べることができたのは幸甚であった。

また佐世保市から委嘱を受けている「総合計画審議会」については、委員長として「第7次佐世保市総合計画」の策定を進めるなかで、今期審議会としての答申をまとめるところまでこぎつけ、朝長則男佐世保市長に答申書を提出することによって任期を全うすることができた。一方、新たに佐世保市教育委員会から「佐世保市教育振興基本計画策定検討委員会」の委員長を委嘱され、合計4回の審議において「教育振興基本計画(第3期)」の策定にこぎつけ、教育長に提出することによって任期を全うすることができた。なお会の発足当初から9年間務めている「佐世保徳育推進会議」会長の職務についても、平均して毎月2度の委員会審議や各種イベント等への参加に多くの時間を割かなければならなかったが、「徳育通信」「徳育カレンダー」の発行・頒布等により着実な実績を出すことができたと考えている。

他方で今年度もまた、学内の役職や学外からの委嘱業務等で多忙であったため、研究に十分な時間を割くことができず、研究業績を挙げるができなかった点については大いに反省をしているところである。大学院の指導においては、修士課程で担当していた学生が秋季卒業したことにより、大学院発足以来はじめて論文主指導を担当する学生がいないという状況に立ち至った。修了生は中国の3年制職業専門短期大学の専任講師の職に就いたため、大学院担当者としては大いなる喜びを感じているところであるが、指導学生の不在という状況には忸怩たる思いを禁じ得ない。学部のゼミを担当していないという条件もあるが、今後も大学院生の主指導担当の機会を得られるよう努力していく所存である。

現在でも、小職は役職・業務の多さに比して多くの授業を学部・大学院で担当しているが、それらに全力で取り組み、学生による授業アンケートでは良好な評価結果を獲得することができた。これは何にも増して喜ばしいことであり、来年度もさらに授業改善に努めていく所存である。来年度も体調管理・授業管理に留意しつつ、特に研究の面で十分な実績を挙げることができるよう努力していきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 中村 龍文

1. 教育理念

すべては基本から → 基本の徹底的な習熟を目指した教育

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究	30 / 60 (通年)	4	6	④⑥⑫
障害の理解 I	10 / 15 (前期)	2	22	③⑤⑨⑩
発達と老化の理解 I	5 / 15 (前期)	2	32	①②③⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	38	⑧
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
認知症の理解 I	10 / 15 (前期)	2	35	①⑨⑩
介護概論	4 / 15 (前期)	1.5	102	②③⑨
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	5	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
加齢と障害に関する理解	7 / 15 (後期)	2	13	③⑤⑨⑩
発達と老化の理解 II	15 / 15 (後期)	2	23	①②③⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	38	⑧
医学概論	15 / 15 (後期)	2	43	①②③⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域医療・保健特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
福祉と医療特別演習	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
特別研究指導 I	30 / 30 (通年)	4	1
特別研究指導 II	30 / 30 (通年)	4	1
地域医療・保健特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
事例研究(地域医療・保健)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを行った認知症の理解 Iおよび医学概論ではまあ満足が得られた以上の学生は約半数しかいなかった。例年通り、これらの授業の1週間前にはマナバに教材をupしているものの、それ

らの閲覧状況が極めて悪かった。これらの閲覧状況が良くなれば、もう少し満足が得られる学生は増えてくると思われるので、閲覧状況を良くするための工夫を行っていききたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学医学部保健学科	運動系障害講義	1/15 (2020/1/31)	-	-

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士対策講座	1	10	2019/6/26
介護福祉士国家試験対策講座	1	3	2019/12/26

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

HTLV-1関連脊髄症の病態解明と治療法の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	35万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Initial human T-cell leukemia virus type 1 infection of the salivary gland epithelial cells requires a biofilm-like structure. /2019/6/21/Virus Res. /197643./共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
厚生労働科学研究費補助金	厚生労働省	2019/4/1～2020/3/31	35万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	なし
自己点検・評価委員会	委員	なし
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	公務出張
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平戸市社会福祉協議会職員研修会 「認知症の発症とその原因」	2019/9/17	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	2015/6/1～ 2019/5/31	公立学校共済組合 長崎支部長
長崎県指定難病審査会	委員	2019/1/1～ 2020/12/31	長崎県知事
社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	2019/6/1～ 2020/5/31	公立学校共済組合 長崎支部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際誌からの論文の査読依頼件数が26編あり、すべてに対応した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

学科長という立場にあったとはいえ、本年度は研究活動および外部資金獲得のいずれにおいても低迷した。来年度からは大いに努力を要する所である。また、講義についても例年同様に受講者の約半数くらいにしか、満足が得られていない状況にあり、今後はいかにすべての学生に興味を持たせていくかが大きな課題である。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 坂本 雅俊

1. 教育理念

本学の3ポリシーを実現するための教育に全力を尽くす。

開学時の提言に従い、長崎県北部で不足している指導的能力を備えた社会福祉人材を育成する。

社会福祉学専攻において、社会福祉学研究者を育てる。

地域社会に対して、ボランティア活動や審議会活動等に積極的に取り組むことで社会貢献する。

学生主体の授業や課外活動を行い、学生の成長を自分の喜びとする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	7	⑦⑫
生きがい情報士実習	15 / 15 (通年)	1	2	⑦⑪
社会福祉現場実習指導	15 / 15 (前期)	1	1	⑦
社会福祉現場実習	15 / 15 (前期)	2	1	⑪
健康・生きがいづくり総論	8 / 8 (前期)	1	32	①②⑨
ボランティア論	15 / 15 (前期)	2	95	②⑦⑩
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	6	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	②④⑥⑦
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	4	②④⑥⑦
保健医療サービス論	15 / 15 (前期)	2	62	①②⑥⑨
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	4	②④⑥⑦
スクール(学校)ソーシャルワーク 演習	1 / 15 (後期)	1	6	①⑤⑥⑩
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	②④⑥⑦
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	12	⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨
相談援助の基盤と専門職B	4 / 15 (後期)	2	69	①⑨
高齢者福祉論	15 / 15 (後期)	2	86	①②④⑤⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
介護福祉特講	3 / 15 (前期)	2/1・2年	2
地域福祉政策特別演習	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
特別研究指導Ⅲ	30 / 30 (通年)	4	0
高齢者福祉特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は講義型の授業アンケート/保健医療サービス(3年生以上)と高齢者福祉論(1年生以上)の2科目を依頼した。その結果、評価はそれぞれ、3.1と3.8の満足度であった。保健医療サービスでは、抜き打ちで学生にノート提出を求めたことが学生からの不評を買ってしまったことが自由記述から判明した。改善が必要な内容は、学生に分かりやすい授業のために、授業内容の量を減らす必要があると考えられる。授業についての満足度想定通りである。今後は、授業内容のわかりやすさ、話し方、熱意、学生参加を促すことなど全体的にさらに改善に取り組んでいく。自由記述では、ペアワークが負担との意見があり、演習型では悩ましい課題もである。現状以上に学生個別に細やかな対応を課題としている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

社会福祉学、高齢者福祉論、保険医療サービス論

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

研究実践報告「保健医療サービスの文献について」/2019/9/7/日本福祉図書文献学会第22回
全国大会 会場:九州ルーテル大学

資料報告 福祉学習支援の学問的アプローチ/2019/9/8/日本福祉学習支援学会 第21回長崎
大会 会場:長崎国際大学

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	なし
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
利益相反マネジメント委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- 1) 科目「ボランティア論」のボランティア。
- 2) 科目「専門基礎演習AB」のボランティア。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

新規事項はなし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外

2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和元年度社会福祉施設等研修会「スーパービジョン」施設長、管理者対象	2020/1/24	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
西海市社会福祉協議会	評議員	2014/5/27～ 2021/3/31	社会福祉法人西海市社会福祉協議会会長
長崎県国土利用計画審議会	委員	2017/4/1～ 2022/3/31	長崎県知事
西海市地域福祉推進会議	委員	2018/2/1～ 2020/1/31	西海市福祉事務所長
佐世保市国民健康保険運営協議会	委員	2018/4/1～ 2021/3/31	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

「NPO法人フリースペースふきのとう」の副理事長。佐世保における「ひきこもり者」の支援活動。

令和元年6月29日(土) 子どもサミット 開催。

令和元年8月31日(土)、9月1日(日) 第23回全国のつどいin長崎 登校拒否不登校問題 開催。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学院の社会福祉学専攻長として専攻の運営に尽力した。専攻では新任担当の教員があることから、そのフォローを含めて社会福祉学専攻の安定運営に努めたい。学部では、科目数が多く、内容も多様であることから、時間割毎の気持ちの切り替えと、学生の学修準備に応じた授業をすすめることで、学生の学修効果を上げたい。学生と手を携えて共に強靱な体力のある学科づくりの一員として努めてたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 高島 恭子

1. 教育理念

私の教育理念は、人間尊重を基礎とし、主体的に社会に貢献するために共に学ぶことである。

講義系の授業では、社会の多様な現象、価値観、文化などに関心をもち、かつ、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格できる程度の知識を身につけて欲しいと考えており、そのために講義を通してワークシートを完成させる、講義後にはふりかえり問題に取り組むなど、知識の取得・整理に自分で取り組む授業方法を行う。演習・実習系科目では、学んだ知識を用いて考え、主体的に他者に働きかける意欲と態度を身につけ高めてほしいと考えており、そのために事例検討やその他の課題にグループで取り組み、その後自身の取り組みについて振り返り、文章にまとめ発表し、グループで共有する授業方法を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
精神保健福祉援助実習B	75 / 75 (通年)	5	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
精神保健福祉論	8 / 15 (前期)	2	32	②④⑦⑪
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	3	⑤
卒業研究	30 / 60 (通年)	4	3	⑥⑦⑩⑪⑫
精神保健福祉援助演習(基礎)	15 / 15 (前期)	1	16	④⑦⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	6	①②⑥⑦⑩⑪⑫
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	38	⑪
社会福祉総合演習(精神)	4 / 15 (前期)	1	6	①⑥
相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	12	①④⑦
障害者福祉論	15 / 15 (前期)	2	53	①④⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
相談援助演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	①④⑦⑩
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	3	①⑥⑦⑫
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	6	⑤⑦⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	①②④⑤⑥⑦⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	9	②④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑦
相談援助演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	15	①④⑦⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	2 / 15 (後期)	1	38	⑪
障がい者スポーツ	3 / 15 (後期)	2	41	⑦⑪

相談援助の理論と方法 I B	15 / 15 (後期)	2	47	①④⑤⑦⑪
----------------	--------------	---	----	-------

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
障がい者福祉特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
地域精神保健特別演習	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1
事例研究(障がい者福祉)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

満足度(Q13)は平均3.4と低かった。「授業外学修時間を増やす」「アクティブラーニングを取り入れる」「国家試験の合格率を上げる」等、授業に関連して暗黙のうちに求められていることがらは多いが、「興味をもって学ぶ」「学ぶことをおもしろいと思う」ことが大学で学ぶ基本であると考え、国家試験受験資格の指定科目としての内容は尊重しつつ、学生も教員も「おもしろい」と思えることを一緒に学んでいきたい。

毎回授業後にマナバの小テストに問題をあげ、その点数を評価に加えることとしたことにより、準備学習を「した」と回答した学生は増えたと考えられる。しかし、興味・関心による学習ではないため、「させられ感」や不快感があったのではないかと思われる。さらに、授業内容と関連する国家試験の過去問題や模擬試験問題から小テストを作成したため、「学びたいのか」「問題を解けるようになりたいのか」困惑するような感覚があったのかもしれない。国家試験は重要であるが、授業の復習としては、しっかり考えて記述するような復習問題に変更したい。

「授業内容は興味あるものでしたか」(Q5)について、「良い」9名、平均3.3と低かった。国家試験受験資格の指定科目としての内容に縛られてしまうが、興味があってこそそのものであるので、映像を取り入れるなど工夫したい。

「板書や機器(OHP, パワーポイントなど)の使用」(Q9)について、「良い」8名、平均3.3と低かった。自由記述として、「パワーポイント、スライドがよい」とのことであった。「教科書を見ると分かる」「教科書を使うならプリントと合わせてほしい」などの記述から、教科書をわかりやすく教える狙いは果たせたと考えられるが、一方で教科書以上のことを教えようとする「教科書にない」と拒絶されがちだったとみられる。内容をどのように広げ深めていくのか、提示の仕方を考えたい。

全般的に低かったが、「準備学習」(Q1)の項目が、3.9と最も高かった。マナバに毎回の復習問題をあげることによって、学生に授業外学修をさせたいという意図をほぼかなえることができた。ただし、履修学生71名のうちマナバの提出は毎回50名前後、授業に参加し学ぼうとしている学生層と、そうではない学生が明確のように思われた。昨年度の授業評価では「座学のはずなのに、演習をしたりするのは改善してほしい」とのことであったが、グループや個人での活動やマナバ以外にも学生を学ぼうとさせる工夫を考えていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援夏季集中講座補講	3	42	2019/10/4, 2019/10/25, 2019/11/22
社会福祉士国家試験合格支援後期追加学修	2	42	2019/12/26
長崎県佐世保東翔高等学校非常勤講師	4	12	2020/1/22, 2020/1/29
日本社会事業大学 通信教育科精神保健福祉士短期養成課程	精神保健福祉援助実習(巡回指導)	1	2019/11/12, 2019/11/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①知的障がいのある人の意思決定支援
- ②障害者権利条約の国際的な進捗と社会開発
- ③精神保健福祉に関わる地域資源の開発と発展
- ④発達障害を持つ学生のキャリア支援
- ⑤福祉現場実習における学生及び実習先(施設・機関)の実習担当職員への支援のあり方

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「国連・障害者権利委員会へイギリス地方自治体協会の資料(2017年7月)」(翻訳) / 2019/4 / 日本障害者協議会ホームページにて公開 / 12頁 / 共著 / 翻訳
「デンマーク 第2回審査の簡易方式事前質問事項の前のパラレルレポート:デンマーク王国に対する「事前質問事項」に関しての「市民社会組織」から国連障害者権利委員会への提議(2019年2月)」(翻訳) / 2019/5 / 日本障害者協議会ホームページにて公開 / 22頁 / 共著 / 翻訳

「(国際委員会報告)「第1部第1章イタリアの社会福祉改革の下での専門ソーシャルワークの役割」
『ヨーロッパの社会構築とソーシャルワーク』(翻訳)」 / 2019/6 / 『ソーシャルワーカー』第18号 / 単
著:57頁～66頁 / 単著 / 翻訳

「JD仮訳にみる各国の障害者政策 第6回 イギリスの障害者政策」 / 2020/2 / すべての人の社会
Vol.39-11 2月号 通巻No.476 / 単著:8頁～9頁 / 単著 / 総説

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員長	例年通りの業務を滞りなく行うことができた。二重投稿が疑われた事案について対応した。2020年2月27日に第20回学術研究報告会を実施した。社会福祉学科の学科研究活動を取りまとめ原稿を作成した。
IRセンター	委員	学修時間、ルーブリック評価の入力、100冊読書の記録など、大学全体の課題を学科内で共有し、学科の議論を委員会に戻せるよう努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科運営委員会	委員	学科運営のために、委員会において毎月、学科内の課題と取り組みを整理した。
実習委員会	委員長	社会福祉士部会において、種橋部会長が相談援助実習の運営を円滑に行えるよう、補助した。
実習委員会(精神保健福祉士部会)	部会長	月に一度程度担当者の打ち合わせをもち、実習の円滑な準備と進行に努めた。「精神保健福祉援助実習指導 I」の体験的学習の企画運営、外部講師の調整と依頼を行った。
学科倫理委員会	委員	学部生から7件、教員から12件の申請があり、審査の結果、承認した。

人間社会学部倫理委員会	委員	6件の申請があり、審査の結果、承認した。
健康栄養学科・健康管理学 研究科研究倫理委員会	委員	学科審査委員として倫理審査に参加した。
子ども食堂委員会	第3回ワーキンググループメンバー	12月14日(土)実施の第3回子ども食堂の運営・準備を担当した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	公務出張
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	9

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「地域に住む障がい者を迎えてのパネルディスカッション」	2019/10/14	アルカスSASEBO	アルカスSASEBO

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会 身体障害者福祉専門分科会	委員	2015/4/1～ 2020/3/31	佐世保市長
社会福祉法人 あい里	理事	2019/6/26～ 2021/6/30	社会福祉法人 あい里 理事長
社会福祉法人宮共生会	評議員	2017/4/1～ 2022/3/31	社会福祉法人 宮共生会 理事長
抄録原稿査読小委員会	委員	2019/4/27～ 2019/8/31	公益社団法人日本精神福祉協議会
佐世保市保健福祉審議会	委員	2019/5/7～ 2022/4/30	佐世保市長
佐世保市福祉活動プラザ入居団体選定委員会	委員	2019/8/26～ 2020/3/31	佐世保市福祉活動プラザ所長
佐世保市人権施策審議会	委員	2019/10/1～ 2021/9/30	佐世保市長
特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会	理事(国際委員会)	2011/1/22～	特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会会長
長崎県精神保健福祉士協会	理事	2014/6/15～	長崎県精神保健福祉士協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2019年7月13日「第25回心の健康づくりフェスティバル」実行委員として参加(アルカス佐世保)、主催:心の健康づくりフェスティバル実行委員会、NPO法人チーム4×4
- ②2019年11月16日「第22回ウォーキング&ゲームラリー」実行委員として参加(佐世保市文化体育会館)、主催:佐世保市
- ③NPO法人チーム4×4理事

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2019年9月22日～9月28日 ジュネーブ(国連)で行われた国連障害者権利委員会と日本の障害者団体とのブリーフィングに参加した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、精神保健福祉士養成の「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」にて、長崎県精神医療センターでの見学学習を初めて実施することができた。ウォーキング&ゲームラリーや当事者会との交流など、体験的な学修とその振り返りを通して学生は精神保健福祉援助実習への準備性を高め、良好な成果を上げることができたと思う。講義科目では、マナバの活用等を通して学生に授業外学修をするよう促したりしたが、昨今の学生の状況の急激な変化から、授業の進め方を模索している状況である。

研究活動では、引き続き障害者権利条約締約国から国連に提出されるパラレルレポートの翻訳に取り組み、9月には国連で行われた日本のブリーフィングにも参加することができた。当事者の方々の主張や国連の取り組みを目の当たりにし、研究のあり方について刺激を受けた。

大学運営活動では、複数の委員会の役割を誠実に行うことができた。今年度は長崎国際大学論叢で二重投稿が疑われる事案が発生し、事務局、研究倫理委員会なども相談しながら対応にあたることができた。精神保健福祉援助実習に関連して、佐世保市内のNPO法人4×4や当事者の会、家族会などとの関係を深め、精神保健福祉士養成にご協力を頂ける関係を維持することができた。

社会活動では、長崎県手をつなぐ育成会と取り組んでいた「意思決定支援」の活動を冊子にまとめているところである。また今年度は新たにアルカス佐世保とともに、障害者の文化活動への参加や障害者理解についての取り組みを始めた。

全体として、教育活動、社会活動、研究活動それぞれに力を入れ、進展することができた。ジュネーブにて国際的な視野から障害者福祉を見ることができ、研究活動について振り返り、新しいものを常に授業に取り入れ、未来を考える足掛かりとなるような教育活動をしたいと考えた。研究活動、社会活動を関連付けながら発展させ、教育活動に反映させていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 大島 啓

1. 教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境(経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体)から捉える視点を獲得することである。複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、〈私〉に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相対し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	6	⑦⑫
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	8	⑥
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	2	⑥⑦⑫
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	6	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨⑫
社会福祉原論B	15 / 15 (前期)	2	75	②
社会学概論	15 / 15 (前期)	2	183	②
相談援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	6	⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	8	⑥
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨⑫
障がい者スポーツ	1 / 15 (後期)	2	41	⑪
社会の理解	15 / 15 (後期)	2	42	②
社会福祉原論A	15 / 15 (後期)	2	37	②
社会学	15 / 15 (後期)	2	54	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	7 / 15 (前期)	2/1・2年	3
社会福祉調査特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
社会福祉調査特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
事例研究(社会福祉調査)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度学部・大学院では、昨年度とほぼ同様の授業を担当した。「社会学(福祉)」は福祉学科の必修科目扱いであるが、今期は観光学科の学生もかなり履修しており、大人数の授業となったため、授業準備には多大な労力を費やした。しかし比較的好評のうちに終えることができた。国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施し、観光学科の学生からも好評を得た。「社会学概論」は観光学科の教職科目であるが、比較的自由的な授業内容にペアワーク等も活用して、大変好評であった。「障がい者スポーツ」(オムニバス)では、例年と同じく取りまとめ役を担当し、他の担当教員や外部講師との連絡調整などの煩雑な業務を無事やり終えることができた。「社会福祉原論AB」でも、国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施し、例年と同様の好評を得た。毎回ペース配分が難しい「社会の理解」は、時間内に所定の内容をこなすことができた。「卒業研究」と「専門演習AB」では、できるかぎり意見交換の時間をとり、教員と学生、学生間の相互理解が深まるよう努めた。今年度の「卒業研究」は担当が2名であったため、指導時間には比較的余裕があった。大学院の科目は院生に資料作成を義務付け、その資料をもとに丁寧に指導することを心掛けた。今年度は主指導の形で担当する院生はいなかったが、修士論文で社会調査を行う予定の院生が1名いたため、調査の知識・スキルの伝達に多くの時間とエネルギーを費やした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①現代ドイツの社会理論 ②福祉専門職の社会的承認

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会(全学)	委員	入試募集委員会から学科への業務の伝達や担当調整、オープンキャンパスの業務を担当した。入試制度改革の学科案を取りまとめるため、他学科の教員と複数回会合を持った。
作問委員会(全学)	委員	「世界史」の入試問題を作成し、他の作問者との連絡・調整を取りまとめとして行った。
専門演習委員会(学科内)	委員長	来年度の3年生と4年生のゼミ配属作業の取りまとめを担当した。
倫理委員会(学科内)	委員	学科内における教員と院生・学生の調査研究の倫理審査を担当した。
相談援助実習委員会(学科内)	委員	社会福祉士の相談援助実習の業務を担当した。
学内学会委員会(学科内)	委員	学内学会の企画・運営に積極的に参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	グループメンバー	長崎県と市が進めるIR構想を検討する研究会のメンバーとして、第一回目の発表を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加者にイベント告知のDMを郵送する事業の責任者

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
九州文化学園高等学校2/3年生対象進学説明会	2019/6/7	九州文化学園高等学校	本学

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	2017/4/1～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ① キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターの学生生活サポート室室員として活動した。
- ② 公認障がい者スポーツ指導員資格取得認定校の研修会に参加した。
- ③ 日本社会分析学会の学会誌編集委員を担当した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

勤務6年目で、授業準備についてはある程度時間や労力を省力化できるようになってきたが、福祉制度の改正に伴う教科書の頻繁な改訂に対応することに、専門外の自分は多くの時間を取られ苦慮している。大学院生の指導状況や学会・研究活動(学会誌の編集委員や特集コーディネーターの活動、教科書執筆)については、授業準備と同様多くの時間を要したものの、一応満足できる出来であったと自負している。また本年度はIR研究会のメンバーとして7月に報告を行い、学生生活サポート室室員の業務を担務したことも印象深い。一方、教員の出入りが激しい学科において、教員がお互

いを思いやったり連帯感を形成したりすることが万事難しくなっており、教員のインセンティブを保つことの難しさを例年以上に痛感した。学科に難問は山積みであるものの、日々増加・複雑化する業務と格闘しながら、来年度も正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標(定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など)の達成を目指したい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 韓 榮芝

1. 教育理念

教育の理念は、以下のような3点を主としている。

- ・学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
- ・コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。
- ・学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	1 / 90 (通年)	4	7	⑦
地域福祉論A	1 / 15 (前期)	2	55	①②⑧⑨⑩
専門演習A	1 / 15 (前期)	1	3	①②③④⑤⑥⑦
卒業研究	1 / 60 (通年)	4	5	⑧⑨⑩⑫
中国語 I A	1 / 15 (前期)	1	60	②③⑧⑨⑩
相談援助実習指導 II A	1 / 15 (前期)	1	7	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨⑫
中国語 I A	1 / 15 (前期)	1	44	②③⑧⑨⑩
教養セミナーA	1 / 15 (前期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑩⑫
相談援助演習 II A	1 / 15 (前期)	1	14	⑤⑥⑦
専門演習B	1 / 15 (後期)	1	3	①②③④⑤⑥⑦
相談援助実習指導 I	1 / 15 (後期)	1	8	①⑤⑥
相談援助実習指導 II B	1 / 15 (後期)	1	7	④⑤⑥⑦
教養セミナーB	1 / 15 (後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑩⑫
相談援助演習 II B	1 / 15 (後期)	1	13	⑤⑥⑦
中国語 I B	1 / 15 (後期)	1	19	③⑦⑧⑨⑩
キャリア開発B	1 / 15 (後期)	2	37	⑤⑥⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨⑫
中国語 I B	1 / 15 (後期)	1	40	③⑦⑧⑨⑩
地域福祉論B	1 / 15 (後期)	2	50	①②③⑧⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域福祉計画特講	1 / 15 (前期)	2/1・2年	1
地域福祉計画特講	1 / 15 (前期)	2/1・2年	1
事例研究(地域福祉計画)	1 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「教養セミナー」について、前期のアンケート結果は(後期のアンケートは実行しなかった)、履修生8名の内、授業に対する満足度の平均評価は4.5(去年4.3)で、去年より0.2ポイントアップした。改善策としては、学生の反応や実情をよく把握して授業を進めていくことが大事であり心をかけて進めたこと。また、学生のニーズを随時にキャッチし、学生の要望に出来る限りに応じて、学生と一緒に考えて授業内容や方法を考え、学生自身が学ぶことに対する興味や関心、学習意欲を高める様に学修環境を作ることが重要だと考えて行なったこと。

「地域福祉論A/B」においては、履修者71/67名のうち61/54名の回答の平均満足度は3.7(去年3.8)/3.6(去年3.5)であった。受講生に理論的な知識がけでなく、現場の実際を知るために動画やゲストスピーカーによる授業を行ったりして、授業毎にシラバスの内容に沿って授業レジュメをPPTで作成し配布するなど。授業内容に応じて個人ワークやグループワークを行なって理解を深めること。個人ワークやグループワークの間に学生の反応を確認するしたり質問を応じて行なった。授業毎に出席カードにコメントを書いてもらい、フィードバックを行った。また授業レジュメや参考資料をnamabaにてアップし、授業後の課題レポートを出して復習及び予習を促したこと。

授業評価は全学平均よりやや低いものの、去年より満足度が少し上がった。全体として、学生自ら学修意欲を高めていくために授業内容を如何に分かりやすく工夫していく必要がある。そのために学生のご意見を真摯に受け止め受講生に実情に応じて改善策をしっかりと講じていかなければならない。また相互授業や他の先生の授業を参観し、教員間の交流を通じて授業の進め方や学生が主体的に学修内容に興味や関心を持てるように工夫し研究を進めていく。

「中国語 I A」のは、履修者69名中60名の授業満足度の平均は4.3であった(去年4.0、4.0)。去年より0.3ポイントアップ。「中国語 I B」は、履修者57名中49名(回答率86.0%)の授業の満足度は平均4.3(前期同様)であった(去年4.1、昨年4.0)。去年より0.2ポイントアップができた。前期Aの基礎的発音を中心であったが後期は前期の内容を踏まえ簡単な日常会話や文法も取り入れながら、中国語に興味や関心を持つことだけでなく少し話せることで自信につなげるように力を入れた。そのために、ペアで発音練習をしたり、発表してもらったり、授業毎に一人ひとりの発音を聞いて最終確認を行うこと。後期Bの受講生数は前期より20数名が少ないため、また、個人ワークやグループワークを多めにとることで学生と向き合う時間が増え、学生の表情や会話、質問を聞く余裕ができた。受講生の学習状況の把握や全員ではないものの、多くの学生と関わる事ができて楽しく勉強する環境作りが重要であり、故に互いに信頼関係を築くことが非常に大事だと感じている。これからも良い授業方法や内容を受講生の実情に応じて編成していく。

受講生が年々増えたことで、中国や中国語に興味を持ったことで大変嬉しいこと。中国語の発音が難しいとよく言われているが、受講生らに楽に発音できるように、分かりやすく覚えるコツを考えて教えること。また、いかに早く中国語を上手に話せるように、中国の文化や実情などを伝え、中国に興味を湧くようになること。しかし、多人数の教室でどうしたら受講生全員が上手にできるのか、良い授業方法や内容を編成していくのか大きな課題でもある。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 中国の高齢化社会における地域トータルシステム構築に関する研究
- ② 多職種連携における独居高齢者の訪問ケアに関する研究
- ③ 日中両国の社会福祉学に関する研究・交流活動の取り組みについて
- ④ 日中両国の介護職員養成の現状と課題の比較研究
- ⑤ 三川内焼UTエリアフリー調査研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	外国短期交換留学生への面接担当 留学生の生活支援など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
観光学科多言語コンテスト	審査員	留学生や日本人学生における多言語コンテストの審査など
保育講座	講師	保育士国家試験のための講座 年に2回90分 科目:保育原理
ハラスメント委員会	委員	教職員及び学生からの相談とニーズ把握
卒業連携委員会	委員	20周年全学事業(イベント企画)の参与
学生支援委員会SA	委員	障害などを持つ学生の生活支援、留学生の学習・生活支援活動。 留学生や学力の低い学生への支援のため、支援計画や運営に携わること

(3) 課外活動の指導等

- ・中国人留学生の生活指導(アルバイトの紹介や生活相談など)
 - ・書道サークルの顧問及び書道展示会の監督
- ・中国人留学生の就職指導(履歴書の書き方や面接指導及び練習など)
- ・中国人留学生の日本語指導(週に1回60分)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

長崎県中国語コンテスト審査員に務めた際に、中国人大学生に本大学地域マネジメント博士後期課程への紹介

福岡会場大学入試監督入試監督

オープンキャンパス資料作成、運営など

中国瀋陽大学短期研修生日本における地域福祉の現状と課題について、社会福祉学科紹介など

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
日本の地域福祉の現状と課題 ～医療と福祉の連携について～	2019/9/18	長崎国際大学 2105教室	佐世保市役所国際 政策課

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市都市政策協議会	副会長	2019/2～2021/3	佐世保市市長

(3)社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市役所の瀋陽市との経済交流に関わる協議活動への参加、通訳など

早岐警察署との連携による留学生の日常生活支援活動

早岐警察官との連携における地域高齢者の交通事故に関する研究活動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院社会福祉学短期研修プログラム	学術・学生交流プログラムの作成、通訳、学生・大学院生間の交流、施設見学の案内、通訳など	2019/7/15～ 2019/7/24	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育においては、ゼミ生(1年8名、3年3名、4年5名うち留学生2名)の指導をしており、出席管理システムを通じて出欠の確認を細目に行い、欠席の多い学生に日常生活の指導も含めて規則正しい生活ができるように指導し離脱防止に努める。授業は前期10コマと後期11コマ、大学院前期と後期1コマずつを担当しており、授業アンケートの満足度は前年度より微増しており、現役学生の大学院への進学や、多大学生や中国国内の卒業生への指導も極力に務め、進学者の増加(修士課程2名、博士後期課程1名の入学)に繋げることを目指している。課程外教育として、週に1回日本語勉強会を開き、留学生の日本語力の向上に努める。

研究に関しては、学長裁量経費のメンバーの1員として、三川内焼き物地域などの観光における福祉のバリアフリーに関する踏地調査、報告書のまとめなどを実施。長崎国際大学社会福祉学内学会のリーダーとして運営し、研究紀要やニュースレターの編集などに務める。

社会貢献では、佐世保市都市政策協議会副会長として努め、佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトに参加し公演の依頼を受け、日本の地域福祉の現状と課題に、とりわけ医療と福祉の連携について講話を行なった。また、第45回長崎県中国語コンクールの審査員として務める。医療法人くりや病院や社会福祉法人鐘の鳴る丘からのボランティア要請に応じて学生への呼びかけ、引率者として参加。大学運営では国際交流委員として、上海大学社会学院との共同研究・研修などに努める。広報活動として、学内学会の開催に関する企画・運営に努める。大学設立20周年イベントの企画メンバーの1員として取り組んでいる。学科委員会では、実習委員会、学生支援委員会、学内学会、ボランティアセンター、教養セミナー部会、などに努める。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 柳 智盛

1. 教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学(臨床心理・障がい児者心理、教育心理)の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	60 / 90 (通年)	4	3	⑦⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	9	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	8	④
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	17	④⑦
教育相談(カウンセリングを含む。)	15 / 15 (前期)	2	21	③⑤⑩
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	11	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
障害の理解 I	5 / 15 (前期)	2	22	③⑤⑨⑩
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	3	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨
臨床心理学	15 / 15 (前期)	1.5	110	③⑤⑦⑩
教育心理学	15 / 15 (前期)	2	34	③⑤⑩

心理学	15 / 15 (前期)	2	70	③⑤⑦⑩
教職実践演習(栄養教諭)	1 / 15 (後期)	2	1	⑤⑩
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	3	①④⑤⑥⑦
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	6	⑤⑦⑩⑪⑫
加齢と障害に関する理解	8 / 15 (後期)	2	13	③⑤⑨⑩
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	20	②⑤⑦⑫
障害の理解Ⅱ	5 / 15 (後期)	2	26	③⑤⑨⑩
児童心理学	15 / 15 (後期)	2	30	③⑤⑦⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
障がい者心理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
福祉と心理特別演習	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業アンケートにおいては、心理学、児童心理学、臨床心理学(薬学)などを中心にアンケートを実施した。満足度の平均が3.9～4.3の結果であった。心理・諸問題についてのより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に、福祉学科専門科目においては社会福祉士国家試験での予測問題と関連づけて説明すること、薬学の専門科目としての臨床心理学においては薬剤師が患者さんを支援する際の心理的支援の事例などを用いてグループワークを行うことで、学生個々の意見を述べさせることで授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学園	心理学	15/15(後期)	2	33
九州文化学園調理師専 門学校	高齢者心理	3/15(後期)	2	12

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

2. 発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的变化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

3. 高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

臨床動作法の実践をまなぶ/共著/2019/10/新曜社/87頁～101頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
NIUピア・サポート学生組織を通じた課題解決型学修の効果と課題	令和元年度長崎国際大学学長裁量経費	2019/5～2020/3	60万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員として全学及び学科のカリキュラムの編成や調整などの検討を行った。
CHサポートセンター運営委員会	副委員長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート運営に携わった。また、合理的配慮面談や検討会議への出席・審議を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
教育基盤センター運営委員会	委員	本学の教育の質の向上に向けて検討・改善を図った。
学科運営委員会(社会福祉学科)	副学科長	社会福祉学科の運営に係る事項に関する審議検討のための準備に携わった。
教育内容向上委員会(社会福祉学科)	委員長	社会福祉学科内の各学年部会及び実習部会に関する事項の総括
社会福祉学科学生支援委員会(社会福祉学科)	委員長	社会福祉学科内のSA運営、特別奨学金制度利用学生への支援などに関する事項の総括
実習委員会(社会福祉学科)	委員	主に障害福祉分野の実習に関する検討・改善を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
将来構想委員会(社会福祉学科)	副学科長	2021年度に予定されるカリキュラム変更に伴う、社会福祉学科のカリキュラム編成及び学科運営に関する検討

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夢ナビライブ2019福岡会場にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して本学について紹介した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
7	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習会	2019/8/27	長崎国際大学	長崎国際大学
長崎県立口加高等学校「福祉科」開科記念式典及び福祉講演会	2019/5/17	長崎県立口加高等学校	長崎県立口加高等学校
長崎県教育センター特別支援教育コーディネーター研修講座	2019/6/27	長崎県教育センター	長崎県教育センター
長崎県立川棚高等学校主催「特別支援教育研修会」	2019/11/26	長崎県立川棚高等学校	長崎県立川棚高等学校
長崎県障害児(者)地域療育支援事業	2019/8/10～13	国立諫早青少年自然の家	長崎県肢体不自由児者父母の会連合会
佐世保市障害児(者)地域療育支援事業	2019/9/14,15	長崎県立佐世保青少年の天地	長崎県肢体不自由児者父母の会連合会

佐世保市障害児(者)地域療育支援事業	2019(7回)	佐世保特別支援学校	世保市子ども育成課
--------------------	----------	-----------	-----------

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市いじめ防止対策推進委員会	委員長	2018/7/17～ 2020/7/16	佐世保市教育委員会教育長
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2019/4～2020/3	総合臨床心理センター長
共同生活支援事業所「佐世保中央運営推進会議」	委員	2019/10～2020/10	社会福祉法人南高愛隣会理事長
九州文化学園小学校2次適性検査	監察官	2020/1/25	九州文化学園小学校中学校校長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2015年4月～現在に至る/佐世保市学習支援会/学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役/佐世保市生活福祉課学習支援委員会
- ②2015年4月～現在に至る/九文事例検討会/アドバイザーとして参加/九州文化学園所属教職員
- ③2015年4月～現在に至る/自閉症児の余暇活動/活動企画者及び相談役として参加/長崎県自閉症親の会佐世保支部
- ④2019年4月～2019年12月/Reaching out to People(難病患者の会)/委員/佐世保地域リハビリテーション広域支援センター・Reaching out to People2019実行委員会

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
韓国国立広州大学主催「2020年冬季心理リハビリテーション臨床動作キャンプ」	障害学生心理リハビリテーション及び家族支援プログラムの講師として参加した。	2020/1/30～ 2020/2/2	韓国国立広州大学 校

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年12名(1名は留年)、3年6名の指導を行った。卒業論文では、留年生1名を除き全員が専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。特に、担当ゼミ生のうち配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に7名が社会福祉士国家試験に挑戦し、4名が合格した。その内2名は精神保健福祉士とダブル合格した。

全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会副委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かして、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。

社会活動としては、昨年度の引き続き「佐世保市いじめ防止対策推進委員会」の委員長として、昨年度作成した佐世保市の学校教育現場に提言書の確実な実行などについて委員長として引き続き検証する役割を果たすことができた。また、地域の障害児・者を対象としてボランティア活動を同法人内の長崎国際大学・長崎短期大学・九州文化学園高校の学生・生徒たちと一緒に継続的に取り組むことができた。

個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上のに向けたFD・SDを企画実施し、「NIUピア・サポート学生組織を通じた課題解決型学修の効果と課題」と研究テーマで、ピア・サポート学生の育成及び体制構築を図ることができた。また、昨年度より社会福祉学科の副学科長として学科長を支えることができたことは、貴重な経験となったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 脇野 幸太郎

1. 教育理念

- ・学生が自ら学び、考え、解決し、理解する。これらのことを通じて、「学ぶことの意義と楽しさ」を体感してもらえるような教育を行うこと。
- ・社会人として、「切り替え」のできる力(やるときはやる、楽しむときは楽しむ)を身につけてもらうこと。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	7	⑦⑫
行政法	15 / 15 (前期)	2	29	①②③⑨
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	①④⑤
社会福祉総合演習(福祉共通)	4 / 15 (前期)	1	38	①⑧⑨
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	8	③⑤⑥⑦⑫
福祉科教育法	15 / 15 (前期)	4	3	①④⑤
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑫
社会保障論B	15 / 15 (前期)	2	55	①②③⑨
公的扶助論	15 / 15 (前期)	2	50	①②③⑨
日本国憲法	15 / 15 (前期)	2	106	①④⑨⑩
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑥⑦
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑧
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
社会福祉法制論	15 / 15 (後期)	2	16	①②⑨⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	3 / 15 (後期)	1	38	②⑧⑫
社会保障論A	15 / 15 (後期)	2	53	①②③⑨
法学	15 / 15 (後期)	2	83	①②③④⑨⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
社会保障特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
地域マネジメント論特別演習	5 / 15 (前期)	2	1
地域福祉政策特別演習	7 / 15 (前期)	2/1・2年	1
社会保障特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

事例研究(社会保障)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
------------	--------------	--------	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの結果は、前年度とほぼ同様であった。もう一伸びが必要である。

私語に対する注意を、例年同様徹底して行った。この点については、多くの受講生から評価を得ている。

その他、解説のわかりやすさを評価する意見が多い。この点は今後もさらに徹底していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
山口県立大学大学院	社会福祉学講究	15/15(前期)	2	7
長崎県立大学大学院	保健医療福祉行政論	8/8(後期)	1	4

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験対策追加学修時間	8	30	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

専攻分野: 法律学、特に社会保障法

研究テーマ: 公的扶助史、地域と社会保障に関する研究、社会保障における住宅保障のあり方、住宅政策における平等原理

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	5	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

トピック社会保障法 第14版/共著/2019/4/1/不磨書房/226頁～256頁

変わる福祉社会の論点 第2版/共著/2019/9/20/信山社/159頁～165頁、240頁～253頁

よくわかる公的扶助論—低所得者に対する支援と生活保護制度/共著/2020/3/15/法律文化社/31頁～64頁、117頁～126頁、169頁～179頁

国民の福祉と介護の動向/共著/2019/9/5/厚生労働統計協会/192頁～217頁、221頁～227頁

社会福祉学習双書2019 3 老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度/共著/

・論文等(題名／発表年月／掲載誌等:○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分)

社会福祉系学生の進路傾向と国家資格取得状況 希望及び決定進路と社会福祉士国家試験／
2019/3／長崎国際大学論叢 第19巻／111頁～124頁／共著／論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	第3期認証評価にあたり、委員として学科内で必要な作業のとりまとめを行った。
広報委員会	副委員長	副委員長として委員長を補佐し、広報活動の充実に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	メンバー	IRおよびカジノのあり方等について、メンバーおよび学部関係者(行政関係者等)と研究会活動を行う。

(3) 課外活動の指導等

・吹奏楽部顧問 現在、吹奏楽部は、学園祭、定期演奏会等の学内活動だけでなく、福祉施設等学外での演奏・ボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。地域での演奏活動を通じて、本学の地域貢献の一翼を担うことができたと考えている。

・子ども食堂活動の担当 社会福祉学科では、年4回の子ども食堂を実施しているが、そのうち8月実施分について、担当者として運営を行った。学外の団体と連携し、地区公民館を会場として子どもたちの学習支援活動および食事提供を行った。

・2019年7月28日～29日に実施された神戸ソーシャルワーク研修の引率、指導を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・清峰高校大学訪問模擬授業 2019/6/18
- ・大村城南高校出前授業 2019/11/27

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	13

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
やまづみ荘ケアマネジャー試験対策講座	2019/9/17,19	やまづみ荘	社会福祉法人三省会やまづみ荘施設長
平戸市社会福祉協議会 成年後見研修	2019/12/9	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会

社会福祉法人一粒の麦の会 コンプライアンス研修	2019/12/11,16	一粒の麦の会	社会福祉法人一粒の麦の会
佐世保市南地区第2回支え合い推進会議 講演	2020/2/17	南地区公民館	山澄地域包括支援センター

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市社会福祉協議会 させぼ成年後見センター 運営委員会	委員長	2018/4/1～ 2020/3/31	佐世保市社会福祉協議会 会長
佐世保市保健福祉審議会 民生委員審査専門分科会	委員	2015/4/1～ 2020/3/31	佐世保市
佐世保市社会福祉協議会	理事	2017/6/1～ 2019/5/31	佐世保市社会福祉協議会 会長
させぼ成年後見センター	運営委員	2018/4/1～ 2020/3/31	佐世保市社会福祉協議会
佐世保市保健福祉審議会	委員長	2019/4/1～ 2022/3/31	佐世保市長
佐世保市社会福祉協議会	理事	2019/6/1～ 2021/6/30	佐世保市社会福祉協議会
長崎保護司選考会	委員	2012/5/26～ 2022/5/25	法務大臣
社会福祉法人清風園	苦情解決第三者委員	2015/4/1～	社会福祉法人清風園
社会福祉法人長崎友愛会	評議員	2019/4/1～	社会福祉法人長崎友愛会
社会福祉法人一粒の麦の会	苦情解決第三者委員	2019/11/1～	社会福祉法人一粒の麦の会
長崎県介護保険審査会	委員	2017/4/1～	長崎県知事
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	2015/4/1～	東彼杵町長
福祉生活協同組合いきいきコープ	苦情解決第三者委員	2019/11/1～	福祉生活協同組合いきいきコープ理事長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

・「票育」活動の指導 大村市教育委員会・選挙管理委員会の委嘱にもとづき、同市内での「票育」活動の指導を行った。本学、長崎県立大学、長崎大学の学生が大村市内の中学校、高校等において「主権者教育」プログラムを実施する活動で、本年度で4年目を迎える。他大学や行政と連携した地域貢献活動として、関係各所から高い評価を得ており、来年度以降も継続的に実施していく予定である。

・ひきこもり支援団体への学識経験者としての参加 佐世保市内に拠点を置くNPO法人「フリースペースふきのとう」の活動に学識経験者・会員として参加し、各種イベント等の運営補助、全国セミ

ナーへの参加、講演活動等を行っている。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院短期研修	上海大学社会学院の学生・院生約20名を受け入れ、講義、学外研修(雲仙)の引率等を行った。	2019/7/16～7/24	社会福祉学科、上海大学社会学院

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・研究活動が十分ではなく、単著論文の作成ができなかった。新年度向けに科研費申請も行っており、今後の博士論文作成を意識した研究活動、成果の公表を積極的に行っていきたい。
- ・教育活動、地域貢献活動、社会活動については、一定程度役割を果たすことができたと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 安藤 佳珠子

1. 教育理念

私の教育理念は、以下の3点である。

1. 実践力のある専門職養成

私は、資格取得を目指した精神保健福祉士・社会福祉士の養成ではなく、実践力のある専門職の養成をしたい。私はこれまで精神科ソーシャルワークの実践の中で学んできた。ソーシャルワークの楽しさを知る一方で、質を十分に担保できずにいるソーシャルワーカーの現状に憤りを感じていた。他職種からみると、ソーシャルワーカーは「社会資源を教えてくれる人」「手続きをしてくれる人」という認識でとどまており、「生活を一緒につくっていく人」「地域を一緒につくっていく人」「言葉を一緒につくっていく人」という社会変革をイメージするような認識には至っていない。これは、これからのソーシャルワーカーの課題であり、社会変革を実践できるようなソーシャルワーカーの養成が問われている。

2. 誰も排除しない小集団の授業運営

なかでも、学生たちが集団のなかで育っていくことを保障する養成を展開したい。ソーシャルワーカーにとって、学生時代どのような集団で育ってきたのかが、ソーシャルワーカーとしての育ちに大きな影響を与えるのではないかと考えるからだ。こうした教育は、エンパワメントにおけるマイクロ・メゾの関連や、集団における自己効力感、「誰も排除しない」というソーシャルインクルージョンの理念などの理解を深めることにつながる。

ゼミ運営では、誰も排除しないゼミづくりを目標に取り組んできた。ゼミは、真面目に取り組む学生だけではなく、サボる学生、課題をやってこない学生、発言しない学生などがおり、またメンバーの好き嫌いもあるなかで運営される。そのため、秋には「ゼミをアセスメントし、このゼミをどのようにしたいか」という課題を出し、グループで取り組んでいる。一人一人のニーズやゼミ全体のニーズを検討するなかで、お互いを理解し合い、その上で、ゼミを一人一人が主体的に運営するためにはどのようにしたらいいのかについて議論することを目的としている。

3. 地域と協働した教育実践

また、地域に貢献できる学生の育成や教育実践を展開したい。今年度、ゼミで、長崎国際大学ボランティア活動企画コンテストで最優秀賞を取り、中国人の家族を対象として、学生主体で、お弁当づくりと遠足を企画した。当初、子ども食堂を企画するなかで、中国人家族と出会ったが、学生たちが、母親たちとかがかわるなかで、中国ではお弁当をつくる習慣がないという聞き取りに基づいて、計画したものである。学生たちは、そのかわりのなかから、母親たちが抱える文化的な問題とともに、日本文化を理解していただくだけの時間的・経済的余裕がないことにも気づいていった。12月の開催にもかかわらず、合計40名の参加となった。こうした地域での実践によって、学生たちが自然と地域のニーズを見

つけていく姿を見て、若者と地域と学校を結ぶ教育実践を今後も展開していきたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
精神保健福祉援助実習B	1 / 75 (通年)	5	6	⑫
スクール(学校)ソーシャルワーク実 習(SSW)	15 / 15 (通年)	2	7	⑦⑪⑫
精神保健福祉援助演習(専門)A	15 / 15 (前期)	1	6	①④⑤⑥⑩
スクール(学校)ソーシャルワーク実 習指導(SSW)	15 / 15 (前期)	1	7	①⑦⑩⑪⑫
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	2 / 15 (前期)	1	6	④⑥⑦⑩⑫
スクール(学校)ソーシャルワーク論	15 / 15 (前期)	2	13	①⑤⑦⑩
社会福祉総合演習(精神)	4 / 15 (前期)	1	6	①⑥
相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	14	⑤⑥⑦
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑦⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	2	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅠA	15 / 15 (前期)	2	11	①⑤⑥⑩
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅡA	15 / 15 (前期)	2	6	①⑤⑥⑩
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	5	④⑤⑩
スクール(学校)ソーシャルワーク 演習	15 / 15 (後期)	1	6	①⑤⑥⑩
精神保健福祉援助演習(専門)B	15 / 15 (後期)	1	6	①④⑤⑥⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	4 / 15 (後期)	1	6	⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5 / 15 (後期)	1	9	①⑥⑦
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅡB	15 / 15 (後期)	2	10	①⑤⑥⑩
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅠB	15 / 15 (後期)	2	9	①⑤⑥⑩
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	14	⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉専門)	2 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

以下、授業アンケートにおける「授業に対する満足度の評価結果」を示す。
アンケート結果によると、授業に対する満足度は、比較的高いようである。

【2017年度】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A	3.9
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A	4.8
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B	4.8
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II B	4.8
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	4.1
精神保健福祉援助演習(専門)A	4.6
精神保健福祉援助演習(専門)B	4.6
スクール(学校)ソーシャルワーク論	4.7
地域福祉論B	4.1
教養セミナーA	3.8

【2018年度】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A	4.8
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B	4.9
精神保健福祉援助演習(専門)A	4.8
精神保健福祉援助演習(専門)B	4.5
教養セミナーA	4.7

【2019年度】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A	5.0
精神保健福祉援助演習(専門)B	5.0
教養セミナーA	4.7
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	4.5

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

青年期における集団形成と人格発達の関連

これまで、摂食障害やひきこもり、家庭内暴力、統合失調症、社会不安障害などを呈する若者と出会ってきました。彼らとの出会いのなかで、彼らは育つ場を奪われているのではないかという問いをもつようになりました。育つ場とは大それたものではなく、ごくごく日常的な会話—例えば「昨日、何のTV見た?」「今〇〇が欲しいの」「友だちにこんなこと言われた」「家族と喧嘩した」「バイトで褒められた」など—で構成される場です。私たちは日々、無数に交わされる日常的なやりとりによって生活をし、育っていきます。しかし、障害や病気によって、他者とのかかわりが制限され、日常的なやりとりは大幅に減ってしまいます。それが何年も続けば、育ちに大きな差異が生じます。残念ながら、こうした育ちへの支援が十分に機能しているとは言えません。

私は、彼らの育ちを保障するためには、仲間づくりが必要であると考えています。「仲間のなかで育つ」ことが、日常的なやりとりを彼らの生活に取り戻すことだからです。そのため、彼らが仲間づくりの中でどのように育っていくのかを明らかにする研究をおこなっています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	1	1	2	2	430万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:〇頁～〇頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:〇頁～〇頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

安藤佳珠子「クリティカルソーシャルワークに基づくソーシャルワーク教育実践の試み—スクール(学校)ソーシャルワーク論における実施に基づいて—」/2019/3/『長崎国際大学教育基盤センター紀要』第2巻/1頁～12頁/単著/原著論文

安藤佳珠子「ひきこもりの若者の生きづらさに対するソーシャルワークの意義—不安定化・個人化する移行に焦点をあてて—」/2019/3/『長崎国際大学論叢』第19巻/125頁～136頁/単著/原著論文

安藤佳珠子「ひきこもりの若者の居場所におけるソーシャルワークの意義—承認論に基づいた検討—」/2019/3/『長崎国際大学社会福祉学会学会誌』第15号/1頁～10頁/単著/原著論文

金子麻実, 安藤佳珠子「スクール(学校)ソーシャルワーク演習における授業展開方法についての一考察」/2019/3/『長崎国際大学社会福祉学会学会誌』第15号/36頁～49頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

安藤佳珠子「ひきこもりの若者の葛藤する機会を保障するソーシャルワーカー ソーシャルワークにおける方法論の確立を目指して」/2019/9/日本社会福祉学会第67回秋季大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
特別研究員奨励費	日本学術振興会	2011/4～2013/3	300万円
JSPSS科研費 若手研究	日本学術振興会	2019/4～2022/3	130万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
韓国中央大学大学院・ソウル市立青少年職業体験センター	若者のひきこもりの支援の実践妥当性に関する日韓比較研究 —集団参加効果の実証化—	2011/8～2012/3

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営センター	委員	委員

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー部会	委員	教養セミナー部会への参加
専門演習部会	委員	専門演習部会への参加
スクール(学校)ソーシャルワーク部会	部会長	スクール(学校)ソーシャルワーク部会への参加
教育向上委員会	委員	教育向上委員化への参加
精神保健福祉士国家試験合格支援委員会	委員	精神保健福祉士国家試験合格支援委員会への参加
学生支援委員会	委員	学生支援委員会への参加
ボランティア研究センター	委員	ボランティア研究センターへの参加
保育士講座	委員長	保育士講座の企画・運営
精神保健福祉実習部会	委員	精神保健福祉実習部会への参加
学内学会	委員	学内学会の企画・運営

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①清峰高校大学見学会の講師/2017年6月/長崎国際大学

- ②オープンキャンパスにおける模擬グループワークの実施／2017年8月／長崎国際大学
- ③清峰高校大学見学会の講師／2018年6月／長崎国際大学
- ④オープンキャンパスにおける模擬グループワークの実施／2018年8月／長崎国際大学
- ⑤オープンキャンパスにおける模擬講義の実施／2019年3月／長崎国際大学
- ⑥オープンキャンパスにおける模擬グループワークの実施／2019年8月／長崎国際大学

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	欠席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	欠席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
13	3

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
子どもの学びを支える-スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働-	2017/8	長崎国際大学	長崎県教育委員会
スクールソーシャルワーカーの視点と活用	2017/8	長崎国際大学	長崎国際大学

ひきこもりの当事者、その家族の悩みに応える国民年金学習フォーラム	2017/9	アルカス佐世保	NPO法人フリースペースふきのとう
ひきこもりの若者の国民年金料免除の手續きとソーシャルワーク	2017/12	長崎県県央保健所	長崎県県央保健所
不登校・ひきこもり支援におけるアウトリーチ実践者養成講座	2018/2	佐世保市中部地区公民館	NPO法人フリースペースふきのとう
子どもの学びを支える-スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働-	2018/8	長崎国際大学	長崎県教育委員会
学校と福祉の連携	2018/8	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会
仲間とともに育つ子どもたち	2018/12	長崎県チャイルドライン	長崎県チャイルドライン
ひきこもりの人たちの“願い”や“思い”と支援	2019/6	長崎国際大学	長崎国際大学
学校と福祉の連携	2019/6	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会
スクール(学校)ソーシャルワーカーって何？	2019/8	長崎国際大学	長崎国際大学
不登校の心理と対応	2019/12	精道三川台高校	精道三川台高校
ひきこもりの対応について	2019/8	長崎市保健センター	長崎市保健センター

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市子ども・子育て会議	委員	2017/4/1～ 2022/3/31	佐世保市長
ふくし教育推進委員会	副委員長	2018/6/1～ 2020/3/31	佐世保市社会福祉協議会 会長
佐世保市地域自立支援協議会	副会長	2018/9/1～ 2020/3/31	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2018年12月「くじゃく園で遠足！」の実施

:中国人の母親とその子どもを対象に、お弁当づくりと遠足を学生主体で実施した。

②2019年2月～「ひきこもりの若者の家族勉強会の実施

:2か月に1回、ひきこもりの子どもをもつ家族と勉強会を実施している。

③2019年11月「平成28年熊本地震仮設住宅訪問エイサーサークルボランティア」の実施

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
くじゃく園で遠足	中国人の母親とその子どもを対象に、お弁当づくりと遠足を学生主体で実施した。	2017/12	長崎国際大学
上海大学社会福祉学科プログラム	「子どもの貧困」をテーマに上海大学の学生に講義を実施し、ディスカッションを行った。	2017/8	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科
上海大学社会福祉学科プログラム	上海大学の学生と本学の学生が、「精神保健福祉士の国家資格化」をテーマにした講義を受け、ディスカッションを行った。	2018/7	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科
上海大学社会福祉学科プログラム	上海大学の学生に「日本の若者支援」について講義をした。	2019/7	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科
上海大学社会福祉学科プログラム	社会大学の学生と、佐世保市における若者支援を行っている支援施設の見学を行った。	2019/7	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

2018年度 長崎国際大学大学 ベストティーチャー賞 受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育においては、グループワークを取り入れたアクティブラーニングを軸に展開している。教員が、グループの力動を、アセスメントし、適切な指導をすれば、学生たちのグループは安定し、積極的に活動することを学ぶことができた。次年度の福祉学科の新生歓迎会は、私が担当する学生たちが中心となり、進めていくこととなった。学生たちにとって、授業が主体性を育む機会となっていることを願う。また、2018年度はベストティーチャー賞も受賞しており、学生への指導が賞として結果となった

ことも喜ばしいことである。

さらに、研究に関しては、年3本の原著論文を執筆し、科学研究費も獲得している。地域貢献に関しては、長崎県のひきこもりの家族会と、2か月に1回勉強会を実施している。

全体を通して、教育—研究—地域貢献が十分に連動しているとは言い難い。少しずつではあるが、「この地域にはどのような人材が求められるのか」「どのような生活課題があるのか」「どんな研究が地域の課題に貢献できるのか」という問いをもつようになっている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 石橋 亜矢

1. 教育理念

建学の精神に基づいて、本学が掲げているディプロマポリシーを意識し、豊かな感性と高い倫理性を備え、社会的責務に対する自覚を身に付けた人材の育成を行う。また、地域社会における情勢や変化に対して学問的探求心を持ち、共感・共鳴できる感性を養わせる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
介護実習Ⅰ	180 / 180 (通年)	4	9	④⑦⑪⑫
介護実習Ⅱ	90 / 90 (通年)	2	3	①④⑫
介護実習Ⅲ	180 / 180 (通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(介護)	5 / 15 (通年)	1	3	①④⑪
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	7	②④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
介護における医療的ケアⅠ	30 / 30 (前期)	4	3	②③⑦⑧
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	②④⑥⑦⑧⑩⑫
認知症の理解Ⅰ	5 / 15 (前期)	2	35	①⑨⑩
介護過程ⅢB	15 / 15 (前期)	1	3	①④⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	3	⑤⑥⑫
介護概論ⅢA	15 / 15 (前期)	2	3	①②③⑤⑥⑦⑧
介護総合演習Ⅱ	15 / 30 (前期)	1	3	①④⑤
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	204	①②⑤⑩⑪
介護における医療的ケアⅡ	15 / 15 (後期)	2	3	②③⑦⑧
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	7	①②④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	②④⑥⑦⑧⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
生活支援技術ⅡB	15 / 15 (後期)	1	18	①②③⑦
認知症の理解Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	16	①⑨⑩
発達と老化の理解Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	23	①②③⑩
障がい者スポーツ	1 / 15 (後期)	2	41	⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートでの学生の満足度は4.7～4.9の評価があった。本年度ベストティーチャー賞を受賞させて頂いたので、原動力となっている。

本年度は、3年目でもあり、前年度からの引き続きの担当科目が多かったので、昨年度よりアレンジを加えながら授業展開が出来たと考えている。

医療分野の科目担当が多いため、全般的に質を維持した内容が学生の興味に繋がり、評価に繋がっていると感じている。授業では、アクティブラーニングを取り入れ、GWでのディスカッションや、全員が発表できるスタイルを取り、自己発表や質疑を受け入れることで、学生の理解を促し意欲的に授業に取り組みたいと考えている。授業の工夫として、視覚的に病態の実際を理解して貰いたく画像やDVDはよく活用している。また、実際の現場映像で流すことで学生の興味と理解に繋がっているように考える。

国家試験の科目担当として、国家試験対策を常に念頭に置き、出題項目の分析などを行い、学生の授業の中で情報提供し卒業年次まで継続した学修をしていく必要があることを伝え、学修に望むように教育している。

専門演習に関しても、将来を見据えた将来像を描きやすいように、専門性を活かしたキャリアセンターや図書館、マイナビの方を利活用し授業に取り入れた。国試対策、卒論、就職準備を取り入れていたので、学生の将来に向け興味も湧きゼミがゼミ生自身の意欲向上の場となるように努めた。

今後も学生の学修への取り組みや意欲向上のために、学生の大学生活が円滑に送れることを常に考え、アレンジメントした学修効果を検討していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	隣接医学	4/15(前期)	2	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
介護実習報告書の指導	10	3	2019/7/2, 2019/7/9, 2019/7/16
介護福祉士国家試験特別講演	6	3	2019/8/26, 2019/8/27, 2019/8/28, 2019/9/10, 2019/9/13, 2019/12/26
介護福祉クラス学生 社会福祉国家試験対策	4	5	2020/1/27, 2020/1/28, 2020/1/29, 2020/1/30

生活支援技術ⅡB 実技チェック(バイタルサイン)	4	5	2020/1/7, 2020/1/14, 2020/1/21
医療的ケア実技チェック	6	3	2019/7/9, 2019/7/16, 2019/7/23, 2020/1/7, 2020/1/14, 2020/1/21
認知症の理解Ⅱ	3	2	2020/1/15, 2020/1/16, 2020/1/17
発達と老化の理解Ⅱ	2	3	2020/1/8, 2020/1/9
専門演習B	2	2	2019/12/19, 2019/12/20
国家試験対策支援年間スケジュール作成	4	6	2020/2/3, 2020/2/5, 2020/2/14, 2020/2/15
2020年新入生歓迎会準備	5	20	2020/2～2020/3

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・長崎国際大学子ども食堂の取り組み
- ・介護老人福祉施設における介護職の医療的ケアの実践力向上プログラムの開発
- ・がん終末期に携わる訪問看護師のストレスと関連要因に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	3	3	1	1	40万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスの実態 /2020/3/長崎国際大学社会福祉学会
研究紀要第十六号/1頁/単著/原著論文

① Iron Nutritional Status of Karate Players: A Review/2019/Journal of Athletic Enhancement
/発行中/共著/総説

① 子ども食堂子ども食堂の活動に参加する学生の「成長」につながる取り組みと方法～域福祉面
から見た子ども食堂の活動を通して～/2020/3/長崎国際大学社会福祉学会研究紀要第十六号
/発行中/共著/論文

① 介護老人福祉施設での看取りケアにおける介護職の役割と実践の現状および課題について/
2020/3/長崎国際大学社会福祉学会研究紀要第十六号/発行中/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスの実態 ～関連要因の検証から～/2019/8/日本産業精神保健学会

大学野球選手における身体的特徴、栄養素摂取状況および血液生化学検査値の所見/2019/8/日本スポーツ栄養学会

大学野球選手の栄養素等摂取状況と骨密度について/2019/12/日本食生活学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護職の医療的ケアの実践力向上プログラムの開発	長崎国際大学 学長裁量経費	2019年度	40万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	学生の就職活動を円滑に実施できるために、キャリアセンターと協働し社会福祉学科合同企業説明会の計画・実施、キックオフセミナーの実施、学科内の就職支援を実施した。
社会福祉学科内国家試験合格支援委員会	委員	学科内の国家試験(社福・精神・介護)への合格支援の取り組みを委員会メンバーとして活動した。
介護福祉クラス委員会	委員	①定例社会福祉学科会議及び臨時社会福祉学科会議資料作成への提案。②委員会開催の出席と司会③実習・国家試験スケジュールの管理と委員への周知と協力を仰ぐ④介護講演会を提案し実施し司会進行・ディスカッションでのコーディネーターを務める。
社会福祉実習委員会	委員兼介護福祉士部会長	①社会福祉実習と介護福祉士実習のスケジュール計画・調整②配慮申請学生の対応
子ども食堂委員会	委員長	①年間3回のスケジュールの作成と実施②長崎県内の子ども食堂ネットワーク会議への参加③長崎県子ども食堂ネットワーク研修会の開催を本学で努める
介護福祉士国家試験合格支援委員会	委員長	①介護国家試験合格支援に向けた学修の年間スケジュール作成と実施の管理②社会福祉士総合演習(介護)のプログラム調整と実施③模擬試験の計画・実施・評価を管理④学生・保護者の個別面談概要作成に取り組む⑤国家試験への引率

長崎県コンソーシアム委員会	委員	2019年度在宅医療・福祉早期体験学習への引率 (長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学学生)
---------------	----	---

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
オープンキャンパスワーキンググループ	リーダー	2019年 第2回オープンキャンパスにおける学科プログラム
教養セミナー部会	委員	教養セミナー部会への参加
専門演習部会	委員	専門演習部会への参加
介護福祉クラス部会	委員	介護クラス部会への参加
介護福祉士国家試験合格支援委員会	委員	介護福祉士国家試験合格支援委員会への参加
社会福祉学科内国家試験合格支援委員会	委員	社会福祉士、精神福祉士、介護福祉士国家試験合格支援委員会への参加
子ども食堂委員会	委員長	2019年度子ども食堂の企画・運営
社会福祉実習委員会	委員兼介護福祉士部会長	介護福祉実習部会への参加
大学祭にて出店	委員	石橋ゼミにて物品販売企画・運営・実施

(3) 課外活動の指導等

- ①長崎大学主催 コンソーシアム研修在宅医療概論 長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学学生引率2019年8月23日
- ②子ども食堂実施における (大野公民館)2019年8月8日
- ③子ども食堂実施における (広田公民館)2019年12月14日
- ④介護福祉士国家試験の引率 2020年1月26日

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①社会福祉学科合同企業説明会の準備・運営(2019年5月27日)
- ②長崎県介護福祉士養成施設入学者確保支援事業にて長崎県立平戸高等学校での介護福祉士ガイダンス(2019年12月16日)
- ③九州文化学園 介護クラスに介護実習見学での説明対応(2019年7月6日)
- ④緩和医療学会「ELNEC-J研修」を本学にて、地域の看護師等を対象に実施(福岡・長崎・佐賀県の専門看護師・認定看護師講師)(2019年7月27日、8月17日)
- ⑤2019年第1回オープンキャンパスにおける介護のブースを実施(2019年7月21日)長崎国際大学
- ⑥2019年第2回オープンキャンパスにおける介護のブースを実施(2019年8月4日)長崎国際大学
- ⑦長崎国際大学子ども食堂開催にむけて(2019年5月、8月、12月)
- ⑧子ども食堂ネットワークの開催(2020年2月24日)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
7	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
子ども食堂 感染・手洗い研修	2019/5/16	長崎国際大学	長崎国際大学 子ども食堂
ELNEC研修		長崎国際大学	長崎国際大学 中島憲一郎
介護支援専門員試験対策研修	2019/8/15. 2019/9/25	特別養護老人ホームやまづみ荘	やまづみ荘
佐世保県北圏域 介護職員研修	2019/11/2	アルカス佐世保	長崎県介護福祉士会
ヒヤリ・ハットの研修	2019/11/19	平戸社協	平戸市社旗福祉協議会
介護福祉士養成施設の出張合同説明会	2019/12/16	平戸高校	長崎県長寿社会課
介護の講演会 ～介護の未来予想図～	2020/2/15	長崎国際大学	長崎国際大学社会福祉学科

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ作戦推進会議委員	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	長崎県県庁
佐世保市・小鹿町介護認定審査会委員	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	佐世保市役所長寿社会
長崎コンソーシアム委員会	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	長崎大学
子ども食堂ネットワーク	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	長崎県子どもネットワーク

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①平戸千里カ浜海岸清掃での救護ボランティア 2019年5月
- ②佐世保市釜墓地清掃での救護のボランティア 2019年9月
- ③感染対策の研修 佐世保市 2019年11月

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院2019年度長崎国際大学社会福祉学短期研修活動の引率	本学と交流協定を締結している上海大学の学生への長崎美術館・歴史観への引率	2019/7/20	国試交流・留学生支援センター(上海大学・長崎国際大学大学院)
上海大学社会学院2019年度長崎国際大学社会福祉学科短期研修	介護全般に関する説明と解説、質疑応対、福祉用具と介護演習施設の案内(介護実習室・入浴実習室)を行った。	2019/7/19	国試交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

2019年度 長崎国際大学 ベストティーチャー賞 受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学入職後3年が経過する本年度(令和元年度)は、昨年度の経験を活かし、教育、研究、大学運営において様々な活動を行い、実績も多数残すことができたと考えている。

教育活動に関しては、本年度は、ベストティーチャー賞の評価をいただき、公開授業を行なった。学生の授業評価の満足度の平均4.7以上の目標が到達できた。今後も学生が理解しやすい授業が展開できる様に、他の先生方の授業のメリットを参考に試行錯誤工夫しながら学生の授業のモチベーションが向上できるように努力していきたい。

本年度も本学科の国家試験対策委員として、学生の国家資格取得のサポートを行った。主に介護福祉士クラス学生の全員合格を目指し、学生のモチベーションの維持・向上を図りながら包括的に国試対策を展開した。その結果、昨年に続き介護福祉士の合格率は100%、社会福祉士とのダブル受験率も100%合格と好成績を収めた。受験学年だけでなく2年次から早期に国家試験対策を行うことで、国家試験に対する意識を高め、確実な理解に繋げていけるよう、次年度も引き続きサポートしていきたい。

ゼミ担当では、1～4年生までの全学年の26名を担当している。4年次の卒論の担当の中には海外からの留学生もおり、指導の甲斐があり、卒論の提出、授業単位の取得、海外での就職も決定した。また、卒論から学内学会に投稿できた4年生も輩出でき、更に、当該学生は、介養協と、長崎市老人福祉施設協議会介護人材未来創造表彰のダブル受賞となった。

研究活動に関しては、医療的ケアの教育プログラム開発研究について科研が採択され研究を行い、その結果を基に日本看護福祉学会での発表の準備及び論文の作成を行っている。

また、学会発表として、2019年8月に日本精神産業保健学会で東海大学にての発表と、スポーツ栄養学会に1本、日本食生活学会に1本の学会発表となった。また、共著総説として、海外ジャーナル誌に1本、論文として、長崎国際大学社会福祉学会研究紀要第十六号に子ども食堂の活動報告1本と、がん終末期医療の原著論文1本、学生との共同研究を1本の計4本の執筆を行い掲載した。本年度は、学長裁量経費に採択されたので、来年度も申請するとともに、現在日本看護福祉学会助成に応募している。

来年度の課題は、現在、本学の博士課程で研究している質的研究の結果を踏まえ、来年度は量的研究を行うために科研費にチャレンジしていくことと、なるべく早くに博士課程論文の執筆を完成させたいと考えている。

大学運営に関しては、就職委員として、昨年度に引き続き合同企業説明会を行い学生に早期からの就職活動の周知を行った。その成果として、昨年度の就職率98%と好成績であったため、それを本年度も維持できるように、キャリアセンターやマイナビと協働しながら学生へのキャリア教育を実施してきた。

子ども食堂では、子ども食堂の委員長として、長崎県内の子ども食堂ネットワークに参画し、会議や本学での研修会を実施した。研修会では、子ども食堂で著名な東京大学の湯浅先生にお越し頂き、県内の子ども食堂の活性化に役立った。それと同時に、本学の子ども食堂では、年3回の行事を本学や地域の公民館で実施し、学生募集、学生への研修および対象の子どもたちへの広報活動等を行い、学生の主体性が養われたと感じる。

地域貢献としては、本学にて、佐賀・長崎県の地域の看護師を対象に、福岡、佐賀(石橋)、長崎県の認定看護師、専門看護師が講師を務める形で、緩和医療学会主催「ELNEC研修」を開催した。今年度は、看護師以外にも薬剤師、社会福祉士、介護福祉士等の地域の他職種の参加もあり、緩和ケアの啓発活動にもなり市内の医療スタッフの実務向上に繋がったと考える。

また、本年度より佐世保市の介護保険認定審査委員会で認定審査委員として活動をした。佐世保市は全国でも介護保険を利用されている方の伸びが著しいため、多い時には週に40件近くの審査を行っている。

新規の取り組みとして、介護クラスでの講演会を提案した。その講演会では、司会やディスカッションでのコーディネーター役を務めたが、介護の専門職を育成していく者として学生が大学で得た知識と、実習現場での学びをリンクできるようにサポートしていく事が、介護実習教育での実践力を高めることに繋がっていくことを養成校、ならびに実習現場で再確認できたことは大変意義深いものがあったと考える。

今年度行った活動を来年も継続していけるように、与えられる職務に関してこれまで以上に積極的に取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 浦 秀美

1. 教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができるような学生、常に自己研鑽できるような学生を育てることです。そのために理論と実践とを統合することを大切にしています。社会で必要とされている福祉人材、福祉そのものの向上に寄与出来るような人材を育てます。また、一人ひとりの福祉観(介護観)を培うために、自分自身で考え、相談し、判断できる人材を育成することも大切にしています。

よって、授業では原理・原則を学ぶことを主軸にしつつも最新の福祉現場の現状についての情報伝達、情報共有を重視しています。

学生には、国家試験合格のための知識に留まらず、専門職として必要な実践に役立つ福祉に関する知識を学んでほしいと考えています。また、自分自身の身近な存在に必要な福祉の知識や技術を学んでほしいとも考えています。そのために、国家試験の出題基準に則した知識や技術を網羅した講義や演習、そして、現在の福祉現場の実情に即した福祉に関する知識や技術を取り入れた授業方法を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
生活支援技術ⅡA	15 / 15 (前期)	1	14	②⑨⑪
介護実習Ⅰ	180 / 180 (通年)	4	9	④⑦⑪⑫
介護実習Ⅱ	90 / 90 (通年)	2	3	①⑫
介護実習Ⅲ	180 / 180 (通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(介護)	5 / 15 (通年)	1	3	①④⑪
介護過程ⅡA	15 / 15 (前期)	1	3	④⑤⑥⑦⑨
生活支援技術ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	②⑤⑦⑨⑩⑪
生活支援技術ⅣA	15 / 15 (前期)	1	10	①④⑧
介護福祉論	15 / 15 (前期)	2	62	②③⑨
介護援助技術	15 / 15 (前期)	1	11	②⑥⑦⑩
介護総合演習Ⅰ	30 / 30 (後期)	2	9	⑤⑥⑦⑫
介護総合演習Ⅲ	15 / 15 (前期)	1	3	④⑥⑩⑫
介護過程ⅢA	15 / 15 (前期)	1	3	④⑤⑥⑪
介護概論ⅠA	15 / 15 (前期)	2	15	②⑤⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫

教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
生活支援技術IVB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑧
生活支援技術ⅢB	15 / 15 (後期)	1	10	②⑤⑦⑩⑪
介護過程 I	15 / 15 (後期)	1	10	④⑤⑥⑦
介護概論 I B	11 / 15 (後期)	2	18	①④⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートについて、前期は介護福祉論と教養セミナーA、後期は介護概論 I Bと介護過程 I を実施した。科目により評価はまちまちであったが、殆どの科目における項目は全体平均値を上回る結果を得る事ができた。

教養セミナーAを除く科目は、介護福祉士や社会福祉士の受験資格取得に必要な科目であり、教育内容が厚生労働省から決められている。その教育内容に沿って展開をしていくことを毎年続けている。

こと介護については、ネガティブなイメージが先行していると学生の反応やコメントから把握できたため、意識を変えるための正しい情報提供や理解が深まるための展開を常に意識しながら授業を行った。本の照会や福祉用具を実物として見せるなど工夫は最大限行った。

介護福祉論受講学生には大変熱心な学生も複数おり、書籍の貸出、返却時の意見交換など充実した時間を学生、教員共に過ごすことができた。

介護概論 I Bでは学外授業が展開されたため、その後の学生の修学意欲を左右した。意欲に働きかける言葉や姿勢を大切にしていきたい。そして、時間が許す限り学生と関わる時間を設けていきたいと考える。

授業を通して、望んでいることを伝える学生もいた。授業内容に直接的には関係がないことも素直に伝えてくれたことに感謝したい。望んでいることに対し、情報を収集し伝えた。伝えるだけでなく、資格取得を望んでいる場合は過去問題なども渡し、モチベーションを維持するアプローチを意識した。

受講学生の思いを捉え、モチベーションを維持・向上させるためにもっと尽力したい。そして、モチベーションを維持・向上した学生がさらにステップアップしていく行動に移っていることをともに喜び、さらにサポートしていきたいと考える。

また、授業に取り組む際に常に意識したことがあった。自分自身の課題を計画的に達成していくことができないと、他者の課題を抽出すること、立案すること、実行すること、評価すること、修正すること、再実行することは難しい」というメッセージだった。

介護福祉士資格取得等に必要な知識・技術を今後も学生が分かりやすい形で伝えていく努力を継続させたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専 修学校	食介護論	1/15(後期)	0	0

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
生活支援技術ⅢA(ベッドメイキング補 修)	1	3	2019/5/31 2限
介護過程ⅢA(実習報告書指導)	1	1	2019/7/9, 2019/7/11, 2019/7/16, 2019/7/23

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者介護

介護福祉

介護福祉教育

介護福祉士養成教育

福祉分野における現場実習と教育

福祉分野における人材養成(育成)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2020/共著/2019/7/5/中央法規出版株式
会社/349頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉学科購入図書のご案内 ・社会福祉学科購入図書の集約、提出 ・推薦図書登録の周知、登録案内 ・ビブリオバトルへの参加 ・書籍、雑誌の継続可否の検討
社会福祉学科運営委員会	委員	学科会議開催前の委員会開催時、資料確認や、審議事項・報告事項の精査に取り組んだ。
介護福祉クラス委員会	委員長(教務主任)	定例社会福祉学科会議及び臨時社会福祉学科会議に向けた審議事項・報告事項の整理を行った。また、委員会開催における日程調整と審議進行、資料作成を行った。
国家試験合格支援委員会(介護福祉士部会)	委員	国家試験合格支援について、学生が使用する教室の環境整備やニーズの把握、ニーズに沿った対応を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
将来構想ワーキング	構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における状況報告 ・コース制に向けた検討 ・モデルカリキュラム策定 ・精神保健福祉士とのダブルライセンス取得可否検討 ・議事録作成

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

介護実習巡回、入所検討委員会、介護実習指導者講習会、介護人材確保事業、地域包括支援センター訪問等にて募集案内したり、現状について話をしたりしながら活動を行った。

長崎県の介護人材確保事業への申請手続きの補助を行い、CM製作のためのコンセプト検討や学生への協力依頼等を行い、CMにて広報する取り組みに尽力した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和元年度 介護福祉士実習指導者講習会	2019/10/19	長崎短期大学	公益社団法人日本介護福祉士会・一般社団法人長崎県介護福祉士会
介護講演会	2020/2/15	長崎国際大学	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科介護福祉クラス 独自事業

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
サンホーム江上	入所検討委員	2019/4/1～ 2020/3/31	社会福祉法人 江寿会 特別養護老人ホームサンホーム江上 施設長
令和元年度介護人材育成・確保対策地域連絡協議会	委員	2016/10/7～現在に至る	長崎県、一般社団法人長崎県介護福祉士会
日本介護福祉学会	評議員	2019/9/1～	日本介護福祉学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学 2019年度長崎国際大学社会福祉学科短期研修	介護実習室・入浴実習室にて介護全般における基本や原理・原則をもとにした説明を行った。また、介護現場で使用されている福祉用具などを用いた簡易的な体験を催した。	2019/7/20	長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

学生との関わりとしては介護福祉クラスの一年生から四年生を中心に関わった。また、一年生、四年生のゼミを受け持ち、学生との適度な距離感を図ることを念頭に置いて関わった。適度な距離を確保

しながら学生の主訴をキャッチするようなアプローチに尽力し、実践できたと考えている。一年生ゼミには配慮を要している学生が所属していたこともあり、セミナーの時間以外に当該学生が研究室をたずねてくることも多く、その都度対応した。初年次であることによる不安や特性からくる不安や焦りへの対応は時に難しいこともあったが、学生の変化などから適切な関係性が築けたと考えている。

介護福祉士養成に係る教務主任の取り組みは今年度も難しかった。今年度より着任いただいた専任教員には時折アドバイスをしながら、相談へ応えることに尽力した。アドバイスをおくるなかで学ばせていただくことも多く、充実した時間を過ごすことができた。それぞれの教員の思いを汲み取り、調整を図ることも努力したが十分でないこともあると考えている。来年度も介護福祉クラス所属学生増加に向けての取り組みも強化していきたいと考えている。また、介護福祉士国家試験合格率100%を継続するべく対策も講じていきたい。そして、養成教育の柱ともいえる実習教育についても環境を整備していきたい。学生数を増やしていくと同時に実習施設が必要となることから、今年度末に取り組んだ介護実習施設の新規開拓を来年度も行い、学生が実習に集中できる実習先獲得に奔走したい。

反省点は研究面である。自身の経験や取得資格を活かした模擬問題の作成、出版できたことは今年度も取り組むことができたので全くできなかったわけではない。しかし十分とはいえない。来年度は学科共同研究費や学長裁量経費、外部資金などの獲得も視野に入れ、地域貢献と学生の養成をリンクさせた研究や取り組みに尽力していきたいと考える。国家試験もしくは実習に関する研究をする計画をしているので、最低でも共著を執筆できるように努力したい。また、先に挙げた模擬問題作成については先方からの求めがある限りは継続していく。模擬問題集の作問から模擬試験の作問、そして国家試験作問といった発展的な展開につながる可能性もあると考えられるため、これまで以上に意識的に積極的に取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 Virág Viktor

1. 教育理念

文化や性の多様性の尊重を含めて、グローバル時代において有資格の対人援助人材に求められる専門的な力量を身につけるために、個別にあるいは他者と共に主体的に取り組む機会を提供する教育に従事する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	7	⑦⑫
相談援助の理論と方法ⅠA	15 / 15 (前期)	2	44	①④⑤⑦⑨⑩
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	5	①④⑤⑥⑪⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	8	①④⑥
社会福祉調査論	8 / 15 (前期)	2	68	①④⑤⑥⑦⑨
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪⑫
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
相談援助の理論と方法ⅡA	15 / 15 (前期)	2	36	①④⑥⑨
相談援助演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	16	④⑤⑥⑦⑩
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	6	①④⑤⑥⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪⑫
相談援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	8	①⑤⑥⑦
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	14	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	④⑤⑥⑦⑩
相談援助の理論と方法ⅡB	15 / 15 (後期)	2	52	①④⑤⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前年度までの経験、学生の成績、授業評価の結果を踏まえ、今年度中は引き続き国家試験に向けた定期的な学習を促す教育を強化した。

第一に、講義科目(相談援助の理論と方法、社会福祉調査論など)において、小テストと過去問題を解く及び解説する時間をさらに増やし、manabaやresponなどのICTを積極的に活用に加え、単語帳の課題提出を導入した。成績上の成果はみられ、国家試験の得点向上を期待できるが、学生の理解を十分に促すことができず、授業の内容と方法に対する評価の改善は課題である。

続いて、実技科目(相談援助演習、相談援助実習指導など)では、教員が発言する時間をさらに減らし、グループで取り組めるPBLの機会を多く提供し、対人援助ロールプレイ場面の動画撮影の実技課題を新たに導入した。学生の専門職を目指す者としての成長と社会的なスキルの向上がみられ、現場実習の改善につながることを期待できる。

最後に、ゼミ科目(専門基礎演習、専門演習、卒業研究)において、頻繁に学生に問いかけるようにし、個別の主体性の発揮と共に、お互いを知る機会と団結力の形成の効果がみられ、学習の成果物(卒業論文、レポート、発表、その他の課題)のレベルが上がった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士国家試験合格支援	2	5	2019/6/12, 2019/6/19
社会福祉士国家試験合格支援(前期追加学修)	24	30	2019/5/10, 2019/5/11, 2019/5/13, 2019/5/14, 2019/5/20, 2019/5/24, 2019/5/27, 2019/5/31, 2019/6/3, 2019/6/10, 2019/6/14, 2019/6/24, 2019/7/1, 2019/7/15, 2019/7/22, 2019/8/11
社会福祉士国家試験合格支援(夏季集中講座)	4	30	2019/8/22, 2019/8/23
社会福祉士国家試験合格支援(後期追加学修)	5	30	2019/9/27, 2019/10/4, 2019/10/10, 2019/10/18, 2019/11/8
社会福祉士国家試験合格支援(冬季集中講座)	6	30	2019/12/26, 2019/12/27

実習生個別指導(計画、報告など)	14	1	2019/5/31, 2019/6/3, 2019/6/5, 2019/6/24, 2019/6/28, 2019/8/7, 2019/11/27, 2019/12/2, 2019/12/18
ゼミ生個別指導(学修、生活、進路、卒業論文など)	19	1	2019/4/23, 2019/5/13, 2019/5/14, 2019/5/15, 2019/5/16, 2019/5/17, 2019/7/4, 2019/7/9, 2019/7/25, 2019/8/21, 2019/12/4, 2019/12/5, 2019/12/10, 2019/12/11, 2019/12/12, 2019/12/16, 2019/12/19, 2020/1/21, 2020/2/14
ゼミ生国家試験学修	47	3	2019/10/8, 2019/10/9, 2019/10/15, 2019/10/16, 2019/10/17, 2019/10/18, 2019/10/24, 2019/10/29, 2019/10/30, 2019/11/12, 2019/11/14, 2019/11/19, 2019/11/21, 2019/12/3, 2019/12/4, 2019/12/6, 2019/12/17, 2019/12/19, 2019/12/24, 2019/12/26, 2019/12/30, 2020/1/7, 2020/1/9

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 多様性に配慮したソーシャルワーク
- ② 国際社会福祉

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	5	0	2	6	5	1725万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 新 世界の社会福祉 第12巻「国際社会福祉」:グローバル時代におけるソーシャルワークの課題と
 可能性/共著/2020/2/旬報社/未定

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

アイヌ・ソーシャルワークにおけるアドボカシー実践:グローバル定義のナショナル展開プロセスにおける首都圏先住民族コミュニティとの協働/2019/6/ソーシャルワーカー/35頁～46頁/単著/実践報告

ソーシャルワーク実践及び教育の多文化史の国際動向:主流化までの経緯と主要なアプローチの理論的發展/2019/7/社会福祉研究/75頁～85頁/単著/論文

メゾ・レベルにおいて多様性に対応できるソーシャルワーク:反差別的な地域実践に向けた文化的な力量/2020/3/地域福祉研究/14頁～25頁/単著/論文

LGBT Issues and Social Work Responses: International Standards and Practice Principles/2020/3/長崎国際大学論叢/65頁～75頁/単著/総説

Contemporary Marginalization of the Indigenous Ainu People in View of the History of Colonization and Assimilation/2020/3/日本社会事業大学研究紀要/153頁～164頁/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Social Work with Indigenous People Living in East Asian Metropolitan Communities / 2019/9 / Asia Pacific Joint Regional Social Work Conference

Advocacy for Indigenous Social Work in Japan / 2020/1 / Asia Future Conference

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
International Study on the Development of Indigenous Social Work Models (代表)	科研費	2019/4～2023/3	900万円
多文化共生ケアシステムにおけるグローバル・ソーシャルワークの理論的・実証的研究(分担)	科研費	2019/4～2022/3	65万円
東アジアの大都市圏に居住する先住民族に対応したソーシャルワーク実践モデルの検討:先住地域から離れて生活するアイヌと台湾原住民の相談実践から(代表)	ひと・健康・未来研究財団	2018/9～2019/8	50万円
Research on Models of Social Work and Curriculum Development for Global Social Work (分担)	国際ソーシャルワーク学校連盟	2019/1～2019/8	700米ドル
研究開発タイプ産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出(研究協力)	国立研究開発法人日本医療開発機構	2017/10～2027/3	10万円

アジア太平洋地域におけるグローバル化に対応できる若手ソーシャルワーカーの人材育成と国際交流事業(企画委員)	社会福祉振興・試験センター	2019/4～2020/3	0万円
---	---------------	---------------	-----

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
ヘルシンキ	グローバル・ソーシャルワークに関する調査	2019/9/8～2019/9/13
マニラ	スペイン・アメリカ・日本の植民地主義の遺産に関する現地視察	2019/1/12

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学:地域連携センター	委員	ふれあい交流講座・キッズキャンパス教室担当
全学:産学連携・研究支援センター(旧産学連携専門委員会)	委員	なし
学部:学部教授会担当委員会	委員	次第案作成担当
学科:教育内容向上委員会	委員	なし
学科:専門基礎演習部会	部会長	3年生主任
学科:専門演習部会	委員	部会長補助
学科:卒業研究部会	委員	なし
学科:相談援助演習部会	委員	相談援助演習ⅡAB担当
学科:実習委員会社会福祉士部会	委員	議事録係
学科:IR事業担当委員会	委員	委員長補助
学科:国家試験合格支援委員会	委員	委員長補助
学科:社会福祉士国家試験合格支援部会	委員	部会長補助
卒業生等連携委員会	委員長	名簿更新・20周年企画担当
上海大学受け入れ担当委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
全学:私立大学等改革総合支援事業対策ワーキンググループ	メンバー	タイプ3「子ども育成」専門委員会担当
学科:将来構想ワーキンググループ	グループ長	新カリキュラム編成案作成担当

学科:オープンキャンパス・ワーキンググループ	メンバー	第3回主担当
------------------------	------	--------

(3) 課外活動の指導等

- ①NIU災害ソーシャルワーク研修 引率
- ②ふらあい交流講座 担当
- ③キッズキャンパス・アイヌ文化体験教室 担当

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①オープンキャンパスでふくし作品コンテスト作品集配布/8月25日/長崎国際大学
- ②第3回オープンキャンパス総括・海外研修報告担当/8月25日/長崎国際大学
- ③キッズキャンパス・アイヌ文化体験教室担当/11月30日/長崎国際大学
- ④進学説明会で社会福祉学科紹介/3月10日/九州文化学園高校
- ⑤世界ソーシャルワークデー動画国内外配信/3月17日/オンライン

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	7

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
Glocal Perspectives in Japanese Social Work Education: Focusing on Recent Initiatives of the Japanese Association for Social Work Education	2019/9/11	フィンランド	Tampere University
東アジアの大都市圏に居住する先住民族に対応したソーシャルワーク実践モデルの検討:先住地域から離れて生活するアイヌと台湾原住民の相談実践から	2019/11/16	メルパルク京都	ひと・健康・未来研究財団

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟	理事	2017/9～現在	選挙当選
日本ソーシャルワーク教育学校連盟国際関係委員会	委員	2017/4～2019/6	担当理事
日本ソーシャルワーカー連盟国際委員会	委員	2015/6～現在	委員長
日本ソーシャルワーカー協会国際委員会	委員	2018/8～現在	会長
日本社会事業大学社会事業研究所	研究員	2015/4～現在	所長
日本社会福祉教育学会査読員会	委員	2018/11～現在	会長
相川書房「ソーシャルワーク研究」編集委員会	協力員	2019/4～現在	委員長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2019年3月－現在 ソーシャルワーク及び社会開発のためのグローバルアジェンダ アジア太平洋地域コーディネーター
- ②2019年12月14日 長崎国際大学子ども食堂 実施運営

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
グローバルなソーシャルワーク実践講座	全体コーディネーター・司会	2019/6/2	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
世界ソーシャルワークデー 国際ソーシャルワーカー連盟会長記念講演	翻訳・実施運営・訪日対応	2020/2/29	日本ソーシャルワーカー連盟

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Asia Pacific Joint Regional Social Work Conference	国際顧問、プレ企画閉会挨拶、次回開催国審査員、理事会・総会出席、グローバルアジェンダ地域ワークショップ共同コーディネーター、SW教育グローバル基準検討担当、ブース当番	2019/9/18～ 2019/9/20	バンガロール	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟
Asia Future Conference	学術委員、分科会座長	2020/1/9～ 2020/1/13	マニラ	渥美国際交流財団
Joint World Conference on Social Work Education and Social Development	査読委員	2020/2	リミニ	国際ソーシャルワーク学校連盟

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】教育理念に基づいて授業を行ない、アクティブラーニングを多く取り入れている。本年度は国家試験と資格取得を強く意識し、ICT活用や提出物を含む定期的な学習機会を増やした。そのため、学生の知識等の修得の改善がみられ、国家試験や実習の達成向上を期待できるが、厳しい授業に対する不満の声もあり、意義の理解促進は課題として残る。授業外教育の機会が増え、ゼミ生や実習生の個別対応と、社会福祉士や保育士の国家試験合格支援に専念し、これからも活動を継続していく。

【研究活動】研究成果は国際学会発表や日本語及び英語の論文として発表し、単独・分担を含めて複数の助成研究事業に取り組んでいる。なお、出版社や編集者より国内外と単著・共著を含めて複数の依頼を受けており、執筆を進めている。他に、学术界における活動の一環として、国内外の学会等の委員等を務めている。全体的に、多様性に配慮したソーシャルワークに関する国際的な研究を深めている。

【大学運営活動】全学とも学科とも委員会等の役割が増えた。長を務めている委員会とワーキンググループでは卒業生等名簿の更新と20周年企画の準備、また学科の将来構想と新しいカリキュラム編成案の作成に取り組んでいる。他に、学生の意識向上と学科のイメージ・アップにつながる複数の国際的な課外活動に従事し、これらの成果物も含めて、定員充足を念頭に、広報活動において国内外に情報発信を行っている。

【社会活動】依頼講演を引き受けるとともに、業界団体の委員等の立場で、アジア太平洋地域及び国際社会に貢献する各種事業に関わっており、特にソーシャルワーク及び社会開発のグローバルアジェンダのアジア太平洋地域報告のコーディネートを進めている。また、地域では主に子ども関連の企画に携わっている

【国際交流】国内では日本ソーシャルワーク教育学校連盟と日本ソーシャルワーカー連盟の国際関係企画の実施に貢献している。国際的には、特にアジア太平洋地域を中心にリージョナル及びグローバルな業界団体において複数の活動に従事している。その中で、国際学会等において、学術等委員、顧問、査読委員、開催国審査委員、各種企画の担当者などを務めている。なお、学生が作成した動画の国際配信を行っている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 金澤 由佳

1. 教育理念

大卒は、本学の人間尊重を基本理念とし、ホスピタリティの獲得という到達目標を掲げる。

さらに、社会福祉学科教員として、学生が社会福祉および関連する領域の専門的知識を修得し、活躍できる人材となれるよう努める。

具体的には、授業、その他の活動でも学生、教員全員が参加する場となるように心掛ける。

1. 専門力…教科書を中心に進める、生の現場(臨床)を知る
2. 情報収集、分析力…学生自身が情報を集めてともに問題解決能力を養う
3. コミュニケーション力…教員、友人、現場(臨床)の方とコミュニケーションを図る
4. 協働・課題解決能力…他人と協働で問題解決することができるようにする
5. 多様性能力…より広い知識をつける

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
精神保健福祉援助実習B	75 / 75 (通年)	5	6	⑫
精神保健福祉制度論A	15 / 15 (前期)	2	33	①④⑤⑨⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	12 / 15 (前期)	1	6	④⑥⑦⑩⑫
社会福祉総合演習(福祉共通)	3 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	⑤⑥⑦⑧⑩
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
社会福祉総合演習(精神)	5 / 15 (前期)	1	6	①⑥
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	⑤⑥⑦⑧⑩
更生保護論	8 / 8 (前期)	1	49	①④⑤⑥
卒業研究	30 / 60 (通年)	4	7	④⑤⑥⑧⑨⑫
精神保健A	15 / 15 (前期)	2	47	①④⑤⑥⑩
精神医学A	15 / 15 (前期)	2	37	①④⑤⑥⑨
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	6	⑤⑥⑦⑧⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	6	⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	7	⑤⑥⑦⑧⑩
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	6 / 15 (後期)	1	9	①⑥⑦
精神保健福祉制度論B	15 / 15 (後期)	2	28	①④⑤⑨⑩
精神医学B	15 / 15 (後期)	2	35	①④⑤⑥⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	3 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨

障がい者スポーツ	2 / 15 (後期)	2	41	⑪
精神保健B	15 / 15 (後期)	2	48	①④⑤⑥⑩
権利擁護と成年後見論	15 / 15 (後期)	2	52	①④⑤⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートでは標準値であると思われます。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験対策	なし	なし	なし
精神保健福祉士国家試験対策	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

触法精神障害者に対する強制的な医療について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	1	1	403万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
議論からみる精神障害者に対する「強制の検討」『福祉社会へのアプローチ』/共著/2019/6/成
文堂/411頁～434頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

<入院医療>の構造～「感染症法」と「精神保健福祉法」との比較からの考察～/2019/9/28～9/29/日本社会病理学会

(強制的な)精神科医療の役割～触法精神障害者へのインタビュー調査からの考察～/2019/11/30～12/1/日本更生保護学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費 精神障害者および触法精神障害者に対する強制的な医療と支援の包括的研究	-	2019/4～2022/3	403万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	なし
教育基盤センター	委員	なし
倫理委員会	委員	なし
子ども食堂委員	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
オープンキャンパス(入試募集委員会)	委員	なし
新人教員研修(教育基盤センター委員会)	委員	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市人権施策審議会	委員	2017/10/1～ 2019/9/30	佐世保市長
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会	委員	2017/11/10～ 2019/11/9	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

こころの健康フェスティバル 2019年7月3日

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

委員会など与えられた業務は行いました。授業については国家試験に対応できるように展開してきたつもりです。他方、精神クラスの実習科目について突然のシラバス変更があり学生との関係を含めて非常に展開しにくかった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 種橋 征子

1. 教育理念

社会福祉における援助は、クライアントがワーカーとの関わりを通して安心感や自信を得ることで、自分の生活課題や現実に向き合い、自分の居場所を得たり、生活を立て直していくことを支えることである。そして、ワーカーはそういったクライアントの変化に援助のモチベーションを高めるなど、関わりを通じ、互いに成長する中で援助は展開される。そのような援助を展開していくために、学生には同じ痛みを抱える存在としての自他の対等性や、人は誰しも、関わりを通して変わることができる可能性を持っていることなど、確固たる人間観や援助観を醸成できるよう教育していきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	8	⑦⑪⑫
福祉経営論	15 / 15 (前期)	2	53	①⑦
相談援助実習の理解	15 / 15 (前期)	1	52	②③④⑥⑦⑪
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	③④⑥⑪⑫
社会福祉総合演習(福祉共通)	15 / 15 (前期)	1	38	①④⑪⑫
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑥
相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	14	①④⑤⑩⑪
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	8	③④⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑫
福祉行財政と福祉計画論	15 / 15 (前期)	2	50	①
福祉科教育法	15 / 15 (後期)	4	3	①②④⑥⑦⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	8	⑥⑦⑩⑪
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	8	⑨⑪⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	6	③⑤⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
相談援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	8	③⑥⑦⑧
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	①④⑤⑩⑪
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	12	②④⑦
社会福祉発達史	15 / 15 (後期)	2	23	①②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
介護福祉特講	10 / 15 (前期)	2/1・2年	2
福祉政策経営特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「福祉経営論」

今年度は、レジュメを充実させ、時間配分を考えて実施できたためか、コメントは昨年度と比較し、「難しいが理解しやすい」「丁寧に説明してくれる」と好意的な内容のものが多かった。今後も新しい情報や具体例を話に盛り込み、わかりやすさに力を入れていきたい。

「福祉行財政と福祉計画」

この科目は、行政機構・財政・福祉計画と大きく分けると3つの領域があり、福祉行政としてつながっているとはいえ、内容は独立している。このため、授業の初めの方の講義内容である政策の変遷や行政機構について苦手意識を持ったとしても、シラバス通りの進行であったため初回講義時に科目全体の構造を丁寧に説明できていれば、財政、福祉計画と内容が変わった時に興味や意欲がわいたのではないかと考える。

今後、さらに、4分野について具体的な社会問題と交えながらイメージしやすい説明をしたい。

「社会福祉発達史」

この科目を昨年度から担当しているが、資格試験に必要な科目ではなく、介護クラスの必須科目である「社会の理解」と時間がかぶっていることから、本来なら1年生配当科目であるが、1年生はほとんどおらず、単位が不足している上級生の履修がほとんどであった。社会福祉は、社会の情勢の変化に対応するものであるため、福祉制度を学び始める1年生にぜひ履修してほしいと思う。来年度は担当がおらず不開講になるようであるが、社会福祉士養成校でも、この歴史の科目を単独で開講しているところは少ないため、学問として社会福祉を修めるという意味で、ぜひ、継続的に開講してほしい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
椋山女学園大学	ソーシャルワーク論 I	15/15(後期)	2	14
佐世保東翔高等学校	初任者研修「介護保険制度」	4/- (後期)	-	12

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験受験者補講	15	36	毎週金曜日1限

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「介護福祉施設における理念浸透の研究」

本研究の目的は、介護福祉施設における理念浸透の実態とその阻害要因を明らかにすることである。理念浸透の実態は、事業所として経営理念をどう職員に伝えマネジメントに反映させているのか(制度化)、各職員が理念をどう理解し、援助に際してどう体现しているのか(内面化)、組織、個人の二つの側面から明らかにすることである。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	2	0	2	1	1	260万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
21世紀の現代社会福祉用語辞典-第2版/共著/2019/7/学文社/複数ページ(34用語)

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
介護職員間で実施する「ケア」の概念を内在化するための研修方法に関する研究-ユニットメンバーの実績を解釈する実習を含めた研究プログラムカラー/2020/3/長崎国際大学論叢/77頁～91頁/単著/論文

介護福祉施設における理念浸透に関する研究/2019/7/地域ケアリング、21(7)/79頁～81頁/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

介護福祉施設における理念浸透の研究 -地域密着型介護事業所の管理職・リーダー職の語りから- /2019/9/日本社会福祉学会

介護福祉施設における理念浸透の研究 -地域密着型介護施設職員に対する調査から- /2020/2/27/長崎国際大学第20回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費「基盤研究C」	日本学術振興会	2017/4～2020/3	260万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員	委員として委員会に出席し、意見を述べた。
安全衛生委員会	委員	委員として委員会に出席した。
社会福祉学科内委員会 実習委員会	実習委員会 副 委員長 社会福祉士部会 部会長	実習会議のとりまとめ、社会福祉士実習に関するとりまとめを行った
社会福祉学科内委員会 社会福祉士国家試験合格支援 委員会	委員	社会福祉士受験学生に対し、前後期通して、補講を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
社会福祉学科将来構想 ワーキンググループ	社会福祉士資格担 当	2年後に迫る社会福祉士・精神保健福祉士の カリキュラム変更に合わせて、学科内で4コー スを創設し、新たなカリキュラムを考えていく。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

第1回オープンキャンパスでは、社会福祉士ブースの担当を企画運営した。

第2回オープンキャンパスでは、全体の統括として企画運営をした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席

2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
5	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平戸市社会福祉協議会役職員研修会「ケアの概念とは」	2019/8/23	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会
介護職員職業倫理セミナー「介護における倫理とケアの概念」	2019/9/27	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会
長崎国際大学秋季公開講座「認知症の方のことを知しましょう」	2019/10/5	長崎国際大学1101教室	長崎国際大学
令和元年度高齢者虐待防止ネットワーク検討会 講話「経営・管理側から行う虐待予防」	2020/1/21	中央保健福祉センター8階講堂	佐世保市
令和元年度在宅介護課職員全体研修会「虐待予防と理念としての『ケア』」	2020/2/21	佐世保市吉井活性化センター「ソレイユ吉井」	佐世保市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員	2019/6/1～ 2020/3/31	佐世保市長
佐世保市高齢者虐待防止ネットワーク委員会	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	佐世保市長
日本社会福祉学会 機関誌等査読委員	委員	2018/1～2020/12	日本社会福祉学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・査読委員としての活動。日本社会福祉学会 2本の論文を査読する。

- ・分科会の全体統括者 日本社会福学会第67回秋季大会(大分大学)分科会(高齢者保健福祉1)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

2019年度 長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストプラクティス部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、本校で勤務して2年目にあたり、授業については昨年の反省も踏まえてレジュメを充実させたり、授業開始5分間でテストをし、遅刻者予防と学生の学びの振り返りにつなげることができた。

国家試験支援においては、社会福祉士クラスの担当となり、毎週金曜日に補講を行った。今年度は昨年度に比較し、おとなしい学生が多かったため、できるだけこちらから声を掛け、学習状況や悩み事を聞き取るように努めた。

また、社会福祉士実習部会の部会長となり、助手の協力のもと、各実習関連科目のとりまとめ役を担った。台風や大雨で実習期間を変更した学生もいたが、病気やけがもなく全員が無事に実習を終えることができた。この役割をになってみて、もう少し、他の教員への連絡や資料作成を早めに行うよう心掛けたい。

研究においては、今年度は学会発表、論文とも1本仕上げる事ができた。ただ、研究自体の進捗は芳しくないため、来年度は、一層の努力を必要としている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 中村 美穂

1. 教育理念

私の教育理念は、学生が主体的に学ぶ環境を提供し、自分で自分の生きる道を選び決める過程を支援することと考えております。

大学という場における教育目標の一つは、学生の社会的自立であるとされます。それゆえ、学生には、学生自らが積極的に学ぶ姿勢を重視します。それは、学生が社会人として、目前の課題を自分で解決しようとする熱意や努力につながると思うからです。

また、学究活動においては、学生が自分の意思を自由に表現することや、学生同士が相互に交流を図ることを重視します。社会生活を営む上では、自分を取り巻く周囲、さらには自分自身と上手く付き合っていく必要があると思うからです。

そのため、学生が人のこころの仕組みやそれに基づくさまざまな働きなどを学び知ると同時に、それを活かして、大学生活における人間関係上の課題などを現実的に解決できるよう手助けする必要があると考えております。

以上より、私は、心理学(臨床心理学)という専門領域を活用し、次の2点について、真剣に取り組みたいと思います。

(1) 私の専門領域である心理学、臨床心理学、学校臨床心理学などの分野における知見を広く紹介し、学生が人のこころの仕組みやそれに基づくさまざまな働きなどを学び知ることができるよう支援します。

(2) 人の心理などに関する課題について実践的に取り組む学究活動を提供し、学生が大学生活などでの現実的な課題を解決することができるよう支援します。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
心理学	15 / 15 (前期)	2	116	②③④⑥⑩
心理学	15 / 15 (後期)	2	27	②③④⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学生が「心理学」の授業を通して、人の心の働きを知るなどして、人間理解を深めること、そして、その理解を活かして充実した大学生活を送る(生きる)ことを重視しました。しかしながら、大人数のクラスでは、学生のニーズは多様であり、学生それぞれの特性や強みを把握して授業を組み立てることは非常に難しいことだと感じました、

その一方、今年度初めて経験した30人程度の少人数のクラスでは、コメントシートなどを通して、学生一人一人のこころの声に耳を傾けることができ、必要に応じて、学生相談室へつなげるなど、柔軟に対応することができました。

学生の授業に対する満足度が昨年度に比べて高まったことから、引き続き、学生の興味・関心、訴時々のニーズに応じて、生きた授業を行っていくことを心がけたいと考えております。具体的な方略としては、やはり、コメントシートなど、毎回の授業において、学生の声を聞くということではないかと思っております。それにもとづいて、学生が今どのようなことに興味をもっているのか、学生生活を充実化させるためにはどのような知識や情報を提供するべきかなど、教員がタイムリーに理解して授業の内容や形式を見直し組み立てていく必要があると考えております。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

これまで、私は、学校臨床心理士として、小学校や中学校、高等学校、大学、専門学校などで、多くの子と親、教師と出会い、こころの声に耳を傾けてきました。そのような生身の人間の内的なこころの世界に寄り添うなかで、子と親がどのような心理的援助を求めているのか、また、教師が学校臨床心理士に対してどのような役割を期待し、学校という場ではどのような学校臨床心理士の機能が有効なのかを考えるようになりました。特に、長崎国際大学においては、学生相談担当の専任カウンセラーとして、その立場や役割を活かし、学生支援・学生相談の充実化を図るため、多種多様な学生相談活動はもとより、そのためのカウンセラーと教職員との連携や協働の在り方やその工夫を探索的に検討したり、日々の臨床実践にもとづいて実践的に研究したりなど、量的かつ質的な研究を積み上げているところです。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
学生相談カウンセラーの専任化を活かした連携や協働/2020/3/九州大学総合臨床心理研究/
1頁～6頁/単著/事例研究
長崎国際大学における学生相談活動の現状と課題/2020/3/長崎国際大学論叢/9頁～19頁/
共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	運営委員	社会福祉学科教員および学生相談担当の専任カウンセラーとして参加し、運営委員と共に、学生支援・学生相談活動について協議している。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
女性研究者支援相談員	女性研究者支援相談員	研究者である教員、特に女性を対象として、さまざまな相談を受けている。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
第30回人間らしく働くための九州セミナー in 長崎 :分科会別セミナー(感情労働と健康権)	2019/12/1	長崎大学	九州社会医学研究所(産業医:田村昭彦先生)
九州文化学園中学校教職員研修(児童生徒の理解と支援について)	2019/12/20	九州文化学園小中学校	九州文化学園小中学校学校長

九州文化学園小中学校事例検討会(児童生徒の理解と支援に関するケーススタディ)	2019/3/6	九州文化学園小中学校	九州文化学園小中学校学校長
--	----------	------------	---------------

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、「心理学」について修学する学生の理解と、それを学生自ら学生生活自身に有効活用するというプロセスを促すことができたのではないかと考えられます。授業アンケートにおいても、学生の授業に対する満足度が、4.5(昨年度4.2)となり、積極的にアクティブラーニングを取り入れた授業の構成、特に、学生同士の協同的学習による結果であると考えております。今後も、さらなるアクティブラーニングの活用などを検討し、学生が自発的に修学する授業の内容や形式、その構成を模索し実践していきたいと考えております。

大学運営面においては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会の運営委員として、学生支援・学生相談に関する協議に参加し、本学における学生支援、特に、障がい学生支援の在り方(配慮申請など)についての理解を深めることができたのではないかと考えます。そのことは、学生相談活動においても、有効活用することができ、配慮が必要とされる学生を適切な学生支援につな

げることが可能になったと考えております。

また、社会活動をはじめ、女性研究者などの労働者のメンタルヘルス支援に積極的に取り組み、学生と関わる教職員へのコンサルテーション活動にも従事しました。

研究面においては、単著論文では、所属する日本学生相談学会や日本カウンセリング学会の学会誌や九州大学総合臨床心理研究などへ投稿し、共著論文では、長崎国際大学論叢への投稿を行いました。今現在、単著論文で、九州大学総合臨床心理研究において1本採択され、共著論文では、長崎国際大学論叢において1本採択されております。さらに、現在、学生相談研究において1本投稿中です。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 野田 健

1. 教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に伝えていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	8	⑦⑫
就労支援サービス論	8 / 8 (前期)	1	56	①⑥⑨
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	⑥⑫
卒業研究	60 / 60 (通年)	4	8	⑫
相談援助の基盤と専門職A	15 / 15 (前期)	2	66	①⑥⑨
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	8	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	15 / 15 (前期)	1	38	⑧⑨
介護概論	6 / 15 (前期)	1.5	102	②⑦
相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	12	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	16	④⑤⑥⑦⑩
学際連携研究	3 / 15 (前期)	2	198	⑩
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑫

相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	8	①④⑤⑥⑦
相談援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	7	①⑤⑥⑦
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	16	⑤⑥⑦
福祉の哲学・倫理	15 / 15 (後期)	2	22	①②⑤
社会福祉総合演習(福祉専門)	15 / 15 (後期)	1	38	⑧⑨
相談援助の基盤と専門職B	11 / 15 (後期)	2	69	①⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「相談援助の基盤と専門職A」、「相談援助の基盤と専門職B」、「相談援助演習ⅡA」、「相談援助演習ⅡB」「福祉の哲学・倫理」の授業評価は、いずれも5点満点中概ね4点台であり、4点台後半の科目もあった。

授業改善点について、昨年度は学生が能動的に学修できるよう、ワークシートやポートフォリオを活用するようにしたのだが、授業評価に改善が見られなかった。そのため、今年度はワークシートやポートフォリオの内容を増やす形を取った。それが、学生の予習復習へとつながり、授業評価を上げた一要因になっていると考える。

教育効果について、今年度は昨年度同様、どの授業でも一貫して「福祉マインド」をいかに醸成していくかに焦点を当てながら行ってきた。しかし、将来福祉職に就く学生とそうでない学生との温度差が授業中の姿勢等から見られ、十分に伝えきれていないよううかがえた。福祉職希望でない学生にどう伝えていくかが今後の課題として挙げられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国家試験合格支援(追加学修時間)	50	37	通年

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 共感についての考察

②介護福祉士の専門職性の検証

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
災害支援におけるソーシャルワークの意義の再考	長崎国際大学	2019年度	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生生活を守るために、委員会通常業務(会議やフレッシュマンセミナー、学内清掃活動の運営・参加)を行い、大学運営に貢献した。
ボランティアセンター (ボランティアセンター運営委員会)	副センター長 (副委員長)	災害ボランティアの活動を継続していくために、実際に災害ボランティア活動に参加したり、学祭にて啓発活動をする等をし、センターの取り組みに貢献した。
学科運営委員会(学科内)	委員	学科の安定・発展的運営を図るために、委員で学科会議前に集まって議題を整理していき、適切な運営に貢献した。
介護福祉クラス委員会(学科内)	委員	なし

実習委員会(学科内)	社会福祉士部会委員	相談援助実習の適切な運営のために、業務の実施、会議の運営等を行い、学生が実習を無事に終えることに貢献した。
国家試験合格支援委員会(学科内)	委員長	学生が国家試験に合格するために、委員会メンバーと様々な取り組みを立案・実施し、学生の国家試験合格率向上に貢献した。
ボランティア研究センター(学科内)	センター長	佐世保周辺地域から寄せられるボランティア依頼に応えるために、ボランティア依頼先と学生を仲介する仕組み作り、運営に取り組み、学生がボランティア活動に尽力できる環境整備を整えることに貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ① チームヤングコーン・ボランティア同好会の顧問(通年)
- ② どれみふぁくらぶのサポート(通年)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 第1回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラム運営担当(2019年7月21日)
- ② 長崎玉成高等学校1・2年生への模擬授業(2020年2月18日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席

2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
新人介護職員セミナー	2019/11/15	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市社会福祉協議会生活困窮者自立支援事業自立支援計画支援調整会議	委員	2019/6/13～ 2020/3/31	佐世保市社会福祉協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 仏教看護・ビハーラ学会の編集編集委員会編集作業委員(通年)
- ② 子ども食堂のボランティア参加(2019年5月25日、12月14日)
- ③ 県北に在住・在籍している相談員の集いへのサポート(通年)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院2019年度長崎国際大学社会福祉学短期研修の引率	左記研修のプログラムの1つである雲仙と南高愛隣会の見学の引率	2019/7/22	上海大学・長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

活動全般を4つの項目に分けて自己点検すると、下記のとおりになる。なお、評価はS～D評価の5段階で表すことにする。

- ①教育活動:A評価:授業アンケートの結果から、昨年度よりも若干向上したため、評価できる。
- ②研究活動:D評価:今年度は、研究発表0本、学術論文0本であり、非常に問題である。一昨年度は書評1本、研究発表2本、学術論文2本(単著1、共著1)、昨年度は学術論文2本(いずれも共著)であったため、来年度は研究活動を意識的にしなくてはならない。
- ③社会活動:C評価:今年度は、佐世保市社会福祉協議会の活動に委員として参加したが、社会に対する貢献度としては高くないと考える。
- ④大学運営:A評価:行事や委員会等にほぼ参加し、担当業務を滞りなく行った。とりわけ国家試験合格支援委員会の活動やボランティア研究センターの活動に多くの時間を費やしたが、いずれも学科運営に欠かせないものであり、一定の評価ができる。

以上4つの項目のうち、昨年度に続き今年度も④大学運営に最も時間を割いた。結果、②研究活動が非常におろそかになった。また、①教育活動は昨年度よりも少しずつ良くなっているものの、一方で③社会活動は昨年度よりも減ったことから、全体的には向上していないことがうかがえる。

については、今年度の反省を踏まえ、来年度はこれまでの経験を活かしながら、②研究活動と④大学運営のバランスを調整し、①から④のすべての項目でA評価以上になるよう、効率的・効果的に取り組み、成果を上げることを目標とする。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 久田 貴幸

1. 教育理念

私の教育理念は、自ら考え行動できる能力と他者との関係を円滑に行うための能力を持った学生を育てることである。そのために、学生の能力や特性に合わせた問題提起や取り組みがしやすい環境を整え、学生同士の関係性を観察したうえで調整を図ることを大切にしている。また、社会に必要とされている福祉専門職像を満たしたうえで、さらなる専門性の向上に寄与できる人材を育てることに力を注いでいる。そのために、専門的知識と技術を実践に活かすための思考について、常に意識させるよう促している。

学生には、今後の医療・福祉の中核的人材としてリーダーシップが取れる能力を身に付け、福祉のクリエイティブな側面を知ってもらうことで、社会福祉の専門職として社会における福祉の増進・進展に寄与できる人材になるための基礎を作り上げてほしいと考えている。そのために、学内における学習を基礎として、地域社会とのかかわりの中で自身の立ち位置をしっかりと認識できる人になってもらうための促しを常に心がけて学生と関わっている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
介護実習Ⅰ	180 / 180 (通 年)	4	9	①⑦⑪⑫
介護実習Ⅱ	90 / 90 (通年)	2	3	①④⑫
介護実習Ⅲ	180 / 180 (通 年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(介護)	5 / 15 (通年)	1	3	①④⑪
キャリア開発C	5 / 15 (前期)	2	317	①②⑩
介護概論	4 / 15 (前期)	1.5	102	②⑦
介護概論ⅡA	15 / 15 (前期)	2	11	①⑥⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
コミュニケーション技術	15 / 15 (前期)	1	11	①④⑤
生活支援技術ⅠA	15 / 15 (前期)	1	17	①④⑧
介護概論ⅢB	15 / 15 (後期)	2	3	①④⑧
介護過程ⅡB	15 / 15 (後期)	1	3	①④⑤
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
介護概論ⅡB	15 / 15 (後期)	2	10	①⑥⑨⑩
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	16	①⑤⑥⑦
レクリエーション活動援助法	15 / 15 (後期)	2	16	⑥

生活支援技術 I B	7 / 15 (後期)	1	20	①④⑫
障がい者スポーツ	3 / 15 (後期)	2	41	⑪
地域の理解と連携	3 / 15 (後期)	2	316	②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

介護概論ⅡAについては、学生たちとの信頼関係を築くことを第一に、自身の授業スタイルを作り上げることを目標として前期の授業に取り組んだ。目標は、おおむね達成できたと感じているが、残された課題もある。今後の授業でも、少しずつ改善を図っていければと考えている。

コミュニケーション技術は少人数の授業であり、講義、グループワークだけでなく体を動かして行う障害者体験等も取り入れた。ただし、相談援助技術Ⅰからの連動性ということから考えると、前任の教員からの流れを踏襲できなかったことについて、学生の視点から考えると残念なポイントであったと考える。できる限り、前任の教員がどのようなことを伝えていたかを学生に確認をしながら授業を行った。

生活支援技術ⅠAについては、運動への特性や、人間の動作と筋肉の活動が重要となる。今回は、授業の流れがうまくいかなかったところも感じ、重要な知識に時間をさけなかったと感じている。来年度は、今回の反省を活かした準備を行いたいと考えている。

介護概論ⅡBについては、前期からの課題であった「準備学修」について、予習や復習に関する指示を明確に行ったにもかかわらず、学生の取り組みは向上しなかった。来年度は、準備学習に対しても何らかの評価を設けるなど、学生のモチベーションを引き出すための工夫が必要であると感じた。

相談援助演習Ⅰについては、すべての学生に対してよい授業というものが、いかに難しいかということを感じた科目であった。今後は、取り組み意識や学力が二極化するケースも想定する必要があると感じた。具体的な授業の構成と展開をこれから考えたい。

介護概論ⅢBについては、ほぼゼミ形式の授業であったが、最終年限の介護福祉士としてのまとめとして、学生が自身の考えをまとめる機会を与えられたのではないかと考える。

介護過程ⅡBについては、最終年限に進む前段階の授業として、これまでの学修内容の統合とこれからの介護福祉士像を示すことを目標としていた。学生のコメントを聞く限り、授業を構成するにあたっての目標は達成できたと感じた。

レクリエーション活動援助法については、実際に福祉の現場で行っているレク活動の支援の見学やビジュアル教材の使用なども検討していきたいと考えている。

生活支援技術ⅠBについては、授業の内容に関して、得意・不得意が顕著に表れる科目であるため、知識の提供と体験の比率を再検討する必要があると感じた。今回の授業で感じ取った、学生たちの得意・不得意に対する配慮を行い、学修の意欲と満足度を向上させたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士講座	1	6	2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

介護福祉実践
 介護福祉教育
 専門職養成教育
 専門職の思考過程

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	15万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 介護福祉士養成課程の教育内容見直しプロセスに関する分析—福祉人材確保専門委員会報告書のテキストマイニング分析を中心に—/2020/3/長崎国際大学社会福祉学会紀要(投稿中)/9頁～21頁/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
 なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護職員育成プログラム作成及び実施に関する研究	医療法人 秋桜会	2019/3～2021/3	15万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	定例・臨時で行われる会議に出席し、委員会内に設置された小委員会「学食検討委員会」に参加する。また、学生会の執行部の支援を行った。
介護福祉クラス委員会(学科内)	委員	介護クラスの円滑な運営のため、不定期に行われる会議に参加した。
就職委員会(学科内)	委員	合同企業説明会の準備などに関する補助的な役割を果たした。
卒業生等連携委員会	委員	卒業生等との連携を強化するために設置された委員会に参加した。内容として、不定期に行われる会議における記録係や外部組織との打ち合わせに参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

介護福祉士養成施設の出張合同説明会において、島原農業高校と島原翔南高校の学生に対して、介護福祉士を目指す学生を確保するための説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席

2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	欠席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
介護福祉士実習指導者講習会	2019/10/19	長崎短期大学	介護福祉士会
佐世保県北圏域介護職員研修会	2019/12/14	アルカス佐世保	介護福祉士会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉協議会	委員	2019/4/1～ 2022/3/31	佐世保市長
佐世保市地域包括支援センター運営協議会	委員	2019/6/1～ 2021/5/31	佐世保市長
九州西部地域大学・短期大学 連合産学官連携プラットフォーム	健康・医療・福祉専門委員会 委員	2019/4～	

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、様々な情報を集めながら自身の立ち位置やこれからの活動の方向性を定めることを主眼において活動した。その中で自身の活動を4項目に分けて点検をすると、以下のことが言える。

①教育活動

これまで以上に、学科のカリキュラムを意識したうえでシラバスに基づいた授業を行うことを心がけた。また、学生の能力や特性、興味・関心に目を向け、それに応じて積極的に授業の構成を変更するなどの取り組みも行った。さらに、学生の様子を観察し、必要と感じた時にはメンタルヘルスに対する支援も積極的に行った。これらの取り組みに対し、授業アンケートの結果を見る限りでは、学生に受け入れられたのではないかと考える。しかし、この結果に甘んじることなく今後も学生にとって最適な授業を模索したいと考えている。

②研究活動

今年度は、学内の社会福祉学会へ単著の論文を1本投稿することができた。また、県内の医療法人から受託研究を1研受ける事ができた。論文の本数及び研究の件数は、まだまだ少ないものの、今後につながる活動が行えているのではないかと考えている。

③社会貢献

外部からの講演依頼について、数は少ないが受けることができた。また、地域の医療・介護事業所の支援も積極的に行っており、事業所の外部委員をはじめとして様々な支援活動を行っている。さらに、佐世保市からの委託を受けた委員活動も2件行っている。今後も、地域に貢献できるような取り組みを積極的に行いたい。

④大学運営

学内・学科内の委員会活動には積極的に参加し、与えられた役割を果たす努力を行った。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 助教 氏名 村上 広美

1. 教育理念

私の教育理念は、物事を主体的に柔軟に考え、まずやってみる(行動する)ことができる人材を育てることです。そのため、私の授業では、その人(学生)らしさをのびのびと発揮でき、様々なチャレンジができる環境設定をすることを重視しています。

私が担当する講義系科目は、主に初年次学生を対象とした全学共通科目と、精神保健福祉士を目指す学生が受講する精神保健福祉士養成のための専門科目が中心です。初年次学生を対象とした全学共通科目においては、一般教養としての知識を身につけることはもちろんですが、高校から大学という学びの大きな転換を通じて、「自ら」「主体的に」学ぶ姿勢を身につけること、同年代他者とのコミュニケーションの機会を通して、自分自身について知る・気づく機会を持つことが重要だと考えます。そのため、私の授業においては、ほぼすべての科目・コマ内で(講義系科目においても、大人数講義においても)、ペアワークやグループワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れています。様々な学びの形式を取り入れることで、個々の学生が自身の課題に応じてチャレンジできる機会を提供し(例:コミュニケーションの苦手さを自覚している学生が、他学科の学生とワークに取り組む/ワークを通じて相手や自分の強みや課題に気づくなど)、学生の学修全般への意欲喚起や体験的に学ぶことでの知識の定着、青年期の発達課題でもある「自分とは何者か」という問いに向き合う姿勢などを学んでほしいと考えます。この理念は、ゼミ活動にも共通しており、様々なことに挑戦する素地としての基礎学力の育成を意識しながらも、学生個々人に合わせて明確な課題を設定し、ゼミの仲間と共に課題に取り組む中で、自己理解や他者理解を深めていくことを常に念頭に置いて授業を進めています。さらに、精神保健福祉士養成のための専門科目においては、学生が精神保健福祉士—精神保健福祉分野、ひいては対人援助職の専門家—として活躍していくために重要な「自己覚知」を深めることを重視しています。そのため、国家試験対策としての知識を定着させることを前提としながらも、学生の興味関心をより喚起し、資格取得への意識を高めるために、教育的視点はもちつつも、対人援助職の専門家の先輩として学生と対峙し、実例や実体験を可能な限り(患者等から許可が出ている範囲で)開示したり、ロールプレイなどのより実際に近い形での学びの場や、実習やボランティア活動などで現場(当事者や支援者を含む)に触れることなどを通して、「自分らしく」「行動する力」を養って欲しいと考えています。

上記のような教育理念のもと、授業時間外においても、学内外問わず様々な活動(自閉スペクトラム症、難病、精神障害、生活困窮、肢体不自由等を対象としたボランティア活動や学内でのピア・サポート活動など)に参加する機会を、積極的に提供するようにしています。これは、実際に当事者と接したり、自分たちで組織を作っていくことが、学生が幅広い視野と柔軟性、物事への取組の主体性を育てるのに役立つと考えるからです。

授業や課外での活動等への参加を通して、学生がのびのびと、その子らしく育っていってくれることを期待します。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
精神保健福祉援助実習B	75 / 75 (通年)	5	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
精神保健福祉論	9 / 15 (前期)	2	32	②④⑥⑨
精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	15 / 15 (前期)	2	32	②⑤⑥⑨
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑦⑫
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	②⑤⑥⑩⑫
社会福祉総合演習(精神)	5 / 15 (前期)	1	6	①⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑨⑩⑫
教職実践演習(栄養教諭)	1 / 15 (後期)	2	1	⑨
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	6	⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	②⑤⑥⑦⑨⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	②⑤⑦⑨⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	9	①⑥⑦
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	20	②⑤⑦⑫
臨床心理学	15 / 15 (後期)	2	53	②⑤⑦⑨⑩⑪
心理学	15 / 15 (後期)	2	181	②④⑤⑦⑨
キャリア開発Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	317	②⑤⑥⑨⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを行ったのは、前期「教養セミナーA」「精神保健福祉論」「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」、後期「心理学」「臨床心理学」の5科目である。

「教養セミナーA」は、いずれも少人数クラスによる通年のゼミ形式の授業であり、満足度5.0と高い評価であった。また、他の4科目は講義形式の授業であり、満足度4.2～4.5と概ね良好であった。講義形式の授業においては、基本的にはPPT資料を用いながら、ペアワークやグループワーク、体験的学習等を積極的に取り入れた授業展開を工夫した。前期の2科目(「精神保健福祉論」満足度4.5、「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」満足度4.3)については、精神保健福祉士の専門性について学ぶ社会福祉学科の2年生を主な対象とした講義である。本授業で扱う分野への関心の高い学生が多いため、クラス全体のモチベーションを合わせやすい(促しやすい)こともあり、自由記述をみても、ポジティブな内容の記述が多く見られた。事例を多く取り入れ、現場に近い視点での授業内容を心がけていることと、授業の展開等も含め、本学学生のスタイルにあってきたことが、評価につな

がったものとする。後期の2科目(「心理学」満足度4.2、「臨床心理学」満足度4.4)は、共に自身の専門性を最も活かすことのできる科目であり、実例や体験型ワークなどを随時取り入れることを意識した。概ね例年同様の評価を得られた一方、特に「心理学」に関しては、今年度は遅刻や私語など、授業環境を整えることに苦勞することが多かったという感覚であった。少しでも授業内容に関心を持ってもらいたいとの思いから、グループワーク等、学生の主体的な参加を促す工夫を行ったことが、一部学生には好評を得た一方で、多様な学生が受講をする中、学生たちが授業に集中しやすい環境を整える=大人数の集団をコントロールすることにやや重点を置きすぎてしまい、授業の内容を充実させる=授業内容に関心を向けることで、自然と学修できる環境が整っていくという視点がやや足りなかったようにも感じている。学生たちの評価を今後の自身の課題として受け止め、改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
「臨床心理学(栄)」の補習	1	5	2019/11/7
2019年度保育士対策講座「保育の心理学」	1	12	2019/5/22

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①思春期・青年期発達障害児者への臨床心理学的援助に関する研究
- ②心理劇、動作法などのアクション・メソッドの理論と実践に関する研究
- ③グループセラピープログラムの開発と実践応用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	2	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
場面認知の困難さとこだわりをもつ青年の役割演技に見る社会性発達とその支援/2019/6/心理

劇研究／27頁～40頁／共著／原著

対人関係に難しさを持つ思春期女兒グループへの心理劇導入～プログラムの構成と心理劇の展開に着目して～／2020/3予定／心理劇研究／未定／単著／原著

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

大学生のゼミ活動における心理劇導入の試みー少人数既知集団における心理劇活用の意義と課題ー／2020/3／第45回日本臨床心理劇学会大分大会

長崎国際大学NIUピア・サポート学生組織の活動内容について／2019/12／全国大学ピア・サポーター合同研修会 ぴあのわin愛媛

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
NIUピア・サポート学生組織を通じた課題解決型学習の効果と課題	長崎国際大学令和元年度学長裁量経費(代表者)	2019/6～2020/3	60万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	配慮が必要な学生についての教職員への情報提供のための資料作成・説明会の担当、ピア・サポート担当教員としてのサポーター・利用学生への研修等の実施、ピア・サポート活動の組織(NPS学生組織)にかかわる学生の育成・運営、各種研修会の企画、全学的な学生支援体制整備に向けた検討等に関わった。
教育基盤センター	兼任	学習支援部門の担当教員として、ラーニングコモンズスタッフ学生の研修会の企画・実施や、次年度に向けての体制整備に関わった。
教養セミナー部会(学科)	委員長	学科の教養セミナー部会の長として、1年生全体の統括・相談役、教養セミナーの運営の中心としてかかわった。
教育内容向上委員会(学科)	委員	学科の教育内容向上のため、1年生部会長として意見を提出した。
実習委員会(精神)(学科)	委員	精神保健福祉士の実習に関する検討・運営に関わった。

国家資格合格支援委員会(精神保健福祉士部会)	委員(部会長)	精神保健福祉士の国家試験合格に向け、勉強会の実施や学生の成績分析などを担当した。精神保健福祉士部会の委員長として、全体会議に出席し、学科全体の方針についても検討した。
学生支援委員会(学科)	委員	配慮が必要な学生の支援に関わり、学生からの相談と、教員間での連携等を行った。
保育士講座(学科)	委員	保育士講座の担当として、講座のマネジメントや学生からの問い合わせ相談等に関わった。
将来構想検討委員会(学科)	委員	新カリキュラムへの対応を踏まえた学科の今後の在り方を検討するための委員会に、精神保健福祉士養成部会の代表として参加し、新カリキュラム案を含めた将来構想検討に関わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーWG	委員	教養セミナーAの全学科共通で進めるプログラムの内容検討に携わった。
学長裁量経費(NIUピア・サポート学生組織を通した課題医解決型学習の効果と課題)に基づく全学的な学生支援体制の検討 ※再掲(委託研究・外部資金採択等)	代表者	学内のピア・サポート活動の体制整備や、NPS学生組織の運営のサポート、研修会の企画、他大学視察、研修会への参加や、バリアフリーマップ作成に向けた会議、ピア・サポートにかかわる学生に対するアンケート調査等に関わった。
QSP 子ども育成部門 研究会	委員	QSP関連事業の、子ども育成部門で行っている研究会にて、地域の子どもの生活課題を明らかにするためのアンケート調査の企画・関連する研究会に定期的に参加した。

(3) 課外活動の指導等

NIUピア・サポート学生組織

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
8	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市障害児(者)地域療育支援事業(ぎゅうぎゅう広場)	※月1回開催	佐世保特別支援学校	佐世保市子ども育成課
平戸市ファミリーサポート・センター事業協力会員講習会「子どものこころの発達とその問題」(第1回)	2019/7/20	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会
長崎国際大学2019年度第2回授業研修会(新任教員FD)	2019/7/13	長崎国際大学	長崎国際大学
佐賀県 特別支援教育スキルアップ研修 講師	2019/8/9	メートプラザ佐賀	佐賀県教育庁教育振興課
発達凸凹な子どもとのコミュニケーションを考える 勉強会	2019/12/9	長崎国際大学	自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン
発達凸凹な子どもとのコミュニケーションを考える 勉強会	2020/2/20	長崎国際大学	自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン
平戸ロータリークラブ子育て応援事業「思春期を迎えた子どもたちへの関わり」セミナー	2019/12/14	平戸市社会福祉センター	平戸ロータリークラブ

平戸市ファミリーサポート・センター事業協力会員講習会「子どものこころの発達とその問題」(第2回)	2020/2/6	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会
--	----------	-------------	------------

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学附属臨床心理センター	センター研究員	2013/4～現在に至る	総合臨床心理センター長
福岡女学院大学 臨床心理センター	面接指導員	2018/4～現在に至る	臨床心理センター長
日本臨床心理劇学会	理事	2018/4～現在に至る	日本臨床心理劇学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2016年4月～現在に至る/年2回開催/九文事例検討会/アドバイザーとして参加/九州文化学園所属教職員
- ②2016年4月～現在に至る/月1回開催/自閉症児の余暇活動(どれみふぁくらぶ)/活動企画の補助、相談役として参加/長崎県自閉症親の会佐世保支部
- ③2018年4月～2018年12月/月1回開催/Reaching out to People(難病患者の会)/委員/佐世保地域リハビリテーション広域支援センター・Reaching out to People2018実行委員会
- ④2017年3月～現在に至る/脳損傷患者「ぶらむ」交流会/相談役として参加/脳損傷患者「ぶらむ」
- ⑤2017年4月～現在に至る/佐世保市学習支援会/学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役/佐世保市生活福祉課学習支援委員会
- ⑥2010年4月～現在に至る/福岡発達障がい者親の会「たけのこ」アカデミックスキル研修会(TRG)/スタッフ兼アドバイザー/福岡発達障がい者親の会「たけのこ」
- ⑦2017年9月～12月/障がい者啓発事業/活動企画の補助、相談役、ボランティア学生のとりまとめとして参加/佐世保市福祉活動プラザ
- ⑧2003年4月～/自閉症児のための療育グループ「土曜学級」ボランティアスタッフ
- ⑨2016年4月～現在に至る/月1回開催/佐世保市障害児(者)地域療育支援事業/スーパーバイザー
- ⑩2018年4月～現在に至る/川棚町学習支援会(川棚町生活困窮者の子どもの学修支援事業)/学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役/アドバイザー/NPO法人地球っ子
- ⑪2018年4月～ にじいろサロン(自閉症の子どもを持つ保護者の会)イベント/ボランティアスタッフ&学生引率
- ⑫2018年4月～ 佐世保市発達障害当事者会ハナミズキ/アドバイザー

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

①2019年6月 長崎国際大学ベストティーチャー賞(学生による授業アンケート部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育・大学運営・社会貢献・研究の4つの側面から今年度の活動を振り返る。

教育面では、学生の関心を引き出すための授業展開に積極的に取り組んだ。授業アンケートではおおむね高い評価を得たといえる。1, 2年生のゼミでは、配慮申請のある学生も含め、個別の対応が必要な学生が複数名おり、随時保護者や学内の関係教職員と連携をとりながらサポートを行った。また、精神保健福祉士の国試合格支援において中心的な役割を担った。その他、保育士講座の実施や全学共通科目を通して、学科内のみならず他学科の学生や教職員からも多数の問合せや個別の相談があり、対応した。

大学運営面では、正規の委員会活動の他、ワーキンググループ等にも多数参加し、自身の専門性を活かして積極的に携わった。特に、CHサポートセンター運営委員として、学内のピア・サポート活動の体制整備やバリアフリーマップの作成、研修会等の企画を他学科教員や学生と一緒に行うことができた(学長裁量経費の助成による)のは大きな成果であった。また、教育基盤センターの兼任教員として、教養セミナーWGに参画し、教材づくりやその運用(学生の状況の把握や学科教員のとりまとめなど)に関わった他、CHサポートセンターとの連携に向けた動きなどに携わった。教養セミナーに関しては、社会福祉学科の教養セミナー部会長として、教養セミナーの運用に中心的に携わり、特に初年次学生に関して、学科内外の教職員と連携しての対応等が行えたことも成果の1つといえる。

社会貢献事業については、昨年度に引き続き、難病患者、自閉症児、肢体不自由児、生活困窮家庭、精神障害者などを対象に地域で行っている活動に参画した。各種研修会・講演会の講師を積極的に引き受け、各親の会からの依頼による調査研究を行うなど、地域とのネットワークの広がりを実感できた。

研究に関しては、単著論文1本、共著論文1本を査読付き学会誌に投稿し、採択された他、学会発表

1本を行った。上記つながり等から、現在自閉症を中心とした障害児の保護者を対象としたインタビュー調査や、ピア・サポート活動に関する学生への意識調査、初年次教育におけるグループワークの効果研究など、研究の基礎的データをとることができたため、今年度の成果を基に、次年度、論文等の形にまとめていきたい。

全体を通して、自身の専門性を活かしながら活動する機会を多くいただき、様々なチャンレンジを行えた。一方で、様々な役割が増えたことで、会議や打合せ等が大幅に増加し、自身のマネジメントが十分でなかったために学生が訪ねて来てもすぐに対応できない機会が増えたことや、研究の時間を十分に確保できてない点については、今後の課題としたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 社会福祉 職名 助手 氏名 毎熊 亜美

1. 教育理念

私の教育理念は、広い視野を持つ為に何事にもまず積極的に挑戦してみる学生を育てることである。そのためにアルバイトやボランティア、部活動などを通して色々な人と関わることを大切にしていきたい。学生の中には将来の目標が決まっていない人、将来の目標がしっかり決まっている人もいるだろう。どちらの学生においても、たくさんの人と関わる中で物事の考え方の幅が広がり、広い視野を持つことができるのではないかと考えている。

そのために私は学生が一番身近な社会人の一人として関わっていきたくため、色々な情報提供ができ、気軽に相談しやすい助手研究室の雰囲気づくりをしていきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

担当科目がないため、特になし。

ただ、補助に入ることにより、授業が円滑に進められるように支援できたと感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
相談援助実習指導ⅡA OR補助	2	53	2019/6/18, 2019/7/23
相談援助実習の理解 OR補助	1	56	2019/7/23

相談援助実習指導Ⅰ(見学実習、面談補助)	4	43	2019/9/19, 2019/10/8, 2019/10/15, 2019/10/29
相談援助実習指導ⅡB(実習報告会)	1	53	2019/12/7
精神保健福祉援助実習指導ⅡB(実習報告会)	1	6	2019/11/8
教養セミナーB OR補助	1	72	2019/12/19
専門基礎演習B OR補助	1	56	2019/12/18

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

自閉症児者の余暇活動におけるコミュニケーションとQOLの関連性の研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学科運営委員会(学科)	委員	学科運営に関する資料準備、学科会議・専攻会議の資料準備、連絡調整等を行う。

実習委員会(学科)	委員	毎月の実習委員会開催において、事前準備及び運営を行う。 相談援助実習及び精神保健福祉援助実習を行うにあたり、実習先へ連絡調整をする。 各実習に関する学内イベントの調整・準備・運営を行う。 新規実習施設等への実習先訪問。 三大学連絡協議会への出席及び連絡調整を行う。 その他に実習を行うにあたって、関係書類作成を行う。
国家試験合格支援委員会(学科)	委員	国家試験に取り組む4年生が学修で使用する模擬試験の準備を行う。 国家試験対策書籍や物品購入を行う。
学内学会委員会(学科)	委員	長崎国際大学社会福祉学会を開催するにあたり、準備・運営を行う。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	対象外
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2013年4月～現在に至る／自閉症児者の余暇活動／活動企画補助／長崎県自閉症親の会佐世保支部

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は本学赴任1年目として、学科内業務と実習関連業務を円滑に行うことに専念した。学科内業務では学科会議をはじめ、保護者会の準備や年度末オリエンテーションの準備等行った。実習関連業務では、実習報告会の準備や実習に関する科目での準備、来年度の実習配属・面談をし内諾を取ることも行ってきた。さらに実習先の新規開拓のため、実習の説明をそれに関する文書の説明のために施設機関を訪ねた。

国家試験対策のサポートは、各自習室に設置している問題集の準備や、助手研究室での本・DVDの貸し出しを主に行ってきた。国家試験合格支援委員会の先生方のサポート、国家試験を受験する4年生への支えになれたのではないかと感じている。

大学行事に関して、特にオープンキャンパスについては、学部生の頃からサポート学生として参加していたため流れは把握しているつもりだったが、実際に準備をする立場だと忙しさが全然違っていた。しかし、高校生から少しでも社会福祉学科に興味を持って参加してもらっているため、さらにこの学科の魅力を伝えようと心がけた。

他にも学生と関わっていくうえで、実習や国試、卒業論文のことや日常生活の相談も受けたりする機会があった。それは、私が大学院修了後、そのまま赴任したため、学生からは気軽に相談できる教員の一人として役に立てたのではないかと思う。

今後はさらに先生方や学生へのサポートができるよう努めていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 野村 秀一

1. 教育理念

私の教育理念は、主体的に学び、考え、行動できる人材(管理栄養士)の育成を教育の柱として、学生の専門力と課題解決力およびホスピタリティーの伸長を支援することである。

よって、管理栄養士の国家試験の合格と将来就くであろう職業の現場で使える知識と技能を修得できる内容を構成し、講義と実習において、意欲喚起を図る手段を組み込み、主体的な学びを誘引して高い専門力の育成を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	⑫
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	1 / 30 (通年)	1	72	⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	1 / 30 (通年)	1	16	⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	1 / 15 (通年)	1	60	⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	1 / 30 (通年)	1	73	⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	1 / 30 (通年)	1	73	⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①④⑤
栄養の生物学	15 / 15 (前期)	2	36	①②⑨
食品衛生学実習	30 / 30 (前期)	1	40	①⑩
健康栄養入門	2 / 15 (前期)	2	70	②③
食品衛生学実習	30 / 30 (前期)	1	40	①⑩
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	8	④⑤⑫
微生物学	15 / 15 (前期)	2	37	①③⑩
微生物学	15 / 15 (前期)	2	37	①③⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	14	①④⑧
微生物学実習	30 / 30 (後期)	1	38	①⑩
微生物学実習	30 / 30 (後期)	1	35	①⑩
食品衛生学	15 / 15 (後期)	2	26	①⑩
食品衛生学	15 / 15 (後期)	2	26	①⑩
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①⑤⑧
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①④⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学演習	0 / 30 (通年)	4/1～2年	-
特別研究	0 / 38 (通年)	10/1～2 年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの結果、昨年度と同じ実習科目の微生物学実習のアンケートを行った。昨年度より満足度は上昇し、4.6ポイントであった。これからも、学生が興味を持ち、自ら学修に取り組むことができる実習内容にしていきたいと考えている。具体的には、日常生活の下で、より身近な事柄を取り上げて実習テーマにすることで、さらに興味を持ってくれることを期待しています。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品衛生学	15/15(前期)	2	28
長崎短期大学	食品衛生学実習	15/15(後期)	1	28
佐世保市医師会看護学校	看護関係法規	8/8(後期)	1	46

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策の補習	15	76	後期期間

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 食品及びヒト由来の薬剤耐性菌
2. ヒト及び生活環境の細菌叢
3. 市販食品の細菌汚染状況
3. 食品成分の機能性

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
月刊 細胞/共著/2019/8/ニュー・サイエンス社/30頁～34頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

ロイシンと食事の摂取は、骨格筋のmTORC1活性化に効果的である/2019/3/長崎国際大学論叢
第19巻/177頁～183頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	健康管理学部代表として全学共通科目の改定などについて意見等を行った。
教員資格審査委員会	委員	健康管理学部代表として、新任教員、昇任教員、非常勤教員の担当科目適正について協議を行った。
防火・防災委員会	委員	健康管理学部代表として全学の防火・防災活動に参加した。
安全衛生委員会	委員	健康管理学部代表として、安全衛生委員として活動した。
安全管理委員会(健康管理学部)	委員長	健康管理学部における安全管理について協議を行った。
危機管理委員会	委員	健康管理学部代表として、委員きあに出席し、新型コロナウイルス感染対策などについて協議を行った。
人事委員会	委員	健康管理学部代表として、全学科の新任教員採用、昇任人事について協議を行った。
輸出管理委員会	委員	健康管理学部代表として、委員会に出席し、協議を行った。
グローバル推進協議会	委員	健康管理学部代表として全学で取り組んでいるグローバル推進について協議を行った。
全学教育会議	委員	健康管理学部及び健康管理学研究科の教育・研究の現状や改善策などについて提言を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

エイサーサークルの顧問として、学生の活動等について指導等を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高校生の進路ガイダンスである「夢ナビ」に出席し、九州圏内から夢ナビに参加した高校生の中で管理栄養士や医療系を希望する高校生に進路指導等を行った。

本学科の催事である離乳食講座、乳児・幼児食講座で、健康・衛生講話を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
夏期における脱水症の予防対策について	2019/6	熊本県	特別養護老人ホーム 和楽荘
HACCP制度について	2019/10	佐世保市	佐世保市生活衛生課
食中毒の予防について	2019/10	長崎国際大学	社会福祉学科

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健・医療・福祉協議会	委員	2008/4～現在まで	佐世保市市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2008年から2018年まで健康栄養学科長として、健康栄養学科の円滑な運営のために活動を行ってきたが、2019年度に学部長を仰せつかり、全学的な見地から健康管理学部の運営等を考えていく立場となり、重責を遂行するために努力を惜しまず活動をしなければと考えてスタートして2019年度であった。

2019年度は、厚生労働省からの実地指導調査の対応、外部評価の対応などで、学部の先生方、事

務局の方々のおかげ手何とか無事の問題なく対応できたことに心から感謝しております。また、前項栄養士養成施設協会の地区の開催校として開催準備なども教務課の方々の全面的協力と健康栄養学科の先生方の尽力で無事に終えることができ感謝しております。

2020年度は、これまで同様に、健康管理学部の円滑な運営と全学的な運営に積極的に参画して、本学の発展に少しでも寄与できるように精進・努力をしていく所存である。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 熊井 まどか

1. 教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

- ・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。
- ・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。
- ・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。
- ・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。
- ・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①⑧
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①⑧
栄養の生物学	15 / 15 (前期)	2	36	①②⑨
解剖生理学実習	30 / 30 (前期)	1	40	①⑨⑩⑪
解剖生理学実習	30 / 30 (前期)	1	39	①⑨⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑩⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	2	①④⑥⑩⑫
解剖生理学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	32	①②⑨
解剖生理学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	41	①②⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑥⑩⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	14	①⑧
解剖生理学Ⅱ	13 / 15 (後期)	2	22	①②⑨
解剖生理学Ⅱ	13 / 15 (後期)	2	24	①②⑨
栄養生理学実習	14 / 30 (後期)	1	12	①⑩⑪
栄養生理学実習	14 / 30 (後期)	1	18	①⑩⑪
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①⑧
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
形態機能学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・授業アンケート

[前期]

教養セミナーAの評価の平均は4.5、満足度は4.4であった。

栄養の生物学の評価の平均は4.7、満足度は4.8であった。

[後期]

解剖生理学Ⅱの評価の平均は、Aクラスが4.6、Bクラスが4.8であった。満足度は、A、Bクラス共に4.8であった。

・授業改善と教育効果

授業アンケートで評価が得られているポートフォリオを活用した復習ドリルや小テストの実施を継続し、自主学習や反復学習を促すことで理解度の向上に繋げたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	22
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	22
長崎短期大学	解剖生理学実習	14/15(後期)	1	22

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策	12	73	2019/9/30, 2019/10/21, 2019/11/9, 2019/11/11, 2019/11/18, 2019/12/2, 2019/12/23, 2020/1/7, 2020/1/23, 2020/1/30, 2020/2/10, 2020/2/18

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

妊娠期の栄養が胎児に及ぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	260万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響—肝臓及び骨格筋におけるglucose transporter発現—/2019/9/第66回日本栄養改善学会学術総会

妊娠期のカルシウム制限が胎盤のIGF-1発現に及ぼす影響/2019/9/第66回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
胎児期栄養環境エピゲノム変化による生活習慣病発症機序と予防の形態・テロメア解析	2019年度科学研究費基盤研究(C)一般(研究分担者)・日本学術振興会	2019年度～2021年度	260万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務事項の審議等
自己点検・評価委員会	委員	大学評価に関わる事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員	発明届等の審議等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関わる事項の審議等
全学教育会議	委員	大学・大学院の教育活動の総合的実施に関わる事項の審議等

学科教務委員会	委員	学科内の教務事項の連絡、審議、資料作成等
学科研究倫理委員会	委員	申請された研究の倫理審査等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 夢ナビライブ2019福岡会場 まなびステーションでの栄養学の紹介/10月19日/マリンメッセ福岡

② 夢ナビライブ2019福岡会場 ライブ講義/10月19日/マリンメッセ福岡

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(NPO) 日本栄養改善学会	評議員	2019/11～2020/10	(NPO) 日本栄養改善学会
(NPO) 日本栄養改善学会九州・沖縄支部	幹事	2019/8～2020/7	(NPO) 日本栄養改善学会九州・沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①令和元年度 長崎短期大学 3ポリシー 外部点検・評価

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度、認証評価、管理栄養士養成施設指導調査、全国栄養士養成施設協会九州地区会議等が行われ、無事終わることができたことは、それぞれに携わったものとして喜ばしく思っている。

教育活動では、学生による授業アンケートの評価が向上した。リフレクションカードや授業アンケートのコメント等を真摯に受けとめ、学生の理解・満足に繋がる授業を目指し対応していきたい。

学部長をはじめ学科内外からの援助により、何とか1年を終えることができたが、業務に追われ研究活動や社会活動を十分に行うことができなかったため、次年度は充実を図りたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 今村 裕行

1. 教育理念

アクティブラーニングを用いて専門力の向上を図る。また学生との対話を重視し、学生が主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開することによって国家試験に合格できる力を育てる。さらに学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

これらの教育理念を実践するために、講義においては、教科書、パワーポイントを使用して講義を行うとともに、学生2～3名で授業で習った事をお互いに解説しあい、小グループでのグループディスカッション及びグループ発表で学生が自ら考えるようにする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	9 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	⑧
実践栄養学実習	15 / 30 (前期)	1	42	⑥⑩⑪
実践栄養学実習	15 / 30 (前期)	1	31	⑥⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	2	①②④⑥⑩⑫
運動生理学	15 / 15 (前期)	2	15	①②⑥⑪
国際栄養論	15 / 15 (後期)	2	3	①⑥⑨
栄養英語	15 / 15 (後期)	2	2	①⑧
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
実践栄養学	15 / 15 (後期)	2	5	②⑥⑨
スポーツ栄養学	15 / 15 (後期)	2	7	①②⑥⑪
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	⑧
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養疫学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
Exercise Physiology	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
スポーツ栄養学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

健康科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	1
健康科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	1
特別研究	38 / 38 (通年)	10/1～2年	-
特別研究	38 / 38 (通年)	10/1～2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

運動生理学の満足度は4.7であり、自分では満足している。Q3～Q11 の評価は、全て4.5以上であり、自分では満足している。

実践栄養学A・Bクラスの満足度は4.4と4.5であり、自分では満足している。実体験に基づいた話が学生に受けているようである。これまでパワーポイントの内容を変更してきたが、ようやく学生に分かりやすいスライドを作成することができたと思っている。A・BクラスともにQ3～Q11 の評価は、全て4.3以上であり、自分では満足している。全体的な評価が4.0以上であれば良いと思っている。A・Bクラスともに、本年度それが達成できたので、自分では満足している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

運動生理学、スポーツ栄養学と疫学的研究を中心に研究を進めている

- 1) スポーツ選手の体力と栄養素等摂取状況、貧血、血中脂質
- 2) 冠動脈硬化性心疾患ならびに脳卒中の危険因子(喫煙、飲酒、肥満、糖尿病)に関する疫学的研究
- 3) 生活習慣病予防教室における運動・食事療法の効果

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

Top 5 Contributions in Nephrology. Physical Activity and Blood Lipids and Lipoproteins in Dialysis Patients./共著/2019/Avid Science/2頁～6頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Health aspects of karate as physical education and an extracurricular activity/2019/4/European Journal of Physical Education and Sport Science 2019, 5:8/DOI:10.5281/ZENODO.2648075/共著/論文

女子大学生の隠れ肥満における身体計測値、骨密度、運動器の機能について/2019/8/厚生労働省の指標 2019, 66(8)/9頁～12頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学野球選手における身体的特徴、栄養素摂取状況および血液生化学検査値の所見/2019/8/第6回日本スポーツ栄養学会(東京)

大学野球選手の栄養素等摂取状況と骨密度について/2019/12/第59回日本食生活学会創立30周年記念大会(東京)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

空手道部 総監督 顧問

男女ソフトテニス部 顧問

男女バドミントン部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

空手道部の希望者20名と交渉し、そのうち12名を確保した。現在、再来年度の希望者8名と交渉中であり、空手道部の勧誘の際に、本学の広報活動を積極的に行っている。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
けんこうシップさせぼ21推進会議	委員	2015/4/1～現在に至る	佐世保市健康づくり課
日本総合健診医学会	審議員	1989～現在に至る	日本総合健診医学会

総合健診編集委員会	査読委員	1989～現在に至る	日本総合健診医学会
-----------	------	------------	-----------

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

授業評価については、前期の運動生理学の満足度は4.7、後期の実践栄養学の満足度は4.4と4.5であり、自分では満足している。

健康栄養学科においてスポーツ栄養サポートチームを設立し、空手道部の栄養調査、栄養指導、調理実習を継続的に行ってきたが、本年度は野球部の測定も継続して行っている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 岡本 美紀

1. 教育理念

人々の健康の維持・増進のための取り組みを食からアプローチし保健・医療・福祉などの場で尊厳と責任を持って科学的根拠に基づいた高度な技術をもって「栄養の指導」を実践できる、社会に貢献する人材の育成を目指すものとする。そのような人材となるために、人間や食などについて基本的な知識を身につけた上で、居住地の居住形態やその環境、ひいては生態系について、広い視野をもって対応できる知識及び技能を伝えていくことで、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①②⑪
公衆栄養学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	37	①②⑨⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①②⑧⑪⑫
健康栄養入門	5 / 15 (前期)	2	70	②③⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑧⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	4	④⑪⑫
公衆栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	37	①④⑤⑥⑩⑪
公衆栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	41	①④⑤⑥⑩⑪
公衆栄養学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	41	①②⑨⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑨⑪ ⑫
調理学実習Ⅲ	30 / 30 (後期)	1	30	①③④⑥⑩⑪
公衆栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	19	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	30 / 30 (後期)	1	38	①③④⑥⑩⑪
公衆栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	23	①②③④⑧⑨⑪
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①②⑧⑪
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①④⑪
栄養情報処理	15 / 15 (後期)	2	76	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
公衆栄養学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
栄養科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	1

特別研究	38 / 38 (通年)	10/1~2 年	2
------	--------------	-------------	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教養セミナーA:受講者全員からの受講に対する満足度が高かった。

公衆栄養学実習:2クラスとも「満足」「ほぼ満足」の評価を80~90%の履修学生がつけていたことから履修に対する意義と学ぶべき内容について納得と満足をしていると感じられた。

公衆栄養学Ⅱ:担当した2クラスの授業のうち、1クラスはほぼ従来通りの評価であったが、もう1クラスは一部の学生から不評であった。これらから学生の状況をちゃんと把握しきれていなかったと感じ、今後を活かしたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 食に関する意識・食行動が及ぼす健康への影響について
2. 集団の健康・栄養状況に関する研究
3. 集団の嗜好等の特性に関する研究
4. 地域産物を用いた新規活用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/2019/9/日本食生活学会誌Vol.30 No.2 / 79頁～86頁/共著/論文

陰膳食事調査法による透析患者のリン摂取量の実測の試みとリン管理状況との関連についての検討/2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/101頁～111頁/共著/論文

長崎県健康・栄養調査における食生活の自己評価と食習慣、身体状況、栄養摂取状況の関連/2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/113頁～122頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

給食で提供する汁物の調味料の割合/2019/9/第66回日本栄養改善学会学術総会(富山市)

家庭及び保育施設等における食物アレルギー児の対応に関する実態調査/2019/11/第56回日本小児アレルギー学会学術大会(千葉市)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	全学学生委員として、各学生の学生生活に関わる諸問題への対策に関わった。特に委員会内小委員として構内禁煙の徹底活動に努め、学園祭担当では学園祭実行委員会の活動のサポート及び学園祭の模擬店の取りまとめ等を中心に円滑な実施に取り組んだ。
CHサポートセンター運営委員会	委員長	委員長として、CHサポートセンターの運営に関する取り組みを行った。特に「配慮が必要な学生」への合意的配慮に必要な学生サポートの支援体制に関する学内外の整備を行った。さらに、大学評価機構の認証評価に学生支援の取り組みとしてCHサポートセンターの取り組みを説明した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
禁煙対策委員会	委員	学生委員会内小委員会として、構内禁煙に対する取り組みを行った。特にこの取り組みと連動して、CHサポートセンターで喫煙に対する健康被害を学内電光版に示し、禁煙の促しを行った。
駐車場駐輪場委員会	委員	学生委員会内小委員会として、学内の駐輪場の整備に取り組んだ。
学生会担当(大学祭)	委員	学生委員会内の小委員会として、大学祭の実施に関する取り組みを行った。特に模擬店に関してのアドバイザーとして学園祭実行委員の相談や助言を行い、学園祭当日は実行委員会と共に事故防止に取り組んだ。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

出張講義/2019年6月14日/長崎県立松浦高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	欠席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育推進県民会議	委員	2018/4/1～ 2020/3/31	長崎県知事
長崎県食育向上委員会	アドバイザー	2018/05～ 2020/3/31	長崎県県民生活部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎県食育向上委員会・大学食育活動(ポスター・食育三角POP作成とその掲示・展示) :アドバイザーとして学生が作成したものに対する監修、県内大学への掲示、および展示に向けた改正・調整

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

令和元年度は、大学運営活動関連で今までの活動のある程度の集約ができるようになったと考え

る。学生委員会ではここ6年間、学園祭担当となり、模擬店を中心に担当となった。このような行事に実施者と参加者が存在する場合、どうしても自分の立場だけを考えて、一方的な観点から行動をするケースが多くみられる。そして、この行動はそれにより、どのような影響を与えるかを考えることなく行われ、その悪影響について責任を感じない人が参加者や実行委員やひいては職員にも存在し、その解決にとっても苦労した。結果的に教員として大学祭の模擬店での実行委員会と模擬店出店者の間のわだかまりを、誤解や誤りを与えないように解決につとめ、学園祭参加者の安全と、学園祭そのものの円滑運営に寄与できたと考える。

CHサポート委員会では、合理的配慮に基づいて「修学上の配慮」に関するサポート体制がようやく軌道に乗ることができたと考えられた。その反面、今まではどうにかやっていくことに精一杯であったことが、軌道に乗っていくようになって今までおこらなかつた細かな問題が生じてきた。これらの問題に対して対処はできたが、やはり、個別対応が必要なことと一貫した対応が必要であり、それらを使い分けを要所にあわせてしなければならないと感じた。

学外においては長崎県食育向上委員会のアドバイザーとして大学生を対象にした食育の実践を行った。本学の学生に対して本学の学生委員は、良い学生生活を送れるように「朝食摂取の大切さ」や「免疫を高める食事をとる」ことの大切さを知ってもらうための周知を図るポスターや食堂への三角POPの作成を行った。私はそれを監修をして一般的に使用できるように調整をした。その結果、本学だけでなく、長崎県全域の大学・専門学校に配布、掲示されることになった。これらの取り組みについては、食育担当省の農林水産省の「食育白書」に他の大学の食育向上委員会の取り組みと共に紹介され、掲載されることが決定しており、長崎県の食育活動が国レベルで認められたことを示している。

私の担当科目は、これらの経験を活かすことのできる科目内容であるため、今後の講義や実習役立てて、学生が卒後に活用できるように考え方を養っていきたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 古賀 貴子

1. 教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものである。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

1年次および2年次の講義において国家試験の概要を説明し、4年間の学修プロセスと関連付けながら受験準備の方法を伝えている。さらに実際の国家試験問題を提示し、講義で取り上げた内容が国家試験問題としてどのような形式で出題されるのかを具体的に示した。講義内容の理解を深め、実践力をつけるために、個人学習、グループ学習、質疑応答といった形式を取り入れている。実習では、自己学習を通じて、幅広い視野を持ち、自ら学び続ける姿勢や科学的思考を、グループでの実習によりコミュニケーション能力や説明能力、プレゼンテーション能力を養いたいと考えている。卒業研究(ゼミ)では、科学的思考を醸成し、協調性に富み、幅広い視野と豊かな教養と人間性、高い倫理観を持った地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成したいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①②③⑧
調理学	15 / 15 (前期)	2	69	⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	5	①②④⑥⑩⑫
調理科学(食品加工学を含む)	15 / 15 (前期)	2	39	⑨
調理科学(食品加工学を含む)	15 / 15 (前期)	2	37	⑨
調理学実習 I	30 / 30 (前期)	1	39	②⑩⑪
調理学実習 I	30 / 30 (前期)	1	33	②⑩⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑩⑫
調理学実習 II	30 / 30 (後期)	1	25	②⑩⑪⑫
調理学実習 II	30 / 30 (後期)	1	29	②⑩⑪⑫

総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①②③⑧
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①②③⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義(調理学、調理科学)においては、講義を行った範囲について、問題を作成したプリントを解かせ復習を促すようにした。また、小テストや課題レポートの作成も取り入れた。学生からは、複数回の小テストがあることで少しずつ復習する機会があつてよかったという意見が聞かれた。また1年次生の調理学ではレポート作成も取り入れたが、課題を提示した上でのレポート作成は、関連の文献を収集し読みまとめることで、その講義内容を深く知ることに繋がったという意見が聞かれた。教養セミナーAで学習した文献検索の方法やレポートの書き方を実践することにもなったと思う。実習においては、学生の授業参加を促す工夫として、示範中は前期の調理学の内容や他の関連科目の内容も含めて、学生に多くの質問をしながら進めたことは良かったと思う。学生からの授業アンケートの自由記述からもその点は好評であったことがうかがえた。また、課題プリントを課すなどして、復習を促すようにした。調理学実習Ⅱ(後期)では実技試験や献立作成・創作調理の試験も取り入れており、総合的に成績評価をした(創作調理の試験の採点には全履修学生からの評価が入る)。なお、創作調理の試験結果や課題プリントの解答については、ポートフォリオ等で学生にフィードバックした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
4年生対象・国家試験対策講座(通年)	30	75	前期・後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

大量調理における食品の調理特性(調理科学的変化)に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大量調理機器を用いた湿式加熱における食品の調理特性に関する研究/2019/8/2019年度大会日本調理科学会(福岡)

食肉の大量調理における各種浸漬液が豚肉および鶏肉の軟化に及ぼす影響/2019/11/第15回日本給食経営管理学会(愛知)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	なし
IRセンター	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター	IR・研修部門 部門長	IRコンソーシアムの在学生調査の結果を教育基盤センター紀要に報告した。
教育基盤センター 初年次教育(教養セミナーA)	ワーキンググループメンバー	全学の教養セミナーAにおける教材作成・企画等を行った。
教育基盤センター 紀要編集委員会	紀要編集委員長	教育基盤センター紀要の発行に向けた業務を行った。

教務委員会(学科内)	委員	学科内教務委員会の委員としての業務を行った。
倫理委員会(学科内)	委員	学科内倫理委員会の委員としての業務を行った。
管理栄養士国家試験対策委員会(学科内)	委員長	学科内管理栄養士国家試験対策委員会の委員長としての業務を行った。
作問・校閲グループ	グループ員	推薦入試(総合問題)および編入学試験(調理学分野)を作問した。また、学科の編入学試験の責任者として問題の編集等を行った。
卒業研究(学科内)	グループ長	卒業研究の履修に向けて学生対象に説明会を実施した。 卒業研究抄録集並びに論文集の作成・編集を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

鎮西学院高等学校出張講義/10月28日/場所: 鎮西学院高等学校(長崎)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
31	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/5/21	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/5/28	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/6/4	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/7/11	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/7/18	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/9/19	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/9/26	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/11/26	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2019/12/3	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2020/1/30	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市「離乳食講座と実習」	2020/2/6	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市乳幼児食育アドバイザー養成講座兼フォローアップ講座	2019/9/5	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市乳幼児食育アドバイザー養成講座	2019/10/31	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市父親向け食育講座	2019/10/6	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市食育講座「親子クッキング」	2019/7/29	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度佐世保市食育講座「親子クッキング」	2019/7/30	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/6/24	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/9/9	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター

2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/12/6	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/4/15	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/7/1	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/10/21	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2020/1/27	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/5/27	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/8/19	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2019/11/18	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
2019年度「たんぽぽ」栄養士講話	2020/2/17	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
令和元年度佐世保市調理従事者等研修会「嚙下区分・スマイルケア食の選択について」	2019/10/24	佐世保市役所	佐世保市保健所
児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園 園内研修「発達期嚙下調整食について」	2019/11/13	児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園	児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園
2019年度長崎県民大学「形態食(発達期嚙下調整食)、介護食について」	2019/11/16	長崎県立佐世保特別支援学校	長崎県立佐世保特別支援学校
第13回全国親子クッキングコンテスト佐世保地区実技予選大会審査員	2019/10/20	西部ガスショールーム ヒナタ佐世保	西部ガス佐世保支店

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議会	委員	2017/11/1～ 2019/10/31	佐世保市教育委員会委員長
佐世保市男女共同参画審議会	委員	2018/8/31～ 2020/8/30	佐世保市長
平成30・31年日本調理科学会九州支部役員	長崎県常任幹事	2018/7～現在	日本調理科学会九州支部
日本調理科学会2019年度大会実行委員会	委員	2018/12～2019/8	日本調理科学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市「介護食づくり教室における介護食のテクスチャー測定」概要:介護食づくり教室における介護食のテクスチャー測定依頼を受けた。測定ならびにデータの解析業務の全般を担当した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、専門科目「調理学」「調理科学(食品加工学を含む)」、「調理学実習Ⅰ,Ⅱ」の学生の理解度と満足度は高い評価を得た。研究面においては、学会発表を2回行った。昨年度の修士論文の内容や学会発表の内容は、追加実験を今後行い、論文投稿するように進める。社会貢献については、学外の委員を複数務め、また講演会や講習会の講師を年間合計30回以上行った。大学運営面においては、自己点検・評価委員会(認証評価の業務にも携わった)およびIRセンター委員会では委員として、教育基盤センターではIR・研修部門長、初年次教育(教養セミナーA)のワーキンググループのメンバーとして円滑に業務を行うようにつとめた。教育基盤センターの紀要委員長として紀要の発行に従事し、IR部門からの部門報告の執筆も行った。

研究テーマの一つである「嚥下食のテクスチャー」に関し、2019年度は新たに、佐世保市立児童発達支援センターや長崎県立佐世保特別支援学校から「発達期嚥下調整食」の講演および調理実習の依頼があり実施した。なお、佐世保市「介護食づくり教室における介護食のテクスチャー測定」の依頼を受け、測定ならびにデータの解析業務の全般を担当した。今後はこれらの内容について論文投稿するように進める予定である。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 柴田 哲雄

1. 教育理念

健康栄養学科における私の教育理念は、まず、実社会の様々な場面で能力が十分に発揮できる管理栄養士を育てることです。様々な知識が必要な管理栄養士にあつて、自分の専門領域である医学に関連した知識、技能の修得を第一に目指します。患者さんや利用者さん、一般市民を対象にした場合、様々な疾病の基礎的知識、運動や食事、薬剤による治療の知識、疾病をいかに予防するかの予防医学的知識などが必要不可欠です。膨大な知識を、単に知識の切り売りとするのではなく、臨床やその他の場面において、応用力、実践力も十分に養う必要があります。このため、能動的授業であるアクティブラーニングを活用したものにしたいと思います。具体的には、可能な限り、授業中に様々な問題点を挙げて、それに対する対処法を考えてもらう。1つの臨床医学的な問題に対して、全体やグループ単位で考えてもらうなどの授業形態により行っていきます。すなわち、個々の学生の主体性を育むことで、ホスピタリティを獲得する教育を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
管理栄養士演習	3 / 30 (前期)	2	61	①②③⑧⑨
スポーツ医学	3 / 15 (前期)	2	57	②③④⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	7	①②③④⑤⑥⑩⑪
解剖生理学 I	2 / 15 (前期)	2	32	①②
解剖生理学 I	2 / 15 (前期)	2	41	①②
臨床医学入門 I	15 / 15 (前期)	2	45	①②③⑨
臨床医学入門 I	15 / 15 (前期)	2	40	①②③⑨
学際連携研究	1 / 15 (前期)	2	198	①⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
栄養学応用演習 II	15 / 15 (後期)	1	5	①②③
解剖生理学 II	2 / 15 (後期)	2	22	①②
解剖生理学 II	2 / 15 (後期)	2	24	①②
臨床医学入門 II	15 / 15 (後期)	2	37	②③⑨
臨床医学入門 II	15 / 15 (後期)	2	41	②③⑨
総合演習 II	15 / 15 (後期)	1	70	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	30 / 30 (後期)	2	59	①②③⑧⑨

栄養と薬	15 / 15 (後期)	2	74	①②③⑨
------	--------------	---	----	------

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

アンケートは、臨床医学入門Ⅰ(前期)、臨床医学入門Ⅱ(後期)におこなった。いずれも学生の満足度を問うアンケートの平均の値は、4.0から4.2ほどであり、全学の講義の平均値とほぼ同じか、やや低い結果となった。これは、この数年ほとんど変化していない。医学自体がやや難解な学問であり、学生が学修しにくいことも多いと思われる。臨床医学入門Ⅰは、指定教科書に沿って、管理栄養士として身に付けて欲しい幅広い知識の習得を目指し、臨床医学入門Ⅱは、国家試験を見据えて、より実践的な講義となっている。前期では、教科書で足りない補足的な解説を施した自作のプリントを配布し、後期では教科書を使用せずに、自作の配布プリントのみで実施した。配布プリントに関しては、アンケートの自由記述のコメントでもおおむね好評である。また、実際の医療機器のデモも意識して行ったが、こちらも印象深いと好評である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	2/15(前期)	2	22
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	22
長崎短期大学	解剖生理学実習	1/15(後期)	1	22

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

腎炎患者の糸球体血液凝固の検討
透析患者の食塩味覚閾値の検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	なし
CHサポートセンター運営委員会	委員	支援の必要な学生に対し、産業医の立場から医学的な助言を行った。
動物実験委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

学生ボランティアネットワーク絆 サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外

2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市食育推進会議	会長	2019/4～2019/9	佐世保市
佐世保市急病診療所あり方検討委員会	副会長	2019/4～2020/3	佐世保市
佐世保市CKD対策委員会	会員	2019/4～2020/3	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

2019年11月16日(日) ボランティア活動として、JA西海農業祭において、学科の学生3名と共にマジックショーを行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本大学に赴任して17年半が経過した。65歳の時にいったん定年となり再雇用として社会福祉学科から本学科健康栄養学科に在籍させていただいた。最初の1,2年は学科の違いにかなり戸惑いもあったが、次第に慣れていったようである。教育面では学生の最終目標である管理栄養士国家試験に向けて、教員と学生の目標が一致しており、教える側のモチベーションも高く維持された。授業の内容も、医学全般の領域は広く、すべてを網羅することはできない。したがって、国家試験を睨みながらの重要な疾患の講義とならざるを得ない。個人的には、管理栄養士として、幅広い医学の知識を身に付けてもらいたいのだが、国試との兼ね合いがあり、悩むところであった。学生は、女子が多く、概ね真面目に学修に取り組む姿勢がみられ、好感が持てた。授業を通じて得られた医学の知識が、実際の現場で十分生かされるようお願いしたい。研究活動では、5年間で、教科書の依頼原稿があったが、原著論文が全く無く、大学人としては至らなかったと反省している。大学運営活動では、各種委員会の他に、大学の産業医として、教職員の皆様の健康維持に関わらせていただいた。ストレスチェックの導入もあり、やや忙しかったが、何とか職責を果たせて、ほっとしている。社会活動では、ボランティアとして、学生のアシスタントと共に、毎年行われている開国際や、JA西海農業祭のイベントに、マジックショーをさせて頂いた。また、国際交流も、上海大学の短期研修学生の歓迎会で、マジックショーを学生と共にさせて頂いた。何れも、楽しい思い出となっている。この3月末で、ついに大学を退職することになったが、この17年半は、若い学生さん達から力を貰いながら、元気で大学生活を送ってこれたと感謝している。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 水江 文香

1. 教育理念

学生に教育を通じて、将来さまざまな困難、失敗などへの対応を自己で解決、対処できる能力を修得してほしいと考える。そこで授業では、現状を認識できる知識、これに「気づき」と「振り返り」を繰り返すことを重視し、学生が基礎学力、応用力の重要性を学びとり、そのために全講義へ出席することで学習し続ける習慣として「気づき」「振り返り」のできる授業方法を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	4 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	4 / 30 (通年)	1	16	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	2 / 15 (通年)	1	60	⑪⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	2 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	4 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
給食経営管理論Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	39	①③⑨⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①⑧⑨
給食経営管理実習(学内)	30 / 30 (前期)	1	41	①②④⑥
給食経営管理実習(学内)	30 / 30 (前期)	1	35	①②④⑥
給食経営管理論Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	40	①③⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	1	①②④⑥⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	14	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	30 / 30 (後期)	1	30	①③⑩
給食経営管理論Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	29	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	23	①③⑨⑩
調理学実習Ⅲ	30 / 30 (後期)	1	38	①③⑩
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

○授業アンケート結果は、内容に改善は必要であるが、良好な評価が得られた。今年度は「1」の評価が複数の項目にあり、コメントで改善や工夫の指摘があった。ただ、これはごく一部で、内容については好評価と捉えられるコメントもあったので安心した。学科内の他の科目の中にも「1」の評価があったと聞き、履修学生の本心なのかと疑ってしまったと同時に、今後「1」の評価がない授業を心がけたい。

○授業改善は、改正された厚生労働省の「管理栄養士国家試験ガイドライン」やの日本栄養改善学会提案の「管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム」に準拠した授業内容にし、興味が持てる、また他の履修科目と関連づけたものとし、達成度や評価の向上を目指したい。単に管理栄養士国家試験にポイントを置いた授業内容ではなく、卒業後にも十分な知識や技術の習得のレベルアップにつながる授業にしていきたい。

○教育効果は年度やクラスで差があり、効果があまりみられない点も見受けられたが、再度見直し評価を向上させられるようにしたいと考える。今後も課題レポート提出、小テストの実施、講義内での予習・復習用の確認問題等の配布や解説を実施し、学生の理解度で効果があったものは継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 各年代における食行動について
- ② 給食経営管理業務における新調理システムの利用について(主に真空調理)
- ③ 胚芽精米の研究
- ④ 大量調理施設業務に必要な帳票類の検討及び様式について
- ⑤ 六次産業化における商品・メニュー開発について
- ⑥ 調理学実習における加工品の改良に関する研究

⑦ 地域食材を利用した商品開発、レシピ提供について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	3万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

給食で提供する汁物の調味料の割合/2019/9/7/第66回 日本栄養改善学会学術総会 示説発表

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地元食材を利用した商品開発	株式会社ウォーター マークホテル長崎	2016/2～現在に至る	3万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	大学及び学科の教務事項の審議・決定他(学科専任教員担当科目のシラバス作成・成績処理・履修者名簿管理、試験監督案作成、再試実施計画、卒業・進級判定に伴う資料作成、原級留置学生・3年次編入学生指導等)。
研究倫理委員会	副委員長	大学及び学科の倫理事項の審議、学科審議内容の報告他。
教務委員会(健康栄養学科)	委員長	学科内教務事項審議、連絡、諸資料の作成他。
倫理委員会(健康栄養学科)	委員	申請された研究の審査他。

臨地実習委員会(健康栄養学科)	委員	臨地実習事前指導、実習報告会座長他。
4年生演習係(健康栄養学科)	係	演習時間割作成、試験問題作成・編集、履修者出席管理、成績処理等。
3年生編入係(健康栄養学科)	係	入試試験問題編集等。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
臨地実習ワーキング・グループ	委員	栄養士・管理栄養士研究教育協議会九州ブロックにおいて、臨地実習の学生割り振り、依頼文書・実習ノート作成等を行う。
「食育に関するアンケート」ワーキング・グループ	委員	佐世保市委託事業協同作業(データ入力、集計、分析)
「佐世保市民の健康に関する実態調査」ワーキング・グループ	委員	佐世保市委託事業協同作業(データ入力、集計、分析)

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席

2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意
-----------	-------	---	-------------------------------	----

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立学校給食検討委員会	委員(会長)	2017/2/23～ 2019/2/22	佐世保市教育委員会学校保健課
佐々町学校給食施設整備検討委員会	委員(委員長)	2018/8/17～ 2019/8/1	佐々町教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①平成21年10月から大村市の鈴田峠農園と「長崎元気満々シリーズ(餃子・肉まん他)」の「インフルエンザ予防対策」共同研究(開発)。
- ②平成22年7月から大村市の鈴田峠農園とおから・こんにゃく粉を使ったダイエット・美容に有効な料理と商品の共同開発。
- ③平成24年2月から波佐見町より農村事業アドバイザーを依頼。
- ④平成25年10月から佐世保市の溝上米穀店、お多福醸造株式会社と「甘酒塩麴」と「ビタミンE」の商品開発。
- ⑤平成26年12月から佐世保市ハウステンボス、ウォーターマークホテル長崎と紅茶の商品開発。
- ⑥平成27年度から3カ年事業として、諫早市の長崎県農林技術開発センターより諫早市県産農産物のおいしい機能性成分高含有探索、育成、販売プロジェクト事業の中で機能性成分(高含有)農産物の調理法、メニュー提供を担当。
- ⑦平成27年12月から佐世保市ハウステンボス、ウォーターマークホテル長崎と朝食バイキングで提供するパワージュースの開発(平成26年度外部資金採択活動より継続)。
- ⑧平成28年4月から株式会社アンスリーファーム(山形県寒河江市)と6次産業における農業生産物(果物)を用いた商品開発に取り組み、提供農業生産物(果物)を用いた商品開発に向けたレシピ作成、サンプル調製、商品化を大学として担当。H30年度以降継続あり。
- ⑨平成28年度から佐世保市農業畜産課とお菓子工房いくたへ、世知原茶を活用した新商品開発のアイデアの提供(平成29年 第71回全国お茶まつり長崎大会、試作品を「お菓子工房 いくた」で商品化・販売)。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

(1) 教育活動においては学生支援・指導の時間が年々増え、特に後期は、「管理栄養士国家試験受験対策」の指導や担当教科等の活動に時間を費やしている。今年度は管理栄養士国家試験のガイドライン改正により、授業アンケート結果をもとに次年度に向けた講義資料の変更や演習内容の変更を進めてきた。また、全学教務委員会や学科係として教務全般のとりまとめ、履修、再試験調整などの活動で多忙となり、本来講義準備や研究に充てる時間を学科教務に費やさざるを得ない状況が近年続いている。ただ、余裕がない状態で様々な業務をしているが、少しずつ改善しいい教材が配布できるようになり、その結果、授業アンケートもよい評価を継続できるようになった。

(2) 研究活動は、卒業研究で近年商品・メニュー開発に携わる機会がふえ、卒業研究テーマとして学科内の複数の教員と学生で様々な活動をすすめている。新たに追加できるものを検討していたが、担当科目や公開講座、学外の講習会でも利用できる内容をいくつか計画中である。担当している実習の加工品として活用できるよう卒業研究での活動も加えた。大学院の研究指導の中でも、大量調理の調味について既存のデータとの差を分析し、実際に使用可能な調味パーセント等を検討している。

(3) 協力依頼があった農園の六次産業化は、現在農園側の商品化が自然災害の影響で本業の果樹栽培中心で中断している。再開後は再度提供レシピの再検討や作業場設置に携わる予定である。さらに栄養士・管理栄養士養成校として、県内外の様々な活動を通じ地域貢献していきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 林 俊介

1. 教育理念

私の教育理念は、管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一步を踏み出す活力を育むことである。

学生には、管理栄養士として将来働くために求められる知識と技能を修得し、確実に国家試験合格を目指すという高い目的意識を高めることを期待するものである。よって、授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルで進めて行く。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 15 (通年)	1	77	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪
治療食実習	15 / 30 (前期)	1	32	①②③④⑧⑩⑪
管理栄養士演習	3 / 30 (前期)	2	61	①②③⑧⑨
治療食実習	15 / 30 (前期)	1	45	①②③④⑧⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	5	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪
栄養教育論Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	38	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑪
栄養教育論Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	40	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	41	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	38	②③⑩⑪
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	204	①②④⑤⑩⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
臨床栄養管理学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	24	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	20	②③⑩⑪
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	⑪
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度担当した講義・実習ともに授業アンケートでの評価は、概ね例年と同等の評価を得た。

履修者の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)は、毎年出来るだけ新しいトピックス(話題、ニュース)と入れ替え、改善している。

予習の範囲を知らせ、復習を促し、学修を深めるためにポートフォリオを活用した授業前後での情報提供などを行っている。前時の復習について出席カードを活用し、授業展開を行っている。

Manabaを活用した課題レポートへの取り組みや学修のふり返りが出来るようにしている。再試験に残る学生は、これらを全く利用していない傾向が認められるため、日々の学修で活用していくように促していきたいと考えている。

アクティブ・ラーニングの種々の手法を用いた授業展開を積極的に実施している。受動的な授業の受け方では無く、能動的な取り組みができるように促したい。

授業の中で、様々な症例の影像や臨床現場で使用される栄養剤、補助食品、治療用特殊食品などを教材として提示することで、臨床栄養への興味と関心を高めることを狙っている。学生の反応も良いものである。

来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄養指導Ⅱ	8/8(後期)	1	36

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 血液透析患者の生活の質(QOL)と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
2. 血液透析患者における口腔環境と生活の質(QOL)と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
3. 慢性腎臓病に関する骨・ミネラル代謝異常(CKD-MBD)に関する研究
4. 血液透析患者における食事療法と栄養教育に関する研究
5. 腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養

士の関わりについて

6. フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
陰膳食事調査法による透析患者のリン摂取量の実測の試みとリン管理状況との関連についての検討/2020/3/長崎国際大学論叢/101頁～111頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
血液透析患者における摂食嚥下・口腔状態の変化が身体状況及び栄養状態、生活の質(QOL)へ与える影響について/2020/2/9/第47回 長崎県人工透析研究会(諫早市)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	大学公式ホームページのコンテンツ作成・教員情報の更新、Facebookへのトピックス投稿、広報催事事業の実施
私立大学等改革総合支援事業 タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」	運営委員	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、高等教育の質向上専門委員会及び教務系WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。
在宅医療・福祉コンソーシアム 長崎	運営委員	「在宅医療概論」、「在宅医療・福祉早期体験学習」などの科目担当。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 創成館高校 進学ガイダンス 模擬授業/12月9日(月)/創成館高校(諫早市)

地域の栄養士の先生方からの求人依頼に対し、キャリアセンターや学生、卒業生などへの紹介を行い、就職に繋がるよう支援を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
健康寿命を伸ばすための食事とお口の健康～いつまでも楽しく美味しく食べる大切さ～	2019/6/15	長崎国際大学	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市食育推進会議	委員、副会長	2017/7/1～ 2019/6/30	佐世保市保健福祉部健康づくり課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

担当学生について

本年度は教養セミナーでは5名の新生を担当した。1名が、入学後不登校となりその後休学することになった。学生課とも連携し、復学へ向けた支援を行ってきて、次年度より復学することとなった。今後、本人の希望を確認し、スムーズに通学や履修ができるようにサポートして行きたい。

他のメンバーは休学、転学科もなく次学年へ進級させることが出来た。大きな問題は発生することなく一年目の学修活動を支援することが出来た。

2年生6名の内、1名は進路変更のため前期で退学となった。退学に当たって、前向きな進路変更

なるように話し合いを重ね支援してきた。もう一人は、1年次より体調不良があり、CHサポートセンターとも連携して、支援を行ってきた。2年次前期まで学修を続け、後期より療養のため休学となった。1年間の休学となる予定である。他のメンバーは2年次をこれまでのところ順調に学生生活を過ごせてきている。

3年生は、これまで同様、6名のゼミ生が卒業研究の活動を行っている。4名が北松中央病院にて研究活動を継続していたが、新型コロナウイルスによる感染予防のため、3月以降病院での調査活動ができなくなってしまった。そのため、現在収集できたデータを使って、分析を行っている。他の2名は、別テーマで活動を行っている。

4年生8名の内5名は、卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表、論文提出する事が出来た。他の3名は卒業研究の履修は辞退した。卒業試験にも8名とも合格し、卒業する事が出来、国家試験を受験した。本年度の就職状況は、卒業までに7名は内定を得ることができた。もう1名も進路決定ができるように支援を行っていく。

私立大学等改革総合支援事業 タイプ3

私立大学等改革総合支援事業タイプ3「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、高等教育の質向上専門委員会・教務系WGの事業推進の実務を担っている。本委員会・WGは、本学が責任校である。プラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の全14校の連絡調整の窓口となり、合同会議の実施や資料作成を行っている。

本年度は、これまで取り組んできた留学生の日本語能力向上支援「日本語e支援」や大学間共同の情報教育科目の導入、長崎県、佐賀県と連携した人材派遣事業などを進めた。その他に連携校との共同FD・SDを2回実施した。公式ホームページでも情報発信を積極的に行った。

本年度は、QSPが始まって3年目となり様々な事業が推進され、かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

広報委員会

本年度より広報委員会担当となった。大学公式ホームページに掲載する「教員データベース」の更新を行った。総合改革支援事業で求められる情報公開に沿った形での改定を行った。広報催事事業も5件(科学教室、離乳食講座等)、実施した。それに関するニュースリリース(5件)を配信した。本年度は、長崎新聞、テレビ佐世保からの取材が無かったため、メディアの露出が少なくなった。

大学公式ホームページへのトピックス及び学科のFacebookへの記事掲載を積極的に行った。学科に関する投稿を50件、大学院に関する投稿を2件行った。本年度のトピックス年間掲載目標(学部15本、大学院5本)を大きく上回る情報発信を行った。

新聞・テレビ等への露出件数(3件)およびニュースリリースの件数(5件)は、年間目標には届かなかったため、次年度の課題となる。情報発信の工夫をして、露出を増やしていきたい。

次年度の取組としては、大学院ホームページからの情報発信が全学的にも課題になっているため、トピックスの件数を増やし、修士課程修了生の紹介記事等、新しくコンテンツ作成を行っていく。

「卒業生と連携した広報活動の推進」が求められているため学部卒業生及び勤務先の協力を得て、コンテンツ作成を行っていく。また3年次編入学に関する情報が学部のページに無いためこれに関するコンテンツを作ることも検討したい。

入試・募集委員会と連携した形での広報活動が求められているため、入試・募集委員とも協力した形での展開を行っていきたい。

研究活動

研究活動では、本年度は1回の学会発表(長崎県人工透析研究会)を行った。2月末に長崎栄養改善学会にて2件、研究発表を予定していたが、新型コロナウイルス対応で延期となった。大学論叢に原著論文1編を投稿し、受理された。今後、研究の質を高めていきたい。

研究活動をさせて頂いている北松中央病院では活動にご理解を頂き、研究活動を継続させて頂いている。卒業研究を履修する3,4年生にはゼミ活動を行うに当たり、ベッドサイドでの栄養指導、調理教室の実施と多くの透析患者様や透析医療に関わるスタッフの先生方に接することが出来、非常に貴重な経験を数多くさせて頂いている。学内での講義・実習や臨地実習では経験できない有意義な学びが出来ている。昨年、林ゼミの卒業生が北松中央病院に管理栄養士として採用され、この卒業生の協力を得て、研究活動を進めている。病院での調査活動も3月に入り、感染予防のため見合わせている。調理教室も延期することとなった。

腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いているが、今回は、感染予防のため延期することとした。

昨年度よりフェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動を始めた。移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関われる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生と一緒に研究活動を行っている助手の先生らの学びとなるものと考えている。2月の長崎栄養改善学会にて研究発表を予定していたが、中止となった。フェニルケトン尿症親の会連絡協議会へ調理教室のレシピの記事を作成し、提供した。協議会ニュースに掲載された。次年度、2回目の調理教室を本学で開催する予定である。このテーマで論文作成、学会発表へとつなげたい。

卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えられる。本年度は、1名が国立病院機構へ採用された。多くの卒業生が病院など臨床現場に就職し、様々な業務に従事している。

今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

その他

その他に、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の委員として、事業推進のため早期体験学習や在宅医療概論の実施などを行っている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 松尾 嘉代子

1. 教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。

人が「食べること」を楽しむことは、QOLを高めるために重要なことです。

食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるような工夫、実習では、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、実際の場면을想定し活用できる知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

2. 教育活動

(1) 授業 (科目名 / コマ数 (開講時期等) / 単位数 / 単位授与 / 学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	14 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
臨地実習 I (給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	16	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理論)	15 / 15 (通年)	1	60	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
事前・事後指導(栄養)	7 / 8 (通年)	1	1	④⑦
栄養教育実習	20 / 40 (通年)	1	1	⑦
栄養教育論実習 I	15 / 30 (前期)	1	41	②③④⑥⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①②③⑧⑨
栄養教育論実習 I	15 / 30 (前期)	1	32	②③④⑥⑪
応用栄養学 II	15 / 15 (前期)	2	38	①②③⑨
健康栄養入門	6 / 15 (前期)	2	70	②③⑤⑥

教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	5	⑪⑫
応用栄養学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	38	①②③⑨
応用栄養学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	40	①②③⑨
応用栄養学Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	36	①②③⑨
教職実践演習(栄養教諭)	5 / 15 (後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
学校栄養教育論	8 / 15 (後期)	2	4	①②③⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
応用栄養学実習	15 / 15 (後期)	1	23	①④⑥⑦⑩
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	36	②③④⑥⑪
応用栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	33	①②③⑨
応用栄養学Ⅲ	15 / 15 (後期)	2	38	①②③⑨
応用栄養学Ⅲ	15 / 15 (後期)	2	32	①②③⑨
応用栄養学実習	15 / 15 (後期)	1	38	①④⑥⑦⑩
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	31	②③④⑥⑪
応用栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	36	①②③⑨
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養教育学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

昨年度より担当科目の変更があり、新しい担当科目での評価について今年度のアンケートで確認したが、全ての担当科目で満足度は全体の平均を上回っており、授業に関するコメントも良好な内容であった。

今後も、学生が興味を持って授業に取り組み、管理栄養士として必要な実践的な能力を身に付けられるような授業を展開していけるよう、日々、工夫していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期の栄養教育に関する研究
 保育所における食物アレルギー児対応に関する研究
 小児アレルギーの栄養教育に関する研究
 スポーツ栄養に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/2019/6/日本食生活学会誌第30巻第2号
 (2019)/79頁～86頁/共著/論文
 日本における外国人持久走選手への栄養サポートの課題/2020/3/長崎国際大学論叢第20巻
 /93頁～100頁/共著/論文
 長崎県健康・栄養調査における食生活の自己評価と食習慣、身体状況、栄養摂取状況の関連/
 2020/3/長崎国際大学論叢第20号/113頁～122頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
 家庭及び保育施設等における食物アレルギー児の対応にたんする実態調査/2019/11/日本小
 児アレルギー学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	海外大学との交流協定締結や交換留学等について検討。
ハラスメント対策委員会	委員長	ハラスメント案件(4件)に対応。ハラスメント防止の普及啓発活動やFD開催。
教職課程委員会	委員	教職課程の授業や教育実習について検討。
教育基盤センター教育等支援部門	委員	教育課程や資格取得過程等について検討。
臨地実習委員会(学部内)	委員長	臨地実習に関する必要事項について検討。
IBO2020実行委員会	委員	2020年度本学で実施される国際生物学オリンピックの開催に関して検討。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 学科広報催事(公開講座)実施/令和元年8月17日(土)/場所:本学科調理実習室/「家族で学ぶ育ち盛りの食事」を開催/参加者:保護者17名・学童21名 計38名/スタッフ:教員6名、学生8名/成長期に必要な栄養の講話と調理実習を実施/参加者の満足度5点満点中4.7点
- ② 学科広報催事(公開講座)実施/令和元年8月24日(土)/場所:本学科調理実習室/「家族で楽しむ子どもの食事(幼児食講座)」を開催/参加者:保護者15名・乳幼児16名 計31名/スタッフ教員5名、学生13名/幼児期の食事のポイントと予防接種の進め方の講話、調理実習を実施/参加者の満足度5.0満点中4.9点
- ③ 学科広報催事(公開講座)実施/令和元年9月10日(火)/場所:本学科調理実習室/「家族で楽しむ赤ちゃんの食事(離乳食講座)」を開催/参加者:大人13名、乳児11名 計24名/スタッフ教員5名、学生11名/離乳食の進め方のポイントと食品衛生の講話と調理実習を実施/参加者の満足度5点満点中5.0点
- ④ 学科広報催事(公開講座)実施/令和元年9月14日(土)/場所:本学科調理実習室/「食物アレルギー児を支える地域づくり講座」を開催/参加者:保護者等19名 /スタッフ教員5名、学生11名/食物アレルギーに関する講話と調理実習を実施/参加者の満足度5点満点中4.9点

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	7

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教職免許更新講習会「食を通して健康を考えるA」	2019/05/18	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
教職免許更新講習会「食を通して健康を考えるA」	2019/06/08	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大村市食育推進県民会議	委員	2019/7/1～ 2021/6/30	大村市長
県北保健所地域・職域連携推進協議会作業部会	部会委員	2019/5/10～ 2020/3/31	長崎県県北保健所 所長

佐世保市食育推進会議	会長	2019/7/1～ 2021/6/30	佐世保市長
「健康ながさき21」栄養・食生活部会	部会委員	2020/3/1～ 2021/3/31	長崎県福祉保健部 国保・健康増進課長
(公社)長崎県栄養士会	理事	2018/5/1～ 2020/4/30	(公社)長崎県栄養 士会長
第31回国際生物学オリンピック 2020長崎大会	大会実行委員	2019/11/18～ 2020/10/31	第31回国際生物学 オリンピック2020長 崎大会組織委員会 会長
(公社)佐世保市学校給食会	評議員	2014/06/01～	(公社)佐世保市学 校給食会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、応用栄養学Ⅰ～Ⅲ及び実習をすべて担当することになり、初めての科目担当であったが、特に実習では管理栄養士として現場で必要と思われる知識やスキルと多く盛り込んだ内容とし、学生が興味を持って取り組みやすい授業になったと考える。授業アンケートでも、好評を得ることができていた。

また、大学院生の修論指導では、これまで継続している食物アレルギーの現状と課題について保護者からのアンケートを基に分析し、今後につながる研究となるようまとめを行うことができ、今後の研

究活動の礎となる結果をまとめることができた。

広報活動でも、学科広報催事を4講座開催しているが、これまでの内容をさらにより良いものになるよう工夫し、乳幼児・学童期及び食物アレルギー児のニーズに応じた内容で開催できた。さらに、今年度、新たに取り組んだ研究として、実業団マラソン部の栄養サポートを通して、スポーツ栄養に関する論文を投稿することができた。特に外国人選手の栄養サポートについては先駆的な取り組みになるので、今後も継続してサポートしていきたいと考える。

次年度は、担当科目数も整理され、自分の業務を見直す時間があると思うので、さらにより良い教育・研究を推進できるよう尽力していく所存である。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 山口 留美

1. 教育理念

私の教育理念は、管理栄養士として必要な知識および技能を修得し、医療や福祉等の現場において、相手の立場を尊重し思いやり、そして貢献できる人材の育成を支援することと考えている。

臨床栄養学の基礎知識を学んだ後に、アクティブラーニングを用いて様々な角度から物事を観察・提案ができるよう授業を構成している。その時点で自らの不足した知識や技能を振り返り、主体的に学び知識獲得を目指すものとする。また、アクティブラーニングを通し、自ら発言するだけでなく、相手の立場を十分に理解し尊重し合うコミュニケーション力を身に付けさせ、食の専門家として「チーム医療」の中での管理栄養士の役割を学ぶこととする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの 類型
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑪⑫
管理栄養士演習	1 / 30 (前期)	2	61	①②③⑧⑨
健康栄養入門	1 / 15 (前期)	2	70	②③
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
臨床栄養管理学Ⅳ	15 / 15 (前期)	2	38	②③⑤⑩
臨床栄養管理学Ⅳ	15 / 15 (前期)	2	37	②③⑤⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
給食栄養管理実習(学内)	30 / 30 (後期)	1	21	④⑥⑦⑧⑩
給食栄養管理実習(学内)	30 / 30 (後期)	1	22	④⑥⑦⑧⑩
臨床栄養管理実習	30 / 30 (後期)	1	33	②③⑤⑩
臨床栄養管理学 I	15 / 15 (後期)	2	37	②③⑩
臨床栄養管理実習	30 / 30 (後期)	1	39	②③⑤⑩
臨床栄養管理学 I	15 / 15 (後期)	2	38	②③⑩
総合演習 II	1 / 15 (後期)	1	70	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業に対する評価は概ね良好であったが、前期後期を通して学生の自己学習評価点数が低い傾向である。今後は自己学習を促す授業の進め方への工夫が必要であると感じる。そのため次年度は課題レポートの他に学生への質問時間を多く取り入れるなどし、改善していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者における栄養管理に関する研究

妊娠糖尿病患者の食生活に関する研究

緩和ケアチームにおける管理栄養士の関りに関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

緩和ケアチームにおける管理栄養士の介入状況と今後の課題/2019/9/第16回九州国立病院栄養管理学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	育児・介護支援ハンドブック作成についての検討等を行った。
地域連携センター	委員	地域連携に関する事項の協議および本学公開講座(春季・秋季)の進行、子ども食堂における健康栄養学科参加学生への助言等を行った。
臨地実習委員会(学科)	委員	学科内において、臨地実習に関する項目について検討等を行った。
倫理委員会(学科)	委員	研究における倫理についての検討や討議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
静脈経腸栄養管理(TNT-D)研修会	2019/6/1,2	大妻女子大学	公益社団法人日本栄養士会
静脈経腸栄養管理士(TNT-D)スキルアップセミナー	2019/10/19,20	国立病院機構九州医療センター	公益社団法人日本栄養士会
静脈経腸栄養管理士(TNT-D)スキルアップセミナー	2019/12/7	大妻女子大学	公益社団法人日本栄養士会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和元年12月14日広田公民館において開催された「子ども食堂」で食事を提供する学生へのフォローとして参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

初年度ということもあり全てが手探りの状態であったが、他の先生方からアドバイス等を頂き、授業アンケートの結果も良好であったと考える。また、臨地実習等においても多くの学生の支援を行い、コミュニケーションを図ることに努めた。しかし、今年度は研究や学会発表をほとんど行うことができなかった点に関しては反省すべき点である。今後は、研究活動に力を入れていきたいと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 小田 和人

1. 教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	9 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	⑧
実践栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	42	⑥⑩⑪
実践栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	31	⑥⑩⑪
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	3	①②④⑥⑩⑫
運動生理学	3 / 15 (前期)	2	15	①②⑥⑪
学際連携研究	3 / 15 (前期)	2	198	⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
スポーツ栄養学	15 / 15 (後期)	2	7	①②⑥⑪
スポーツ栄養学	15 / 15 (後期)	2	53	①②⑨
地域の理解と連携	6 / 15 (後期)	2	316	②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・前期 実践栄養学実習

学外実習や就職活動による欠席者が多いグループの進捗度を考慮し、授業の進行の調整を行った。また、グループ毎に作業することが多いため、グループによって理解に差が生じないように、班構成にも考慮した。質問12:4.4、質問13:4.5と昨年度よりも全体的に評価が向上したと考えられる。今後、学生からの質問や意見に応える時間も増やしていきたい。

・後期 スポーツ栄養学(健康栄養学科)

質問12:4.7、質問13:4.7と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行う必要があると感じた。今年度からの開講科目であったことから、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・後期 スポーツ栄養学(観光学科)

昨年度と大きく変わらない評価(質問12:4.4、質問13:4.5)であり、過半数が理解でき、満足できたという結果であった。談話している学生がいた場合は声をかけていたが、余計な話をしたりすることがないように注意していく。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	8
長崎短期大学	運動生理学	15/15(後期)	2	24
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習Ⅰ	30/30(前期)	1	5
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習Ⅱ	30/30(後期)	1	5

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質の関係

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

イラスト スポーツ・運動と栄養－理論と実践－/共著/2020/3予定/東京教学社/35頁～47

頁,60頁～64頁,123頁～142頁,151頁～166頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

HEALTH ASPECTS OF KARATE AS PHYSICAL EDUCATION AND EXTRACURRICULAR ACTIVITY/2019/4/European Journal of Physical Education and Sport Science 5 (8) /DOI: 10.5281/zenodo.2648075/共著/原著論文

Iron Nutritional Status of Karate Players:A Review/2019/11/Journal of Athletic Enhancement 9 (1)/DOI: 10.37532/jae/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学野球選手における身体的特徴、栄養素摂取状況および血液生化学検査値の所見/2019/8/第6回日本スポーツ栄養学会

大学野球選手の栄養素等摂取状況と骨密度について/2019/12/第59回日本食生活学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和元年度 学長裁量経費「地域スポーツクラブ等に所属する選手のスポーツ栄養学的研究」	長崎国際大学	2019/6/1～2020/2/29	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告
ボランティアセンター運営センター	委員	委員会への出席、開国際でのパネル展示運営
教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門	委員	共通教育・初年次教育・リメディアル教育・入学前教育の企画及び運営
安全衛生委員会	委員	委員会への出席
学生委員会(学科)	委員	本学保護者会の運営
倫理委員会(学科)	委員	委員会への出席
国家試験対策委員(学科)	委員	栄養士実力認定試験および模擬試験の運営
入試募集委員(学科)	委員	委員会への出席

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター委員会 ホスピタリティ概論ワーキン ググループ	係	授業の運営について協議、シラバスの修正、 授業担当者の選出、SAの募集・選出、講師依 頼
卒業研究担当	係	説明会及び発表会の運営、希望調査の集計、 論文集の作成
4年演習担当	係	定期試験問題の編集および採点、結果表作 成

(3) 課外活動の指導等

①長崎国際大学空手道部 コーチ(栄養部門)および女子空手道部顧問

第61回南部九州大学空手道選手権大会(5/11)

男子団体組手 優勝、女子団体組手 準優勝

第57回 西日本大学空手道選手権大会(5/26)

男子団体組手 ベスト8、女子団体組手 ベスト8

第68回全九州大学空手道選手権大会(10/20)

男子団体組手 優勝、女子団体組手 準優勝、男子団体形 準優勝、女子団体形 準優勝

②NIUスポーツ栄養サポートチーム: 本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に本学野球部、空手道部、佐賀県空手道国体候補選手、佐世保北高校空手道部部に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。本学ホームページのトピックスに活動状況を定期的に掲載中。来年度は現調査の継続的な状況分析に努めていきたい。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①スポーツ栄養サポートチームの活動記事を定期的にweb上に掲載。

②本学空手道部の活動記事を定期的にweb上およびFacebookに掲載。

③各種空手道大会での次年度入学生の募集活動を実施(2020年度12名が入部予定)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席

2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	公務出張
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
運動部に所属する高校生のための食事と栄養(高校生空手道選手のためのスポーツ栄養学)	2019/4/26	長崎県立佐世保北高等学校	長崎県佐世保北高等学校空手道部
教員免許状更新講習 体育・スポーツに関する最新情報 ～「スポーツ栄養」～	2019/8/19	長崎国際大学	文部科学省
運動部に所属する大学生のための食事と栄養(大学野球選手のためのスポーツ栄養学)	2019/9/25	(株)南風崎MGLレヂデンス体育館にて実施	(株)南風崎MGLレヂデンス
「食」に関する講演会(中学生のためのスポーツ栄養学)	2019/12/17	佐世保市立光海中学校体育館	佐世保市立光海中学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県空手道連盟理事会	学連理事	2019/4～現在に至る	長崎県空手道連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①令和元年4月～令和2年3月 佐世保北高校空手道部への栄養サポート
- ②令和元年7月17日 佐世保市立広田小学校PTA広報誌への記事掲載
- ③令和元年9月8日 社会貢献 聖和女子学院 学院祭にて食育ブースの展示(佐世保市保健福祉部健康づくり課)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日本ダイケア学会 第25 回 年次大会長崎大会	実行委員として、委員会 への出席	2019/6～現在に至 る	主菜:日本ダイケア 学会 大会事務局:医療法 人志仁会西脇病院

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/ 主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

前期授業の「実践栄養学実習」では、グループによって進行状況が異なることから、アクティブラーニングに沿った授業を展開するとともに配布資料の改善、グループ学修の時間の十分な確保を行った。卒業研究担当学生に対して、選手への具体的な栄養サポート方法を指導し、地域での活動を通して知識や経験を増やすことが出来た。また、学生生活や学修状況を把握し、定期的に支援を行った。

教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門担当として共通教育や初年次教育等の企画及び運営に携わった。またホスピタリティ概論ワーキンググループでは、授業の運営について協議し、シラバスの修正や授業担当者の選出等を行っており、今年度の反省を活かした運営に励みたい。

『スポーツ栄養学的サポート』をテーマに研究を行っており、今年度、国際雑誌に査読付研究論文2本掲載、学会発表を2件行った。また、令和元年度学長裁量経費「地域スポーツクラブ等に所属する選手のスポーツ栄養学的研究」においても目標を達成することが出来た。現在教科書を執筆しており、次年度発刊に向けて作成中である。

社会貢献として競技選手(中学生・高校生)および保護者への講演を3件実施した。次年度以降も外部依頼があれば貢献していきたい。

NIUスポーツ栄養サポートチームとして本学クラブや高校ジュニア選手への栄養サポートを実施し、また女子空手道部顧問および栄養サポートコーチとして大会引率等を含め、選手の学生生活やコンディションのサポートを行い、高校生への募集活動も行った。全九州大会では男子団体組手で優勝、女子団体組手は準優勝することができたが、学業面との両立を図れるよう指導を続けていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 川内 美樹

1. 教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、4年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。

私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、4年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、放課後には化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①
栄養の化学演習	15 / 15 (前期)	1	42	①⑧⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①②
栄養代謝学	15 / 15 (前期)	2	44	①③⑨
栄養代謝学	15 / 15 (前期)	2	45	①③⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	⑥⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	6	⑥⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	③⑤⑦⑧⑪⑫
基礎化学実習	15 / 30 (後期)	1	11	⑨⑪
基礎化学実習	15 / 30 (後期)	1	12	⑧⑪
生化学	15 / 15 (後期)	2	22	②⑨
生化学実習	30 / 30 (後期)	1	16	①⑪
生化学実習	30 / 30 (後期)	1	14	①⑪
生化学	15 / 15 (後期)	2	21	②⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	59	①②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

栄養代謝学/問13の平均点は4.4であり、昨年度よりは0.1ポイント低下していたが、ほぼ例年通りの結果となった。コメント欄をみると、「わかりやすかった」や「勉強がしやすかった」と前向きなコメントが多く、こちらとしても大変うれしい結果であった。

全体的に昨年同様の評価で安心した。本科目はやはり授業だけでは理解することは難しく、復習をしていない学生が再試験や再履修という結果になっている。今年度のようにアウトプットの練習は今後も続けていき、試験対策として学生の勉強につながって欲しいと思う。

小テストの回数を増やして欲しいとの意見があるので、来年度検討していきたい。

栄養の化学演習/質問13の平均点は4.4であった。今年は前年度と異なり化学のレベルが下のクラスを受け持ったため、どれだけ学生が授業についてきてくれるか心配していたが、昨年の結果とほとんど変わらなかったのが良かったと思う。高校時代にほとんど化学を勉強していない学生が対象であるため、昨年のプリントを使って基本からゆっくりと授業を進めることを意識した。コメント欄にもわかりやすかったという意見が多く安心した。

全体的には昨年度より高い結果であったが、質問1の準備学習の項目だけが今年度の方が低かった。

毎回宿題という形でプリントを配布し、次回までに解いてくるというスタイルであったので、準備学習の結果が低いということは、一部の学生が宿題をやらずに授業に参加していたということになる。予習の徹底を今後の課題としたい。

生化学/質問13の平均点は4.5であった。昨年度が4.2だったので上昇していた。

コメント欄をみると、例年通り「わかりやすかった」や「勉強しやすかった」とコメントが多く、また今年度から授業の復習を兼ねてアウトプットの宿題を出したことが学習意欲につながったのではないかと思う。昨年は5限目の時間で学生も授業前から疲れた感があったが、今年度は1限目の授業で、比較的教室の雰囲気も明るく積極的に授業を聞く姿勢を見ることができたのでよかったと思う。

例年のことながら質問1の平均点が上がり、宿題を出してもなかなか予習復習につながらなかったことが残念であった。講義以外での学修時間を増やしていくことは毎年の課題であり、やはり宿題の提出が悪い学生が再試験や再履修という結果になっているようなので、来年度も引き続き課題を出したり、また小テストの回数を増やすことで自分から勉強してもらえるような工夫を考えたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校 衛生看護専攻科	栄養学	8/8(前期)	1	40

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6/15	19	前期(水曜日4・5限)

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 酒粕が与える2型糖尿病モデルマウスへの影響
2. 種々の癌細胞に与えるグレリン投与の影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
2020年管理栄養士国家試験全国統一模擬試験「かんもし」第2回解答と解説/共著/2019/09/
株式会社インターメディカル/21頁～28頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書の選書の取りまとめ、選書ツアー、ビブリオバトル、100冊読書の取り組み案
ハラスメント対策委員会	委員	相談への対応

学科学生委員会	委員	学生指導など
学科国試対策委員会	副委員長	模擬試験の申し込みと実施、模擬試験採点と評価、願書出願の取りまとめ、国家試験結果(学生個別)の採点と評価、学生への連絡、保護者への成績表送付、朝テストの実施 など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
入試問題作問	作問責任者(化学基礎・化学) 作問グループ(基礎 実力検査、生物基礎・化学基礎)	推薦入試2回分作問 一般学力入試2回分作問
(社)栄養士養成施設協会 認定 栄養士実力試験	実施担当者	結果集計、成績表認定証配布

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① オープンキャンパス(7月、8月、3月)への参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席

2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意
-----------	-------	---	-------------------------------	----

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
第1回オープンキャンパス 「生活の中の化学～シミ抜きで酸化還元を理解しよう～」	2019/7/21	長崎国際大学	健康管理学部
秋季公開講座 「糖尿病患者の寿命を延ばすために」	2019/10/12	長崎国際大学	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本栄養・食糧学会九州沖縄支部参与	なし	10年	日本栄養・食糧学会九州沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、担当科目は全て滞りなく進めることができた。授業アンケートの結果も昨年度より評価が上がっており、コメント欄は例年通り「わかりやすかった」という意見が多くよかったと思う。

研究面においては、目標としていた論文作成や学会発表を行うことができなかった。来年度は早々に論文を提出できるように頑張りたいと思う。

また、委員会等の活動では図書館委員としては学科の選書を行ったり、ハラスメント対策委員でも相談に対応するなど職務を全うすることができた。

学科の国家試験対策委員のメンバーとして、模擬試験の実施から学生教員、保護者への結果のフィードバック、さらに朝テストの作成から実施までをメンバーと協力しながら行うことができた。

来年度は卒業研究が必修科目となり、今まで以上に国家試験との両立で学生も大変になると思われるが、与えられた任務に加えて学生へのサポート、さらには自分自身の研究面も充実させていきたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 川野 香織

1. 教育理念

私の教育理念は、人々の多様性の理解と尊重をし、対象者に寄り添った支援によって、多くの人々のよりよい食生活の実現に貢献できる管理栄養士の育成を行うことである。

私が担当している栄養教育論は、人々の生涯を通じた健康の維持・増進、QOLの向上に寄与する健康的な食行動の形成や行動変容のために、いかに支援するべきかの学問である。それは、単に知識を伝えるだけでなく、行動科学や教育的な幅広い視点を踏まえ、一人ひとりに応じた栄養教育を行う必要がある。そして、その一歩は、対象者を理解し、尊重することから始まると考える。

よって、学生には、人々の価値観や社会的背景の特徴等の多様性の理解と尊重ができる豊かな人間性や広い視野、コミュニケーション能力を身につけてほしいと考えている。その点を踏まえながら、講義中心の授業では、現場をイメージできるよう、かつ、意欲喚起を図る手段を取り入れ、知識やスキルを伝え、実習では、グループ討議や発表等を通して、コミュニケーション力、協働・課題解決力を育成に努める。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	15 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
臨地実習 I (給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	16	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理論)	15 / 15 (通年)	1	60	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
事前・事後指導(栄養)	4 / 8 (通年)	1	1	④⑦
栄養教育実習	20 / 40 (通年)	1	1	⑦
栄養教育論実習 I	30 / 30 (前期)	1	41	②③④⑥⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①②③⑧⑨
栄養教育論実習 I	30 / 30 (前期)	1	32	②③④⑥⑪
健康栄養入門	3 / 15 (前期)	2	70	②③
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	6	④⑥⑨⑩⑫
食教育論	15 / 15 (前期)	2	19	①②③⑤⑥

教職実践演習(栄養教諭)	5 / 15 (後期)	2	1	⑤⑦⑩⑪
栄養教育論Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	0	①②③
生徒指導概論	3 / 15 (後期)	2	4	②⑩
学校栄養教育論	8 / 15 (後期)	2	4	①②③⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	36	②③④⑥⑪
栄養教育論Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	29	①②③⑩
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	31	②③④⑥⑪
栄養教育論Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	32	①②③⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

選択科目「食教育論」では、新任教員を対象とした「授業研修会」での学びを生かし、学生が主体的に学べるようアクティブラーニングを取り入れ、好評を得た。

一方、必修科目の「栄養教育論Ⅰ」では改善点が多く見られ、次年度は話し方や板書計画、学生のアウトプット作業の見直し等を行い、質の向上させる必要がある。また、「栄養教育論実習」では、前期開講のⅠの満足度が低かったため、学生の自由記載を基に改善を行い、後期開講のⅡに臨んだ。その結果、理解度・満足度ともに上昇し、説明が丁寧でわかりやすいと評価を得た。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期における効果的な栄養教育に関する研究
 保育所における食物アレルギー児対応に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/2019/6/日本食生活学会誌 第30巻 第2号
/79頁～86頁/共著/論文
長崎県健康・栄養調査における食生活の自己評価と食習慣、身体状況、栄養摂取状況の関連/
2020/3/長崎国際大学論叢/113頁～122頁/共著/論文
日本における外国人持久走選手への栄養サポートの課題/2020/3/長崎国際大学論叢/93頁
～100頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
家庭及び保育施設等における食物アレルギー児の対応に関する実態調査/2019/11/第56回日
本小児アレルギー学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	合同説明会や就職ガイダンス等、キャリアセン ターと参画して開催した。
臨地実習委員会(学部内)	副委員長	なし
長崎国際大学IBO2020実行委 員会	委員	なし
入試募集委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・進学ガイダンス/6月7日/場所:九州文化学園高等学校
- ・進路ガイダンス/2月4日/場所:活水高等学校
- ・学科広報催事 幼児食講座/8月24日/場所:長崎国際大学
- ・学科広報催事 離乳食講座/9月10日/場所:長崎国際大学
- ・学科広報催事 食物アレルギー児を支える地域づくり講座/9月14日/場所:長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	欠席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習会「食を通して健康を考えるA」	2019/5/18	長崎国際大学	長崎県
教員免許状更新講習会「食を通して健康を考えるB」	2019/6/8	長崎国際大学	長崎県
佐世保市保育会給食部会研修会	2019/9/4	長崎国際大学	佐世保市保育会給食部会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市食育推進会議	委員	2017/4/1～	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

就任3年目の本年は、大学全体の流れをしっかりと把握した上で、より主体的に諸活動を行うことがで

きたと考える。また、学科においては、常に実務家教員として何ができるかを考え、授業や臨地実習指導、就職委員としての声掛け等、多くの学生指導に精力的に取り組むことができたと考える。

教育面では、新任教員を対象とした「授業研修会」での学びを生かし、授業にアクティブラーニングを取り入れ、選択科目の授業評価では好評を得た。一方、必修科目の授業では改善点が多く見られ、今後は板書計画や学生のアウトプット作業の見直し等を行い、質の向上を目指したい。臨地実習では、臨地実習ノートの改訂を行い、学生の課題指導および事後指導に力を入れ、学生の深い学びに一定の成果を果たしたと考えるが、指導方法等にはまだ課題がみられたため、引き続き、より効果的かつ効率的な指導について科目担当教員で検討を行い、改善を図っていく。

研究活動では、新型コロナウイルスの影響で予定していた学会発表ができなかったが、現在、論文投稿の準備を行っているところである。平成30年度末に本学の修士課程を修了したので、より一層学術的な研究に力を入れていきたいと考えている。

大学運営活動では、特に就職委員として、例年開催している就職ガイダンスや学内合同企業説明会の開催に加え、学生(既卒者含む)への情報提供や声かけ、企業や施設との接点を増やすことを心掛けた。その結果、現3年生の就職活動は比較的早いペースで順調に進んでおり、また、既卒者と施設のマッチングにより内定に繋がったケースもあったが、現4年生の就職内定状況が昨年度よりやや低い傾向であったため、今年度の課題を検討しつつ新4年生の学生支援を行っていく必要がある。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 藤井 俊輔

1. 教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持たれば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ?」、「どのように?」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ?」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないように、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか?」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	①②③⑧⑨
栄養の化学演習	15 / 15 (前期)	1	42	①⑧⑨
食品学 I	15 / 15 (前期)	2	33	①⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①②⑧⑨
食品学実習	30 / 30 (前期)	1	39	①⑩
食品学 I	15 / 15 (前期)	2	36	①⑨
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
食品学実習	30 / 30 (前期)	1	38	①⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫ ⑫
基礎化学実習	30 / 30 (後期)	1	11	⑨⑪
基礎化学実習	30 / 30 (後期)	1	12	⑨⑪
食品学 II	15 / 15 (後期)	2	12	①⑨
食品学 II	15 / 15 (後期)	2	8	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の本講義は、話す側も、講義を受ける側も非常にまとまった一体感のある雰囲気の中でおこなうことができた。この背景には、学生の積極的な質問や講義に対する取組みの姿勢が例年以上に高かったからと感じている。したがって、自身も講義を進めやすくスムーズな講義ができたのではないかと自負している。

しかしながら、講義の理解度が4.6ポイントとやや低い傾向にあること、さらに本試験結果の成績分布を考えると、満足度のみの評価は講義の質を反映する事は出来ない。したがって、高い満足度を維持しながらも学生の講義内容の理解度を上昇させ、かつ、能動的な学修に導けるような講義展開を今後も模索し、本講義を完成させたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品学 I	15/15(前期)	2	22
長崎短期大学	食品学 II	15/15(後期)	2	22

長崎短期大学	食品学実習	30/30(後期)	1	24
唐津看護専門学校	代謝栄養学	15/15(前期)	2	20

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製と免疫化学的分析手法の開発

本研究では、生薬や食品に含まれる薬理作用または、三次機能が見出されている天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製を行っている。また、作製したモノクローナル抗体を研究ツールとして、種々の免疫化学的分析手法の開発を行っている。

2. 骨粗鬆症を予防する機能性成分の探索

骨粗鬆症は骨の「病的老化」であり、骨形成と骨吸収を司る骨芽細胞と破骨細胞のはたらきのアンバランスが生じた結果引き起こる骨代謝疾患である。骨粗鬆症の予防には、ライフステージの初期段階から生涯をかけて取り組むことが、生涯にわたるQOLの向上につながる。本研究では、骨芽細胞の増殖、分解に影響を与える食品成分の探索を実施し、その作用機序の解明を目的としている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	2	2	407万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Liquiritin and liquiritigenin induce melanogenesis via enhancement of p38 and PKA signaling pathways./2019/9/Medicines/doi:10.3390/medicines6020068/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Preparation of high specific monoclonal antibody against glycyrrhetic acid and developing the indirect competitive enzyme-linked immunosorbent assay/2019/11/Natural Products and Herbal Medicines 2019
オノン及びホルモノネチンに対するモノクローナル抗体作製と免疫化学的分析手法の確立/

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
オートファジーを制御する機能性成分の作用機序解析	科学研究費補助金(若手研究)(代表)	2018～2020年度	377万円
ペラリア・ミリフィカ含有健康食品の安全性評価法の確立	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)(分担)	2019～2021年度	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会(全学)	委員	入試制度の改変などに関する事項について審議した。
入試・募集委員会(学科内)	委員	入試制度の変更に伴う学科内の意見の取りまとめ等を行った。
教務委員会(学科内)	委員	新年度オリエンテーションに関わる業務を担当した。
国試対策委員会(学科内)	委員	今年度の国家試験対策演習の実施方法や、朝テストの採点業務、取りまとめ等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

1. バレーボールサークル顧問: 2017年度よりバレーボールサークル顧問を務めている。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- 夢ナビライブ: 学びステーションにおいて高校生に対して、栄養学分野の進路ガイダンスを担当した。
- 個別オープンキャンパス: 個別訪問される高校生に対して、本学健康栄養学科の紹介や、栄養学分野の進路、就職などについて講話を行った(全5件)。
- オープンキャンパス: 年間4回実施されるオープンキャンパスのうち、2回を学科責任者として、企画、実施、運営、とりまとめを行った。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
夏休み科学体験教室「食べ物の科学にふれてみよう!!」	2019/8/17	長崎国際大学	本学地域連携室

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

1. PHENIKAA Universityとの共同研究契約(11月12日):天然物からの新規有用物質の探索を目的とした共同研究契約を締結した。また、同日実施された学術研究報告会(Joint Workshop “Natural Products and Herbal Medicines 2019”)において、研究報告を行った。

7. 受賞等

1. 長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストプラクティス部門) 受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育面】

これまでの授業アンケートの結果の中で、最も高い満足度を得ることが出来た。また、理解度を含めた講義の方法などに関する全ての項目において、4.6ポイント以上の結果を得た。しかしながら学生自身の取組みや、予習、復習などのアンケート項目においては4.2ポイントと振るわなかった。今後の課題として、講義に対する学生の取組みを促す方法を模索し、実施していかなければならないと痛感した。

【大学運営・地域貢献】

大学運営面に関しては、特に募集活動に尽力できたのではないかと捉えている。オープンキャンパスの学科責任者や、種々の進路ガイダンス、高校生の個別大学訪問、模擬授業などを広く担当した。一方、地域貢献の面では、例年実施している科学体験教室の開催に至った。参加定員も満たすことができ、参加者の事後アンケートにおいても良好な結果を得ることが出来たことから、地域への貢献とパブリシティ効果があったと考えている。

【研究面】

継続している科研費とは別に、研究分担者として厚生労働省科研費に採択された。今後も外部資金の獲得、研究の展開を意識して研究活動に取り組みたい。しかし一方で、発表論文1報、学会発表2報と生産性の少ない結果となってしまった。各種委員会や、学生の指導に多くの時間を費やすため、十分な時間を研究活動にあてることは出来ないが、今の環境の中で最大限の成果を出せるよう、日々精進に努めたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 宮原 恵子

1. 教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、管理栄養士の国家試験に合格できる力はもちろん、社会で管理栄養士として働く際の基礎力を育成することです。

よって、講義系の授業では、学生の想像力を補う展開を重視しています。私が担当する講義は皆さんの生活に関する内容であり、学生には、自身の現在や過去・未来の生活を想像しながら知識を深めてほしいと考え、そのために、一つの項目をいくつもの視点から説明する授業方法です。

また、実習系の授業では、講義で得た知識を実践に結びつける展開を重視しています。学生には、応用する意識や力を身に付けてほしいと考えており、そのために、講義の内容も振り返りながら、実習に取り組む、レポートやプレゼンテーションなどでまとめる・発表することを取り入れた授業方法です。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	15 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
臨地実習 I (給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	16	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理論)	15 / 15 (通年)	1	60	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
栄養学応用演習 I	15 / 15 (前期)	1	5	①②⑤⑥⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	①⑧
公衆衛生学 II	15 / 15 (前期)	2	39	①②⑨
健康管理論	15 / 15 (前期)	2	32	①②④⑩
公衆衛生学 II	15 / 15 (前期)	2	45	①②⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	3	④⑫
健康管理論	15 / 15 (前期)	2	42	①②④⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
公衆衛生学 I	15 / 15 (後期)	2	26	①②⑨
健康科学実習	30 / 30 (後期)	1	33	①④⑥⑩
公衆衛生学 I	15 / 15 (後期)	2	28	①②⑨

健康科学実習	30 / 30 (後期)	1	40	①④⑥⑩
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	70	①⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

昨年度の評価と比較して、おおむね同様か改善がみられた。

小さなことではあるが、予習・復習をするよう声をかけたり、実習では説明の頻度を増やしたりすることで、学生の理解度は上がったと感じた。また、学年のカラーによる部分もかなり影響するため、学年の様子をみながら進行方法などを検討する必要がある。

ただし、試験結果も合わせて考えると、再試験や再履修に該当する学生は少なくなく、このような学生の理解度を上げることはとても難しいと感じる。一つ一つの授業では対処できない問題と思うため、学科全体としての検討につなげたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	10

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士試験合格支援講座	1	10	2019/6/5

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

食事摂取状況に影響する因子の検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	1	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

「長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討」/2019/9/日本食生活学会誌第30巻第2号
/79頁～86頁/共著/論文

「長崎県健康・栄養調査における食生活の自己評価と食習慣、身体状況、栄養摂取状況の関連」/
2020/3/長崎国際大学論叢第20巻/113頁～122頁/共著/原著論文

「日本における外国人持久走選手への栄養サポートの課題」/2020/3/長崎国際大学論叢第20
巻/93頁～100頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

「アプリを用いたコンディショニングの可能性 心理的競技能力に着目して」/2019/9/日本体育学
会第70回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和元年度学長裁量経費「長崎国際大学スポーツブランド“NIUS”醸成に向けた取り組み」	長崎国際大学	2019/5/29～ 2020/2/29	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	なし
教育基盤センター運営委員会	委員	なし
教務委員会(学科)	委員	オリエンテーション担当 保護者コメント担当
臨地実習委員会(学科)	委員	議事録担当
国家試験対策委員会(学科)	委員	朝テスト担当
入試募集委員会(学科)	委員長	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部副部長

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①進学説明会／6月6日／場所:佐世保市文化体育館
- ②夢ナビライブ参加／10月19日／場所:マリンメッセ福岡
- ②高校内進路ガイダンス／12月16日／場所:猶興館高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育および研究活動において、まだまだ足りない部分もあるが、全体として、効率的に業務に取り組むことができた。

まず、教育活動では、学生の理解度を常に意識して、何らかのアクションを取り入れることで、授業中における学生の集中力は維持できたと感じる。ただし、一部の学生については、授業中の態度だけでなく、試験結果も満足できるものではなく、引き続き検討する必要がある。

そして、研究活動では、学内論叢ではあるが、論文を投稿することができた。来年度に向けて、データ解析等を進めていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 吉村 亮二

1. 教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力(専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力)を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

(講義科目)

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

(実習・演習科目)

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から考察結果までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習 I	9 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	61	⑪
基礎栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	42	①⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	②⑤⑩
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	1	⑥⑩⑪⑫
基礎栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	38	①⑩⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	⑤⑥⑩
生物有機化学	15 / 15 (後期)	2	5	②⑩
基礎栄養学	15 / 15 (後期)	2	10	①
基礎栄養学	15 / 15 (後期)	2	5	①
栄養生理学実習	16 / 30 (後期)	1	12	①⑩⑪
栄養生理学実習	16 / 30 (後期)	1	18	①⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は、基礎栄養学実習、基礎栄養学ともに初めて4点台の満足度を獲得することができた。その背景には、これまでに実習後に課していた課題を実習前に課し、実習内容がより理解できるように工夫した点にあると考えられる。また、基礎栄養学においては今年度から新たなテキストに変更したためそのテキストが学生に適していたことが考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院非常勤講師	栄養学	15/15(前期)	2	33
京都府立大学生命環境 学部非常勤講師	分子栄養学2	5/15(前期)	2	15

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	4	16	2019/6, 2019/7

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理機能に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	1	1	416万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
ミトコンドリアとロイシン摂取によるタンパク質合成促進作用—サルコペニア発症メカニズムの解明を
目指して—/2019/8/月刊「細胞」/458頁～462頁/共著/総説
Regulation of Skeletal Muscle Function by Amino Acids / 2020/1 / Nutrients / doi:10.3390/
nu12010261/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
若手研究(B)	日本学術振興会	2017～2019	416万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	ワンコイン朝食の企画、検討を行った。また、卒業パーティー実施に向けて活動した。
動物実験委員会	委員	倫理審査等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
20周年事業ワーキンググループ	周年事業担当長	20周年事業ワーキンググループの周年事業担当長として周年事業の企画立案等を担当した。

(3) 課外活動の指導等

フットサルサークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

壱岐高校進路ガイダンス参加/2019年11月12日/場所:壱岐高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
健康寿命延長のための筋肉と栄養	2019/10/19	平戸市未来創造館	ひらど市民大学
健康寿命延長のための筋肉と栄養	2019/11/30	中央公民館	佐世保まちなか大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育

授業アンケートの満足度は、初めて4.0を得ることができ、授業改善が数値として少しは見えてきているように感じています。

・研究

これまでに得られた結果を国内和文誌である日本栄養・食糧学会へ論文投稿しましたが、掲載には至りませんでした。今後は提案された改善点を改善し、再投稿したいと思います。科研費申請年度で

あったため、新規申請を行いました。

・大学運営

学生委員会の委員として、学内行事や保護者会等の学外業務に積極的に取り組みました。また、全学の動物実験委員会、健康管理学部健康管理学研究科研究倫理委員会の委員として各教員の研究が円滑に行われるように委員会の運営を積極的に行いました。さらに、国試対策委員会の委員として積極的に国家試験対策を行いました。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 芦塚 淳美

1. 教育理念

学生との信頼関係を築き、過ごしやすく学びやすい環境づくりに努める。

特に、次の2点を重視する。①自ら学生とコミュニケーションを図る ②学生を理解し、個を尊重する

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
リメディアル教育(化学)	14	6	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/5, 2019/6/12, 2019/7/3, 2019/7/10, 2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 競技特性が骨代謝に及ぼす影響について
2. 競技選手に対する栄養教育効果の検証について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
大学野球選手における身体的特徴、栄養素等摂取状況及び血液生化学検査値の所見/2019/8
/第6回スポーツ栄養学会
大学野球選手の栄養素等摂取状況と骨密度について/2019/11/第59回日本食生活学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和元年度 学長裁量経費「地域スポーツクラブ等に所属する選手のスポーツ栄養学的研究」	長崎国際大学	2019/6/1～2020/2/29	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①オープンキャンパス開催補助/2019年7月21日・8月4日・8月25日/長崎国際大学
- ②広報催事(幼児食講座)開催補助/2019年8月24日/長崎国際大学
- ③広報催事(アレルギー食講座)開催補助/2019年9月14日/長崎国際大学
- ④夢ナビライブ まなびステーション/2019年10月19日/場所 マリンメッセ福岡

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	公務出張
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

① 青年期の食育推進事業(スポーツ栄養に関するブースの展示)

2019年9月8日/聖和女子学院(主催:佐世保市保健福祉部健康づくり課)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育面】

担当の実習がスムーズに進むように心掛けて準備等を行ったが、不足していた部分が多かった。実習中だけでなく、実習前の準備・実習後のまとめ、教員間での情報共有等、時間をかけて徹底して行う必要があると感じた。リメディアル教育(化学)では、学生とコミュニケーションを多くとり、理解度を把握して授業を進めることが出来た。

【研究面】

科研費へ応募することはできたが、積極的に研究を行うことが出来ていなかった。また、知識不足を痛感した。今後は、積極性と計画性を意識して研究活動に取り組み、論文作成や学会発表に臨みたい。

【その他】

オープンキャンパスや広報催事等に積極的に参加できた。今後も大学の良さを伝えることが出来るように努めていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 射場 仁美

1. 教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

佐世保市立看護専門学校

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護学校	生化学	30/30(前期)	1	72

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学のリメディアル	14	6	前期第1・第2水曜日
国家試験対策	8	73	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

腸炎ビブリオの病原因子について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

マウス腸管ループモデルにおける腸炎ビブリオによる下痢と炎症との関連の検討/2019/9/7/第
66回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

幼児食講座、離乳食講座に参加

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では食品衛生学実習、基礎栄養学実習、微生物学実習、基礎化学実習の実習補助を行った。実習中は実験手順について指導・補助を行った。実習後はレポートの採点を行い、学生の理解度が高まるよう務めた。

化学リメディアルでは少人数の学生に対して演習形式で指導を行った。それぞれの学生の理解度にあわせた演習問題を準備し、全ての学生の理解度が高まるよう努力した。

学外では佐世保市立看護専門学校で生化学の講義を担当した。学内では講義をすることがないので、良い経験になった。学内での業務にも活かしていきたい。

研究活動では博士号を取得のための論文を執筆し、学術誌に投稿中である。来年度に博士号を取得できるよう努力したい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 嘉数 圭祐

1. 教育理念

私の教育理念は思いやりのある人、社会で活躍できる人を育てることであり、そのために出来る範囲で学生のサポートをしていきたいと考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	14	6	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/5, 2019/6/12, 2019/7/3, 2019/7/10, 2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

血液透析患者の口腔状態と生活の質(QOL)等の関連性について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①8月17日「学童期の健康講座」 主催:長崎国際大学 広報催事
- ②9月14日「食物アレルギー児を支える地域づくり講座」 主催:長崎国際大学 広報催事
- ③7月21日、8月4日、25日オープンキャンパス

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年が就任一年目で、実習や普段の業務を先輩方に助けられながら取り組んだ。前期の実習では事前に打ち合わせをすることがあまりなく、担当の先生に迷惑をかけてしまったため今後はもっと打ち合わせを行い学生のサポートを行いたい。広報催事では学童期とアレルギーの講座に参加した。教育面では1年生の化学リメディアル教育を行ったが、内容や進行が思うようにならなかったことから学生にも混乱をさせてしまったと思うため、来年度は段取りを確立し、その講義での到達目標などをハッキリさせてから臨みたい。

研究活動では発表は行うことができたが、論文を発表することはなかったため今後の活動ではさらに積極的に取り組んでいく。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 川邊田 晃司

1. 教育理念

食べ物と健康のプロフェッショナルである管理栄養士がエビデンスに基づく正しい情報を発信できる力を身につけてもらいたと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

記載事項なし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	14	6	2019/5～2019/7
国家試験対策	8	81	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大豆タンパク質の生理機能性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

長崎県(南島原)産新タマネギの抗酸化能と呈味特性./2019/5/日本家政学会第71回大会, 徳島市

Effect of dietary biotin intake on fat oxidation and body fat mass in rats./2019/8/20th ARAHE Biennial International Congress 2019, Hangzhou, China

新タマネギ葉の呈味特性と有効利用法に関する研究/2019/8/日本調理科学会2019年度大会, 福岡市

タマネギの葉の抗酸化能と呈味特性/2019/10/日本家政学会九州支部第65回大会, 宗像市

新タマネギ葉の乾燥品の調製とその品質/2019/10/日本家政学会九州支部第65回大会, 宗像市

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス開催補助(2019年7月21日・8月4日・8月25日)

広報催事(学童期の健康講座)補助(2019年8月17日)

広報催事(夏休み科学体験教室)補助(2019年8月31日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、実習補助者として実習が円滑に進むように準備を行い、学生に実習の目的を伝えて実習内容の理解および知識の向上に努めた。また、学生の相談に乗り進路実現に必要なアドバイスを行った。

1年生を対象にした化学リメディアルでは、個人の理解度に合わせた演習形式の指導を行い、化学に対する苦手意識の克服をサポートした。

研究活動においては、成果が不十分であるため自身の研究を行うとともに、共同研究を積極的に進めていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 菊地 優子

1. 教育理念

自ら学び、課題解決力を身につけることができるような環境づくりや学生のサポートを行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園 歯科衛生士学院	生化学	15/15(後期)	-	31
九州文化学園 歯科衛生士学院	国家試験対策	2/74(後期)	-	38

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	14	6	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/5, 2019/6/12, 2019/7/3, 2019/7/10, 2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

食物アレルギーや炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Indomethacin誘発性腸管傷害ラットにおける血漿a-1酸性糖タンパク質 (AGP)の変動/2019/3/
長崎国際大学論叢 第19巻/169頁～175頁/共著/研究ノート
クローン病患者における血漿α1-酸性糖タンパク質の変化と病態との関連/2019/9/日本病態栄
養学会誌 第22巻3号/235頁～240頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

1. オープンキャンパスにおける各学科企画の補助／3月23日、7月21日、8月4日、8月25日
2. 科学体験教室の開催補助／8月17日／長崎国際大学
3. 離乳食講座の開催補助／9月10日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

小学校における食育授業の実施(対象:川棚町立小串小学校5年生43名、実施日:11/8、2/21)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は調理学実習、食品学実習、栄養生理学実習、健康科学実習、給食栄養管理実習の補助を担当した。担当3、4年目となる科目も多かったため、学生が理解しにくい箇所や間違いやすい箇所を予想することができ、それに対応した事前準備や学生への声かけができたと考える。化学リメディアルでは、個々に合わせた対応ができたと考えるが、知識の定着が不十分であったと感じたので授業の理解度を確認するなどして、定期試験に対応できる力を養えるように努めたい。歯科衛生士学院での講義では、国家試験の出題傾向を把握したを上での授業を行うことができるようになり、メリハリがつけられるようになった。しかし、一方的な講義になってしまったため、学生が自主的に学修する環境をつくれるよう講義内容を工夫したい。研究面では、大学論叢と国内雑誌に掲載され、これまでの研究成果をアウトプットすることができた。今年度から新規テーマで研究を行っているため、来年度は早めに実験系を確立し、成果を学会発表できるように励みたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 菊池 亮子

1. 教育理念

社会人としてまた管理栄養士としてのホスピタリティ精神を身につけることができる環境づくりを行い、学生に寄り添ったサポートを行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

なし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生(実習)	15/15(前期)	1	14

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	14	4	前期第1・第2水曜日
国家試験対策	9	73	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大量調理における食品の調理特性(調理科学的変化)に関する研究
咀嚼・嚥下に対応した食事のテクスチャーに関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大量調理機器を用いた湿式加熱における食品の調理特性に関する研究/2019/8/日本調理科学学会

食肉の大量調理における各種浸漬液が豚肉および鶏肉の軟化に及ぼす影響/2019/11/日本給食経営管理学会

血液透析患者の口腔状態と生活の質(QOL)の関係について/2020/2/長崎県人工透析研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

広報催事:健康栄養学科公開講座「科学体験教室」(開催補佐) 2019年/8月17日/場所:長崎国際大学

広報催事:健康栄養学科公開講座「離乳食講座」(開催補佐) 2019年/9月10日/場所:長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
すぎのこ園園内研修「摂食・嚥下について」(開催補佐)	2019/11/13	佐世保市立すぎのこ園	佐世保私立すぎのこ園
平成31年度県民大学講座「形態食に関する講話」(開催補佐)	2019/11/16	長崎県立佐世保特別支援学校	長崎県立佐世保特別支援学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動について、昨年の業務(実習補佐、学生サポート)を活かし、実習における改善点や変更点を考慮し自ら積極的に動き取り組んだ。また新任助手とコミュニケーションをとることを心がけ、情報共有できるように自ら情報を発信するように努めた。学生への支援においては、学生が理解できるように分かりやすい表現をすることを心がけたい。

研究活動について、修士論文のテーマ「大量調理における食品の調理特性(野菜類、米飯)」において今年度は追加の実験を行っている。

大学運営活動について、オープンキャンパスおよび広報催事では参加者の満足度を高めることができるように気配り、目配りをするを意識し、積極的な声かけを心がけた。微力ながら大学および地域に貢献していきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 衣笠 輝

1. 教育理念

学生が自ら能動的に学び、専門的知識や技能、課題解決能力を身につけた学生の育成を支援する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

なし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	14	6	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/5, 2019/6/12, 2019/7/3, 2019/7/10, 2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

腎疾患(人工透析、腎移植)患者に対する栄養管理について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

8/17(土)学童期の健康講座

8/24(土)幼児食講座

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、業務を円滑に進めるために全体的な流れを理解しながら取り組むことを心がけた。

今後も授業の準備を怠らず打ち合わせをきちんと行い、学生の支援をしていきたい。

研究面では、通常業務をこなすことに手一杯で研究活動を行えることが出来なかったことが反省点である。

また、研究を行う上で、知識不足であることが理解できた。そのため今後は、データ解析方法など研究に必要な基礎知識を意欲的に学んでいきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 古田 美咲

1. 教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	14	6	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/5, 2019/6/12, 2019/7/3, 2019/7/10, 2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が新生児の糖代謝に及ぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

母体の鉄制限が新生児の糖代謝に及ぼす影響-肝臓及び骨格筋におけるglucose transporter発現-
-/2019/9/6/第66回 日本栄養改善学会学術総会

妊娠期のカルシウム制限が胎盤のIGF-1発現に及ぼす影響/2019/9/6/第66回 日本栄養改善
学会学術総会

血液透析患者における摂食嚥下・口腔状態の変化が身体状況及び栄養状態、生活の質(QOL)へ
与える影響について/2020/2/9/第47回 長崎人工透析研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①フェニルケトン尿症(PKU)調理教室/3月30日/長崎国際大学
- ②学童期の健康講座/8月17日/長崎国際大学
- ③食物アレルギー児を支える地域づくり講座/9月14日/長崎国際大学
- ④オープンキャンパス/7月21日、8月4日、8月25日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	欠席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、担当している学生実習においては問題なく円滑に進めることが出来た。

また、化学リメディアルを担当し、実際に化学の講義で配布されている資料を用いながら、わからなかった問題に再度取り組むことで理解しないまま講義が進まないようにした。少人数制であったため、一人ひとりの理解度に合わせた指導ができるよう努める事が出来た。

研究面では、「母体の鉄制限が新生児の糖代謝に及ぼす影響-肝臓及び骨格筋におけるglucose transporter発現-」について学会発表を行った。来年度も、学会発表や論文投稿等で研究成果をアウトプットできるよう努力したい。

教育面や研究面以外にも、広報催事の補助など積極的に大学運営への貢献が出来た。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 吉永 奈津希

1. 教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等、日頃から考える力をつける支援を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品)	14/14(前期)	-	15
九州文化学園調理師専門学校	食品学(介護食士講座)	1/1(前期)	-	15
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品)	17/17(後期)	-	13

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
健康栄養学科 化学リメディアル	14	6	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/5, 2019/6/12, 2019/7/3, 2019/7/10, 2019/7/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究
2. 大量調理における食品の調理特性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大量調理機器を用いた湿式加熱が食品の性状に与える影響/2019/8/一般社団法人日本調理科学会2019年度大会

食肉の大量調理における各種浸漬液が豚肉および鶏肉の軟化に及ぼす影響/2019/11/第15回日本給食経営管理学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス開催補助/7月21日、8月4日、8月25日、3月20日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
すぎのこ園園内研修「摂食機能療法における嚥下調整食の基本」(開催補助)	2019/11/13	佐世保市立すぎのこ園	佐世保市立すぎのこ園
ながさき県民大学主催講座「形態食に関する講話」「調理体験」(開催補助)	2019/11/16	長崎県立佐世保特別支援学校	長崎県立佐世保特別支援学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会佐世保支部	運営委員	2019年度～現在に至る	公益社団法人 長崎県栄養士会
長崎口のリハビリテーション研究会(県北地区)	実行委員	2019年度～現在に至る	長崎口のリハビリテーション研究会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①健康栄養学科広報催事「家族で学ぶ育ちざかりの食事(学童期の健康講座)」開催補助／8月17日／長崎国際大学
- ②健康栄養学科広報催事「家族で学ぶ赤ちゃんの食事(離乳食講座)」開催補助／9月10日／長崎国際大学

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1年生に対する化学リメディアルでは、学生同士が教え合えるようにしながら進めていった。最初と最後に小テストを行い、解ける問題は増えていたため、一定の効果はあったと考えられる。今後は、学生自身が学びたい内容により時間を割いて指導することができるよう、配布資料の工夫や練習問題の充実に努めたい。実習補助については、実習が円滑に進むよう必要な準備を行い、問題なく進めることができた。

学科広報催事の開催補助やオープンキャンパスの準備など積極的に行った。また、社会活動として園内研修やながさき県民大学主催講座にも携わり、微力ではあるが地域に貢献できたと考える。本年度より長崎県栄養士会佐世保支部運営委員を務め、研修会の開催等行っている。来年度は「栄養の日」のイベントを佐世保で行うことになっているため、栄養士会業務についても引き続き貢献できるよう努力したい。

研究面では、大量調理における食品の調理特性に関する研究について、学会発表を行うことができた。論文を発表できるよう、今後も研究をすすめていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 安東 由喜雄

1. 教育理念

佐世保を愛し、compassion, そしてhospitalityを持つ学生を育てる。絶えず世界を意識し、佐世保から世界を目指し情報発信できるような人材を育成する。3S: speed, service, scienceを意識し、絶えずhospitality (service)の心を持ち、合理的・科学的見地からスピーディーに物事に対処できる人材を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
臨床医学概論	5 / 15 (前期)	1.5	110	②③④⑪
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	123	②③
疾病学Ⅱ	2 / 15 (前期)	1.5	107	②③④
臨床検査学	5 / 15 (後期)	1.5	89	②③
疾病学Ⅰ	3 / 15 (後期)	1.5	89	②③④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

概ね良好な評価であったが、一部、授業の運び方などに懸念を示す意見があったので今後に生かしたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. アミロイドーシスの診断・病態解析と創薬治療の実践
 - a: アルツハイマー病の病態解析と創薬治療の実践
 - b: 遺伝性アミロイドーシスの診断・病態解析と創薬治療の実践
 - c: 老人性全身性アミロイドーシスの天然化合物による予防戦略の確立
2. 宇宙医学的見地からのアミロイド形成阻止研究
3. 脳アミロイドアンギオパチーの創薬による阻止研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	5	116	18	12	12	4243万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
映画に描かれた疾患とペースス/単著/2020/02/25/医歯薬出版株式会社/300頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

A 23-year-old woman with sudden-onset blindness of the right eye/2019/J Stroke Cerebrovasc Dis/12頁～13頁/共著/論文

A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1/2019/ACS Chem Neurosci,/444頁～455頁/共著/論文

Therapeutic potential of polyamidoamine dendrimer for amyloidogenic transthyretin Amyloidosis/2019/ACS Chem Neurosci/2584頁～2590頁/共著/論文

Presence of plaque neovascularization on optical frequency domain imaging predicts progression of carotid artery stenosis/2019/World Neurosurg/ 330頁～336頁/共著/論文

Mitochondrial localization of PABPN1 in oculopharyngeal muscular dystrophy/2019/Lab Invest / 1728頁～1740頁 /共著/論文

RNA sequencing solved the most common but unrecognized NEB pathogenic variant in Japanese nemaline myopathy/2019/Genet Med/1629頁～1638頁/共著/論文

Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy of tafamidis meglumine in Japan - interim analysis in post-marketing surveillance/2019/Amyloid/45頁～46頁/共著/論文

Comparison of clinical features in transient focal neurological episodes between hereditary

transthyretin type and A β type cerebral amyloid angiopathy / 2019 / Amyloid / 81頁～82頁 / 共著 / 論文

Correlation of heart rate variability analysis and MIBG myocardial scintigraphy in patients with Parkinson's disease / 2019 / Amyloid / 146頁～147頁 / 共著 / 論文

Reduced intraepidermal nerve fibre density in patients with hereditary transthyretin amyloidosis / 2019 / Amyloid / 79頁～80頁 / 共著 / 論文

Clinical potential of dual-energy cardiac CT in cardiac amyloidosis / 2019 / Amyloid / 91頁～92頁 / 共著 / 論文

Clinical and MRI characteristics and follow-up studies of insulin-derived amyloidosis / 2019 / Amyloid / 156頁～157頁 / 共著 / 論文

Serum diacron-reactive oxygen metabolites (d-ROMs) and biological antioxidant potential (BAP) in patients with ATTR-PN / 2019 / Amyloid / 65頁 / 共著 / 論文

Evaluation of myoelectrical activities of descending colon by electrointestinogram in patients with ATTRm amyloidosis / 2019 / Amyloid / 66頁 / 共著 / 論文

Introduction / 2019 / Amyloid / 1頁～3頁 / 共著 / 論文

Histopathological and biochemical analyses of prostate / 2019 / Amyloid / 160頁～161頁 / 共著 / 論文

Class I small leucine-rich proteoglycans (SLRPs) colocalise with the A β 2M amyloid deposits: implications for the roles of SLRP core proteins in the pathogenesis / 2019 / Amyloid / 140頁～141頁 / 共著 / 論文

Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis / 2019 / Amyloid / 9頁～10頁 / 共著 / 論文

Nationwide survey of 199 patients with reactive amyloid a amyloidosis in Japan / 2019 / Amyloid / 129頁 / 共著 / 論文

Transthyretin amyloid-related cerebral angiitis after liver transplantation / 2019 / Amyloid / 11頁～12頁 / 共著 / 論文

AL amyloidosis diagnosed using anti-IGLL5 antibody: a case report / 2019 / Amyloid / 111頁～112頁 / 共著 / 論文

Hepatocyte-targeted delivery of siRNA polyplex with PEG-modified lactosylated dendrimer/cyclodextrin conjugates for transthyretin-related amyloidosis therapy / 2019 / Biol Pharm Bull / 1679頁～1688頁 / 共著 / 論文

New simple and quick method to analyze serum variant transthyretins: direct MALDI method for the screening of hereditary transthyretin amyloidosis / 2019 / Orphanet J Rare Dis / 116頁 / 共著 / 論文

Correction to: Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm / 2019 / Orphanet J Rare Dis / 111頁 / 共著 / 論文

A mutant MATR3 mouse model to explain multisystem proteinopathy / 2019 / J Pathol / 182頁～193頁 / 共著 / 論文

Risk factors and prevalence of deep vein thrombosis after the 2016 Kumamoto earthquakes / 2019 / Circ J / 1342頁～1348頁 / 共著 / 論文

Hereditary ATTR amyloidosis with cardiomyopathy caused by the novel variant transthyretin Y114S (p.Y134S) / 2019 / Intern Med / 2695頁～2698頁 / 共著 / 論文

Toxicity of insulin-derived amyloidosis: a case report / 2019 / BMC Endocr Disord / 1頁～6頁 / 共著 / 論文

Reader response: Natural history and survival in stage 1 Val30Met transthyretin familial amyloid polyneuropathy / 2019 / Neurology / 228頁～229頁 / 共著 / 論文

A cell-based high-throughput screening method to directly examine transthyretin amyloid fibril formation at neutral pH / 2019 / J. Biol / 11259頁-11275頁 / 共著 / 論文

Simple, reliable detection of amyloid in fat aspirates using the fluorescent dye FSB: prospective study in 206 patients / 2019 / Blood / 320頁～323頁 / 共著 / 論文

Combination of commonly examined parameters is a useful predictor of positive ^{99m}Tc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings in elderly / 2019 / Circ J / 140頁～156頁 / 共著 / 論文

Memantine, a Noncompetitive N-Methyl-D-Aspartate Receptor Antagonist, Attenuates / 2019 / Mol Neurobiol / 8573頁～8588頁 / 共著 / 論文

Integrated diagnostic approach to wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with the use of high-sensitivity cardiac troponin T measurement and ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy / 2019 / J Cardiol / 12頁～19頁 / 共著 / 論文

Muscle pathology of hereditary motor and sensory neuropathy with proximal dominant involvement with TFG mutation. / 2019 / Muscle Nerve / 739頁～744頁 / 共著 / 論文

Stent retriever-assisted continuous aspiration for distal intracranial vessel embolectomy: The distal combined technique / 2019 / World Neurosurg / 495頁～502頁 / 共著 / 論文

Characteristics of acquired transthyretin amyloidosis: A case series and review of the literature. / 2019 / Neurology / 1587頁～1596頁 / 共著 / 論文

Needle-shaped amyloid deposition in rat mammary gland: evidence of a novel amyloid fibril protein / 2019 / Amyloid / 25頁～35頁 / 共著 / 論文

Natural history and long-term effects of variant protein reduction in non-V30M ATTR amyloidosis / 2019 / Neurology / 714頁～716頁 / 共著 / 論文

Intrathecal cytokine profile in neuropathy with anti-neurofascin 155 antibody / 2019 / Ann Clin Transl Neurol / 2304頁～2316頁 / 共著 / 論文

Autosomal dominant alport syndrome due to a COL4A4 mutation with an additional ESPN variant detected by whole-exome analysis / 2019 / CEN Case Reports / 59頁～64頁 / 共著 / 論文

A Statement on the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin Cardiac

amyloidosis / 2019 / Circ J / 15頁～17頁 / 共著 / 論文

Diagnostic accuracy of MRI parameters in pure akinesia with gait freezing / 2019 / J Neurol / 752頁～759頁 / 共著 / 論文

De novo p.G696S mutation in COL4A1 causes intracranial calcification and late-onset cerebral hemorrhage: A case report and review of the literature / 2019 / Eur J Med Genet / 103825 / 共著 / 論文

Unique HLA haplotype associations in IgG4 anti-neurofascin 155 antibody-positive chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy / 2019 / J Neurol / 577139 / 共著 / 論文

CYLD dysregulation in pathogenesis of sporadic inclusion body myositis / 2019 / Sci Rep / 110606 / 共著 / 論文

Author correction: Fingolimod-induced decrease in heart rate may predict subsequent / 2019 / Sci Rep / 12662 / 共著 / 論文

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 2 of 2—diagnostic criteria and appropriate utilization / 2019 / J Card Fail / 854頁～865頁 / 共著 / 論文

Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. / 2019 / Eur J Neurol / 1487頁～1493頁 / 共著 / 論文

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 1 of 2—evidence base and standardized methods of imaging / 2019 / J Card Fail / 1頁～39頁 / 共著 / 論文

Insulin-derived amyloidosis without a palpable mass at the insulin injection site: A report of two cases / 2019 / J Diabetes Investig / ISSN:2040-1124 / 共著 / 論文

Bilateral dropped hands in a patient with systemic lupus erythematosus / 2019 / Neurol Clin Neurosci / 153頁 / 共著 / 論文

Galectin-lattice sustains function of cationic amino acid transporter and insulin secretion of pancreatic β cells / 2020 / J Biochem / ISSN:1756-2651 / 共著 / 論文

Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: The essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics / 2020 / Pathol Int / ISSN:1440-1827 / 共著 / 論文

Statin treatment can reduce incidence of early seizure in acute ischemic stroke: A propensity score analysis / 2020 / Sci Rep / 1頁～7頁 / 共著 / 論文

Ganglionic acetylcholine receptor antibodies and autonomic dysfunction in autoimmune rheumatic diseases. / 2020 / Int J Mol Sci / 1332頁 / 共著 / 論文

Expert consensus recommendations to improve diagnosis of ATTR / 2020 / J Neurol / 2020 in press. / 共著 / 論文

A comprehensive analysis of the clinical characteristics and laboratory features in 179 patients with autoimmune autonomic ganglionopathy / 2020 / J Autoimmun / 2021 in press. / 共著 / 論文

【U40世代が描く心不全診療の現状と未来-基礎研究を識り,臨床を素心深考する】心筋症 基礎編
心アミロイドーシス 治療の奏効する患者群は予測できますか? 基礎研究の見地からみた心アミロ
イドーシスの病態と治療/2020/循環器ジャーナル/88頁~93頁/共著/総説
神経アミロイドーシス治療のめざましい進歩 /2020/難病と在宅ケア/53頁~58頁/共著/総説
神経系のアミロイドーシスの最新の知見 /2020/医学のあゆみ/546頁~547頁/単著/総説
21世紀に眼科医が知っておくべきアミロイドーシス ここまで進歩した治療と病態研究/2019/日本
緑内障学会抄録集/106頁/単著/総説
検査からみる神経疾患 SUDOSCAN/2019/Clinical Neuroscience/1532頁~1533頁/共著/
総説
遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの早期診断に有用な皮神経脱落の解析/2019/ジャー
ナル フリー/264頁~268頁/共著/総説
むかしの頭で診ていませんか? 神経診療スッキリまとめました/2019/臨床雑誌内科/2330頁/
単著/総説
神経系のアミロイドーシス ここまで進歩した治療と病態研究/2019/日本内科学会雑誌/1873頁
~1882頁/共著/総説
【炎症性筋疾患における筋炎特異的自己抗体】封入体筋炎とNT5C1A抗体/2019/脳神経内科
/181頁~190頁/共著/総説
脳神経と肝臓のクロストーク 遺伝性ATTR型脳アミロイド血管症と肝移植/2019/臨床神経学/
126頁/共著/総説
オミックス検査学における質量分析の役割-現状と展望 各種質量分析装置の特徴を活かした多角
的なアミロイドーシス診断/2019/臨床病理/32頁/共著/総説
世紀の病気 アミロイドーシスの自律神経機能検査up to date/2019/日本自律神経学会総会プ
ログラム・抄録集/43頁/単著/総説
準境界型ニューロパチーという新疾患概念の提唱と病態に基づく超早期診断法の考案/2019/日
本自律神経学会総会プログラム/51頁/共著/総説
遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける体幹部小径線維障害の解析/2019/日本自律
神経学会総会プログラム・抄録集/99頁/共著/総説
【難治性ニューロパチーの新規治療】家族性アミロイドポリニューロパチー(遺伝性トランスサイレチン
型アミロイドーシス)の新規治療の展望/2019/脳神経内科/208頁~216頁 /単著/総説
【指定難病ペディア 2019】個別の指定難病 代謝・内分泌系 全身性アミロイドーシス/2019/日
本医師会雑誌/258頁~260頁/共著/総説
家族性アミロイドポリニューロパチー /2019/ケアネット希少疾患ライブラリー/[https://www.
carenet.com/report/library/general/rare/fap.html](https://www.carenet.com/report/library/general/rare/fap.html)/共著/総説
心筋疾患 心アミロイドーシス/2019/医学のあゆみ/737-742/共著/論文
超高齢者脳梗塞患者の臨床像/2019/臨床神経学/125頁~132頁/共著/論文
ALアミロイドーシス症例の心エコー所見と腎機能・高血圧との関連/2019/日本腎臓学会誌/370
頁/共著/論文

眼アミロイドーシス治療薬としてのグルクロニルグルコシル- β -シクロデキストリン/PEG化葉酸修飾
デンドリマー結合体の可能性評価/2019/日本DDS学会学術集会プログラム/147頁/共著/論
文

末梢神経障害をきたしたALアミロイドーシスの70歳女性/2019/臨床神経学/390頁/共著/論
文

トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの早期診断における瞳孔機能解析の有用
性/2019/自律神経/Page xxxvi/共著/論文

臨床志向型プロテオーム研究の実践 アミロイドーシス病型診断におけるプロテオーム解析の実践
/2019/電気泳動/117頁/共著/論文

脳神経内科医の医療用大麻利用に関する意識調査と情報提供の意義/2019/臨床神経学/405
頁~411頁 /共著/論文

髄液ミエリン塩基性蛋白高値を示した多発性脳梗塞の1例/2019/臨床神経学/454頁/共著/
論文

中高年におけるドミノ肝移植の心機能に与える影響/2019/日本心臓病学会学術集会抄録/SS-
B12-5 /共著/論文

進行性非流暢性失語を伴った筋萎縮性側索硬化症(ALS)の1例/2019/臨床神経学/551頁/共
著/論文

ジストニア肢位にMuscle Afferent Block(MAB)が有効であったDRPLAの一例/2019/臨床神経学
/552頁/共著/論文

抗CV2抗体を認めた浸潤性胸腺腫を伴う傍腫瘍性辺縁系脳炎の一例/2019/臨床神経学/552
頁/共著/論文

SWIとT2*Wの被殻低信号は多系統萎縮症の診断に先行するか/2019/パーキンソン病・運動障
害疾患コングレスプログラム/92頁/共著/論文

遺伝性ATTRアミロイドーシス国際交流会企画・運営の評価/2019/日本遺伝看護学会誌/44頁
/共著/論文

オートファジー促進薬を用いた多系統蛋白質症治療の可能性/2019/神経治療学/244頁/共
著/論文

メマンチン塩酸塩はインスリン分解酵素の発現上昇を介し脳アミロイドアンギオパチーを抑制する/
2019/神経治療学/238頁/共著/論文

自己免疫性自律神経節障害の能動免疫モデルの新規作製/2019/神経免疫学/122頁/共著
/論文

EFEMP1のアミロイド線維形成能および本アミロイドの静脈細胞に与える影響/2019/臨床化学/
86頁/共著/論文

質量分析装置を用いた新規アミロイド原因蛋白質EFEMP1の同定/2019/臨床化学/285頁/共
著/論文

呼吸不全に首下がりを伴うm.3243A>G変異ミトコンドリアミオパチーの1例/2019/臨床神経学/
686頁/共著/論文

CHRND遺伝子に新規変異を認め、サルブタモール単剤が有効であったスローチャンネル症候群の1家系／2019／臨床神経学／686頁／共著／論文

Val107ATTR変異を認めたFAP兄弟例／2019／臨床神経学／674頁／共著／論文

メマンチン塩酸塩はインスリン分解酵素の発現上昇を介し脳アミロイド血管症を抑制する／2019／Dementia Japan／518頁／共著／論文

多様なインスリン分泌シグナルの入力を一元管理するガレクチンラティス／2019／日本生化学会大会プログラム／2T10a-02／共著／論文

臨床志向型プロテオーム研究の実践 未知のアミロイド原因蛋白質も同定できる新たな質量分析診断法／2019／電気泳動／118頁／共著／論文

Remedy登録項目案に基づいた当院眼咽頭型筋ジストロフィー症例の解析／2019／日本筋学会学術集会プログラム・抄録集／118頁／共著／論文

ペランパネルがてんかん発作や光過敏に著効したミトコンドリア病の1例／2019／てんかん研究／644頁／共著／論文

骨髄での休眠に寄与する癌細胞亜集団(Specific subpopulations competent for tumor cell dormancy in bone marrow)／2019／日本癌学会総会記事／126頁／共著／論文

EFEMP1アミロイドの沈着頻度および至適病理学的診断法の検討／2019／臨床病理／286頁／共著／論文

自律神経と消化管 脳腸相関における自律神経の役割を考える 本邦における自己免疫性消化管運動障害の臨床的特徴の解析 自己免疫性自律神経節障害との関連について考える／2019／自律神経／237頁／共著／論文

経過中多彩な画像所見を呈しSOX1抗体陽性傍腫瘍性辺縁系脳炎が疑われた一例／2019／臨床神経学／856頁／共著／論文

遺伝性ATTRアミロイドーシスにおける血管障害の解析／2019／臨床神経学／314頁／共著／論文

野生型ATTRアミロイドーシスにおける診断のための生検部位の検討／2019／臨床神経学／313頁／共著／論文

遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける体幹部神経障害の病態解析／2019／臨床神経学／313頁／共著／論文

自己免疫性脳炎における脳波の有用性の検討／2019／臨床神経学／306頁／共著／論文

神経内科医の医療大麻に関する意識調査と情報提供の意義／2019／臨床神経学／290頁／共著／論文

髄膜アミロイドーシスの2症例／2019／臨床神経学／286頁／共著／論文

多系統萎縮症の診断に先行するSWIの被殻低信号／2019／臨床神経学／271頁／共著／論文

医原性ATTRアミロイドーシスと遺伝性ATTRアミロイドーシスの臨床像の比較検討／2019／臨床神経学／240頁／共著／論文

慢性腎臓病の病期は急性期脳梗塞の予後と相関があるか？／2019／臨床神経学／233頁／共著／論文

虚血性脳卒中でのクロピドグレループロトンポンプ阻害薬併用の急性期転帰への影響臨床神経学
／2019／臨床神経学／220頁／共著／論文

自己免疫性自律神経節障害の能動免疫モデルの新規作製／2019／臨床神経学／218頁／共著
／論文

本邦における自己免疫性自律神経節障害の臨床的特徴の解析／2019／臨床神経学／218頁／
共著／論文

脳と心は利己的免疫システムに支配されるのか？ 自己抗体による脳炎・脳症と記憶・情動／2019／
臨床神経学／174頁／共著／論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

21世紀の疾患:アミロイドーシス／2019/4/5／佐世保アミロイドーシスフォーラム

私の研究・診療,そして教育／2019/4/6／熊本大学医学部研修セミナー

ここまで進化した治療と病態研究／2019/4/26／第116回日本内科学会

栄養アセスメント,タンパク質の有効な活用方法とピットフォール／2019/4/27／熊本県栄養士会

21世紀の疾患 アミロイドーシス～治す神経難病の実践～／2019/5/23／第60回日本神経学会

日常に潜むアミロイドーシス／2019/6/1／福島アミロイドーシス講演会

ここまで来た難病FAPの治療 根治を目指して～siRNAの可能性～／2019/7/12／第5回核酸医学
会

“21世紀の疾患”アミロイドーシスの疾患概念／2019/7/21／ビンダケル適正推進講演会

眼科医が知っておくべき全身性アミロイドーシスの最新の知見／2019/9/7／第30回緑内障学会

21世紀の病気アミロイドーシス—心アミロイドーシスの診断と治療に関する最新情報—／2019/9/13
／Acc Asia Conference

ノーベル技術を応用した日本初のRNAi治療最前線／2019/9/13／東京メディアセミナー

～21世紀の疾患:アミロイドーシスの診断・病態解析・治療～／2019/10/5／熊本大学代謝内科同
門会

21世紀の疾患:神経関連アミロイドーシス／2019/10/24／熊本脳神経内科臨床医会

21世紀の病気:アミロイドーシスの自律神経機能検査up to date／2019/11/2／第72回日本自律神
経学会

心不全に潜む心アミロイドーシスの最近の話題について／2019/11/25／PfizerアミロイドーシスWeb
シンポジウム

21世紀の疾患,ATTRvアミロイドーシス(FAP)最新の知見／2020/2/6／Alnylamアミロイドーシスweb
シンポジウム

FAP研究の最新の進歩／2019/7/15／道しるべの会

FAP治療の進歩と課題／2019/11/30／道しるべの会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費・基盤研究(B) 「健康長寿の切り札、天然化合物を用いたTTRアミロイドーシスの予防戦略」についての研究	文部科学省	2019/4～2021/3	1183万円
厚労科研 「難治性疾患政策研究事業における アミロイドーシスに関する調査研究」班	厚生労働省(福井大学)	2019年度	20万円
AMED受託事業 「脳脊髄液減少症の病態生理と診断法の開発」班	AMED(埼玉医科大学)	2019年度	70万円
杉村病院助成金	杉村病院	なし	45万円
シノテスト助成金	シノテスト	なし	27万円
カネカ助成金	カネカ	なし	90万円
株式会社正晃 助成金	株式会社正晃	なし	45万円
Alnylam 助成金	Alnylam	なし	450万円
受託事業 prothena助成金	prothena	なし	485万円
受託事業・共同研究(熊本大学) 「アミロイドーシスのアミロイド沈着機構の解析」	熊本大学	なし	1814万円
科研費(分担金)基盤(C) 「自己免疫性ミオパチー発症における抗横紋筋抗体、壊死性ミオパチー抗体の意味」	厚生労働省(熊本大学高松教授)	2017/4～2020/3	7万円
科研費(分担金)基盤(C) 「高齢者の消化管出血を来す新疾患EFEMPT アミロイドーシスの病態解明と発症予測」	厚生労働省(熊本大学田崎助教)	2017/4～2021/3	7万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教員資格審査委員会	副委員長	なし
CHサポートセンター運営委員会	委員	CHサポートセンター センター長として活動した。
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
輸出管理委員会	委員	なし

危機管理委員会	委員	なし
---------	----	----

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
科研費テクニック講習会	副学長・アミロイドーシス病態解析学分野教授	科研費テクニックについて、審査委員を務めた経験をもとに、作成方法、内容等について細かくレクチャーした。 学内で8月と9月に講習会を開催。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等 (募集・就職活動を含む)

【メディア出演】FMラジオ出演/毎週火曜日21:00～22:00/FM佐世保

【メディア掲載】①「治療薬開発へ研究室開設」/2019年8月/長崎新聞

②「安東教授(長崎国際大学)ラジオで活躍」/2019年11月/長崎新聞

③「難病FAPに新治療薬」/2019年11月/山陽新聞

④「難病FAPに新治療薬」/2019年11月/愛媛新聞

⑤「難病FAPに新治療薬」/2019年11月/伊勢新聞

⑥「難病FAPに新治療薬」/2019年11月/千葉日報

⑦「難病FAPに新治療薬登場」/2019年11月/神戸新聞

【Web掲載】「異常タンパクの生産遮断、オンパロットに期待」/2019年9月/日刊薬業

「手足のしびれや吐き気が続く・・・診断が難しい難病の薬が発売」/2019年9月/日刊ゲンダイ

「オンパロット」で治療が大きく前進 長崎国際大・安東氏、残された課題も/2020年1月/日刊薬業

【メディア取材】TBS報道特集取材/2019年1月, 2020年3月/佐世保(TBS報道局解説委員 小嶋修一氏)

【エッセイ寄稿】12件(メディカルクォール2019年4月～2020年3月)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席

2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
市民公開講座 恋と映画と疾患と	2019/12/7	長崎国際大学	地域連携室
医療人向けトランスサイレチンアミロイドーシス啓発セミナー	2019/12/21	長崎国際大学	Alnylam Japan株式会社

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Plothena conference	Transthyretin related amyloidosis- Diagnosis, pathogenesis, and therapies.	2019/5	San Francisco, USA	Plothena
Heidelberg University Hospital Kick-off meeting for2969	Novel insights in the pathogenesis of hereditary ATTR amyloidosis.	2019/7	Heidelberg, Germany	Heidelberg University Hospital
2nd European ATTR amyloidosis meeting for patients and doctors	Recent advance in FAP.	2019/9	Berlin, Germany	Alnylam
Transthyretin amyloid cardiomyopathy msterclass	The role of transthyretin in health and disease.	2019/10	Kuala Lumpur, Malaysia	Pfizer
Transthyretin amyloid cardiomyopathy msterclassmsterclass	Learnings from ATTR-PN and the value of the multidisciplinary approach.	2019/10	Kuala Lumpur, Malaysia	Pfizer
Towards a cure for amyloid diseases	A successful example of precision and translational medicine.	2019/12	Italy, Pavia	Pavia University

(3) その他特記すべき活動

世界アミロイドーシス学会の理事長として活動。

2020年3月開催予定の世界アミロイドーシス学会へ向け、国際電話会議にてボードミーティング重ね、スペインタラゴナでの国際学会開催(世界アミロイドーシス学会)を理事長として取り纏める。

学会は2020年9月に延期となった為、引き続き国際学会の開催へ向けて尽力する。

7. 受賞等

①第60回日本神経治療学会 2019年度日本神経治療学会賞受賞

②特許取得 … 2件

発明の名称: 新規なアミロイド線維生成抑制剤

整理番号:14049US14(米国)

出願番号:15/580630

出願日:2016/06/10

発明の名称: 抗トランスサイレチンヒト化抗体

整理番号:13020EP09(米国)

出願番号:15743230.3

出願日:2015/01/23

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教育面:薬学部の系統講義を行うと共に、学生と積極的に対話する時間を設けた。また市民公開講座や講演会を主催し、様々な観点から教育活動を実践した。
2. 研究面:アミロイドーシスを中心に国際活動を行い招待講演を世界各地で行った。また科研Bを始め、様々な競争的資金、企業献金を受け、大学に間接経費を上納した。遺伝性アミロイドーシス、老人性全身性アミロイドーシスの創薬研究で有力な薬剤、天然サプリメントの開発を行い成果を上げた。年間55編の査読付き原著論文を書き、クオリティーの高い国際誌に掲載された。
3. 社会活動として、FMさせぼで「恋と映画と健康と」の生1時間番組を担当し、市民啓発活動を行った。遺伝性アミロイドーシスの患者会を通して啓発活動を行った。様々な講演会、webセミナーを主催、共催し、啓発活動を行った。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 榊原 隆三

1. 教育理念

私の教育理念は、“志がなければ学問の大成はない”をモットーに、学生の主体的な態度を引き出したうえで、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決能力を育成することにある。

授業は、講義中心となるが、意欲喚起を図る手段を組み込み高い専門力の育成を行う。特に、新知識について自らが考え、それをもとに与えられた課題について解決していくためのシナリオを準備することを重視している。また、薬学科が薬剤師養成を使命とする学科である特性上、学生に対しては、薬剤師国家試験の合格を念頭に授業内容を構成するとともに、主体的な学びを誘引してさらなる専門力を高めるよう心掛けている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	3 / 45 (通年)	3	101	⑨
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	119	⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	⑨
生化学Ⅲ	3 / 15 (前期)	1.5	101	②③
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑥⑩⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	7	④⑥⑩⑪⑫
薬学入門	10 / 15 (前期)	1.5	123	⑩
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	204	⑩
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	41	⑨
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	45	⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑨
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	104	①⑩
生化学Ⅰ	9 / 15 (後期)	1.5	100	②③⑨
総合演習ⅢA	- / 23 (前期)	1.5	2	—

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	-

特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教育活動に関しては、在宅医療概論、ホスピタリティ概論、生化学Ⅰ、Ⅲ、および実習、薬学入門、総合演習Ⅰ～Ⅲ、卒業研究、加えて大学院科目「Advanced Preventive Medicine」及び「特別研究」指導などを担当した。各教科において、学修効果が少しでも高まるように工夫・改善したつもりであるが、授業アンケートや学生の成績等を見直し、更なる工夫・改善を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 乳酸菌代謝生産物質の有用作用の生化学的解析
- ② 美肌菌のヒト皮膚に対する有用作用の生化学的解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	1	1	240万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
豆乳の乳酸菌発酵ろ液塗布による薄毛症状の改善効果(第1報) / 2019 / 皮膚と美容 51巻 / 147
頁～154頁 / 共著 / 論文

乳酸菌発酵ろ液PS-B1服用による排便および便の性状、肌質に対する影響 / 2020 / 日本食生活
学会誌 30巻 / 111頁～122頁 / 共著 / 論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
乳酸菌発酵ろ液の有効成分に関する研究	(株)バイオジェノミクス	2019/4～2020/3	240万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
教員資格審査委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
研究ブランディング事業実施委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
発明等審査委員会	委員長	委員長として発明届について審査し、適正に受理。不受理を決定した。
防火・防災委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
安全衛生委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
安全管理委員会(薬学部)	委員長	委員長として、廃棄物の処理、試薬管理等を統括した。
危機管理委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
人事委員会	委員	委員としての業務を遂行した。
利益相反マネジメント委員会	委員会	委員長として利益相反申し立てについて審査し、適正に受理。不受理を決定した。
輸出管理委員会	副委員長	副委員長として輸出管理に関するFD開催などの業務を遂行した。
グローバル推進協議会	委員	委員としての業務を遂行した。
全学教育会議	委員	委員としての業務を遂行した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

韓国スカイ語学院、セハンアカデミーにて大学・学部紹介 2019年12月21日 韓国ソウル

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域福祉計画推進委員会 第13回日本在宅薬学会学術大会運営委員	委員 委員	2014/7/31～ 2019/7/30. 2019/8/16～ 2020/7/19	佐世保市長 一般社団法人日本在宅薬学会 理事長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、在宅医療概論、ホスピタリティー概論、生化学Ⅰ、Ⅲ、および実習、薬学入門、総合演習Ⅰ～Ⅲ、卒業研究、加えて大学院科目「Advanced Preventive Medicine」及び「特別研究」指導などを担当した。各教科において、学修効果が少しでも高まるように工夫・改善したつもりであるが、授業アンケートや学生の成績等を見直し、更なる工夫・改善を行っていききたい。文部科学省戦略GP「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」プログラムは2年前に終了したが、本プログラム実践のため立ち上げた全学共通科目「在宅医療概論」は継続して開講しており、その充実を図り、一定の評価を得ることができた。今後も継続して本科目を開講することは、薬学生の将来を考えて大きな意義を持つことである。

研究に関しては、薬学部生化学研究室全員の協力を得て、「乳酸菌生産物質の生化学」及び「美肌菌の応用研究」について研究を進めることが出来、その成果を2本の学術論文として公表することができた。来年度以降、研究活動の充実と成果公表の時間を確保できる見通しなのでさらに充実させたい。

大学運営活動に関しては、運営会議及びその他の委員会等のメンバーとして任務を遂行できたと考えている。また、薬学部長として、教授会の運営、改定コアカリキュラムを踏まえた新カリキュラムの構想立案、国家試験対策、さらに、薬学教育評価機構から指摘された改善点の克服などについて検討し方向性を決定した。大学院研究科長としては、大学院教育・研究の充実を図り、本年度も英語科目を1科目新設し大学院生の英語教育の育成に資することができた。また、3名の課程博士を誕生さ

せることができた。

人事においては、実務家教員を3名採用し臨床系教員の充実を図るとともに、有機化学系教員、分子生物系教員1名を新規採用し基礎薬学系教員組織の充実を図った。

問題点としては、若干の改善は見られたものの、留年生および卒延生の数が少なくないことである。そのような状況に至る学生の教育について見直すため、薬学部改善計画策定委員会を立ち上げ具体案の提出を求め、できるところから改善策を講じてきた。その中で、新しいカリキュラムの作成を行い4次カリとして2020年度より適用することを決定した。実りのある成果を期待したい。留年生対策としてその任務を担う薬学教育支援センターの点検・評価を行い、同センターの在り方、活性化について改善の具体策を講じることが喫緊の課題であると考ええる。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 小林 秀光

1. 教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期(低学年次)から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかりと修得することは、「病原微生物・ウイルス学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における出題数としては決して多いものではないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といてもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス(特に、微生物学分野における最近の研究等)を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること(アクティブラーニング)で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師の業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーニングは、研究の最新トピックス等ではなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目(学内実習を含む)では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験(随時、定期)を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。このような論述問題により、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	②⑨
総合演習ⅢA	3 / 23 (前期)	1.5	103	①②③⑨
病原微生物・ウイルス学	8 / 15 (前期)	1.5	98	①②③⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	②③④⑤⑥⑧⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	②③④⑤⑥⑦⑪⑫
微生物・免疫学演習	8 / 15 (前期)	1	51	①②③⑨
微生物・免疫学演習	8 / 15 (前期)	1	52	①②③⑨
微生物学・免疫学実習	9 / 9 (前期)	1	99	①②③④⑤⑪⑫
衛生化学Ⅱ	8 / 15 (前期)	1.5	98	①②③
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	②⑨
微生物学	15 / 15 (後期)	1.5	88	①②③⑨⑫
生命倫理	2 / 15 (後期)	2	140	①②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

殆どが2学生及び3年生を対象とする必修専門科目であり、他の科目(臨床系科目、実務実習など)の基礎となる重要な科目である。従って、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている多くの事例について紹介した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布した。

一昨年度、授業にメリハリを持たせるためにPPの内容の充実(視覚に訴えるものを増加)を図った結果、受講学生の満足度が高くなり、ベストティーチャー賞をいただいた。しかし、昨年に引き続き今年も全ての項目で厳しい評価が下された。この要因のひとつは、昨今の社会的情勢を講義に反映させることを重視したため講義内容が増えたことであろう。よって、シラバス通りに授業が進まず、講義できなかつた項目が生じた。

来年度3年生の担当科目では、アクティブラーニングをもっと工夫し、より多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。

現2年生(平成30年度入学者)と現3年生(平成29年度入学者)は、「出席カード」への書き込み(質問や感想など)が殆どなく、授業中においても積極性が全く感じられず、手応えがないことはとても残念である。また、アンケートの自由記述欄への書き込みも少なく、その多くがネガティブコメントである。本科目再履修者は昨年と比較して減少したが(14名→9名)、「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合が依然として少ないので、この学年の平均的総合理解度が低いものと考えられる。従って、ストレート卒

業率や国家試験合格率が危機的状況に陥ることのないように、今後、現2、3年生に対する学修支援には全教員が一層努力する必要がある。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 病原性真菌の細胞壁多糖の免疫化学及び構造化学的研究
- (2) 放線菌の産生する2次代謝産物の有効利用に関する研究
- (3) 冬虫夏草(きのこ)の生理活性成分に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Specific Antiproliferative Activity against Several Human Cancer Cells Possessed by Cordyceps militaris Grown in Viable Pupa of Silkworm Raised under Sterile Environment/2019/Int. J. Curr. Microbiol. App. Sci.,/7: 988頁～997頁/共著/論文

Presence of O-glycosidically linked oligo- saccharides in the cell wall mannan of Candida krusei purified with Benanomycin A/2019/FEBS Open Bio./9: 129頁～136頁/共著/論文

Distribution of Oligomannosyl Side Chains in the Cell Wall Mannan of Pichia pastoris Purified by Benanomycin A/2019/Int. J. Curr. Microbiol. App. Sci./8: 2926頁～2935頁/共著/論文

Determination of α -1,3-Linked Mannose Residue in the Cell Wall Mannan of Candida tropicalis NBRC 1400strain/2020/Adv. Microbiol./10: 14頁～26頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

合計5編を発表予定であったが、covid-19感染拡大防止のため学会が中止となった。/2020/日本薬学会第140年会(京都)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	次年度施行の薬学4次カリキュラムと全学共通科目との調整について重点的に携わった
自己点検・評価委員会	委員	全学認証評価訪問調査会議へ学科長として出席した。
研究ブランディング事業実施委員会	委員	産学連携研究の活発化を図るための土台造りに関与した。
発明等審査委員会	委員	数件の審査を行った。
全学教育会議	委員	次年度施行の薬学4次カリキュラムにおけるヒューマニズム及びコミュニケーション教育について、他学部及び外部ステークホルダーへの理解と周知を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- (1) 6年生勉強合宿2回
- (2) 日本薬学会引率→中止
- (3) 留学生研修ツアー(学長裁量経費)→中止

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- (1) 長崎県高等学校理科教員セミナー
- (2) 九文高校大学訪問
- (3) 佐世保北中学校薬学部訪問
- (2) 就職説明会→中止

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
6	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎薬学コンソーシアム運営委員会	2019/11/28	長崎大学	長崎大学
生涯学習教育セミナー	2019/11/24	本学	薬学部生涯学習教育委員会
JBO国内本選及びバイオフェスタ	2019/8/17,18	本学	IBO実行員会
薬学教育者のためのワークショップ	2019/9/6	慶応大学共立キャンパス	日本薬学会
夏休み高校薬学体験学習	2019/8/6,7	本学及びローレライ	本学薬学部
猶興館高校夏休み理科体験学習	2019/8/20	本学	猶興館高校(平戸市)

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎薬学コンソーシアム運営委員会	委員	2017～2020	長崎薬学コンソーシアム運営委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

(1) 博多メディカル専門学校非常勤:生化学(3年生)3コマ

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
国際生物学オリンピック実行委員会	国内本選、バイオフィェスタ、国際大会の計画	2019/4～2020/7	IBO

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】授業「微生物学」において視覚に訴える授業(アクティブラーニングを含む)を展開しているが、思ったほどの効果が挙がっていない(学生満足度:4.1～4.2)。更なる工夫が必要である。

【研究活動】一昨年に熊本県内の企業「峯樹木園」と連携し、その成果を学会に公表することが出来た。また、別プロジェクトで得られた研究成果について、国内学会発表5編を公表することができた。国際的な学術誌へ原著3報を公表できた。

【学校運営】①薬学科長として最終年度となった。通常の学科長業務に加え、薬学教育第三者評価機構の指摘に対する改善とその報告書の作成に対応した。②薬学4次カリキュラムを中心的立場で策定してまとめ上げた。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 市川 和洋

1. 教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。

物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に付け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①⑨⑩
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
基礎の物理学	15 / 15 (前期)	2	29	②③⑨
薬品物理化学Ⅰ	15 / 15 (前期)	1.5	110	①④⑧⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	①②⑧⑩⑪
界面化学	15 / 15 (前期)	2	2	①④⑧⑩
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	99	①④⑧⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	①④⑤⑥⑩
生物物理化学	8 / 15 (後期)	1.5	53	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	15 / 15 (後期)	1	71	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	15 / 15 (後期)	1.5	96	①④⑧⑩
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度から開始した理科学科全科目プレイスメントテスト実施結果からわかる通り、本学部での高校時の物理未履修者割合が70%程度であり、ほぼ0点グループと70点グループに大きく二分化されています。

担当科目の授業アンケートの評価は入学時の物理成績とほぼ一致し、2年次の講義において、非常に良いとのコメントの一方で、全く分からないとのコメントもあるなど2分化していることと一致します。薬剤師国家試験の要求水準を満たすために、講義水準や速度を著しく緩めることは困難ですから、専門科目に入る前の、入学時、初年度教育の改善を図ることが教育効果の向上に結び付きます。

2020年度から実施される4次カリキュラムでは、1年次に”物理学演習”新設をお認め頂き、物理化学の能力の底上げを見込んでいます。これら物理化学系科目の全体的な改善が、教育効果や学生の理解度向上に寄与すると考えています。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
薬品物理化学I補習	2	100	2019/6/13, 2019/7/18
基礎の物理学補習	3	40	2019/5/27, 7/1, 7/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

- (1) 生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物(分子プローブ)の開発
- (2) 生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
- (3) 抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
- (4) がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	3	3	2886万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Dynamic nuclear polarization magnetic resonance imaging and the oxygen-sensitive paramagnetic agent OX63 provide a noninvasive quantitative evaluation of kidney hypoxia in diabetic mice / 2019.9/Kidney Int./96(3), 787頁～792頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
OMRI可視化範囲拡大のための多チャンネルEPR励起用コイルアレイの開発/2019/11/電子スピ
ンサイエンス学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	2018～2019	637万円
科学研究費補助金 基盤研究(B)	日本学術振興会	2018～2020	1729万円
科学研究費補助金 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	北海道大学・日本学術振興会	2018～2021	520万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会:入試募集WG	委員	入試募集に関わる計画の立案
薬学部教務委員会	委員	教務に関する実務
CBT実施委員会	委員	CBT実施に関する実務
CAI運用委員会	委員	CAI実施に関する実務

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

生物学オリンピック国内大会2019および国際大会2020の会場担当委員

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	欠席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
国際共同研究加速基金による学術交流	科研費の補助を受け国内外の拠点大学と学術交流を行う	2018-2021	北海道大学、長崎国際大学、West Virginia University

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、アンケート結果も踏まえ、全体のコマ運用で理解度アップをはかりました。主に担当する1、2年次の学生について、補習などによるフォローアップに努め、最終的には昨年度に近いレベルに到達しました。

研究面では、論文掲載、外部資金取得、国際共同研究推進もほぼ計画通り進捗しました。また、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢献に努めました。

薬学部では近隣に薬学部が新設されるため、受験者数の確保へ向けた改善実施が喫緊の課題です。入試・募集委員として、入試科目の弾力化を提案・実現することで受験者数アップを目指しました。また、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました。定着するためには一定の期間繰り返し方法を行うことが重要であり、今後とも実施していくことを希望します。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 大磯 茂

1. 教育理念

私の教育理念は、医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成することです。

よって、授業では授業外の予習・復習を重視し、また自らの実務経験に基づいた授業展開を行います。

学生には、自己研鑽する習慣をつけて欲しいと考えており、そのために、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	④
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	④
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	101	①④⑥⑦⑪⑫
医薬品安全性学	8 / 15 (前期)	1.5	107	①④
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑪
物理・生物薬剤学演習	7 / 15 (前期)	1	102	①④
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	8	④⑪
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	110	④⑤⑥⑩⑪
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	110	④⑤⑥⑪
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	204	②⑪
教養セミナーB	4 / 15 (後期)	1	2	①⑦⑧⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	④
医薬品情報論	15 / 15 (後期)	1.5	76	①②④⑨⑩⑪
生物薬剤	7 / 10 (後期)	3	110	⑪
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	110	⑪
総合実習	6 / 6 (後期)	1	110	⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期科目の医薬品安全性学は前年度と同様に授業を展開した。特に大きく変更した部分はなかったが、授業アンケートの評価は4.1と前年度よりも上昇した。配布資料の作り方について要望があったので、次年度改善したい。医薬品情報論は、前年度と同様に予習および復習型の課題を毎回課す授業を試みた。満足度は4.0と昨年度と同様の評価点であった。改善要望に対しては次年度において改善に努めたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。卒業研究の指導においても研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。大学院特別研究では、学位論文をまとめさせ、論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰの補習	1	118	2019/10/31
総合演習Ⅱの補習	1	125	2020/1/9
総合演習ⅢB	1	107	2019/10/7
特別研究	4	1	2019/4/1～2020/3/14

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究
 摂食調節ペプチドホルモンを介した肥満制御に関する研究
 モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発
 医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	1	1	1	351万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
医薬品副作用データベースを用いた薬剤性急性膵炎発症リスクの解析/2019/8/医療薬学/441
頁～450頁/共著/原著論文
Cisplatin sensitivity-enhancing effects of phytochemicals on the cisplatin-resistant human
epidermoid carcinoma KCP-4 cell line./2020/Trends in Cancer Research/57頁～ 65頁/共著
/論文
Brain-derived neurotrophic factor up-regulation by the methanol extract of foxtail millet in human
peripheral cells./in press/The Journal of Nutritional Science and Vitaminology/in press/共著
/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
末梢組織におけるBDNF産生促進作用を機序とする抗うつ食品素材の探索/2020/3/日本農芸
化学会2020年度大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	日本学術振興会	2018/4/1～2021/3/31	351万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	副委員長	大学入試募集委員会運営など
OSCE実施委員会	委員長	OSCE統括
薬学部実務実習運営委員会	委員長	実務実習運営管理
薬学部教務委員会	委員	研究室配属、オリエンテーション計画など
国試・CBT対策委員会	委員	国試対策など
CAI運用・活用委員会	委員	CAI問題内容精査など
長崎国際大学教育基盤センター学習支援部門薬学分室運営委員会	委員	分野別演習など

在宅医療・福祉コンソーシアム 長崎運営委員会	委員	在宅医療・福祉コンソーシアム長崎活動内容 策定など
---------------------------	----	------------------------------

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ(薬学部)	担当者	教養セミナーBにおける薬局および病院の早期体験学習の統括 など

(3) 課外活動の指導等

在宅医療・福祉早期体験学習の引率

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス/2019年7月、8月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎在宅医療・福祉コンソーシアム	運営委員会委員	2019/4/1～ 2020/3/31	長崎在宅医療・福祉 コンソーシアム
九州山口地区調整機構	大学実務実習担当 者	2019/4/1～ 2020/3/31	九州山口地区調整 機構
長崎県薬剤師会実務実習委員 会	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	長崎県薬剤師会
九州山口薬学会運営委員会	委員	2019/4/1～ 2020/3/31	九州山口薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度も、講義、演習および実習等、大きな問題もなく実施できた。授業アンケート等で改善要望の意見があった部分は、次年度において改善に努めたい。研究活動では、1件の学会発表と2報の原著論文を出すことができた。また、研究代表者として、科学研究費助成事業の学術研究助成基金助成金を受けることができた。業務が多忙で、なかなか研究のための時間が取りにくい現状があるが、

研究活動により力を入れ、より多くの成果を出せるよう努めたい。大学運営活動や社会活動では、大学内の8の委員会等および大学外の4つの委員会等で活動を行った。今年度は、初めて実務実習運営委員長およびOSCE実施委員長として実務実習およびOSCEの運営に関わった。多岐にわたる業務内容であったが、大過なく務めることができたと考えている。今年度の反省点を踏まえ、次年度も円滑な実務実習およびOSCEの運営に努めたい。昨年度より副委員長を務めている入試募集委員会では、入試関係業務、オープンキャンパス、高校ガイダンスなどの委員会所掌事業の運営方針等の策定および決定に関わった。教務委員会では、研究室配属決定に主に関わった。次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、大学運営等に貢献したい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 大庭 義史

1. 教育理念

薬学における分析化学分野に関する専門的知識・技能の教授を教育・研究を通して行い、高い倫理観と豊かな人間性を有し、医療薬学分野で実践的に活躍できる薬剤師を育成することを目的とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	①②③
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①④⑨⑩⑪⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑩⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
構造解析学	4 / 15 (前期)	1.5	101	①②③④
分析化学Ⅱ	13 / 15 (前期)	1.5	107	①②③④
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	123	②③
分析化学・放射線化学実習	6 / 9 (前期)	1	110	①②③④⑤⑩
分析化学演習	7 / 15 (前期)	1	111	①②③④⑨
教養セミナーB	8 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑩
日本薬局方概論	8 / 15 (後期)	1.5	107	①②③④⑨
機器分析学	3 / 15 (後期)	1.5	67	①②③④
分析化学Ⅰ	13 / 15 (後期)	1.5	95	①②③④
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	2 / 45 (通年)	12/1~4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケート結果(詳細はアクションプランシートを参照のこと)

■分析化学Ⅱ(2019年度前期2年必修)

満足度については、昨年度と比べ0.1ポイント上昇した。

自由記述欄で「授業中のスライドと配布されたレジュメの整合性が低い」というコメントが散見された。下記の「分析化学I」よりスライド資料＝配布資料としているが、これを次年度の分析化学IIについても同様に実施する。

■分析化学I(2019年度後期1年必修)

満足度については、昨年度と比べ0.3ポイント上昇した。これは

- ・講義スライドと配布プリントの書式を同一化
- ・シラバス—SBO—配布資料—教科書 の連携
- ・国家試験の過去問の配布・解説
- ・定期試験の過去問のmanaへの掲載
- ・responを利用したアンケートの実施

等による改善の効果が得られたものと考えている。

全体的な評価は昨年度を上回っていたが、一方、評価を留学生だけに限ると理解度、満足度共に全体平均から約1.0ポイント下回る結果であった。特に授業内容に興味を持てるかという問が2.8ポイントであったことについては、韓国人留学生から聞き取り調査をして対応していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I(補習)	1	101	2019/10/21
大学院 医療分子機能科学演習	2	3	2019/12/9, 2019/12/16
総合演習II	1	約100	2020/2/19
総合演習IIIB(補習)	1	約100	2019/11/12

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ASAP(大気圧固体試料プローブ)-MSによる医薬品、医薬部外品の分析法の開発
- ・重粒子線照射マウス脳中のアミノ酸分析
- ・鈴木カップリング反応に基づくボロン酸含有医薬品のHPLC分析法の開発
- ・サンゴに含まれるタンパク質の特性調査に関する研究(福岡大学理学部との共同研究)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	5	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
よくわかる薬学分析化学/共著/2019/4/25/廣川書店/230頁～256頁, 299頁～312頁, 編集
(全ページ)

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

日焼け止め中紫外線吸収剤のASAP-MS分析/2019/5/19/第79回分析化学討論会(日本分析
化学会、北九州) ○中村 沙織・岩下 美悠・岡元 美樹・高田 誠・高井 伸彦・大庭 義史

New Fluorescent Protein Alc Red of Akane family Showing Long-range Forster Resonance Energy
Transfer like photonic cycle/2019/5/19/第79回分析化学討論会(日本分析化学会、北九州)

○KATO, Yuko・YOSHIDA, Koji・OHBA, Yoshihito・NAKACHI, Shu・IMAHARA, Yukimitsu
・NAKASHIMA, Kenichiro・YAMAGUCHI, Toshio

ASAP-MS法による化粧品中紫外線吸収剤の一斉分析法の開発/2019/11/16/第36回日本薬学
会九州支部大会(日本薬学会九州支部、長崎) ○吉原 菜々美、中村 沙織、岩下 美悠、岡元 美
樹、高田 誠、高井 伸彦、大庭 義史

腹部腫瘍放射線治療時に生じる腸管障害の解明と新規防護薬の探索/2019/11/16/第36回日
本薬学会九州支部大会(日本薬学会九州支部、長崎) ○島田 真弥¹、高井 伸彦、河津 華乃、富
永 咲季、大神 正次、鶴澤 玲子、中村 沙織、大庭 義史

多色発光機能をもつ赤色蛍光タンパク質 Akane families の蛍光特性/2019/9/13/日本分析化学
会 第68年会(日本分析化学会、千葉)○加藤 祐子・吉田 亨次・大庭 義史・今原 幸光・山口
敏男

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員長	第1回(令和元年5月16日) 第2回(令和元年6月13日) 第3回(令和2年3月12日) 男女共同参画推進セミナー(令和元年7月8日)
研究費不正使用防止委員会	委員	第1回(令和元年7月2日) 第2回(令和2年2月28日)
薬学部教務委員会	委員(副委員長)	担任割り振り、研究室配属割り振り等
図書選定委員会	委員	図書館収蔵図書の選定
薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の確認など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

美術部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスへの参加(7/21、8/4,25)

夏休み薬学研究体験(8/7)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市男女共同参画審議会委員	委員、会長	2019/7/30～ 2020/8/30	佐世保市長、佐世保市人権・男女共同参画推進課
日本薬学会九州支部学術奨励賞	選考委員	2016年度～2019年度	日本薬学会九州支部
日本分析化学会九州支部	幹事	2005年度～	日本分析化学会九州支部
下村脩ジュニア科学賞選考委員会	委員(委員長)	第4回(2012)～第11回(2019)	佐世保市、佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館運営委員会	委員(副委員長)	2019～	佐世保市、佐世保市少年科学館

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面:アンケートを実施している「分析化学I」及び「分析化学II」について、前年度を上回る結果であった。しかし、評価を留学生に限ると理解度、満足度共に全体平均を下回る結果であり改善が必要と考えている。

物理系演習のスケジュール、試験等のとりまとめ等を担当しており、国家試験対策における対外模試等での担当領域の正答率は概ね全国平均以上であった。

研究面:論文1、学会発表2(第79回日本分析化学討論会(北九州)、第36回日本薬学会九州支部大会(長崎)他)以上の目標は達成している。学会発表において自身の発表が無かったため、次年度は発表できるよう研究を進めていきたい。

その他:

今年度も「夏休み薬学研究体験」、「オープンキャンパス」など、大学の入試、広報活動等へ参加・強化した。

社会活動として、今年度より男女共同参画委員会の委員長となったが、佐世保市男女共同参画審議会においても会長となった。また、佐世保市少年科学館関連では、従来の下村賞の審査(審査委員長)に加え、運営委員会(副委員長)にも関わることになった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 小川 由起子

1. 教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	3 / 45 (通年)	3	101	①⑥⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①⑥⑨
総合演習ⅢA	4 / 23 (前期)	1.5	103	①⑥⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	2	17	①⑨
病原微生物・ウイルス学	7 / 15 (前期)	1.5	98	②③⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	2	③⑥⑦⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	③⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	②④⑤⑥⑩
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	51	①④⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	52	①④⑨
微生物学・免疫学実習	9 / 9 (前期)	1	99	①②⑥⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	②③⑤⑥⑦⑩
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	100	②③④⑤⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑥⑨
微生物薬品学	15 / 15 (後期)	1.5	76	①②③⑨
薬物治療学Ⅲ	6 / 15 (後期)	1.5	104	②③⑨
公衆衛生学Ⅱ	4 / 15 (後期)	1.5	96	②③⑨
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	2	①⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	1
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

① 授業改善

授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

イ) 授業方法として、新薬などをおりませたオリジナルプリントの作成、プロジェクターの利用などを適宜考慮し行った。

ロ) 「スグキク」を取り入れ双方向授業をすることで、学生の考える力、理解力を高めるようにした。

ハ) 授業での話す速度、進行速度を調整し、理解を深めるように努力した。

ニ) 過去の実力試験問題、国家試験問題を解かせることにより、重要ポイント理解させた。

ホ) AL型講義を取り入れた。

② 教育効果

昨年度の国家試験を見ると、より臨床に近い内容が増えてきていたこと、考えて特問題が多かったことから、今年度は全てをプリントに記すのではなく、キーワード的なところのみを記したプリントに変更したところ、昨年度よりポイントが減少した。全てをプリントに書いて講義をすることは良いとは思えないので、次年度は授業の組み立て方を少しかえて、もう少し学生が主体的に学ぶ姿勢が取れるように考えていきたい。また、年々新薬が増え、さらに副作用の問題も大きいことから、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。今年度昨年度後期に引き、「スグキク」を導入し、双方向授業をすることで、受け身の授業にとどまらず、自分で考え理解するようにした。「スグキク」はゲーム感覚で問題演習ができ、リアルタイムで解答の正誤がわかるため、学生の評判も良く学生にとってはかなり効果的な教材であったと考えられる。しかしながら、年塩理解するまでに時間がかかる学生が増えてきているのも事実であり、「スグキク」をする時間も昨年より短くなった事から学生からはもっと「スグキク」を使いたかったという意見も出た。また、トピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。また昨年同様、その日の講義内容の課題をmanabaで出し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。話す速度が速いとの指摘があったため、話す速度に注意し、かつプリント、プロジェクターを適宜使用することにより、單元ごとに重要ポイントを示した。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出し、單元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティーアート 専門学校	衛生管理	90/90(通年)	3	76
福岡ビューティーアート 専門学校	美容知識 I	60/60(通年)	2	16
佐世保市医師会看護専 門学校	微生物学	30/30(前期)	1	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	101	2019/10/3
総合演習Ⅱ	1	127	2019/12/20
総合演習ⅢA	4	103	2019/4/8(2限), 2019/4/8(3限), 2019/5/14(3限), 2019/5/14(4限)
総合演習ⅢB	1	84	2019/9/30

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 国産冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索
- ② ウシガエル卵由来シアル酸結合レクチン(SBL)の生理活性
- ③ *Cordyceps militaris* の生理活性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	8	4	4	558万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

A GM1b/asialo-GM1 oligosaccharide-binding R-type lectin from purplish bifurcate mussels *Mytilisepta virgata* and its effect on MAP kinases./2019/11/FEBS J/in press/共著/論文

冬虫夏草菌シアル酸結合性レクチンを用いた糖尿病性インスリンレセプターの回復技術/2020/1/ Medical Science Digest/59頁～60頁/単著/総説

The Bacteriological Properties of *Bacillus* Strain TM-I-3 and Analysis of the Volatile Antifungal Compounds Emitted by this Bacteria./2019/Biocontrol Sci/129頁～136頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

スフィンゴ糖脂質結合性レクチンSeviLの糖鎖結合プロファイル解析/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会

イガイ科R型レクチンの発見とスフィンゴ糖脂質を介した細胞増殖の制御/2019/9/第92回日本生化学会大会

病原性酵母 *Candida parapsilosis* 類縁種 *Candida orthopsilosis* 細胞壁マンナンの化学構造について/2020/3/日本薬学会第140年会

アゾール耐性新興カンジダ症の原因酵母Candida norvegensis及びCandida inconspicua細胞壁マンナンの化学構造 —Candida kruseiマンナンとの構造類似性について— /2020/3/日本薬学会第140年会

Cordyceps militaris のメラニン生成に及ぼす影響 /2020/3/日本薬学会第140年会

無菌カイコの蛹を培地として生育したサナギタケの生理活性について /2020/3/日本薬学会第140年会

シアル酸結合性レクチンの抗微生物活性 /2020/3/日本薬学会第140年会

光触媒LED照明のフィールドにおける脱臭評価 /2020/3/第20回大気環境が会九州支部大会、第13回室内環境学会九州支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究C	文部科学省・日本学術振興会	2018～2020	442万円
サナギタケ冬虫夏草のヒト細胞への影響	アイティエス株式会社	2019/4/1～2020/3/30	81万円
子ども科学教室を通じた地域コミュニティ活性化の構築	学長裁量経費	2019年度	15万円
学生に佐世保近郊薬局・病院への就職を促し、地域の期待に応える実践活動	委託者・採択機関:学長裁量経費(教育改革)	2019年度	20万円

(4) 国内外留学等 (留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動 (委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学 学生委員会	委員	禁煙対策、学食検討委員会など
薬学部 学生委員会	委員長	フレッシュマンセミナー企画、保護者会、特待関連など
薬学部 CBT・国家試験対策委員会	副委員長	国家試験対策、国家試験ツアー企画など
全学 教育支援センター運営委員会	委員	初年次教育

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① オープンキャンパス 研究室紹介／8月3日／場所:本学
- ② オープンキャンパス／8月25日／場所:本学
- ③ 日本生物学オリンピックキックオフミーティング(長崎県内理科教員)／8月31日／場所:本学
- ④ 地域の期待に応える実践活動 地域薬剤師・学生／11月10日／場所:本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
6	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
夏のさわやかバスタイム～バスボムづくり～	2019/8/3	少年科学館	少年科学館

夏のさわやかバスタイム～バスボムづくり～	2019/10/5	少年科学館	少年科学館
夏のさわやかバスタイム～バスボムづくり～	2019/10/5	少年科学館	少年科学館
チャレンジ科学教室	2020/2/8	少年科学館	少年科学館
チャレンジ科学教室	2020/2/8	少年科学館	少年科学館
佐世保まちなか大学	2019/12/7	佐世保市中央公民館	佐世保市

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本女性科学者の会	理事	2015年度～現在に至る	日本女性科学者の会
日本女性科学者の会	中国四国九州沖縄ブロック長	2015年度～現在に至る	日本女性科学者の会
日本女性科学者の会学術誌編集委員会	編集委員長	2015年度～現在に至る	日本女性科学者の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ① 国際生物オリンピックフィールドワーク企画
- ② 国際生物オリンピック交流会企画

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、毎年夏に実施している子ども科学教室において、できるだけ多くの生徒に科学の面白さ

を知っていただきたいという考えから学長裁量経費に応募したところ採択されたため、夏から冬にかけて全5回100名近い生徒に対し、科学教室を実施できたのは大きな収穫であった。子どもたちからいろいろなことを学ばせていただいた。また、大学では、学生委員長として、学生が大学生活を楽しみながら勉強できる環境づくりに努めた。その一環として、教員と学生による懇話会を学食で開催した。多くの学生と教員の参加により、より先生との距離が近くなったと学生からはうれしい声がきこえてきた。また、国家試験対策副委員長として、国家試験対策の企画等に取り組み、全員合格を目標にサポートしてきた。

なかなか理解できない学生への少人数の補習は、教員にとって負担が大きい、学生の理解度を上げるためにはかなり有用だと考えられる。成績下位者の成績を伸ばしていけるようにできる限り協力していく所存である。授業においては、新しい授業形態で授業を進めたところ、思うような評価が得られなかったことから、来年度はその学年にあった授業形態を考えていきたいと思う。「イマキク」を使用した双方向型の授業はある程度評価されたと考えられるが、今年度はその時間も多くとれなかったことからできるだけ主体性を持たせた授業になるように考えていきたい。薬剤師国家試験は考える力を試す問題が増えてきたので、情報をしっかり集め、低学年から考える力が育つように国家試験を視野に入れた授業・実習内容にしていきたいと思う。また、研究においては、昨年度に引き続き科研費基盤Cの継続に加え、学長裁量経費、受託研究(広島)の採択ができ、多くの研究をすることができたのは幸いである。今後これらを発展させ、意欲的に取り組んでいく予定である。学生指導にかかる時間も年々増えていくと考えられることから、次年度も時間を上手に使い、研究活動を発展させていきたいと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 梶島 力

1. 教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にす社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

また、薬学は化学・物理・生物・医療と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切にし、学生の不安を少しでも軽減するためにも、

積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	3 / 45 (通年)	3	101	④
総合演習Ⅱ	3 / 23 (通年)	1.5	119	④
総合演習ⅢA	3 / 23 (前期)	1.5	103	⑪
総合演習ⅢB	3 / 30 (前期)	2	17	⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (前期)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
物理・生物薬剤学演習	8 / 15 (前期)	1	102	④⑪
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	8	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	73	④⑨⑪
薬物動態学	8 / 15 (前期)	1.5	106	④
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑤⑥⑦⑧
生物物理化学	7 / 15 (後期)	1.5	53	④⑨⑪
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	100	④⑩⑪
臨床薬物代謝学	8 / 15 (後期)	1.5	96	④
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	84	⑪
薬剤学	15 / 15 (後期)	1.5	100	④⑨
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	2	⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
レギュラトリーサイエンス特論	3 / 15 (前期)	2/1-3年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

すべての授業の満足度は4以上であり、次年度も満足度を4以上になるように努力する。

授業中に解答させる問題の解説に対する要望がコメントされていたので、次年度以降は、マナバなどを使って補完していく。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
薬剤学の補習	1	3	2019/11/28

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①核酸医薬品のDDSに関する研究
- ②エピジェネティクス関連酵素の網羅的解析法の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	390万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Simultaneous assay for protease activities of hepatitis C virus and human immunodeficiency virus based on fluorescence detection./2019/Scientific Reports/9150頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
ヒト血清中トシリズマブの迅速かつ簡便なHPLC蛍光検出法の開発/2020/3/28/日本薬学会 第140年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費(基盤研究C)	日本学術振興会	2017/4～2020/3	390万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会(学科)	委員	薬剤系の講義の取りまとめを行った。卒業研究に関する取りまとめを行った。

CBT実施委員会(学科)	委員長	CBTの実施および運営を行った。
CAI運用・活用委員会(学科)	委員長	CAIの運用を取りまとめた。
実習(学内)委員会(学科)	委員	薬剤学実習の取りまとめを行った。
教育支援センター薬学分室運営委員会(学科)	薬学分室兼任教員	物理・数学系の科目の取りまとめを行った。
図書選定委員会(学科)	委員	薬剤系図書選定の取りまとめを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
カリキュラム改善検討WG	委員	薬学部4次カリキュラムの策定に参画した。
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	本学のCBTに関する説明を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

宮崎・大分地区保護者懇談会参加/2019年10月12-13日/場所:MRTmicc(宮崎)、アートホテル大分(大分)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
2019年度 春季 長崎国際大学 公開講座「遺伝子の話 ～理想的な子供を「造りたい」ですか？～」	2019/6/22	長崎国際大学	長崎国際大学
第72回 群馬大学保健学セミナー「発蛍光反応によるウイルス識別法の開発」	2019/11/1	群馬大学	群馬大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州支部	幹事	2016年度～現在に至る	日本薬学会九州支部
日本分析化学会九州支部	幹事	2012年度～現在に至る	日本分析化学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

8月20-21日「猶興館高等学校・長崎国際大学連携事業 薬学体験実験」の実験指導

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、授業アンケートの満足度がすべての科目で4以上であり、概ね良かったのではないかと思います。今年度より担当した物理・生物薬剤学演習、薬物動態学、臨床薬物代謝学の満足度は、3科目とも4.4だったので一定の評価は得られたと思う。次年度は、本年度以上の結果が得られるように努力する。

研究に関しては、論文発表が1報だったので、次年度はさらに論文発表ができるようにする。学会発表や外部資金獲得はできているので、今後も継続できるように努める。

大学運営に関しては、担当する薬剤分野を中心に参画した。また、CBT実施委員会の委員長として、関係する教職員と協力し、特に問題なくCBT（体験受験、本試験、再試験）を実施することができた。次年度以降も、滞りなくCBTが実施できるように準備・運営を行う。

国際交流に関しては、あまり機会がなかったが、今後、依頼等があれば積極的に受けるつもりである。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 仮屋 薫 博子

1. 教育理念

薬学部において、第一義的な目標は薬剤師になるための薬剤師国家試験に合格する知識を修得させることであるが、無論、それに留まらず、患者や医療従事者からの信頼を得て医療に貢献する薬剤師となる人材を育成することである。患者や医療従事者からの信頼を得るためには、マナー等、社会人としての基本はもとより、患者や他職種とのコミュニケーションを円滑にとれること、課題を解決すべく努力すること、薬剤師になってからも学び続けること等が求められる。このため、私の教育理念は、「生涯にわたって自ら学び続け、医療に貢献する薬剤師となる人材の育成」である。

私の授業は、主に4～6年生を対象とした薬剤師の実務に関連するものである。学生が薬剤師実務の知識・技能、医療人としての態度を身につけてほしいと願い、自らの薬剤師としての経験を踏まえ、新しい医薬品や制度に関する情報を盛り込んだ授業としている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①
総合演習ⅢA	3 / 23 (前期)	1.5	103	①⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	2	17	①⑨
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	101	①④⑥⑦⑪⑫
調剤学	15 / 15 (前期)	1.5	108	①②③
卒業研究(6年)	60 / 60 (前期)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
治験コーディネイト論	15 / 15 (前期)	1.5	103	①⑥⑨⑩
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	8	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑩⑫
総合基礎学習Ⅱ	15 / 15 (通年)	0.5	99	②④⑦⑨⑩
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	110	①②④⑩⑪
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	110	①②④⑩⑪
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	204	②⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑩
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	110	①②④
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	110	①②
総合実習	6 / 6 (後期)	1	110	①⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	90 / 90 (通年)	12/1~4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

評価結果は平均4.2で前年度より0.2ポイント上昇した。3以下に評価した学生ができるだけ少なくなるような対応策を考える必要がある。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合基礎学習Ⅱ補習	9	約20	2019/4/24, 2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/12, 2019/10/9, 2019/10/16, 2019/11/13, 2019/11/27,2019/ 12/4
総合演習ⅢA	1	103	2019/5/14
総合演習ⅢB	1	84	2019/10/21
総合演習ⅢA茶道	3	103	2019/6/3, 2019/6/10, 2019/6/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 抗がん剤耐性に関する研究
- ② 活性型グレリン産生阻害を介した肥満制御に関する研究
- ③ モノクローナル抗体を利用した薬物血中濃度測定法の確立
- ④ 医薬品適正使用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	1	1	20万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Cisplatin sensitivity-enhancing effects of phytochemicals on the cisplatin-resistant human epidermoid carcinoma KCP-4 cell line./2019/Trends in Cancer Research, Vol. 14 /57頁～65頁/共著/論文
Brain-derived Neurotrophic Factor Up-regulation by the Methanol Extract of Foxtail Millet in Human Peripheral Cells./in press/Journal of Nutritional Science and Vitaminology/未定/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
末梢組織におけるBDNF産生促進作用を機序とする抗うつ食品素材の探索/2020/3/25～3/28/日本農芸化学会2020年度大会(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため誌上開催)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
モノクローナル抗体を利用した新規抗てんかん薬濃度測定法の開発	日本学術振興会科研費(基盤研究(C)) 分担	2018/4/1～2021/3/31	20万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究等倫理委員会(学科)	委員	ヒトを対象とする研究および動物実験研究の倫理的妥当性を検討した。
教務委員会(学科)	委員	3年生学年主任として、総合基礎学習Ⅱの分担、CAIを利用した補習、夏期・春期CAI課題の出題・集計、各期の定期試験に向けての注意喚起等を行った。
事前学習運営委員会	委員長	4年生の授業科目「実務実習事前学習」およびそれに続くOSCEの円滑な実施のために、実務家教員以外のサポート教員を交えた実施方法の立案、評価を行った。

OSCE実施委員会(学科)	委員	薬学科4年生が受験するOSCEの実施要領の確認、ステーション責任者として実施に向けての事前準備、会場設営、当日の運営を担当した。
実務実習運営委員会(学科)	委員	改訂コアカリキュラムに基づいた実務実習初年度にあたり、新たに作成した各種アンケート調査内容の確認、アンケート結果の集計ならびに実習中の学生対応、終了時の評価について協議した。
生涯学習・教育委員会(学科)	委員	卒業生・在学生および近隣の薬剤師を対象とした講演会の企画を検討した。
同窓会薬学部門支援委員会(学科)	委員長	平成28年度に発足した同窓会薬学部門と薬学部との連絡調整を担当した。
図書選定委員会(学科)	委員	図書館蔵の薬学生向け及び一般向け図書の選定を行った。

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3)課外活動の指導等

なし

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師研修協議	委員	2017/8～2019/7	長崎県薬剤師研修協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

論文査読(医療薬学、日本病院薬剤師会雑誌および九州薬学会会報)
学内クリーンキャンパス運動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学部生の授業アンケートにおいて平均的な評価を得た。本年度前期休学し、後期復学した大学院薬学研究科の社会人大学院生1名に対し、休学中も含めて学位(博士)論文作成を支援した結果、予備審査および公開試問を終え、2月の大学院薬学研究科教授会において「合格」と判定された。今年度修了が認定され、喜ばしく思うと同時に安堵している。しかしながら、研究室所属の5・6年生の卒業研究成果の学会発表の経験を積ませることは、学生のモチベーションの問題もあり、実現できなかった。

大学運営活動としては、今年度、全学委員会の担当はなかったが、薬学科内で事前学習運営委員会および同窓会薬学部門支援委員会委員長を務めた。その他の学科内委員会委員として相応の役割を果たした。

定年退職年度にあたり、研究面では、研究室発の論文の掲載が2報にとどまったこと、2007年度から継続してきた日本薬学会九州支部大会および年会での研究室からの発表が途絶えたことが残念でならない。

定年を無事に迎えられることに感謝している。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 岸原 健二

1. 教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①⑨
薬学英语	3 / 15 (前期)	1	53	①⑤⑩
薬学英语	3 / 15 (前期)	1	52	①⑤⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (前期)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	⑥⑦⑩
総合基礎学習Ⅰ	15 / 15 (通年)	0.5	106	②④⑦⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	51	⑧⑨

微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	52	⑧⑨
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	123	⑩
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	99	①④⑤⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	⑥⑦
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨
免疫学	15 / 15 (後期)	1.5	88	⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

●微生物・免疫学演習【Aクラス】

- ・授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 《評価Q13(2018):4.4》

本科目は2クラス編成になっており、アンケート期間の関係上、Aクラスにおいてアンケートを実施した。オムニパス科目であったが、本年度初めてアンケートを実施した。担当した。Q12(理解度)の評価は4.3であった。昨年度初めて開講された科目であるが、アンケートの実施は今年度が初めてである。アンケート結果は良好であったが、次年度の向上策として、①出席カードまたはmanabaのアンケート機能を利用した学生の質問や感想への対応、②manabaでの解説の補足の2点を検討する予定である。

- ・授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感

前年度とほぼ同じ内容で授業を実施したが、今年度の学生の方が、鵜行態度や取り組む姿勢は良いと感じた。免疫学の基礎知識だけでなく、他の科目(薬理学や疾病学など)と関連する知識も加えて演習を実施したことは、学生の興味を引き、意識も新開したのではないかと期待している。この科目は、次の新しいカリキュラムではなくなるが、CBTを含む国家試験の前段階として、免疫学の理解を深める科目として力を入れていきたい。

●教養セミナーA

- ・授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 《評価Q10: 4.6 (2017) → 4.3 (2019)》

一昨年の担当したが、満足度はやや低下した。司会は教員主導で、用意された内容をこなすので精一杯であった。学生によって授業の取り組む姿勢に違いがあったが、概ね問題なく実施できたと思う。評価からみると、「満足した」が5名と「どちらでもない」が3名ということで、評価が二分していた。後期(教養セミナーB)は、学生手主導で、全員が参加して協力し合える状況になるよう努めたい。

- ・授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感

アンケートの評価は、セミナーの雰囲気や参加学生の性格などにも大きく左右される。今年度の学生は、積極的な学生とやや消極的な学生に二分され、それが評価と連動しているように思われる。

後期は、テーマ学習となるので、全員が参加して協力し合える環境を整備し、サポートに努めたい。

●免疫学

《Q13(満足度2008～):3.5→3.6→3.9→3.6→3.6→4.0→3.7→4.2→4.2→4.1→3.9→3.8》

《Q12(理解度2011～):3.4→3.4→3.9→3.6→4.0→4.1→4.0→3.7→3.8》

・授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度と同レベルであった。今年度は不評であった講義資料を以前の形式にもとしたが、とくに評価の改善にはつながらなかった。学生のコメントから、7201講義室の後部モニターのつけ忘れが指摘された。学生は前方の座席に座らず、最後部の座席に座る傾向があり、後部モニターに依存していたようだ。指摘されてつけることもあったが、後部モニターをつけずに前方の座席に座るように強く指導すべきだったと反省している。講義資料やポートフォリオを利用した復習問題は概ね好評であった。今後、復習問題の解説をWeb上でも公開するようにしたい。とくに本年度は、本科目が難しいと訴える学生が多かったので、分かりやすくするための工夫を模索していきたい。一案として、各講義のまとめの資料を配布することを検討したい。

・授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感

ポートフォリオを利用した課題(復習問題)の提出が定着したが、自身で解答していない学生も少なからずいるようである。課題の提出やその成績が、試験結果とほぼ相関していることから、より復習を促す対策は考えていきたい。今年度も定期試験の結果からみると、二相性が明らかに出ており、授業内容を理解できている学生と理解できていない学生が例年よりも解離しているように思われる。昨年に引き続き、理解できていない学生が多いようであり、そのような学生が不満を持っていると推察される。授業レベルを落とさず、容の質や量を変えずに、学生の理解度を改善する工夫を検討する必要があると考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
5年生演習の補習	1	125	2020/2/18
6年生演習の補習	1	106	2019/6/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

若年者と比較して高齢者より株化したB細胞ではストレス・炎症性シグナル因子が活性化に依存し抗原提示に重要なHLA-DR分子の発現が低下することを明らかとした。さらに、これらの細胞において

細胞老化を規定することが知られているテロメラーゼ触媒サブユニット遺伝子発現はストレス性因子の活性化に依存して抑制されていることが明らかとなった。加齢に伴う免疫力の低下は様々なストレスの蓄積による免疫細胞の老化によると考えられ、その詳細なメカニズムについて免疫細胞におけるテロメラーゼ制御の分子基盤をはじめ若年者と高齢者における解析により得られた細胞老化関連遺伝子群における網羅的機能解析および細胞老化マーカーを用いた免疫細胞老化評価系の構築を行っている。(九州大学農学研究院との共同研究)

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究

細胞分裂に伴って細胞老化 (cellular senescence) 表現型を呈するヒト正常線維芽細胞株であるTIG-1を用いて、細胞分裂回数が異なる細胞間における分裂老化 (replicative senescence) および過酸化水素処理による酸化ストレスから惹起される早期老化 (premature senescence) での遺伝子発現の変化を転写産物RNA 5'キャップ構造を認識して網羅的シーケンスによる精度の高い遺伝子発現解析が可能となるCAGE (Cap Analysis of Gene Expression) 法によって、新しい細胞老化の指標となる発現遺伝子、特異的転写産物やプロモーターの同定を試みている。

③Notchシグナル伝達系の免疫細胞の分化と機能における役割に関する研究

Notchシグナル伝達系の免疫細胞の分化や機能における役割を調べるために、Notchシグナル伝達系に関わる機能分子のノックアウトマウスにおける免疫細胞の分化・機能を網羅的に解析している。現在、共同研究を継続中である。(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体防御医学分野との共同研究)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	図書館長	佐世保文化マンスにおいて佐世保市立図書館との共催でビブリオバトル2019 in SASEBO (11/16)を運営した。また、NIUビブリオバトル及びビブリオバトルin九州文化学園の開催など
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価委員会委員として、機関別教育認証評価への対応に努め。
危機管理委員会	委員	図書館長として構成員となり、新型コロナウイルス感染への図書館の対応に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

学内広報催事「薬学研究体験」において「抗体ってなに?生き物が作る薬を知ろう!」を実施した。

2019年8月6-7日

韓国における入試説明会の実施・参加(2020年2月14日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席

2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

【社会貢献】第8回させば文化マンスにおいて「ビブリオバトル2019 in SASEBO」(2019年11月16日(土)アルカスSASEBO)を佐世保市立図書館と長崎国際大学との共催で開催した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】に関しては、「微生物・免疫学演習」(前期)や「教養セミナーA」(前期)の学生による授業アンケートの結果は、比較的高い評価を得たが、主担当科目である「免疫学」は平均以下の評価であったので、学生のコメントを参考に改善していきたい。【研究】に関しては、今年度の学会・論文発表はなかった。教育や委員会活動だけでなく、研究にも重点を置いて、立て直していきたい。とくにスタッフが研究を活発にできるよう環境の整備にも努めたい。【社会貢献】に関しては、佐世保文化マンスにおいて佐世保市立図書館とビブリオバトルの共催し、盛会のうちに終了した。【大学運営】に関しては、(1) 図書館長として、学内で3回のビブリオバトルの大会を実施した。また、100冊読書に支援として教員による推薦図書登録を推進した。(2) 自己点検・評価委員会委員として、機関別教育認証評価への対応に努め、良い評価が得られた。授業アンケートおよびその後の面談の実施にも尽力した。(3) 薬学部入試募集委員として、オープン・キャンパスや韓国入試への対応をサポートした。(4) 2年次の学年主任として、「総合基礎学習 I」や学修指導に尽力した。オバトルの共催し、盛会のうちに終了した。

以上のように、教育、社会貢献、大学運営に関しては、一定の成果を上げることができたが、研究に関する実績を上げることができなかつたことは大きな反省点である。来年度は、研究により重点を置いていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 隈 博幸

1. 教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	②
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	②
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	②
臨床生理学演習	15 / 15 (前期)	1	65	①②⑧⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪
臨床検査学	15 / 15 (前期)	1.5	8	②④⑤⑨
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	①②④⑤⑥⑧
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	100	①②⑤⑥⑧⑨⑪
疾病学Ⅰ	12 / 15 (後期)	1.5	89	②③⑨
生命倫理	2 / 15 (後期)	2	140	②③④
地域の理解と連携	3 / 15 (後期)	2	316	②③④⑤⑦⑨⑩
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①②⑤

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートは前期臨床生理学演習(満足度4.2)、臨床検査学(同4.9)、後期疾病学Ⅰ(同4.2)という結果であり、まずまずの評価であったと思っている。特に臨床検査学については学生9名と少人

数であり、カリキュラムに沿った講義に加え、学生全員で話し合いながら疾患の特徴や理解を促す授業を心掛けたため、高評価であったと自負している。多人数だと中々そのような講義が難しいが、できるだけ少人数での授業形態に近づけていく工夫を見つけない。

また、私個人としては予習を義務付けておらずむしろ復習の重要性を授業の中で説いているが、それがQ1の低評価に繋がっていると考える。今年度までは授業プリントを講義開始時に配布していたが、事前に配布するなどの対策を立て、予習にも使用できるよう改善策を講じたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	臨床検査学	15/15(前期)	-	38

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB	1	105	2019/10/9

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
2. 赤血球膜蛋白質バンド3の構造と機能相関の解明
3. 活性化プロテインC凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	5	3	3	1400万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Reduced activity of protein S in plasma: A novel risk factor for venous thromboembolism in the Japanese population./in press/Thromb Res/-/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ヒト赤血球タンパク質Band3/陰イオン複合体構造解析による活性中心領域の解明/2019/3/日本薬学会第139年会

ペプチド基質を用いたダビガトランの血中濃度の測定法の開発／2019/3／日本薬学会第139年会
 磁気検出システムを用いた肝腫瘍マーカーAFPの定量的検出／2019/3／日本薬学会第139年会
 血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定に関する基礎的検討／2019/3／日本薬学会第139年会
 ヘパリンのプロテインS比活性測定に与える影響／2019/3／日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(S)	日本学術振興会	2016/4～2020/3	910万円
基盤研究(C)	日本学術振興会	2019/4～2022/3	390万円
委託研究費	株式会社シノテスト	2019/9～	100万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	委員会の円滑な運営・調整、駐輪場の増設、学園祭実行委員会統括、その他
利益相反マネジメント委員会	委員	研究に関する利益相反申告についての審議等
入試作問委員会	委員	本学入試の作問・採点に関する諸活動
薬学部国家試験・CBT対策委員会	委員長	薬学部6年～4年次生に対する国家試験及びCBT対策等
薬学部安全管理委員会	主任	医療廃棄物・実験廃液と処理、学部内の安全管理等
薬学部研究等倫理委員会	委員	研究倫理審査、規定・申合せ作成等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IBO2020長崎大会WG	SCIBO/Buddy担当 ワークショップ担当	JBO2019, IBO2020長崎大会の開催におけるボランティアスタッフの活動内容立案等

(3) 課外活動の指導等

学園祭実行委員会の指導・監督
 卒業パーティ実行委員会の指導・監督
 実務実習(病院・薬局)
 学生会の指導・監督

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加(2019年7月・8月)

令和元年度保護者懇談会、地方保護者会(沖縄会場、宮崎会場、大分会場)面談担当及び保護者へ薬学部リーフレット配布

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	欠席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
科学研究費委員会	委員	2016/4～	日本学術振興会
日本臨床化学会九州支部	評議員	2019/3～	日本臨床化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎国際大学薬学研究センター血栓性素因研究部門による医療臨床検査

(委託元:佐世保共済病院、株式会社シノテスト、杉ウイメンズクリニック、村上産婦人科、九大病院他)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学運営面においては、全学学生委員会副委員長として、委員会の円滑な運営に勤め、また各種イベント(大学祭、卒業パーティ、学生会活動等)に対し積極的に関与した。学部内の活動としては、昨年度に引き続き国家試験・CBT対策委員長として、6・5・4年生の演習や勉強合宿などの企画立案及び実施に尽力し、一定の効果を上げることができた。特に6年生については、学習状況の把握だけでなく、学習環境の整備やメンタルケアなど国家試験受験までの学生生活サポートを積極的に行った。

教育面では、通常の講義(2年、4年)に加え実習や卒業研究、学生の学会発表指導及び系列校の非常勤講師など、依頼された講義や実習は全てこなしてきたつもりである。授業アンケートの評価も一定水準を保っており、満足な活動を実施できたと考える。

研究面では論文1報、学会発表5件と昨年度に比べやや低調であった。科研費をはじめとして各種研究費を受託しているため、研究費用に見合った成果を出せるよう、さらに精進する所存である。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 黒川 健児

1. 教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	①④
生物学演習	7 / 15 (前期)	1	76	①②⑨⑪
生物学演習	7 / 15 (前期)	1	16	①②⑨⑪
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	53	①⑤⑩
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	52	①⑤⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合基礎学習 II	13 / 15 (通年)	0.5	99	①④⑥⑨⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
生化学 II	15 / 15 (前期)	1.5	103	①②⑨
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	41	②④⑨
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	45	②④⑨
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	104	①②④⑪⑫
細胞生物学	8 / 15 (後期)	1.5	98	①②⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

生化学IIでは隔週で計7回の小テスト、細胞生物学でも担当回について隔週で計3回の小テストを実施するなどして、学生による復習と反復学習を誘導した。授業アンケートでも勉強になったと概ね好評であった。授業の満足度は4.0を超えていた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
大学院講義:医療分子機能科学演習	2	3	2019/11/23, 2020/1/6
総合演習 I	1	113	2019/5/14
総合演習 II	1	125	2019/12/17
総合演習 IIIA	1	106	2019/7/1
総合演習 IIIB	1	106	2019/11/5
総合基礎学習 II	6	112	2019/5/8, 2019/5/15, 2019/6/12, 2019/10/23, 2019/11/13, 2019/12/4

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 細菌感染症の予防と治療に関する研究
- (2) 細菌感染に対する生体防御機構に関する研究
- (3) 微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

In Staphylococcus aureus, the particulate state of cell envelope is required for the efficient induction of host defense responses./2019/Infect. Immun./87 (12) e00674-19/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	2020年度薬学科の入試制度の改定を推進し、総合型選抜(英語資格)等を導入した。 2020年度薬学科リーフレットの作成を推進した。 福岡県薬剤師会や熊本県薬剤師会の会報向け広告を作成した。 薬学科オープンキャンパスの企画立案等、通常業務を行った。
研究センター委員会	委員	第二十巻 長崎国際大学論叢の編集及び発行。
作問委員	委員	出題委員としての通常常務に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会入試募集WG	WG長	本学薬学部の学生募集を取り巻く状況の整理と教員間の情報共有の推進 2020年度薬学科入試制度改定案の策定 2021年度薬学科入試制度改訂案の策定
薬学部国試・CBT対策委員会	CBT部会長	総合演習Ⅰの単位認定試験の運営 4年生向けの外部講師講習会の設定
薬学部CAI運用・活用委員会	副委員長	CAI強化策として国試向けの学内過去問のCAIへの入力を進めた 2年から6年生で実施するCAI実力試験の実施と成績管理を行った 成績下位者に対するCAI補習の実施、夏期・春期休暇中のCAI課題の提示と管理を、学年主任と共同で進めた
薬学部研究等倫理委員会	委員	委員としての通常常務に貢献
薬学部生涯教育委員会	委員	委員としての通常常務に貢献
薬学部安全管理委員会	委員	委員としての通常常務に貢献

(3) 課外活動の指導等

剣道サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・薬学部入試・募集委員長として、薬学科オープンキャンパスプログラムの策定と実施を担当した。
- ・2020年4月に開講する国際医療福祉大学福岡薬学部のオープンキャンパスに参加し、情報収集を行うとともに、本学のプログラムへのフィードバックにつとめた。
- ・薬学科の広報を目的とし、薬学科リーフレットの作成を主導し、また長崎県、佐賀県、宮崎県、鹿児島県、大分県の薬剤師会会員への発送を主導した。
- ・薬学科の広報を目的とし、福岡県薬剤師会並びに熊本県薬剤師会の会報に広告を作成し、掲載した。
- ・韓国SKY語学院早期入試を含む学内入試、センター試験等の試験監督、並びに面接官を担当した。
- ・九州文化学園高等学校の特進クラス1年～3年生の大学訪問に際し、模擬講義を行った。
- ・福岡市内の高等学校、中学校、小学校の校長や教頭、教員等と懇談し、意見交換を行った。
- ・大学を訪問した高校生に薬学科の説明を行った(普天間高校、長崎東高校)。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本ブドウ球菌研究会運営委員会	委員	2016年度～	日本ブドウ球菌研究会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

欧文国際学会誌の査読を3件務めた。

第64回日本ブドウ球菌研究会の世話人を務め、2019年8月30日、31日の日程にて長崎国際大学を会場に開催した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

釜山大学校薬学部・李福律教授との共同研究を遂行中である。必要に応じてビデオ会議を行っている。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・ 2019年度は教育・研究活動の傍ら、「入試・募集委員会」委員としての活動に注力した。これは

2020年4月に福岡県大川市に、国際医療福祉大学福岡薬学部(附属病院有り)が定員120名で新設されるため、本学薬学科では福岡県及び佐賀県の受験生確保が極めて困難になると予想されるためである。九州地区、並びに中四国地区としては、私立薬科への入学者が定員割れを来している現状もある。そのため薬学科の入試・募集委員長として、オープンキャンパス運営、高校訪問の指揮等の通常業務に加え、昨年度に続き薬学科リーフレットを作成し、昨年度実施した長崎、佐賀の両県に加え、大分県、宮崎県、鹿児島県の薬剤師会への配布を通じた広報活動、また入試制度改革などへの対策を積極的に立案、実施した。特に、2020年入試では総合型選抜(英語資格)の入試区分を創設し、この区分での合格者5名を獲得した。また、日本留学試験制度を利用した入試区分を創設し、この区分での合格者1名を獲得した。定員の分配の見直しも行い、薬学科の総志願者は手元の集計で561名と、昨年(2019年)の539名を上回ることができた。2021年入試に向けても、志願者増に向けて有効な手を打ちたい。

- ・「CBT部会長」として4年生試験運営を指揮し無事に終えた。「CAI運用・活用委員会」副委員長として、全15回のCAI試験を運営し、また国試対策の学内教員作成問題の問題入力や、北陸大学教員作成の画像入力問題のテキスト入力化を実施するなど、学生の基礎力養成に務めた。

- ・教育面では、概ね目標に沿って実施した。生化学IIでは7回、細胞生物学では3回の小テストを実施し、学生からは復習に有用であると好評であった。3次カリ3年生の「総合基礎学習II」の運用を学年主任の先生方と共同し滞りなく務めた。5年生の卒業研究は2名を実験研究とした。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 佐藤 博

1. 教育理念

私の学問的バックグラウンドである環境科学では、「持続可能な」という言葉が一つのキーワードとなっている。これは社会のなかにおいて、色々な考えをもつ学生がそれぞれのもっている個性を大事にして地道に目標に向かっていくことに対して、真摯に継続して係っていくことが重要と考えている。そこで、次に3つを教育理念として挙げる。

- 学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
- 個を認め、その主体性を育むことによって、ホスピリティを獲得する教育を行う。
- 心が豊かになる教育を目指して、国家試験に対して乗り越えられるように育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	5 / 45 (通年)	3	101	④⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	2	17	⑨
公衆衛生	15 / 15 (前期)	2	18	⑨⑪
環境科学	15 / 15 (前期)	1.5	99	②
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	7	⑤⑥⑪
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	123	②③⑩⑪
衛生薬学実習	6 / 8 (前期)	1	99	①②④⑤⑦⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	④⑤⑥⑪⑫
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑨
毒性学	8 / 15 (後期)	1.5	90	②
香粧品学	15 / 15 (後期)	1.5	101	②⑩
地球環境論	15 / 15 (後期)	2	127	②⑨
地域の理解と連携	5 / 15 (後期)	2	316	②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	1

Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1
------------------------------	-------------	---	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

イ)出来るだけ、新聞記事を多用して講義をすると同時に、プリントのまとめを今後も活用していく。

ロ)まとめのプリントの配布回数を増やす。

ハ)授業前に時間的に余裕を持って教室に行き、学生との会話を心がける。

ニ)時間に余裕を持って講義をゆっくりと進行させる。また、話す速度にも気をつける。

高校での理解力が不十分と思われる学生については補習を行うなどした。教育効果についてはこれからだと思うが、学生がノートをしっかりとるなど授業への積極的な姿勢が見られた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①セカンドハンドスモーク・サードハンドスモークの臭い成分に関する研究

②長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析

③微生物を用いた芽胞状態での真菌抑制及び消臭作用の検討

(有)T.Mエンタープライズ・(株)ワンダムとの共同研究)

④光触媒を利用した小型脱臭器に関する研究

(株)日本理工医学研究所の委託研究)

⑤光触媒を利用したLED照明に関する研究

(株)イナヅマ電気工事の委託研究)

⑥鉄道車両トイレタンクの新規の洗浄脱臭剤に関する研究

(株)ワールドバイオの委託研究)

⑦微生物製剤を利用した切削油腐敗臭抑制の研究

(ホテイ産業研究所の委託研究)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	9	2	2	80万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

The Bacteriological Properties of Bacillus Strain TM-I-3 and Analysis of the Volatile Antifungal Compounds Emitted by this Bacteria/2019/9/Biocontrol Science Vol.24, NO.3/129頁～136頁
/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Development of the measuring method of odor compounds in environmental tobacco smoke (ETS) and its application to environment - Qualitative analysis and sensory evaluation of the third hand smoke -/2019/10/12/2019 CJK Symposium on Analytical Chemistry

Study on deodorization of hydrogen sulfide, ammonia, methyl mercaptan and tobacco smoke by using photocatalyst/2019/10/12/2019 CJK Symposium on Analytical Chemistry

光触媒LED照明の脱臭評価/2019/12/5～12/6/2019年室内環境学会学術大会

長崎県産月桃エキスの成分含有量の季節変動に関する調査/2019/12/5～12/6/2019年室内環境学会学術大会

光触媒脱臭器の脱臭に関する研究/2019/12/5～12/6/2019年室内環境学会学術大会

セカンドハンドスモークとサードハンドスモークの臭いに関する研究/2019/12/5～12/6/2019年室内環境学会学術大会

TM-I-3株の揮発性物質の分析および非接触抗真菌作用のメカニズム解明/2019/12/5～12/6/2019年室内環境学会学術大会

TM-I-3株のAspergillus fumigatusおよびCladosporium cladosporioidesの経時的菌糸成長における阻害機構の解明/2019/12/5～12/6/2019年室内環境学会学術大会

光触媒LED照明のフィールドにおける脱臭評価/2020/3/6/令和元年度室内環境学会九州支部第13回研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
TM-N5株、TM-I 3株の基礎的研究	株式会社 onedum	2019/4～2020/3	30万円

JR新幹線汚物タンク用抗菌防臭剤における新規抗菌剤の選定	株式会社ワールドパイク	2019/4～2020/3	50万円
------------------------------	-------------	---------------	------

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学就職委員会	委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・全学就職委員会開催(月1回) ・全学教授会報告(月1回)
薬学就職委員会	委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・2020薬学部合同就職説明会(令和2年3月8日実施予定)参加事業所プロフィール集作成・配布 ・5年生対象就職ガイダンス実施(年5回) ・就職オリエンテーション実施(6年4月、5年5月)
薬学部教務委員会	委員(就職・地域連携・同窓会関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習日程の作成 ・佐世保北中学校研究所訪問(令和元年7月11日) ・高大連携授業開催(猶興館高等学校・令和元年8月20、21日) ・寄付講座(総合基礎学習Ⅱ回生薬局・令和元年6月5日実施、総合演習Ⅱ東七・令和2年2月7、12、13日実施)
薬学部改善計画策定委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・留年生の対策
薬学部安全管理委員会	委員(毒劇物・安全管理調査、安全管理教育)	<ul style="list-style-type: none"> 毒物、劇物、ガスボンベ、爆発物原料物の管理調査(年末実施)
薬学部図書選定委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> 図書の選定

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
OSCE運営委員	評価者	OSCE評価実施、令和元年12月15日、長崎国際大学

(3) 課外活動の指導等

薬学野球サークル 顧問

第61回九州地区薬学生連盟大会(5月3日、4日)第4位

令和元年度九州医歯薬リーグ準硬式公式戦(9月21日、23日、10月6日、14日)第3位

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①第6回地域の期待に応える実践活動/令和元年11月10日/長崎国際大学(実行委員長)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
8	13

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
香りデザイン東京(招待講演) 「被災地のトイレ状況及び悪臭の調査と消臭について」	2019/11/14	東京ビッグサイト	一般社団法人日本能率協会
佐世保西高校体験実験	2019/10/10	佐世保西高校	佐世保西高校校長
高大連携 猶興館高等学校体験学習	2019/8/20,21	長崎国際大薬学部	猶興館高等学校校長
奈良文化財研究所見学会	2019/4/19	奈良文化財研究所	日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

東京都健康安全研究センター見学会	2019/7/5	東京都健康安全研究センター	日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会
キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会	2019/8/6～8	麻布大学	日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会
JASISコンファレンス(GC基礎編)	2019/9/4～6	幕張メッセ	日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会
第370回ガスクロマトグラフィー研究懇談会特別講演会	2019/11/22	北とぴあ13F飛鳥ホール	日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県環境審議会	委員	2018/11/01～ 2020/10/31	長崎県知事
佐世保市上下水道事業経営検討委員会	副委員長	2019/5/15～ 2021/5/14	佐世保市水道事業
佐世保市環境政策審議会	委員	2019/6/20～ 2021/6/19	佐世保市長
佐世保市環境教育等推進協議会	副委員長	2019/7/1～ 2021/6/30	佐世保市長
令和元年度海洋技術開発研究委託事業審査会	委員	2019/7/1～ 2021/6/30	公益財団法人 長崎県産業振興財団
佐世保市環境政策審議会 一般廃棄物処理基本計画部会	副委員長	2019/6/20～ 2021/6/19	佐世保市長
日本分析化学ガスクロマトグラフィー研究懇談会	委員長	2018～現在に至る	日本分析化学ガスクロマトグラフィー研究懇談会
日本分析化学会	評議員	2019～現在に至る	日本分析化学会
日本分析化学会九州支部	幹事	2013～現在に至る	日本分析化学会九州支部
室内環境学会	評議員	2010～現在に至る	室内環境学会
室内環境学会九州支部	支部長	2006年から幹事 2007年から事務局 2012年から支部長 ～現在に至る	室内環境学会九州支部
大気環境学会九州支部	支部役員	2011～現在に至る	大気環境学会九州支部
CJK(日中韓)環境化学シンポジウム	日本側事務局長	2010～現在に至る	日本分析化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①横浜市青少年育成協会会員

- ②北九州市ボランティア協会会員
- ③障害者スポーツ指導員
- ④日本トイレ協会会員
- ⑤シックハウス対策アドバイザー (NPO法人生活環境協会)
- ⑥九州文化学園高等学校 学校薬剤師

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
2019CJKシンポジウム	学生(1名)に韓国中国の学生と研究発表を通じて研究面の交流を深めるために引率する	2019/10/11～ 2019/11/14	韓国・龍仁市 慶熙大学校 国際 キャンパス

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
2019 China -Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry	日本側事務局	2019/10/11～ 2019/10/14	韓国・龍仁市 慶熙大学校 国 際キャンパス	日中韓分析交 流会

(3) その他特記すべき活動

第2回Yun S.KIM博士講演会を学内にて開催

韓国のK-water (韓国水資源公社:日本の(独法)水資源機構に相当)のYun S.KIM博士による講演を実施した。2019年 12月12日6104教室

演題名:『Distribution of Odors Compounds in Water & Water Management, Korea』

(日本語講演)

講演者:Dr. Yun S. KIM ※Water Analysis & Research Center Principal Researcher Ph.D.

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

室内環境学会と分析化学会GC研究懇談会の九州支部事務局として学会活動に力を入れている。学内では、10年目となる第10回薬学部合同就職説明会を130施設参加で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための中止となったのは残念であった。しかし、新6年全員に作成した参加予定施設の情報集を作成して配布できたのには満足している。

また、4年生を対象として、昨年引き続き「第6回地域の期待に応える実践活動」を実施した。この

活動により、学生が地域で働くことへの魅力を認識し、しいては地元への就職率の向上へ繋がると期待している。

現在、採択された外部資金を運用して研究面を特に推進している。その成果として、これまで共同研究をしてきたイナヅマ電気工事(長崎市)製の光触媒LED型照明装置がTV (世界一の九州が始まる！NBC,RKB、令和元年10月20日放送)で紹介された。また、T.Mエンタープライズ(長崎市)と共同研究している、浴室やリビングのカビを抑制するバイオ製剤が、令和1年10月10日の朝日新聞朝刊(長崎版)と11日朝日新聞夕刊(福岡版)で紹介された。さらに、本製品が、エレナ(9月)と生協(令和2年3月)、さらには、一部のドラッグストア(令和2年3月)で販売されるようになった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 長岡 寛明

1. 教育理念

私の教育の理念は、学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく、公衆衛生学・衛生化学、環境科学、毒性・代謝学、レギュラトリーサイエンス等の視点をもって考えることができる良い医療人を育てるというものである。良い医療人とは、医学、薬学、社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し、更に、協調性に富み、幅広い視野と豊かな教養を持ち、高い人間性及び倫理観を持ち合わせ、自ら学び続けることができる人材であると考えている。

本学の卒業生のほとんどは、病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し、一般社会に接した医療現場で働き、多忙な業務をこなすことになる。学生には、将来、疾病を見るだけでなく、疾病に罹っている患者本人及びその家族、患者が生活する地域、属する組織や社会に対し、目を向けて考えること、自ら行う医療行為について評価することができるようになること、加えて、疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている。

以上のことより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、生涯にわたって、やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	⑨⑪⑫
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①④⑪⑫
公衆衛生学Ⅰ	15 / 15 (前期)	1.5	104	①⑨⑩⑫
健康薬学	15 / 15 (前期)	1.5	0	①⑧⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	123	①②⑩
衛生薬学実習	7 / 8 (前期)	1	99	①②④⑤⑦⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	⑥⑦⑩
衛生化学Ⅰ	7 / 15 (後期)	1.5	85	①③⑨
公衆衛生学Ⅱ	11 / 15 (後期)	1.5	96	①⑨
総合演習ⅢA	- / 23 (前期)	1.5	2	—

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
レギュラトリーサイエンス特論	3 / 15 (前期)	2/1-3年	3
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートは、概ね良い結果であった。

授業方法の改善として、学期はじめに資料を配付し、予習の便を図った。配付資料としては冊子タイプや綴じ込み式を行い、学生から好感触を得た。

教育効果としては、ポートフォリオの活用により、毎講義後小テストを実施し、学生の理解を深めることに努めた。また、ポートフォリオにおいて質問やコメントを求めたところ、例年よりは少なかったが、建設的な意見などが出てきて、これらに真摯に対応した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	公衆衛生学	15/15(前期)	2	79
佐世保市医師会監護専門学校	公衆衛生学	10/15(前期)	2	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ 補講	1	100	2019/5/29
総合演習ⅢB 補講	1	100	2019/11/9
総合演習Ⅱ 補講	1	110	2019/11/22

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・医療用医薬品の承認審査に関する研究.
- ・カテキン類の高速気体クロマトグラフィー蛍光検出法を用いた微量分析法の開発.
- ・茶葉抽出液中のテアニン溶出挙動に関する研究.
- ・食品中の腐敗アミンの分布と挙動に関する研究.
- ・大村湾の海洋調査に関する研究.
- ・環境汚染物質の分析及びそれらの生体への影響に関する研究.

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

2016年に承認された原薬及び製剤の安定性試験に関する調査研究/2020/2/第1回長崎県薬剤師学術大会

GABAを含有する錠剤・カプセル形状食品の崩壊性について/2020/2/第1回長崎県薬剤師学術大会

飲料中のアスパルテームの安定性に与える温度の影響について/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書館の運営に関する業務を行った。
薬学部共同機器管理運営委員会	委員	薬学にある共同機器に関し管理・運営を行った。
薬学部生涯学習・教育委員会	委員長	薬学部生涯学習・教育委員会委員長として、1回の卒後教育セミナー開催したほか、同委員会の運営に関する業務を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部自己点検・評価書作成委員会	委員	薬学津自己点検・評価書作成委員会委員として、自己点検評価書の調査・作成にあたった。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

令和元年7月 オープンキャンパス参加

令和元年11月24日 第9回長崎国際大学薬学部障害表行くセミナー 開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門委員	2018/04/01～ 2020/3/31	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事長
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	2014/10/1～ 2020/9/30	佐世保市長
日本食品化学学会	第12期評議員	2019/1/1～ 2020/12/31	日本食品化学学会 事務局長
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	2018/10/1～ 2020/9/30	佐世保市長
長崎県薬剤師会 生涯学習委員	委員	2019/7/1～現在に至る	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・本年度は、講義、実習及び演習の準備等で瞬く間に過ぎてしまった1年であった。このため、活動全

般では、他の教職員の方々の理解と協力を得て、果たすことができたと考えている。

- ・教育活動においては、自分なりに精一杯努めたつもりではあるが、まだまだ反省し、改善すべき点があると考えている。

- ・研究活動においては、今年度は登校中論文1報、学会発表1回であった。来年度は更なる研究に情熱を燃やしたい。

- ・委員会活動においては図書館委員として、図書館の蔵書の充実に寄与した。また、薬学部生涯教育委員会委員長をとして、委員の先生方に助けられて年間に1回の講演会を開催できた。来年度も講演会を開催し、本学が知の拠点となる一助としたいと考えている。

- ・本年度より長崎県薬剤師会生涯学習委員会委員としての活動を始めた。他の先生方の協力を得て行きたいと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 深澤 昌史

1. 教育理念

長崎国際大学の建学の理念は、「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切に社会の建設に貢献する教育・研究。」である。薬学部薬学科では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人(薬剤師)を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育の実践を目指している。このホスピタリティを構成する5つの能力のうち、私の担当教科で最も重視されるのは「専門力」である。特に生命科学の主流である遺伝子関連の講義では、日々進歩する研究内容から薬剤師として必要な情報を読み取り、また生涯に亘って生命に関心を抱き、学び続ける態度を養うように導きたいと考えている。また、教育支援センターの専任教員として、学生を如何に進級・卒業に向かってモチベーションを保たせるかという命題に対峙し、学修効果を得るためにホスピタリティに根ざしたきめ細やかな指導を行いたいと考えている。さらに昨年度より韓国人留学生に対する学修支援も活動に加わり、国際理解力を含めたコミュニケーション能力の向上を教育理念に加えることとする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	⑨
生物学演習	7 / 15 (前期)	1	76	①⑨⑪
生物学演習	7 / 15 (前期)	1	16	①⑨⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	1	④⑤⑥⑪⑫
生化学Ⅲ	8 / 15 (前期)	1.5	101	①②⑨⑪
分子細胞生化学演習	4 / 15 (後期)	1	41	①⑨⑪
分子細胞生化学演習	4 / 15 (後期)	1	45	①⑨⑪
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	104	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

担当教科が全てオムニバスであるため、今年度も回数が多い前期生化学Ⅲのみ授業アンケートを実施した。昨年度アンケート結果のポイントが上昇したため、同様の授業方法を踏襲したにも関わらず、理解度をはじめ評点が低下した。主因は講義内容の難しさと学生が感じているためと思われ、自由記述でも教科書自体が難しいとの感想があった。学年により全体的な学力に差があると思われ、下位学年科目である基礎の生物学や生化学Ⅰにおける学生の理解度を把握し、レベルに合った講義内容を再構築する必要がある。他の評価の高い講義の手法を積極的に取り入れ、大胆な授業改善を目指したい。但し、当該学年よりも上級生ではあるが、生化学Ⅲの主要なテーマである遺伝子領域において、外部の模擬試験等では全国平均より高い点数を取っており、教育効果としては決して低くはないと捉えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生物学	15/15(前期)	2	76

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	125	2019/11/19
総合演習ⅢA	1	106	2019/5/13
総合演習ⅢB	1	106	2019/10/29
総合演習Ⅲ(6留)	1	18	2019/4/26

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①薬学教育におけるICTの活用と評価
- ②乳酸菌代謝生産物質の有用作用に関する研究
- ③グルコース濃度依存的な肝転写因子ChREBPの活性化機構の解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

教育基盤センター薬学分室 令和元年度活動報告/2020/3/長崎国際大学教育基盤センター紀要/71頁～74頁/共著/報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学教育支援センター運営委員会	議長	教育基盤センター学修支援部門薬学分室長として、教育支援に関する取組みを立案・実施した。議長としては、運営委員会を5回開催した。
国試・CBT対策委員会	オブザーバー	国試・CBT対策委員会と共催で勉強合宿等の運営に携わった。
図書選定委員会	委員	図書館予算にて購入する図書の選定を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	薬学分室長として、委員会活動に寄与した。
入学前・初年次教育委員会	責任者	入学前教育の取りまとめ、及びリメディアル教育の立案と実施。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
SA担当責任者	メンバー	SA学生の推薦・選定などを行った。

(3) 課外活動の指導等

NIU天文会(天文同好会)顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①第1回オープンキャンパス参加/7月21日/長崎国際大学

②第2回オープンキャンパス参加/8月4日/長崎国際大学

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

韓国人留学生1年生に対する学修支援とテーマとして学長裁量経費を獲得し(30万円)、以下の活動を行った。

- ①韓国人留学生(1～3年)と担当教員の交流会(4月)
- ②大学eラーニング協議会の共通基盤システムを利用した日本語学習(6月～)
- ③レポートの日本語添削(随時)
- ④九州大学に在籍する韓国人研究者による講演会(1月)
- ⑤本学出身の福岡に勤務する韓国人薬剤師による講演会(2月)

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

〈教育活動〉

例年通り、留年生・過年度生の減少を第1の目標として活動を行った。5月までは卒業延期生を早期に卒業確定させるべく活動し、対象18名中17名を5月中の秋卒業確定に導いた。6月には昨年度より行っている留年生保護者会を開催し、多くの保護者の参加と学修支援活動への理解を得ることが出来た。留年生の数は年々減少し、過年度生の人数も今年度は初めて減少に転じたが、この傾向が次年度以降も継続すれば、全体的な支援方針は今後も継続していくつもりである。

さらに、今年度18名もの入学があった韓国人留学生への、主に日本語学習支援を中心とした取り組みを、学長裁量経費を利用して開始した。大学eラーニング協議会に加盟し、共通基盤システムの教材を利用したり、日本で活躍する留学生の先輩による講演会などを実施したが、学生への周知徹底や学生のスケジュールの把握など、コミュニケーション不足から計画通りに進まなかった点が多々あった。これらを反省点として認識し、次年度以降の取り組みにおける改善に繋げたい。

入学前教育も昨年度から責任者として対応することとなった。大学独自の添削に加えて、大学eラーニング協議会の学習コンテンツ「標準数学」を令和2年度入学者の対象学生に実施した。入学前・初年次教育責任者として、1年次基礎科目の補習等リメディアル教育にも携わるようになったが、

留年生の減少(ストレート進級率の増加)に繋がるか否かはしっかり見極めて、的確な対応をとるよう
にしたい。

担当科目授業アンケートの評価は残念ながら昨年度より低下してしまったため、思い切った改善が
必要と考えている。

〈大学運営活動〉

オープンキャンパスには、学会と重なった第3回を除き参加した。

また、昨年度夏期に行った高大連携の体験学習で実施したゾウリムシを用いた実験の情報が発信
されたためか、佐世保北高校から生物部の実験指導の依頼があったため、4回程度佐世保北高校に
出向いて指導を行った。このような活動が学生募集に繋がればと、今後も依頼があれば是非受けた
いと考えている。

教育支援センターとして主催を検討しているFDは、候補者は考えているが今年度も開催できな
かったことは反省点であり、次年度への課題である。

〈研究活動〉

今年度は論分及び学会発表が無かった事が大きい反省点である。但し大学院生1名の副指導
者として実験の指導を行っており、関連論文の執筆までは行っているため、早期の掲載を目指す。さ
らには外部資金の獲得が次年度の大きな課題であり、教育活動の合間にも研究が行えるよう、委託
を含めた方向で申請・獲得を目指したい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 藤田 英明

1. 教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。

そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味を持てるような導入を工夫している。

国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
機能形態学 I	8 / 15 (前期)	1.5	126	①②⑨
物理・数学演習	15 / 15 (前期)	1	55	①②⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
総合基礎学習 I	15 / 15 (通年)	0.5	106	②④⑥⑨⑩
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	110	①②⑥⑦⑩
物理・数学演習	15 / 15 (後期)	1	3	①②⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦
機能形態学Ⅱ	8 / 15 (後期)	1.5	106	②③⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	10 / 45 (通年)	12/1~4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

機能形態学 I

概ね良い評価であった。

人体模型を活用した。毎回の確認テストはmanabaで点数を開示し、可能な限りコメントを返した。

留学生からの評価が相対的に低い。日本語の問題があるかと思われる。

物理・数学演習(前期)

概ね良い評価であった。学生のレベルが毎年変動するので経年推移についてはあまり意味が無い。

毎回の課題の成績をmanabaでコメントと共にフィードバックした。

高校科目の復習なので、一定レベル以上の学生には退屈な講義となるが、仕方が無い。

入学生のレベルを高めて、大学の講義として満足度の高い講義ができるようにしてほしい。

物理・数学演習(後期)

前期不合格者向けの再履修科目であり、基礎学力の低い学生が多く、全員に満足させることが難しかった。

全員に満足させるためには授業内容を狭める必要があるが、その場合2年次以降の講義に対応できなくなる恐れがあり、リメディアル科目としての存在意義がなくなる。

毎回の課題については採点后コメントつきでポートフォリオを用いてフィードバックした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	125	2019/11/12
総合演習ⅢA	1	103	2019/6/10

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① リソソームへの膜タンパク質選別輸送メカニズムの解明
- ② メラニン合成酵素チロシナーゼを分解へと導く新規美白剤の作用機構解明
- ③ 生体微量金属輸送体の発現・細胞内局在・分解の分子制御機構解明
- ④ 抗HIV宿主因子の機能に関する細胞生物学的解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	1	1	30万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

GM1b/asialo-GM1 oligosaccharide-binding R-type lectin from purplish bifurcate mussels *Mytilisepta virgata* and its effect on MAP kinases / 2019/11/26 / FEBS J / doi: 10.1111/febs.15154 / 共著 / 論文

NDRG1 activates VEGF-A-induced angiogenesis through PLC γ 1/ERK signaling in mouse vascular endothelial cells. / 2020/3/6 / Commun Biol. / doi: 10.1038/s42003-020-0829-0. / 共著 / 論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

二枚貝イガイ科レクチンSeviLの細胞外分泌機構の解明 / 2019/9 / 第92回日本生化学会大会

色素細胞におけるチロシナーゼタンパク質分解機構 / 2019/11 / 第29回日本色素細胞学会年次学術大会

スフィンゴ糖脂質結合性レクチンSeviLの糖鎖結合プロファイル解析 / 2019/11 / 第36回日本薬学会九州支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
メラニン合成酵素チロシナーゼを分解へと導く新規美白剤の作用機構解明	ポーラ化成工業	2019	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	副委員長	なし
放射線障害予防委員会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①薬学部バスケットボールサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「総合的な学習時間」出前授業	2019/11/2	福岡県立修猷館高等学校	福岡県立修猷館高等学校

「総合的な学習の時間」における、「酵素・タンパク質」「反応速度」「ミカエリスメンテンの式の導き」の実験指導(学長裁量経費による)	2019/8/23	長崎県立佐世保北高校	長崎県立佐世保北高校
--	-----------	------------	------------

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本色素細胞学会	理事	2019	日本色素細胞学会
日本生物学オリンピック委員会	委員	2019	日本生物学オリンピック委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①7月12日～23日 日本生物学オリンピック委員として、国際生物学オリンピック2019ハンガリー大会に参加、学生の引率、試験問題翻訳業務ならびに国際生物学オリンピック2020長崎大会に向けての視察を行った。

②8月15日～18日 日本生物学オリンピック委員として、日本生物学オリンピック2019本選長崎大会の運営に参加、試験実施・採点業務ならびに式典実施に携わった。

③11月11日 薬学部において令和元年度長崎県高等学校理科教育研究会「生物部会」研究集会を開催(学長裁量経費)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

薬学部教務委員会では定期試験担当として、試験実施に関する活動を行った。

また、教養セミナーBの実施に携わった。

専攻長として学位審査が滞りなく進むように配慮してスケジュール調整を行った。

結果として3名の大学院生が学位審査を受け、学位を取得した。

大学院の定員充足を目指して、4月オリエンテーションでの大学院説明、薬剤師会・病院などへの募集要項の配布を行った。結果、1名の受験生を確保した。

NIU-IBO2020実行委員会において、生物学オリンピック(2020世界大会)実施に向けての活動を始めた。今後、全学的な動きを加速させて、両大会のをスムーズに実施運営できるようにしたい。

共同研究を増やして、研究活動のレベルを上げていきたい。共著論文はそれなりに出ているが、自分のテーマでの論文が増えるように努力する。研究費獲得にもトライを続ける。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 藤原 俊幸

1. 教育理念

大学における教育は、初等、中等教育とはやや目的が異なり、学問に対する面白さを伝授するのが、第一義的なものと考えている。昨今は、入学してくる学生の多様化に伴い、若干様相が異なってきているとはいうものの、やはりこの面を押し出していくのが大事なことだと思う。学生に手取り足取り教えるというより、「自分で面白さに気づく」、「自分で何故そうなるのかを考える」を促進できる学生教育をしていきたい。そのためには、いつも答えを教えるのではなく、80～90%のところまで、一旦立ち止まり、考えさせるということが肝要ではないかと考えている。自分で考えさせるということを目指し講義・実習を組み立て、社会に出てからの糧となるような教育をしていきたいと思う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	①⑨
生物学演習	8 / 15 (前期)	1	76	①②⑨⑩
生物学演習	8 / 15 (前期)	1	16	①②⑨⑩
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	45	①②⑨⑩
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	53	①⑤⑩
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	52	①⑤⑩
機能形態学 I	7 / 15 (前期)	1.5	126	②③⑨⑩
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	②④⑤⑥⑦⑩⑫
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	110	①②③⑥⑦
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	104	①②④⑪⑫
機能形態学 II	8 / 15 (後期)	1.5	106	②③⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度の授業評価は概ね良好であった。学年による違いはあるものの、人体の精巧さに興味を持ってもらうよう努力した結果と考える。さらに、1年生という学年から鑑み、国家試験に縛られず「基礎力養成」と「何故そうになっているのかを考える」ことをプッシュした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	組織・発生学	10/10(通年)	2	32
佐世保市医師会看護専 門学校	形態機能学	15/15(前期)	4	40

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	130	2020/1/7
総合演習ⅢB	1	110	2019/10/1
総合演習Ⅲ(6留)	1	18	2019/4/17
大学院「医療分子機能科学演習」	1	3	2020/1/27

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 学生の主体的学びと社会的基礎力要請への取り組み
2. 細胞内タンパク質輸送の分子機構の解析
3. 電子顕微鏡試料作製技術の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
建学の精神の徹底を図る初年次教育の実践と課題ーホスピタリティ概論の分析からー/2020/3/
長崎国際大学教育基盤センター紀要/印刷中/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	副委員長	学内ラーニングコモンズの管理・運営を行った。
薬学部入学前教育委員会	委員	入学前教育における英語課題の添削を行った。
薬学部教務委員会	委員	1年生前期教養セミナーA責任者として活動した。
薬学部入試作問委員会(生物)	委員	入学試験の生物作問を行った。3セット作成。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーAワーキンググループ	委員	1年前期教養セミナーAの企画・立案について話し合った。テキストを作成した。
ホスピタリティ概論ワーキンググループ	委員	1年前期科目「ホスピタリティ概論」の内容について話し合った。
初年次教育検討ワーキンググループ	委員	初年次教育のこれからの展望について話し合った。
長崎国際大学教育基盤センター紀要編集委員会	委員	長崎国際大学教育基盤センター紀要の論文募集・査読。編集を行った。

(3) 課外活動の指導等

薬学サッカー部顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスに参加し、高校生・保護者らと面談した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席

2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育基盤センターも3年目を迎え、軌道に乗ってきたと思われる。しかしながら、学修支援部門として大きな活動ができたかどうかは心もとない。来年度はその点を進化させていきたいと思う。

いくつかの委員会・ワーキンググループを通して大学の運営にある程度貢献できたのではないかと考えている。学生の成長を第一義的に考え、厳しくしすぎることなく、かといって迎合することもなく、一人前の社会人となる手助けをしていきたいと考えている。そのために、適度な助言を行うこと、見守ること、自主性を引き出すことが大事であると思う。学生と共に成長していきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 拓

1. 教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識(疾病学、病態生理学、病理学)、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識(生化学、生理学、解剖学など)を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。

・薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本知識を修得することができる。

以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	3	101	②③
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	②③
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	②③
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	②③
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	14 / 15 (前期)	1	7	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬物治療学Ⅱ	15 / 15 (前期)	1.5	100	①②③⑨
教養セミナーB	14 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑩
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	100	①②③④⑥⑩⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	②③
薬物治療学Ⅲ	9 / 15 (後期)	1.5	104	①②③⑨
薬物治療学Ⅰ	15 / 15 (後期)	1.5	75	①②③⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	4 / 15 (前期)	2/1-3年	1

特別研究	15 / 45 (通年)	12/1~4 年	1
------	--------------	-------------	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義は薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを担当し、薬物治療学Ⅲは小川由起子教授とのオムニバスとなっている。演習は薬物治療学のみならず薬理学も担当し、昨今の薬学教育新コアカリキュラムに準じた薬理学と薬物治療学の融合領域も視野に入れて講義を実施している。薬理学実習では本年度初めて薬剤師を題材にした漫画「アンサンングシンデレラ 病院薬剤師 葵みどり(荒井ママレ著)」を題材に、実際に一部のストーリーを読ませて、その中に登場する疾患(高血圧症、アナフィラキシー)や救急医療と薬剤(アドレナリン、βブロッカーおよびグルカゴン)に関わる内容について学生によるアクティブラーニングを実施した。

前年度までの経験ならびに授業アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介し、昨年度から始めた講義関連項目に関する動画による解説も積極的に取り入れた。この動画を用いた解説は、学生からの評判も良く、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献したと考えている。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行い、事後(自宅)学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後(自宅)学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習(予習)を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断・治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ(薬理系:分担)	1	125	2020/2/14
総合演習Ⅱ(病態・薬物治療系:分担)	1	125	2020/2/19
総合演習ⅢA(薬理系:分担)	1	106	2019/6/18
総合演習ⅢA(病態・薬物治療系:分担)	1	106	2019/6/10

総合演習ⅢB(病態・薬物治療系:分担)	1	106	2019/10/16
---------------------	---	-----	------------

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ストレス関連精神疾患に関する神経精神薬理学的研究
- ・発達障害(特に注意欠如多動性障害および自閉症)に関する神経精神薬理学的研究
- ・大麻(マリファナ)／脳内カンナビノイドの役割とその創薬への応用に関する研究
- ・依存性薬物に関する神経行動薬理学および神経化学的研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	12	1	1	403万円

・著書(書名／単著・共著・編集の別／発行年月／発行所／単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名／発表年月／掲載誌等:○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分)

Inhibition of monoacylglycerol lipase reduces the reinstatement of methamphetamine-seeking and anxiety-like behaviors in methamphetamine self-administered rats. / 2019 / Intl. J. Neuropsychopharmacol./22(2):165頁～172頁／共著／原著論文

Elevation of endocannabinoids in the brain by synthetic cannabinoid JWH-018: mechanism and effect on learning and memory. /2019/Sci. Rep./9621/共著／原著論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

“幼若期ストレスによる成長後の情動行動異常” :「発達期ストレス曝露による神経精神障害と治療戦略の考究」/2019/10/第49回日本神経精神薬理学会・第29回日本臨床精神神経薬理学会年会・第6回アジア神経精神薬理学会 合同年会 福岡

“多面的な視点で薬物依存症の動物モデルを診るーエンドカンナビノイドによる渴望、情動および認知の制御ー” :「若手研究者のための行動薬理学的研究とその苦労話/2020/3/第29回神経行動薬理若手研究者の集い 横浜

Ameliorating effects of monoacylglycerol lipase inhibitor via cannabinoid CB1 receptors on the cue-induced reinstatement of methamphetamine-seeking and anxiety-like behaviors in methamphetamine self-administered rats / 2019/10 / 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Fukuoka

合成カンナビノイドJWH-018とMDMB-CHMICAによる内因性カンナビノイドレベルの増加/2019/7

／日本法中毒学会年会第38年会 福岡

メタンフェタミン退薬後の認知機能障害発現における内因性カンナビノイドシステムの関与／
2019/10／第49回日本神経精神薬理学会・第29回日本臨床精神神経薬理学会・第6回アジア神経
精神薬理学会 合同年会 福岡

幼若期薬理的ストレス負荷による成長後の抑うつ様行動に対する選択的セロトニン再取り込み阻
害薬フルボキサミンの効果／2019/10／第49回日本神経精神薬理学会・第29回日本臨床精神神
経薬理学会・第6回アジア神経精神薬理学会 合同年会 福岡

メタンフェタミン反復投与による行動感作および退薬時に発現する感覚情報処理機能障害における
カンナビノイドCB1受容体の関与／2019/11／第36回日本薬学会九州支部大会 長崎

幼若SHRSP/Ezoが示す注意欠如・多動性障害(AD/HD)様行動に対するアドレナリン α 2A受容体作
動薬の効果／2019/11／第36回日本薬学会九州支部大会 長崎

メタンフェタミン反復投与マウスにおける退薬時のカンナビノイドCB1受容体を介した認知機能障害
／2019/11／第36回日本薬学会九州支部大会 長崎

幼若期薬理的ストレス負荷ラットが示す成長後の抑うつ様行動に対するフルボキサミン反復投与
の効果／2019/11／第36回日本薬学会九州支部大会 長崎

注意欠如・多動性障害(AD/HD)モデル動物としての雄性幼若SHRSP/Ezoにおける薬理的妥当
性:アドレナリン α 2受容体作動薬の効果／2019/11／第29回日本循環薬理学会・第55回高血圧関
連疾患モデル学会 合同学術集会 高松

モノアシルグリセロールリパーゼ阻害薬JZL184はメタンフェタミン自己投与ラットにおけるメタンフェタ
ミン探索行動を抑制する／2020/3／第93回日本薬理学会年会 横浜

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(C) 幼若期ストレスによる精神機能発達障害と養育行動の機序解明からの薬物治療戦略	日本学術振興会	2019年度～2022年度	403万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国家試験・CBT対策委員会(薬学科)	副委員長	本学における薬剤師国家試験の合格率向上のために、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。
学生委員会(薬学科)	副委員長	薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
動物室管理担当者(薬学科)	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
研究等倫理委員会(薬学科)	委員	薬学部の研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会(薬学科)	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
カリキュラム改善検討ワーキンググループ(薬学科)	メンバー	薬学部における次年度新カリキュラムを策定・提案した。
長崎IR研究会	委員	IR(カジノを含む統合型リゾート施設)が地域に与える影響について調査、検討する。
長崎薬学・看護学連合コンソーシアム運営委員会	運営委員	活動期間:2011/4～現在

(3) 課外活動の指導等

実務実習(病院・薬局)

早期体験学習引率(病院)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加(2019年8月)

令和元年度保護者懇談会(本学、薬学部保護者会プログラム)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席

2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	9

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和元年度長崎県教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育のあり方」	2019/5/26	長崎国際大学	長崎県

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
北海道大学大学院医学研究科	客員研究員	2019/04/01～現在	北海道大学大学院医学研究科
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集い世話人会	世話人・顧問	2012～現在	神経行動薬理若手研究者の集い
日本アルコール・アディクション医学会評議員会	評議員	2012～現在	日本アルコール・アディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員会	評議員	2012～現在	日本神経精神薬理学会
日本薬学会九州支部幹事	代表連絡幹事	2014～2020	日本薬学会九州支部
日本薬理学会代議員会	代議員	2016～現在	日本薬理学会
日本薬学会代議員会	代議員	2017～現在	日本薬学会
日本薬学会学術誌編集委員会	Editor (YAKUGAKU ZASSH:薬学雑誌、 Biological and Pharmaceutical Bulletin)	2019～現在	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和元年度長崎県教員免許状更新講習の講師を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際学会にて、以下のシンポジウム(4演題)の座長を行った、
6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (Fukuoka, 10/11-13, 2019)
・Neurobiology of endocannabinoid system in psychiatric disorders, Co-chair

国際学会にて、以下の一般学術講演(6演題)の座長を行った、
6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (Fukuoka, 10/11-13, 2019)
・Poster session 14, Childhood & Adolescent Disorder 2, Chair

国際学会にて、以下の学術発表を行った、
Nawata Y, Yamaguchi T., Fukumori R., Nishioku T., Yamamoto T.:
Ameliorating effects of monoacylglycerol lipase inhibitor via cannabinoid CB1 receptors on the cue-induced reinstatement of methamphetamine-seeking and anxiety-like behaviors in methamphetamine self-administered rats, 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (Fukuoka, 10/11-13, 2019)

7. 受賞等

受賞

令和 元年11月 Poster Award(合同学会会長賞)受賞
(第29回日本循環薬理学会・第55回高血圧関連疾患モデル学会 合同学会、香川)

資格取得

平成 19 年8月 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師:更新4回(登録番号08-26306 号)
令和 元年12月 (公社)日本薬理学会認定 薬理学エデュケーター

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、英文学術論文2報を分担執筆・掲載し、複数回の学会発表と学会優秀発表賞を受賞した。また、ポスター発表1名、口頭発表3名の学部学生による学会発表を指導した。今後、これまで継続している研究課題および科研費に採択された研究課題を勢力的に遂行すること、研究成果の論文執筆に注力したいと考えている。しかし、講義・演習の準備に費やす時間がやはり多かったことと研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。厚生科研課題である大麻に関する調査研究では年次報告書の作成を終えて、厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課監修の「大麻問題の現状(厚生労働省科学研究班 編)」を分担執筆し、本年に出版される予定である。学会活動として、評議員、代議員に就任している学術学会での学術発表、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。また、全学学生委員会委員、薬学部学生委員会副委員長として、本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。さらに、薬剤師国家試験対策委員会副委員長として本学の薬剤師国家試験合格率の向上のために、学生の学習環境の整備、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。また、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。本年から(公社)日本薬理学会が認定する「薬理学エドゥケーター」の資格を取得し、研究面および教育面にこの資格を活かしていきたいと考えている。社会貢献では、長崎県教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育のあり方」の講師を担当した。今後も依頼があった場合は継続する予定である。また、長崎IR研究会に参画し、IR(カジノを含む統合型リゾート施設)が地域に与える影響について調査および検討した

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 辰哉

1. 教育理念

私の教育理念は、「教えることは学ぶこと」と「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」を、教育の柱として、学生のホスピタリティの伸長を支援することである。よって、講義では、学生が主体的に諸能力を伸ばすことができる、アクティブラーニングを用いて教育を展開し、専門力の向上を図り、実習では、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成し、国家試験に合格できる力を育成したいと考える。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	①⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①⑨
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	2	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①⑨
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	101	①④⑥⑦⑪⑫
薬事関係法規	8 / 15 (前期)	1.5	109	①⑧⑨
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
薬事関係法規演習	8 / 15 (前期)	1	2	①⑧⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	110	①②④⑪
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	110	①②④⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑩
病院薬学	5 / 15 (後期)	1.5	96	①②
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	84	①⑨
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	110	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	110	①②④⑥⑦⑨
総合実習	6 / 6 (後期)	1	110	①④
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
レギュラトリーサイエンス特論	3 / 15 (前期)	2/1-3年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

評価結果は、前期4.2、今回4.3であった。赴任5年目としては合格点だと考える。今年度は、配布資料に穴埋めを導入し、学生に緊張感を持たせ、資料に教科書の該当ページを明記した。また、授業及びテーマごとにニュース等、時の話題を取り上げて、例を挙げることにより興味を持てるように工夫し、授業ごとに過去の国家試験問題を取り上げ、理解を深めるようにした。さらに、小テストを実施し、学生を指名し、回答させ、緊張感を保つ授業を展開した。今後は、全員が満足できる、より工夫した授業を心がけたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱの補習	1	125	2019/11/14
総合演習ⅢAの補習	1	106	2019/5/31
総合演習ⅢAの補習	2	107	2019/10/3, 2019/10/10

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①微生物を用いた真菌の抑制及び消臭効果に関する研究
- ②乳酸菌代謝生産物質の有用性に関する研究
- ③医薬品情報業務の系統的調査研究
- ④薬剤師業務で生じた問題を解決するための研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

長崎県産月桃エキスのCutibacterium acnes、Candida albicansおよびTrichophyton rubrumに対する抗菌活性の評価/2019/12/5/2019年室内環境学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	薬学部学生のために、フレッシュマンセミナー、保護者会、特待生及び各種奨学生の選考・推薦及び禁煙対策等を企画し、生活指導、安全管理、福利厚生等に貢献した。
OSCE実施委員会	委員	薬学部学生のために、事前学習等を企画し、全員合格に貢献した。
実務実施委員会	委員	薬学部学生のために、九州県内の病院・薬局と連携を図り、実務実習に貢献した。
CAI運用・活用委員会	委員	薬学部学生のCAI活用のために、問題作成・チェック等を実施し、CAI合格に貢献した。
図書選定委員会	委員	学生・教職員のために、図書選定に貢献した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
カリキュラム改善検討ワーキンググループ	委員	全学共通科目、薬学専門科目について、学生が幅広く科目選択できるように企画・活動した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	公務出張
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
「医療薬学」論文査読審査委員会	委員	2008年度～現在	日本医療薬学会
「臨床薬理」論文査読審査委員会	委員	2008年度～現在	日本臨床薬理学会
薬剤師国家試験問題検討委員会(法規・制度・倫理部会)	委員	2015年度～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会
第29回日本医療薬学会年会	組織委員	2019年度	第29回日本医療薬学会年会 年会長 武田泰生

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
早期体験学習	学生に医療現場を体験してもらうために引率	2019/10/16	長崎国際大学薬学部
ボランティア体験学習	学生に高齢者を対象にした、町内会活動に参加のために引率	2019/11/20	佐世保市社会福祉協議会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

赴任5年目、本年度は講義・実習・演習に対してよりわかりやすい授業を展開し、より一層学力向上に努められたと思う。OSCEも全員合格し、ほっとしている。一方、研究面では、ゼミの学生に、室内環境学会学術大会(沖縄)でポスター発表を経験させる等、研究指導を行った。また、学生委員として、学生の健康と安全に関する意識の啓発活動 や学生向けの種々の活動支援を実施できたと思います。本年度で定年退職するが、今後は、長崎大学病院から来られる、後任の室教授と助教の末廣先生と協働で病院薬剤師の視点からテーマを探すと同時に、地域の病院や調剤薬局と協力しながら研究を進めて欲しいと思います。長崎国際大学の今後の発展を祈っております。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 泰史

1. 教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場ではほかの職種の方から尊敬 (respect) は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	②
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	②
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
薬化学総論	15 / 15 (前期)	1.5	126	②⑨
創薬化学	7 / 15 (前期)	1.5	106	②
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
有機薬化学Ⅱ	15 / 15 (前期)	1.5	112	②⑨
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑩
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	104	①②④
有機薬化学演習	15 / 15 (後期)	1	123	②⑨
有機薬化学Ⅰ	15 / 15 (後期)	1.5	117	②⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
医療分子機能科学演習	2 / 15 (後期)	2/1～3年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

【総評】

- ・ 前期2科目(薬化学総論、有機薬化学Ⅱ)と後期1科目(有機薬化学Ⅰ)のアンケートを実施した。
- ・ 授業に対する満足度の評価結果は、上記すべての科目で、5点満点中、4.3点であった。
- ・ 上記結果は、平均点以上であり、学生からは、それなりの評価を得られた、と理解している。
- ・ その他の項目も、4.3-4.5位であり、おおむね良好であった。

【具体的な事例】

- ・ 授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。
- ・ 学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら(低学年の学生に有効と判明している)板書のみで授業を行った。
- ・ 90分授業の途中に、1-2分の休憩を挟んだ。(授業後半に対する集中力が増した)
- ・ 厳格に出席をとることで、欠席者を若干減らした。
- ・ MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。
- ・ 有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。
- ・ 科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。

【問題点】

- ・ アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、成績とアンケートの評点に乖離があるように思う。
- ・ 薬学部で課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。
- ・ 1年次を終わった段階で、6割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。
- ・ しかし、一方で、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。
- ・ 1年次の学習態度・習慣が、有機化学のみならず、全ての科目の理解度を決定する、と言われていた。この問題に対して、学部で取り組んでいるが、万能の解決策は見つからない。一人でも多くの学生を薬剤師へと、育てていくのみである。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学	創薬化学	1/15(後期)	2	40

長崎大学大学院医歯薬研究科	創薬プロセス特論	1/8(後期)	1	35
---------------	----------	---------	---	----

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ(補習)	6	101	2019/4/16, 2019/4/23, 2019/5/21, 2019/5/28, 2019/10/4, 2019/11/1
総合演習Ⅱ(補習)	1	125	2019/12/12
総合演習ⅢA(補習)	2	106	2019/5/17, 2019/5/24
総合演習ⅢB(補習)	2	105	2019/10/3, 2019/10/31

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ アデノシン三リン酸(ATP)をキーワードとする医薬品化学および生物有機化学
- ・ 抗感染症薬を目指す創薬研究
- ・ 抗原虫活性をもつ四環性イリドイド・オルワシンの化学とその標的タンパク質へのアプローチ

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	3	2	468万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Selective and Reversible Modification of Kinase Cysteines with Chlorofluoroacetamides. /2019/3
/Nature Chemical Biology/5(3), 250頁～258頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費 基盤研究(C)	日本学術振興会	2017年度～2020年度	468万円
研究助成金	上原生命科学財団	2019年度	0万円
研究助成	長瀬科学技術振興財団	2020年度	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	副センター長	・ IRセンター会議への参加
学生生活サポート室	室員	・ 後期の支援業務を担当
薬学部共同機器管理委員会	委員長	・ 新規NMR機種選定作業 ・ 共同機器管理費の会計管理
薬学研究科・大講座医療基盤薬学	講座責任者	・ 出講科目の日程と担当者の管理
NMR管理	管理責任者	・ 液体ヘリウム充填管理 ・ 液体窒素供給装置唐のサポート

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第104回薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会委員会	委員	・ 本学の物理・化学・生物の分野のアンケート結果を集計した。 ・ 大阪(幹事校:摂南大学)で行われた会議に本学代表として参加した。(2019/5/11)
第14回有機化学系教科検討委員会	委員	・ アンケートの集計を行い、今年度の委員長へ提出した。

(3) 課外活動の指導等

- ・ 実務実習(5年生)における事前訪問を行い、と実習を円滑に行うため、受け入れ施設情報交換を行った。

(訪問先: 2月1日さくら薬局・大牟田市、2月1日天領病院・大牟田市、1月31日今泉調剤薬局本島町店・佐世保市、

1月31日てんじん薬局・佐世保市)

- ・ 実務実習先であるてんじん薬局・佐世保市を訪問した。指導薬剤師と学生とに面談を行った。(3月28日)
- ・ 実務実習先であるさくら薬局・大牟田市を訪問した。指導薬剤師と学生とに面談を行った。(3月29日)
- ・ 実務実習先である天領病院・大牟田市訪問した。指導薬剤師と学生とに面談を行った。(7月5日)
- ・ 実務実習先である天領病院・大牟田市訪問した。3週間病気で欠席した学生の補講について話し合った。(7月26日)
- ・ 実務実習先である今泉調剤薬局・佐世保市を訪問した。指導薬剤師と学生とに面談を行った。(7月3日、23日)

- ・フレッシュマンセミナー(1年生)の引率を行った。(見学先:中富お薬博物館、味の素工場、4月13日)
- ・早期体験学習の1年生5名を長崎労災病院へ引率した。(10月16日)
- ・早期体験学習の1年生を大村の長崎県環境センター引率した。(10月23日)
- ・共用試験OSCEで評価を担当した。薬剤管理(12月15日)
- ・5年生・寄付講座(ゆうゆう薬局、東七)の引率(2020年2月7日)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・オープンキャンパスにおいて、受験志望者および保護者の対応を行った。
- ・生物学オリンピック・キックオフシンポジウムにおいて、招待講演(本学客員教授:木野 亨氏)の座長を務めた。(8月31日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
薬学共用試験センター 2019年度CBT問題管理委員会	委員	2019年度	特定非営利活動法人 薬学共用試験センター 理事長 奥 直人

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。教育には量と質の指標がある。量については単位数に単位取得者数をかけて求めた数字の和が示す。また質については、学生アンケート等の数字で

ある。量と質のどちらの視点からも一定以上の貢献ができた。1、2年生の有機化学関連科目5科目、および6年次の創薬化学等を担当した。全学生の学力をある一定レベルまで引き上げることを目標に、小テスト実施を含め努力した。また、今年度、正規授業科目である総合演習とその補習で、4年生、5年生および6年生の化学「演習」を15回担当した。本学大学院の講義を15回中2回担当した。学外の教育活動として、九大薬学部の学部講義「創薬化学」を2年生に対して1回、また、長崎大学大学院 医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。(どちらの大学から、次年度も引き続き、講義の依頼を受けた。)

薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会委員会の物理・化学・生物分野のアンケート結果をまとめ、幹事校へ提出し、その会議に本学代表として参加した。また、薬学教育協議会主催・第14回有機化学系教科担当教員会議のアンケート回答をまとめた。その他、6年制薬学における実務実習担当教員(4名)として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、10回の実習先訪問も行った。更に、5年生および6年生に対して、卒業研究の指導を行った。

IRセンター副委員長として、全学の委員会活動を支えた。本年度後期、学生生活サポート室・室員として、毎週学生支援を行った。薬学部では、引き続き、薬学部共同機器管理委員会の委員長として、学部運営にも貢献した。また、大型機NMRの管理業務に加え、次期NMR装置を選定し、導入に尽力した。大学院教育では、大講座医療基盤薬学の責任者として、貢献した。オープンキャンパスを通して、広報募集活動にも参加した。

学会および社会活動では、今年度から「薬学共用試験センター 2019年度CBT問題管理委員会」の委員を拝命した。問題の精査、編集等の業務で貢献した。

著作活動では、化学同人から出版予定の「臨床医薬品化学(仮)」(がん治療薬担当)の編集作業を引き続き行っている。

研究面では、いくつかの成果があがった。特に感染症分野において、「breakthrough」となる発見があった。今後、このproject を注意深く進める。2017度から4年間、科学研究費基盤研究C(17K08382)助成を受けている。現在、研究進展が緩やかで、努力を要する。加えて、九州大学の王子田教授らとの共同研究で、「共有結合で標的タンパク質を高選択的に機能阻害する新しい創薬」をすすめることができた。その成果の一部を一流誌Nature Chemical Biology誌に出すことができた。

九州大学や長崎大学からの非常勤講師の依頼、名のある出版社からの教科書編集者・著者や外部機関(一部上場企業の研究部門)のコンサルタントに推挙されることは、研究業績と共に学会内外での知名度がなくてはありえない。学外にそれなりの認知度があることは名誉なことである。本学薬学部を世間に認められるものにするため、今後、医薬品化学および有機化学の分野の研究結果を発表していく。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 淀 光昭

1. 教育理念

物理系・化学系・生物系の基礎的専門知識を土台にして、衛生系・医療系・臨床系の薬学専門知識の確実な修得を図り、薬剤師国家試験に合格できる力を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	④
総合演習ⅢA	3 / 23 (前期)	1.5	2	④
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	④
薬品製造学Ⅰ	15 / 15 (前期)	1.5	102	②
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	⑤⑥
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	⑤⑥
構造解析学	11 / 15 (前期)	1.5	101	②
創薬化学	8 / 15 (前期)	1.5	106	②
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	110	④
薬品製造学Ⅱ	15 / 15 (後期)	1.5	82	②
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	104	④
放射線化学	6 / 15 (後期)	1.5	115	②⑨
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	103	④
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
レギュラトリーサイエンス特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	3
特別研究	3 / 45 (通年)	12/1~4年	1
医療分子機能科学演習	2 / 15 (後期)	2/1~3年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬品製造学Ⅰ(前期):昨年度よりタブレット型PCを説明に使用するようになり、説明方法の自由度が大きくなり、学生に伝わりやすくなったと考えていたが、授業アンケートの評価結果(Q1~Q13の平均評価)は、H30年度4.02からR01年度3.82へと低下しているため、次年度は評価ポイントが向上するよ

う、授業の内容や方法を工夫したい。

薬品製造学Ⅱ(後期):授業アンケートの評価結果(Q1～Q13の平均評価)は、H30年度4.07からR01年度4.13へと向上した。昨年度導入した新しい教科書に対応した授業内容とするため講義資料の一部見直しを継続して行なった。特に、新コアカリに対応するため新たに取り入れた薬物代謝反応やプロドラッグに関しては、他の関連科目での学修内容を整理・復習できるような授業内容としたことで、学生にも理解しやすく、また満足度が高くなったと思っている。全体的に評価ポイントは前年度より向上しているが、次年度は評価ポイントを維持、更に向上できるよう、授業の内容や方法を工夫したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ(補習)	2	111	2019/10/18, 2019/11/15
総合演習Ⅱ(補習)	2	125	2019/12/4, 2019/12/5
総合演習ⅢA(補習)	7	107	2019/4/10, 2019/4/19, 2019/4/26, 2019/5/17, 2019/6/14, 2019/7/4, 2019/7/5
総合演習ⅢB(補習)	3	107	2019/10/10, 2019/10/18, 2019/11/7

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 病気の早期診断や創薬研究に役立つ放射性分子プローブの開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	薬学科の教務委員として、編入学者の修得単位読替え、薬学科カリキュラム変更に伴う審議事項の上程などを行った。
放射線障害予防委員会	委員長	委員会会議を開催(6/5, 12/11)し、放射線管理状況報告書の提出と、放射線業務従事者の被ばく状況と健康診断結果の確認を行った。
薬学教務委員会(薬学科)	委員長	薬学科時間割の編成、薬学教育評価機構からの指摘事項への対応として新カリキュラムの策定、教員の担当科目・コマ数の一覧表作成、編入学志願者の受験資格判定(単位読替え)、オープンキャンパス保護者懇談会での教育体制の説明、教務部長会への参加などを行った。
地域連携センター	アドバイザー	地域連携センター会議に出席し、アドバイザーとして同センターの運営と活動に助言を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関して、3年生科目「薬品製造学Ⅰ」は、学生の授業アンケートでは理解度の評価が3年連続して学内平均より低かった。同科目の授業内容自体を大きく変更できないが、次年度は定期試験以外の評価手段を取り入れる必要があるため、資料の構成や授業のやり方を工夫して理解度の向上を図りたい。

研究活動に関して、教員6年目であるが、教務委員長業務、講義・演習の準備、各種作問に時間を取られ、研究活動に殆ど時間が割けず、研究面での成果が出せなかった。

委員会活動に関しては、薬学教務委員長として、薬学科時間割の編成、薬学教育評価機構からの指摘事項への対応として新カリキュラムの策定、教員の担当科目・コマ数の一覧表作成、編入学志願者の受験資格判定(単位読替え)などを行い、薬学部の教務活動に貢献した。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 和田 守正

1. 教育理念

先ず第一に「自ら学ぼうとする意欲を向上させること」を目標とする。

次に、「予測不可能な困難に直面した際に、問題点を発見し、解決できる能力を身に着けること」を目標とする。

そのような姿勢、能力の醸成は、医療分野で活躍できる質の高い薬剤師を養成するために必須であるし、国家試験を突破する学力を身につけることにもつながる。

この2本を柱としてさらに、あるいは並行して、ディプロマ・ポリシーに掲げている5つの資質、すなわち、1) 専門的な知識、科学的能力としての専門力、2) 有用な科学的データを収集し、論理的に考察できる情報収集、分析力、3) および4) 医療チームや患者との関係性において発揮されるコミュニケーション力、および協働・課題解決力、5) 健常人から患者に至る様々な状況や、患者の背景を形作る要素を把握できる多様性理解力、を育成することを目指す。

自ら学ぼうとする意欲や、予測不可能な困難を乗り越える力を育むためには、画一的な方向性や方法論を排することが肝要と思われる。教員から学生への一方向的な教育ではなく、両者の相互作用から、学生一人一人がきっかけをつかむ事が重要である。すなわち、学生ごとに異なる学びを達成できることが自然であり、理想である。その意味で、到達目標を過度に掲げる昨今の方向性は、決められたことを無難にこなすステレオタイプ型の人間を量産し、予測不可能な状況に対処できる応用力を醸成できないと危惧する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①⑨⑩
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①⑨
分子生物学	7 / 15 (前期)	1.5	100	①⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ゲノム創薬学	7 / 15 (前期)	1.5	105	②④⑨
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	123	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	99	①④⑤⑩

基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	71	②④⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑦⑩
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	41	②④⑨
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	45	②④⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨
生命倫理	3 / 15 (後期)	2	140	⑤⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1～4 年	-
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1～4 年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教育に関して、アドバンス科目のゲノム創薬で理想的なフィードバックが実現できた。具体的には、昨年度に毎回の確認試験と、定期試験の範囲改善、という大きな変革をしたことに加え、授業アンケートで「内容が理解できたか」と「満足したか」の評価の低さが足を引っ張っていることが見て取れたので、本年度は、採点と解答例の開示によるフィードバックを毎週こまめに行ったところ、評価の圧倒的上昇につながった。アドバンス科目で全教員の平均値を上回る結果(満足度4.5)を出せたことは特筆すべきであると思うとともに、授業内容そのものを改善するだけでは不足であり、こまめな確認試験とフィードバックが相まって満足度に繋がるということを実感した。

自由記述もポジティブなものばかりであったが、特に下記のコメントはうれしいものであった。

- ・他のアドバンス科目と違って、国試の内容に捕らわれ過ぎず、ほどほどにアドバンスな内容に触れることができ、知的好奇心をくすぐられた。薬学部らしい講義である。
- ・内容は難しく、到底90分で完結するとは思わないが、プリントや説明が分かりやすいので、表面的には理解できていると思う(2名)。
- ・興味深い内容ばかりで、毎回の授業が楽しかった。

その一方で、授業アンケートを批判のツールとのみ考えている学年、あるいは学生がおり、あらゆるコメントの多い学年が有るのも事実である。具体的には、3年後期の分子細胞生化学演習であり、ランダムな2クラス制なので、授業の進め方等、全く同じはずにもかかわらず、授業評価がクラス間で異なった。従って、構成学生の質と性格の偏りによる結果であることは明白である。

例えば自由記述で、Aクラスでは「授業プリントはとても分かりやすかった」に対して、Bクラスでは「プリントが分かりづらい」、「スライドの切り替えが早くて写せない時があった」などである。また、「講義内容が、教科書に書いていないことが多く、問題に対応できないので別の参考書調べることが多々あった。」とのコメントを見て愕然とした。教科書に記載済みのことのみしか講義してはいけないと受け取

れるコメントと理解できるが、そうならば教科書で自学すれば良いことになる。まさか薬学の理想的な教育が、国家試験の過去問に関する演習型授業であるとは、ゆめゆめ考えてはいまいな、と感じてしまうコメントであった。このようなコメントは、教員のモチベーションを下げ、そのことが学生に伝わり、負の連鎖を引き起こすこともありうることを学生に伝えるべきと感じている。授業は教員と学生の連携で作ってゆくものであること、授業アンケートは結果として学生のためのツールであるべきこと、の当たり前な2点を教職員と学生の全員が再確認しないと、本末転倒のシステムになってしまうと危惧している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I	1	118	2019/5/31
総合演習II	1	125	2019/12/12
総合演習IIIA	2	110	2019/4/19, 2019/6/4
総合演習IIIB	1	110	2019/10/31

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- テーマ1. 膜輸送タンパク質の構造、作動機構、生理機能と疾病
- テーマ2. 薬剤応答性と疾患感受性の予測による個の医療と予防
- テーマ3. がんの発生機構

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	4	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
HASPIN kinase inhibitor CHR-6494 suppresses intestinal polyp development, cachexia, and hypogonadism in Apcmin/+ mice/2019/10/23/European Journal of Cancer Prevention/1頁～5頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ムチン様タンパク質の腫瘍形成における役割/2019/6/13/第23回日本がん分子標的治療学会
学術集会(大阪)

ムチンタンパク質Muc11は腸管腫瘍形成を促進する/2020/3/26/第140回日本薬学会(京都)

がんの増大化、増悪化に関与する遺伝子群のヒト腫瘍における発現/2020/3/26/第140回日本薬
学会(京都)

アポリポタンパク質ApoC3は細胞増殖を制御する/2020/3/26/第140回日本薬学会(京都)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	国際交流に関する討議、日本語弁論大会評価等
薬学部・研究等倫理委員会	委員長	審査の厳密性と迅速性の向上、文書による改変要望に加え、口頭による直接説明により事務処理を効率化した
薬学部図書選定委員会	委員	図書の選定および図書館利用の啓発
薬学研究センター運営委員会	委員	客員教授、特別研究生、訪問研究員の受け入れ審議及び決定
FD委員会	委員長	授業公開の実施、新任教員研究発表会の開催等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
NIU-IBO2020実行委員会	委員	実験準備調整、行政や教育委員会との調整、JBO(日本生物学オリンピック委員会)との意見調整、地元高校との連携

(3) 課外活動の指導等

第140回日本薬学会、学会発表に向けての指導

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
治験審査委員会・論理委員会・利益相反委員会・動物実験委員会	外部委員	2018/4/1～ 2020/3/31	長崎川棚医療センター
日本分子標的学会評議員会	評議員	2012年度～現在に至る	日本分子標的学会
日本生化学会評議員会	評議員	2008年度～現在に至る	日本生化学会
日本生化学会九州支部会評議員会	評議員	1991年度～現在に至る	日本生化学会九州支部会

日本生物学オリンピック(JBO)	運営委員	2017/4/1～ 2021/3/31	国際生物学オリンピック日本委員会
------------------	------	------------------------	------------------

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

クリーンキャンパス運動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関して、アドバンス科目のゲノム創薬で理想的なフィードバックが実現できた。具体的には、昨年度に毎回の確認試験と、定期試験の範囲改善、という大きな変革をしたことに加え、授業アンケートで「内容が理解できたか」と「満足したか」の評価の低さが足を引っ張っていることが見て取れたので、本年度は、採点と解答例の開示によるフィードバックを毎週こまめに行ったところ、評価の圧倒的上昇につながった。アドバンス科目で全教員の平均値を上回る結果を出せたことは特筆すべきであると思うとともに、授業内容そのものを改善するだけでは不足であり、こまめな確認試験とフィードバックが相まって満足度に繋がるということを実感した。

その一方で、授業アンケートを批判のツールとのみ考えている学年が有り、あら捜しのコメントの多い学年が有るのも事実である。この場合、教員のモチベーションを下げ、そのことが学生に伝わり、負の連鎖を引き起こすこともありうることを学生に伝えるべきと感じている。あくまでも、学生のためのツールであるべきだからである。

一方、研究に割ける時間がますます減る状況で、如何に能率的に成果を出してゆくか、いかに長期的視野に立った独自性の高い研究を志向するか、が大きな問題となっている点も従前と変わらない。

大学運営活動については、薬学部倫理委員会委員長等を務め、厳密且つ能率的な審査等を目指

している。特に、従来は所掌事務からの文書による改変要望で問題なく解決できていたが、最近は趣旨が伝わらない事例が増加しているので、今年度は、従来の文書による方法に加え、口頭による直接説明により事務処理を効率化し、実績を上げた。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 一木 裕子

1. 教育理念

近年の医療の高度化・複雑化に伴い、薬剤師に求められる職能は多様化してきている。実際の医療現場で通用する実践力や専門性のみならず豊かな人間性や倫理観が必要とされ、次世代を担う人材の教育もまた、薬剤師の重要な責務である。薬学生が薬剤師の社会的使命を十分に理解しながら患者を中心とした視点で学習するために教員のサポートは重要であり、そのために私は、自身の臨床薬剤師としての様々な経験を広く伝えたいと考えている。

私は、調剤薬局および病院薬剤部に勤務してきた経験もあり、九州大学大学院 薬学研究科にて臨床薬学博士を取得した。特に病院で働いている時は、薬局長として麻薬管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理委員、院内感染対策委員、DI室長、薬事委員会副委員長、NST委員会アシスタントディレクター、糖尿病対策委員会委員などの役職を歴任した。社会に求められる薬剤師の現状、理想の薬剤師像を学生が考えるうえで現場の話に触れる機会は重要であるにも関わらず、学生は未だイメージするのが難しい状況にある。そこで私は、自身の経験をイメージしやすいような易しい言葉で積極的に伝えるよう心がけている。学生からは「糖尿病療養指導士とは具体的にどのような仕事か」「がん専門薬剤師になるにはどうしたら良いか」といった将来を意識した相談が増え、学習に対する積極性の向上のみならず、薬剤師という職業へ自信や誇りをもつ学生の増加へと繋がった。また、実務事前学習の指導においては、自身の経験談を伝えることで、様々な視点を持って自分で考え解決する能力を身につけるよう指導を行っている。患者にとって本当に必要なのはベストな解決策を提示することだけではなく、患者の抱く不安に寄り添い一緒に考えていくことであると学生に伝えている。これからを担う薬学生には、患者が本当に求めているものは何かを気づき考える力があり、それぞれの個性を発揮した人間性豊かな薬剤師になってほしいと思う。

また、薬学の更なる向上を目指すべく、指導・教育と共に、研究にも意欲的に取り組みたいと考えている。社会人博士課程として九州大学に在学中は、“病院薬剤師の職能”に注目した研究に取り組んだ。薬剤師の存在感を積極的に発信していくことは重要であると考え、まずは“医療費削減への取り組み”に着目し、薬剤師の積極的な介入によって後発医薬品の採用促進および医薬品の在庫金額削減の研究を行いとなり、病院経営へ大きく貢献できたことを報告した。次に、患者にとって従来待ち時間であった診察までの時間を利用し、病院薬剤師が糖尿病患者に服薬指導を行い医師の診察前に情報をフィードバックすることで、医師との信頼関係の構築できた。また、看護師や栄養士などのコメディカルスタッフとのチーム医療の大切さ、患者の意見をしっかり理解することによる新たな問題点の発見、およびアドヒアランス改善に繋がることを明らかにした。これらは薬剤師が主導して取り組んだ研究であるが、学生と共に研究を進め、1) 薬剤師の使命として“研究能力を身につける”こと 2) 医療に貢献しうる有益な情報を“発信する能力を身につける”ことを目指すものである。

これからも、薬剤師が医師と協力し合い薬学的管理していくことに着目した研究を薬学生や若手薬剤師と一緒に研究を進めていきたい。そのためには多くの経験とコミュニケーション能力が問われる

ことになるため、これからも薬学生や若手薬剤師の育成に熱意をもって先導的な役割を果たして行きたいと考えており、『「自分で考える力」、「他者と対話する力」を磨き心もケアできる人間性豊かな薬剤師を育てます。』という本学のスローガンに基づき、今まで自身が経験してきた臨床薬剤師としての様々な経験を若い世代に伝えることを自身の教育理念とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①⑨⑩
総合演習ⅢA	3 / 23 (前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	3 / 30 (前期)	2	17	①⑨
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	101	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
医薬品安全性学	8 / 15 (前期)	1.5	107	①
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	②③④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑪⑫
総合基礎学習Ⅰ	2 / 15 (通年)	0.5	106	②④⑥⑨⑩
総合基礎学習Ⅱ	4 / 15 (通年)	0.5	99	①④⑥⑨⑪⑫
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	110	①②④⑪
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	110	①②④⑪⑫
病院薬学	5 / 15 (後期)	1.5	96	①②③④⑤⑥
臨床薬物代謝学	8 / 15 (後期)	1.5	96	①⑧⑨
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	110	①②④⑥⑦⑨⑩
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	110	①②④⑥⑦
総合実習	6 / 6 (後期)	1	110	①④⑩⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今期、授業アンケート学生満足度良好な結果であり、今後もアクティブラーニングを授業に取り入れ教育に役立てて行きたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマ

- (1) 糖尿病外来における病院薬剤師による服薬指導の血糖コントロールに関する研究
- (2) 外来化学療法におけるがん専門薬剤師の重要性の検討に関する研究
- (3) アミロイドーシスの病態解析と治療に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	1	1	40万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Insight into Acid-Mediated Asymmetric Spirocyclization in the Presence of a Chiral Diol.
/平成12年

7月/日本薬学会/5/共著/論文

採用医薬品の削減と後発医薬品の採用促進の取り組みとその評価

～削除薬アンケートと薬剤師主導による1増2減システムについて～/平成26年10月/日本病院薬剤師会雑誌/4/共著/論文

Effect of patient education for diabetic outpatients by a hospital pharmacist: a retrospective study.
/平成28年12月/YAKUGAKU ZASSHI/18/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

外来糖尿病患者の血糖コントロールに影響を与える要因ならびに病院薬剤師による薬学的管理の効果に関する研究/2015/8/第26回霧島神経薬理フォーラム

糖尿病外来において病院薬剤師が行う薬学的管理の効果／2015/11／第25回日本医療薬学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費チャレンジ	長崎国際大学	2019/6～2020/3	40万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
実務実習委員会	実務実習委員会副委員長	実務実習委員会副委員長として地域薬剤師会などで実務実習について説明を行った。
OSCE委員会	OSCE委員会副委員長	OSCE委員会副委員長として地域薬剤師会などで実務実習について説明を行った。
事前学習運営委員会	事前学習運営委員会委員	事前学習運営委員会委員として地域薬剤師会などで実務実習について説明を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①書道パフォーマンス同好会 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

独立行政法人国立病院機構長崎医療センターと「教育、研究における連携・協力」について締結に貢献した。

『令和元年6月14日(金)、独立行政法人国立病院機構長崎医療センターと本学は、「教育、研究における連携・協力」についての締結式を同センターにて行いました。本学からは中島学長をはじめ、榊原薬学部長、一木薬学部准教授、及び事務局の5名が、同センターからは江崎院長、八橋副院長、吉田統括診療部長、藤野事務部長、原田看護部長、橋本薬剤部長が参加し、「教育、研究における連携・協力」の協定を締結しました。』

上記内容が長崎国際大学HPに掲載された。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
医療人向けトランスサイレチンアミロイドーシス啓発セミナー 植物を用いたアミロイドーシスのアミロイド形成機構の解析	2019/12/21	長崎国際大学	熊本大学生命科学研究部・長崎国際大学合同

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
北九州糖尿病療養指導の会	役員(監事)	2020/3現在	北九州糖尿病療養指導の会

(3)社会貢献・ボランティア活動等

北九州市立門司病院にて、病院主催の一般市民公開講座にて糖尿病、高血圧症、高脂血症、骨粗鬆症、肺炎、結核、インフルエンザ、ノロウイルス感染症などについて講義を行った。

福岡県・佐賀県糖尿病療養指導士として、糖尿病の早期発見のための「市民糖尿病教室」「北九州ウォークラリー大会」「北九州ヤングDMの会・1型糖尿病の会」「糖尿病及び合併症予防のための講演会」「糖尿病の薬相談コーナー」を年間行事として行った。

(役員・理事等)

北九州地区勤務薬剤師会(洞薬会)中小病院委員を2期就任。

北九州地区薬剤師会(洞薬会)理事就任を1期就任。

福岡県糖尿病療養指導士会(北九州地区) 役員(監事)就任。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Amyloidosis Research Seminar	医療人向け トランスサイレチン アミロイドーシス 啓発セミナー	2019/12/21	長崎国際大学	熊本大学生命 科学研究部・長 崎国際大学合 同

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

令和元年 科研費チャレンジ受賞(学長裁量経費)

8. 活動全般についての自己点検・評価

(1) 所属委員会

(1) (OSCE委員会/副委員長/薬学)

(2) (実務実習委員会/副委員長/薬学)

(3) (事前学習運営委員会/委員/薬学)

上記委員会にて実務家教員として積極的に活動することができた。

特記すべき教育及び研究活動(受賞等)

(1) 独立行政法人国立病院機構長崎医療センターと「教育、研究における連携・協力」について締結に貢献した。

『令和元年6月14日(金)、独立行政法人国立病院機構長崎医療センターと本学は、「教育、研究に

における連携・協力」についての締結式を同センターにて行いました。本学からは中島学長をはじめ、榊原薬学部長、一木薬学部准教授、及び事務局の5名が、同センターからは江崎院長、八橋副院長、吉田統括診療部長、藤野事務部長、原田看護部長、橋本薬剤部長が参加し、「教育、研究における連携・協力」の協定を締結しました。』

上記内容が長崎国際大学HPに掲載された。

現在、長崎医療センター薬剤部と

「外来化学療法におけるがん専門薬剤師の重要性の検討に関する研究」

上記内容にて実務家教員として共同研究を行なっている。

(2) 平成30年 第9回薬学研究発表／長崎国際大学薬学部FD委員会主催

(3) 平成31年1月 第61回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ全課程修了

(4) 令和元年6月 科研費チャレンジ受賞

今後も大学のために積極的に研究を続けていく様に努力する。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 宇都 拓洋

1. 教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。

薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。

地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。

異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	④⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
生薬学Ⅰ	15 / 15 (前期)	1.5	98	①②⑨
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
和漢薬概論	15 / 15 (前期)	1.5	103	①②⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑨
生薬学実習	8 / 8 (後期)	1	105	①②③④⑨
生薬学Ⅱ	13 / 15 (後期)	1.5	90	①②⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	4 / 15 (前期)	2/1-3年	1
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを行ったすべての科目およびすべての質問項目において、学内平均を上回るポイントであった。このことから、概ね授業満足度は高かったと考えている。

生薬学Ⅰおよび生薬学Ⅱでは、毎回講義開始時に前回の講義の復習を行った、生薬学Ⅰでは生

薬の写真や実物をみること、各生薬に関する豆知識、裏話、生薬学Ⅱでは各成分の構造式を常に意識した講義、和漢薬概論では生薬学ⅠとⅡの講義内容を振り返りながらアドバンス的な講義になるように意識した。また昨年と同様、すべての講義において、15回の講義の中で確認テストもしくは小テストを実施した。小テストは評価の対象とはせず、自主的な努力を促すようにし、高得点者の氏名を公開するようにした。

総合演習に関しては、国家試験やCBTですぐに得点できるように、過去の国家試験、模擬試験の過去問を中心に講義した。また過去の国家試験を徹底分析して、どの生薬や漢方薬が出題されやすいのかを学生に示し、学生の効果的な学習につながるよう取り組んだ。来年度も今年度の授業内容をベースとして、学生が自ら学習に取り組める授業を組み立てたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	98	2019/6/25
総合演習Ⅱ	1	125	2019/12/5
総合演習ⅢA	1	84	2019/6/21

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

我々の本研究室では天然薬物の資源となる薬用植物、特に漢方薬の素材である「生薬」に関する研究を中心に展開している。これまで、生薬に含まれる有効成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、それを利用した様々な免疫測定システムや新規分析ツールを開発してきた。これに加えて、抗がん、オートファジー制御、抗炎症、メラニン合成制御、精子活性化などの活性を持つ天然化合物の単離・精製から作用メカニズム解明まで、幅広い研究を行っている。国際共同研究も積極的に行っており、アフリカ・東南アジアの植物を中心に医薬品シーズの探索研究も行っている。

① 天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析

尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が最近見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。

② がん細胞におけるアポトーシス誘導およびオートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

我々は、国内外で用いられている伝統医薬から、がん細胞増殖抑制能を持つものを探索し、活性成分の単離同定、さらにアポトーシス誘導機構を中心とした作用機序解析を行ってきた。これに加えて、現在、オートファジー制御能を持つ天然物に注目して研究を行っている。生薬エキスイブラリーのスクリーニングの結果、いくつかの生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序の解析を進めている。がん細胞において様々なアプローチで機能する天然物のメカニズム解明を目指す。

③ 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

薬用植物は古来、漢方薬や医薬品の原料として用いられてきているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。限られた薬用植物資源の有効活用が強く求められているが、これを解決するための1つの取り組みとして、これまで薬用として利用されなかった部位(非薬用部位)の有効利用が注目されている。我々はこれまでサイコ地上部から癌細胞増殖抑制成分の単離同定を行い、またトウキ地上部が根と同様に強い抗炎症作用があることを見出した。そこで本研究は、薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化推進するための科学的エビデンス提供を目指す。現在、地黄の地上部に種々の活性を見出しており、成分解析を行っている。

④ 生薬成分に対するモノクローナル抗体を機軸とした分析法の開発と応用

我々はこれまで生薬成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、これらのモノクローナル抗体をツールとしたユニークな分析法や応用活用法を開発し世界に発信してきた。本年度は甘草のグリチルリチンとリクイリチゲニンに対するモノクローナル抗体を用いたダブルイースタンブロットイングに成功した。甘草には500種以上の成分が含まれるが、その中から2成分のみを色分けして検出出来るのは本法のみで画期的な手法と言える。

⑤ 出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明

生薬エキスは多種多様な成分からなる多成分系薬物であり、生薬エキスとしての薬理作用と、個々の含有成分の作用機序や成分間の相乗効果との因果関係は解明されていない部分が多い。我々は、ケミカルジェネティクス的手法により約4000株の遺伝子破壊出芽酵母株を用いて甘草エキス高感受性株の網羅的解析を行ったところ、甘草エキスは既知の薬剤とは違う経路を標的としていること、さらに制御する遺伝子の機能は多岐にわたり、特異的な細胞内局在はないことを明らかにした。本研究では、他の生薬エキスでも感受性株の変動パターンを解析し比較することで、エキス中に混合物として存在する条件において、個々の生薬成分が標的分子群にどのように作用するのかを明確にする。さらに、エキス高感受性株の解析により、混合物条件下での生薬成分の真の標的分子および成分間の相乗効果の解明を行い、生薬・漢方製剤の新たな科学的エビデンス提供に貢献することを目指す。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	12	3	3	542万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Screening of crude drugs used in Japanese Kampo formulas for autophagy-mediated cell survival of the human hepatocellular carcinoma cell line / 2019/6 / Medicines / doi: 10.3390/medicines6020063.2019./共著/論文

Liquiritin and liquiritigenin induce melanogenesis via enhancement of p38 and PKA signaling pathways./2019/6/Medicines/doi: 10.3390/medicines6020068.2019./共著/論文

Phytochemical profile of the aerial parts of *Rehmannia glutinosa* Liboschitz var. *purpurea* Makino / 2020/2 / Pharmacognosy Magazine / 128頁～131頁 / 共著 / 論文

De-glycyrrhizinated licorice extract attenuates high glucose-stimulated renal tubular epithelial-mesenchymal transition via suppressing the Notch2 signaling pathway. / 2020/1 / Cells / doi: 10.3390/cells9010125 / 共著 / 論文

Arctigenin suppresses cell proliferation via autophagy inhibition in hepatocellular carcinoma cells. / 2020/2採択 / Journal of Natural Medicines / 未定 / 共著 / 論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

薬用植物は儲かるのか?～漢方薬の材料となる薬用植物を取り巻く状況と問題解決のための私たちの取り組み～ / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

ヒカイおよびモッコウ含有化合物のがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用 / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

ガーナ薬用植物 *Morinda lucida* に含有する成分の精子活性化作用 / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキスの探索 / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

ジオウ地上部の生物活性と成分解析 / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

抗原虫活性を有するテトラサイクリックイリド類の効率的かつ簡易な単離方法の開発 / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

シャルコー・マリー・トゥース病の治療薬開発を目指したシーズ探索研究 / 2019/9/13 / 第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

Analysis of synergistic effects and molecular targets of natural compounds using monoclonal antibodies against natural compounds / 2019/12/4 / 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019)

甘草エキスに含まれるミトコンドリア機能改善成分の探索 / 2020/3/27 / 日本薬学会第140年会
 草薺および木香含有成分によるがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用 / 2020/3/26 / 日本薬学会第140年会

丁子に含まれるメラニン合成促進成分の探索 / 2020/3/26 / 日本薬学会第140年会
 オノニンおよびホルモノネチンに対するモノクローナル抗体作製と免疫化学的分析手法の確立 / 2020/3/26 / 日本薬学会第140年会

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2019年度科研費(基盤C) 「出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明」	日本学術振興会	2019/4～2023/3	442万円
長崎国際大学 学長裁量経費 「シャルコー・マリー・トゥース病の治療薬開発を目指したシーズ探索研究」	長崎国際大学	2019/5～2020/2	50万円
研究受託金 「メラニン産生促進及びオートファジー制御機能を有する天然物に関する研究」	一丸ファルコス株式会社	2019/4～2020/3	50万円

(4) 国内外留学等 (留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動 (委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	副委員長	ハラスメント案件に対応し、委員長と共に委員会運営を行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	園長	薬学部薬用植物園の管理や見学者への案内を行った。
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーション調整等を行った。
薬学部FD委員会	委員	薬学部の各種FD活動を行った。
薬学部CBT実施委員会	委員	CBT実施において、PC管理者を担当した。
教育基盤センター兼務教員	委員	センター業務を補佐した。
CAI運用・活用委員会	委員	CAI問題の確認を行った。
安全管理委員会	委員	年2回の廃液処理を行った。

薬学部入試・募集委員会	委員	入試募集活動として中高生に模擬講義などを行った。
国試・CBT対策委員会	委員	各種試験の編集および実施管理を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 模擬講義/令和1年7月/佐世保北中学校(長崎県佐世保市)
- ② 講義ライブ/令和1年10月/夢ナビライブ(福岡マリンメッセ)
- ③ 模擬講義/令和1年11月/佐世保北中学校/小郡高等学校(福岡県小郡市)
- ④ 新聞掲載/令和2年1月31日/長崎新聞/ベトナムの薬用植物共同研究 長崎国際大地元大学と契約

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
早稲田大学人間科学学術院セミナー「伝統医薬から医薬品シーズを探し出す」	2019/6/13	早稲田大学所沢キャンパス	早稲田大学 人間科学学術院 健康福祉科学科 原太一教授
7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019) 招待講演 "Symposium 22" Analysis of synergistic effects and molecular targets of natural compounds using monoclonal antibodies against natural compounds	2019/11/17	神戸市	7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019)実行委 員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生薬学会	代議員	2016/4～現在に至る	日本生薬学会
日本フードファクター学会 (JSoFF)	評議員	2016/12～現在に至る	日本フードファクター学会 (JSoFF)
日本生薬学会関西支部	委員	2018/4～現在に至る	日本生薬学会関西支部
Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine	Editorial Board Member	2014/11～現在に至る	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
Research on Bioactive Compounds in Natural Products	国際共同研究契約	2019/4～	長崎国際大学、 Centre for Plant Medicine Research (ガーナ)

RESEARCH ON BIOACTIVE COMPOUNDS IN NATURAL PRODUCTS	国際共同研究契約	2019/11～	長崎国際大学、PHENIKAA University (ベトナム)
---	----------	----------	-----------------------------------

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Joint Workshop “Natural Products and Herbal Medicines 2019”	講演	2019/11/13	PHENIKAA University (ベトナム・ハノイ市)	PHENIKAA University (ベトナム・ハノイ市)
7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019)	招待講演	2019/12/4	神戸市	7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019) 実行委員会

(3) その他特記すべき活動

① 外国語雑誌査読論文数:13報

7. 受賞等

研究室所属学生の受賞

① 口頭発表賞「ヒカイおよびモッコウ含有化合物のがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用」

大久保 伸哉、小森 ひさ、太田 智絵、正山 征洋、宇都 拓洋

第3回食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島大学)、2019年9月13日

② ポスター発表賞「オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキスの探索」

小森 ひさ、大久保 伸哉、太田 智絵、正山 征洋、宇都 拓洋

第3回食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島大学)、2019年9月13日

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】講義は講義初めに復習テストを実施したり、学習意欲を向上させるような話題提供を行った。また和漢薬概論などでは、薬剤師として実践的な内容を講義し、卒業後も漢方薬の学習継続を意識させるように工夫した。全科目においてアクティブラーニングの一環として自己学習しやすいノート作製に学生に取り組みさせることで理解度を高めるようにした。各種演習は、過去の国家試験を分析したデータを公開し、得点力アップに直結するような内容にした。

【研究】原著論文5報、学会発表12件(うち1件は招待講演)であった。科研費基盤Cを獲得した。研究

寄付金1件。国内外の共同研究締結を3件行った。論文数に関しては満足できる内容ではないが、今あるデータをもとに出来るだけ早く論文投稿する予定である。

【社会貢献】生物学オリンピックの準備および来年度の国際大会の準備進行中。長野県上田市とのジオウ栽培および活用プロジェクトも進行中。

【大学運営】広報活動として、高校生への講演などを今年も実施した。全学ハラスメント委員会の副委員長として会議や事案に対応した。その他複数の委員会に所属し多くの活動を行ったが、担当した業務は責任をもって遂行するように努めた。附属薬用植物園の園長として薬用植物園の整備運営を行った。

【全体】限られた時間の中で、教育・研究共に最大限の努力をした。昨年度よりは効率的になったと思うが、いろいろな業務に追われて研究や学生へのきめ細やかな対応が出来ない時期が多々あった点は反省するべきと考えている。来年度はカットできる業務もしくは効率的に出来る業務を見直すことで、学生対応をより良くし、研究成果の向上に結び付く工夫が必要と考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 太田 一寿

1. 教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。

- ・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
- ・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
- ・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
- ・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	⑧
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	⑪
臨床生理学演習	15 / 15 (前期)	1	36	①④⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	④
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑫
疾病学Ⅱ	13 / 15 (前期)	1.5	107	①③
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	204	②⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	④⑤⑥
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	100	⑩
生命倫理	8 / 15 (後期)	2	140	②⑤⑩
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	0 / 45 (通年)	12/1~4 年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

大部分の講義においてICTを用いた双方向型講義を展開中で、授業アンケートでも概ね好評を得ている。この路線を深化させ効率の良い学習効果・満足度の高い講義を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	120	2019/11/28
総合演習ⅢB	1	110	2019/10/2

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① プロテインSを改変したFRETセンサーによる血栓性素因の病態解析

我が国において頻度の高い先天性血栓性素因であるプロテインS遺伝子異常の分子メカニズムを、以下(A-C)のような分子内構造変化解析を通じて明らかにすることを目的とする。

A. 優れた発現系である出芽酵母を用いて、プロテインSを改変したFRETセンサーを構築する。

B. センサーの基底状態と相互作用因子添加状態との比較により構造変化機序を考察する。

C. センサー分子に血栓性素因関連変異を導入し、天然型との比較により病態解明を目指す。

② 出芽酵母を用いた有用細胞工学システム(疾病モデル等)の構築

数あるモデル生物の中でも、出芽酵母は遺伝子・ゲノム改変が容易でそのためのツールやリソースの充実から「生きた試験管」と称されている。当研究室でも「がん進化のモデル系」や「幹細胞の非対称性分裂のモデル系」など独自のアッセイ用「試験管」の構築に取り組んできた。今後も学内外の様々な研究室との共同研究を通じて、有用な酵母システムを作り出し、幅広く生命科学・生物工学・薬学の発展に貢献していきたい。

③ 出芽酵母を用いた生薬成分のターゲット分子の探索

現在、本学薬品資源研究室と共同研究を進めている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	委員会の円滑な運営のために尽力した
CHサポートセンター運営委員会	委員	委員会の円滑な運営のために尽力した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	委員	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

IBO2020の広報活動の際に本学のPRも同時に行っている。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席

2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

講義・大学運営関連やIBO2020の準備などは精力的に行っており、自己評価でも「満足」しているが、研究活動は停滞気味であり、改善の必要性を自覚している。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 高井 伸彦

1. 教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	119	③⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	⑧⑨
放射線医療学	15 / 15 (前期)	1.5	101	②③⑤⑦⑧⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	①②④⑤⑥⑪⑫
分析化学Ⅱ	2 / 15 (前期)	1.5	107	②③⑧
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	①②④⑥⑪
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	110	②③④⑩
分析化学演習	5 / 15 (前期)	1	111	②⑧⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑧⑨
日本薬局方概論	5 / 15 (後期)	1.5	107	②⑧⑨
機器分析学	5 / 15 (後期)	1.5	67	②⑧⑨
放射線化学	9 / 15 (後期)	1.5	115	②③⑧⑨⑩
分析化学Ⅰ	2 / 15 (後期)	1.5	95	②⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

(質問13満足度)の平均は4.4(放射線医療学)であり、全学講義平均よりも非常に高く評価されていることに満足している。全体の78.9%が満足と評価されており、この評価が継続できるようにしたいと考えています。

教育効果として、該当授業が受け持つ到達目標SBOにおいて、全国統一模試および学内実力試

験結果を見るかぎり、全国の平均正答率よりも約10-30%確実に上回っており、授業満足度と理解度が一致していると考えている。

参考になった学生のコメント

- ・難しいが分かりやすく説明してくれている。
- ・放射線化学の授業を受けて高校時代の復習やさらなる無機化学の演習、そして放射線の演習を去年より行うことができました。
- ・高井先生に代わって授業が面白くなった！なぜこんなことを学ぶのかを分かりやすく説明してくださって、授業に熱意が出た。
- ・放射線と聞いただけで、難しそうなイメージがついてしまっていたが、授業は理解しつつ楽しく受けられることができた。また放射線は少なからず害のあるもので怖いと感じていたが、そのような思い込みも解消したのでよかった。
- ・先生の話、面白くて好きです。
- ・放射線の考え方から入ってくれたので、理解しやすかった。
- ・話が面白くて授業が楽しかったです。
- ・すごく分かりやすくて物理が苦手な私も理解しやすいです。
- ・授業がおもしろくて楽しい！高井先生だから、こんなに理解しやすいんだろうと毎回思う。
- ・図をかいて説明してくれたり、面白い話をしてくれたりしてわかりやすくて楽しい授業です。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①物理学的画像分析法を利用した重粒子線脳腫瘍治療モデルの解析
- ②胎児期放射線被ばくによる高次脳機能障害の特徴と障害機序に関する研究
- ③重粒子線治療の最適化のための生物学研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	1	5	4	4	781万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
よくわかる薬品分析化学第2版/共著/2019/4/廣川出版/83頁～104頁、268頁～284頁、304頁～313頁

アップデート薬学機器分析学/共著/2020/3/廣川出版/総頁数12頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「初年次教育科目「教養セミナーA」の実践と課題—学生の成長実感と教員のプログラム評価に着目して—」/2019/3/長崎国際大学教育基盤センター紀要/第2巻 13頁～26頁/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

脳腫瘍放射線治療によって生じる脳壊死の作用機序ならびに新規防護剤の探索/2019/1/30～1/31/平成30年度「先端モデル動物支援プラットフォーム成果発表会」

腹部腫瘍放射線治療時に生じる腸管障害の解明と新規防護薬の探索/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会(長崎)

ASAP-MS法による化粧品中紫外線吸収剤の一斉分析法の開発/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会(長崎)

The relationship between microcephaly and learning disability by fetal radiation exposure in rats/2019/6/58th Annual conference of the particle therapy Co-operative group(Manchester, UK)

子どもの病気と薬「放射線ひばくと子供への影響」/2018/8/H30教員免許状更新講習会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
脳腫瘍に対する化学療法併用放射線治療による高次脳機能障害の解析	科研費・基盤研究(C)	2018/4～2020/3	481万円
文部科学省 新学術領域研究 先端モデル動物支援プラットフォーム	文部科学省	2018/4～2020/3	100万円
重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析	放射線医学総合研究所・重粒子線がん治療装置共同利用研究	2015/～2020/3(毎年度審査採択)	100万円
医薬情報担当者(MR)教育支援活動(監修費)公益財団法人MR認定センター	公益財団法人MR認定センター	2017/4～2020/3	100万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員長	公式HPの訪問者数年間100万を達成また広報催事(薬学)高校生の夏休み薬学研究体験を企画運営し、催事に参加した学生が毎年度5名程度本学に入学している。
放射線障害予防委員会	委員	毎年度の放射線実習を滞りなく実施
CAI運用活用委員会	委員	これまでCAI運用活用委員長として実施してきた内容の引き継ぎを実施
CBT実施委員会	委員(管理者)	本学CBTの実施運営およびCBTモニター員派遣業務を担務、またCBT作問担当校の実施責任者として責任を果たしてきた。
教育基盤センター運営委員会	委員	教養セミナーに用いる教科書作成(ネットリテラシーと統計学的解釈の向上)および大学教育学会-運営
国際生物学オリンピック委員会	委員	広報担当(キックオフシンポジウムのポスター作成および日本生物学オリンピックの運営)
薬学部就職委員会	副委員長	就職セミナーおよび就職説明会運営(主に広報業務を担当)

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

広報委員会/委員長/全学/広報に関する学内催事企画および運営、SNSによる情報発信による大学認知度の向上対策を実施

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席

2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
防護健康影響過程	2020/3(コロナの影響で中止)	原子力規制人材育成事業・国立研究開発法人 量子技術開発機構 放射線医学総合研究所	原子力規制人材育成事業

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
放射線影響懇話会	世話人(理事)	2015/7～	鹿児島大学大学院 医歯薬総合研究科 腫瘍学研究室:馬嶋秀行教授より推薦

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
MPCアメリカ研修参加	アメリカの大学病院、調剤薬局およびドラッグストアの実態を比較調査	2019/3/5～ 2019/3/10	MPC

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学に赴任後において継続を含め5つの科研費を獲得し、さらに大学院の大神正次氏を指導し、今年度新たな科研費を獲得し(重粒子線治療で問題となる腸管障害をNMDA受容体阻害剤により軽減する技術の開発:2019-2021年)、本学の社会的信頼につながる科研費採択率の向上のため尽力している。

また本学に赴任後において、分析化学および機器分析学に関する教科書を8つ執筆し、国際会議などを含む13の招待講演を行ってきた。大手出版社(廣川出版、南江堂)の教科書の執筆を依頼されたことから、日本の薬学部生が利用する分析化学の主要教科書の物理的診断法(核医学診断 etc)の領域は、ほぼ全て高井が執筆することになった。招待講演内容に含まれる最新医療や現在の問題点を、コアカリ改訂および日局17に合わせて解説した改訂版を大学の講義に利用しており、放射線関連の講義だけでなく、分析化学関連の講義アンケートの高い評価につながっている。教育においては、教育に関する授業アンケートの理解度や満足度において、大多数の学生が満足していることや、関連する到達目標SBOの正答率も常に全国平均を上回る成績を示していることなどから、今後もこれらを継続できるように研鑽したいと考えています。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 田中 宏光

1. 教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動

日本の教育制度の充実、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。

社会の発展は、特定の人々の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の必要な要素として教育環境があげられる。

最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	②④⑥⑨⑩
分子生物学	8 / 15 (前期)	1.5	100	①⑨
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	53	①⑤⑩
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	52	①⑤⑩
基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	13	②⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
ゲノム創薬学	6 / 15 (前期)	1.5	105	②④⑨
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	99	①④⑤⑩
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	41	②④⑨
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	45	②④⑨
細胞生物学	7 / 15 (後期)	1.5	98	①②⑨

地域の理解と連携	1 / 15 (後期)	2	316	②
----------	-------------	---	-----	---

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

細胞生物学に関して2年前4.0から3.8 今年3.5へと満足度が悪くなった。細胞生物学は、薬の作用を理解するうえでの概念の基礎となる。授業のコンテンツは、例年と変わらないものであるが、今年は、他の先生からお伺いした学生の生物系の到達度を考えてシグナル伝達の各論についての説明に重点をおいた。覚えるべき単語に力点を置いたつもりではあるが、講義の抑揚が不足し焦点が不鮮明になったのかと反省してる。

分子生物学、ゲノム創薬もともに満足度が低く、向上につながった内容と方法は上げることはできない。試験の結果を観察すると、各項目の理解は達成できたものと考えられるが、文章で解答を要求する問題に対してしっかり解答できた学生は一桁であった。

今年は教科書を持っている学生が少なかった。それに合わせて資料を作成し、講義を進めた。質問に来た学生は、自分で教科書をもっていない学生であった。講義のあと予習復習をするために、教科書は必要になることを学生にしっかり説きたい。評価が低いことを反省し、学生の顔を見ながら臨機応変に到達度に合わせて講義を進めるように心がけたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 遺伝子診断にもとづいた治療薬の開発

(平成29～31年度 文科省科研費 基盤C; 分担 田中宏光)

男性不妊症患者の精液から得た染色体DNA やmRNA、タンパク質をマイクロアレイや、特異抗体を用いることによって、非侵襲的に解析する系を確立し、男性不妊症原因の診断法及び治療法に役立てる。

<代表論文> Tanaka H, Miyagawa Y, Tsujimura A, Wada M. Genetic Polymorphisms Within the

Intronless ACTL7A and ACTL7B Genes Encoding Spermatogenesis-specific Actin-like Proteins in Japanese Males. *Int J Fertil Steril* 13:245-249 (2019).

② IVFの受精率を上げるフラボノイドの作用機序の解明

マウス人工授精の系において、生薬の甘草の添加によって受精率が上がることを明らかにした。さらに甘草から受精率を上げる成分を同定した。これらの成果を、動物やヒト不妊症に応用するため、作用機序について解析を進める。

大学発ベンチャー企業 株式会社リプロム 食品サンプル完成

③ 染色体分配に機能するHASPINの解析と応用

HASPINキナーゼは、ヒストンH3および生殖細胞特異的ヒストンH2をリン酸化し、ヒストンのリン酸化を通じたエピジェネティックレギュレーションに関与している。さらに、Auroraキナーゼと複合体を形成して染色体分配に深くかかわっていることが、我々を含む世界の研究者から報告されてきた。HASPINは、細胞増殖の盛んな細胞において細胞分裂の進行に必須の役割をはたしている一方、遺伝子破壊マウスの実験から、一般の体細胞分裂では、他のタンパク質によって相補されると考えられる。HASPINの機能解析を深めるとともに、HASPINをターゲットとしたがん抑制薬の開発を進めている

< 代表論文 > Tanaka H, Wada M, and Park J. HASPIN kinase inhibitor CHR-6494 suppresses intestinal polyp development, cachexia, and hypogonadism in *Apcmin/+* mice. *Eur J Cancer Prev* (In press).

本学に来てから12年間何らかのグラントを取り続け、2019年までは、研究費の目途が立っている。しかし、次は難しい。文科省以外の研究費の確保にむけて活動する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	4	2	1	1	130万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
精子形成における遺伝子多型/単著/2019/12/腎臓内科・泌尿器科/Vol.10, No.6, 546頁～553頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Effect of *Lepidium meyenii* on in vitro fertilization via improvement in acrosome reaction and motility of mouse and human sperm. /2019/Rep Med Biol /18:57頁～64頁/共著/論文
Genetic Polymorphisms Within the Intronless ACTL7A and ACTL7B Genes Encoding

Spermatogenesis-specific Actin-like Proteins in Japanese Males. / 2019 / Int J Fertil Steril / 3:245頁～249頁 / 共著 / 論文

Mouse TMCO5 is localized to the manchette microtubules involved in vesicle transfer in the elongating spermatids. / 2019 / PLoS One / 14: e0220917 / 共著 / 論文

HASPIN kinase inhibitor CHR-6494 suppresses intestinal polyp development, cachexia, and hypogonadism in Apcmin/+ mice. / 2019 / Eur J Cancer Prev. / in press / 共著 / 論文

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

HASPIN阻害剤CHR6494は、ヒト大腸がんモデルApc min/+マウスの腸管ポリープ数と生殖機能不全を抑制する。 / 2019/12 / 日本分子分子生物学会

精子細胞特異的に発現するアクチン様タンパク質T-ACTIN 1, 2の遺伝子多型の解析 / 2019/6 / 日本アンドロロジー学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
文部科学省 科学研究費補助金 基盤C 分担	文部科学省	2017～2019	130万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	副委員長	長崎国際大学動物実験委員会 / 副委員長として動物実験センターの運営を滞りなく12年間すすめることができた。
薬学部学生委員会	委員	全てのオープンキャンパスにも参加できた。
薬学部共同機器委員会	委員	共同機器の有効な利用を促進することができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

本年も正規の課外活動ではないが、バトミントン同好会を継続中。私用によって今年は学祭で金魚すくいを出店することができなかつた。来年は、例年のように学祭にも参加したい。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

本年度のオープンキャンパスにはすべて参加し、適時の担当を行い、参加生徒とのコミュニケーションをとれた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保まちなか大学講座 臓器の再生 ～遺伝子スイッチとはなに？～	019/12/14	佐世保市中央公民館	佐世保市中央公民館主催
平戸市民大学「再生医療の基礎知識」	2020/2/15	未来創造館ホール	ひらど市民大学運営委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎国際大学発ベンチャー企業 リプロム株式会社で、副商品の契約により初めて売り上げがあった。来年は本商品の完成を目指したい。また、私が世界に先駆けてクローニング、同定を行った遺伝子に対する阻害剤が、がんの増殖を抑制することを発見した。これに関して特許を提出した。この阻害剤に関して会社を通して臨床応用を目指したい。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】6年生の授業において、アドバンスの授業ではあるが、国家試験対策に重点をおいた授業を進めた。学生からのポイントは平均的であったが満足度が得られなかった。来年は授業を再構築してもう少し面白いアドバンスな内容を取り入れたい。2、3年の授業は、学生のポイントが平均以下になってしまった。来年は、もう少し基礎的な項目に重点をおいて、丁寧な説明に心がける。【大学運営】●長崎国際大学動物実験委員会/副委員長として動物実験センターの運営を滞りなく12年間すすめることができた。また、全てのオープンキャンパスにも参加できた。また、大学の研究成果をまとめたシーズ集に貢献できた。佐世保まちなか講座、平戸市民大学も滞りなく進めることができた。●長崎国際大学薬学部共同機器委員会委員として薬学部の研究に支障が出ないように機器の予算配分を進め、長崎国際大学薬学部 学生委員会委員として、学生の意見を拾えるように、学生との関係を築けていると考えています。【研究】●20年以上続けてきた研究テーマについて、一流雑誌に報告で

来た。続きの成果を来年度報告したい。●本学に来てから11年間何らかのグラントを取り続けたので、次は難しい。文科省以外の研究費の確保にむけて活動する。●2016年2月に長崎国際大学発ベンチャー企業を立ち上げ見本の製品が完成した。来年は商品販売を進める。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 西奥 剛

1. 教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、◆疾患◆だけを診るのではなく、病気を◆患って◆いる人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	①⑨⑩
総合演習ⅢA	0 / 23 (前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	0 / 30 (前期)	2	17	①⑨
薬理学Ⅰ(総論)	15 / 15 (前期)	1.5	102	①②③
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	1	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	100	①②③④⑥⑩⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨
薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床)	15 / 15 (後期)	1.5	85	①②③
総合演習ⅢA	3 / 23 (前期)	1.5	103	①④⑨⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	3 / 15 (前期)	2/1-3年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱともに授業アンケートは概ね評価が高かった。

しかし、現状の講義内容では、薬剤師国家試験に対応できにくくなりつつある。

新薬も続々と上市されているため、講義内容に工夫が必要であると思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	治療論 I	15/15(後期)	1	70

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習 I	1	101	2019/11/13
総合演習ⅢA	2	103	2019/5/28, 2019/7/2
総合演習ⅢB	2	84	2019/10/18, 2019/11/8

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大脳白質病変形成機構の解明

大脳白質は、神経細胞の軸索とこれを覆うミエリン(髄鞘)から構成されている。軸索のミエリン化は、神経伝達速度の高速化に寄与しており、脳の高次機能に深くかかわっている。そのため脱髄による大脳白質病変は、認知障害や運動障害、言語障害など多彩な神経症状を示す。大脳白質病変の形成機構を明らかにすることで、多発性硬化症や脳血管性認知症の治療薬の開発を目指し研究を行う。

関節リウマチ病態形成機構の解明

関節リウマチの薬物治療において、生物学的製剤による分子標的治療の導入は、疾患活動性と関節破壊の制御を可能とし、関節リウマチ治療に新展開をもたらした。しかし、生物学的製剤は、優れた有効性の反面、安全性や投与経路の問題、また高額な治療費のためすべての患者において夢の薬というわけではない。関節リウマチの新規病態分子機構を明らかにし、生物学的製剤と同等の有効性を示す経口投与可能な新規低分子抗リウマチ薬の開発を目指す研究を行う。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費チャレンジ	長崎国際大学 学長 経費	1年	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部学生委員会	委員	保護者会の運営や卒業式の運営等に携わった
新カリキュラム検討委員会	委員	新カリキュラムの立ち上げに携わった

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

本年度は課外活動の指導に携わっていない。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスに参加し、長崎国際大学の良さを参加者にアピールした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会薬理部会	若手世話人	2010/4～現在	日本薬学会
日本薬理学会	学術評議員	2012/4～現在	日本薬理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、科研費が採択されなかったが、学長経費の科研費チャレンジが採択され研究を進めることができた。しかし、論文が投稿できなかったため、来年度は論文を必ずアクセプトさせる。

教育に関しては、難化する薬剤師国家試験を念頭に置き、講義に工夫を加えるようにする。

薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱの授業アンケートは概ね高評価であった。薬学の根幹をなす薬理学を学生が面白いを思えるような講義にするようさらに鋭意努力する。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 神谷 誠太郎

1. 教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。

研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。

自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。

教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	3	101	⑧
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	⑧
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	⑧
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	2	17	⑧
統計学	15 / 15 (前期)	2	40	④⑨⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
物理・数学演習	15 / 15 (前期)	1	19	②⑧⑨
卒業研究(5年)	30 / 30 (前期)	2	-	④⑤⑥⑪⑫
総合基礎学習Ⅰ	15 / 15 (通年)	0.5	106	④⑦⑪
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	99	①④⑧⑩
薬物動態学	7 / 15 (前期)	1.5	106	①⑧⑨
コンピュータ基礎演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	1	②④⑪
卒業研究(5年)	30 / 30 (後期)	2	8	④⑤⑥⑪⑫
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	100	④⑪⑫
製剤学	15 / 15 (後期)	1.5	91	③⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	⑧
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	84	⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
レギュラトリーサイエンス特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬物動態4.2、製剤学4, 1と平均並みの評価を受けている。

もう少しあげられるよう。努力していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① ナノ粒子の粉末化の検討

これまでのドラッグデリバリーシステム(DDS)の研究では、水溶性、疎水性薬物のナノ粒子の調製方法の確立および開発などが行なわれてきており、現在も行なわれている。しかし、ナノ粒子状態を安定に保存する方法は凍結乾燥法以外にはあまり検討されてこなかった。凍結乾燥法によって調製されたナノ粒子は、吸湿性が高いためにバイアル瓶などでの保存が出来るために、コスト的なデメリットが大きい。それらを克服するために新たな保存方法を探索する。

② シェラックを用いた腸溶性製剤の開発

大豆ペプチドは胃の中で胃酸と反応し、においの強烈なゲップを産生する。その問題を克服するために胃酸で分解されずに腸液で分解する腸溶性製剤を創ることは、大変意義がある。以前にヒアルロン酸の腸溶性製剤を調製したことがあるためにその手法を生かして、新たな腸溶性製剤を創造する。

③ シェラックの可塑剤の開発

シェラックはラックカイガラムシの分泌液から生成され、お菓子などのコーティング剤として用いられている。適切な可塑剤を添加することで、コーティング操作が効率よくできるため、性能の良い可塑剤を検討している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Investigation of a physicochemical association between various saccharide and nanoparticles during freeze-drying / 2019/11/18 ~ 11/19 / International Conference and Expo on Microbiology (Microbiology Conference 2019)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営センター	委員	大阪で行われたボランティア活動報告会に出席した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外

2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
サイエンス広場で遊ぼう	講師	2020/2/5	佐世保市少年科学館

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

西日本豪雨の真備町でボランティア活動をおこなった際の報告会が大阪で行われたが、それに参加した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度はボランティア委員会に所属していたこともあり、今後とも続けていきたい。

研究活動においては、今年度は論文を一報も投稿していない。一昨年は二報投稿されアクセプトされただけに、悔しさが残る。来年度は一報は最低限の目標としたい。ポジティブな面としては海外の学会に招待され1回参加しました。来年以降も参加できるよう努力を重ねたい。

教育活動としては、製剤学では4.1と平均並みの評価をいただいているが、薬物動態学は4.3と平均をすこし上回った。来年度以降もこのペースで行っていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 相田 美和

1. 教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	②
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	⑨
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	53	①⑤
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	52	①⑤
裁判化学	15 / 15 (前期)	1.5	104	②⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	7	④⑥⑪⑫
衛生薬学実習	8 / 8 (前期)	1	99	①②④⑦⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑨
毒性学	7 / 15 (後期)	1.5	90	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	1
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期科目は映像機器の不具合が続き、ちょうどアンケート日に最も調整時間が長かったのもあってか、その件に関する指摘が複数あったが、後期は機器の不具合もなく、その指摘もなかった。映像機器の不具合などの際は、アンケート日を別日に変えるなどの対応をしないと、アンケートの本来の目的が達せられなくなる可能性があると感じた。

授業改善として、それまでの授業内容だけで解ける国家試験問題を講義の間に入れて、解説することで、学生の学習意欲の向上を図った。国家試験問題の解説内容をメモする学生の姿が多数見受

けられたので、一定の教育効果はあったと思いたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本歯科大学新潟生命 歯学部	分子生命科学実習	4/12(前)	0.5	-

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	2	84	2019/4/11, 2019/6/12
総合演習Ⅱ	1	125	2019/12/13

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・シェーグレン症候群におけるTLR3活性化とその制御
- ・異所性嗅覚受容体の生理機能について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

シェーグレン症候群モデルマウスにおけるルテオリン投与の効果/2020/3/26/日本歯科大学第
140回年会

cynamaldchydcのヒト気道上皮細胞における作用/2020/3/26/日本歯科大学第140回年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員	相談や事案への対応等の活動を行った。
国家試験対策委員会(学科)	委員	5年生単位認定試験の実施を担当した。
教務委員会(学科)	委員	学内学生実習の実施に係る学科内調整を担当した。
就職委員会(学科)	委員	今年度は薬学部就職説明会の実施はなかったが、個別に相談等に対応した。
薬学教育支援センター運営委員会	委員	6年生補習の監督業務を分担した。
薬学部動物室管理担当者	委員	動物室管理者会議に出席した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス(7月、8月)に参加した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席

2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和元年度 教員免許状更新講習会「薬物乱用教育の在り方」	2019/5/26	本学	長崎県教員免許更新講習連絡協議会
秋季公開講座	2019/10/19	本学	長崎国際大学地域連携室

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市城補講会審査及び個人情報保護審議会	委員	2019/11/10～ 2021/11/9	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

MR補完教育問題の作成を分担した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動:総合演習科目では、演習で取り扱った範囲は単位認定試験の正答率が比較的高く、ある程度の教育効果はあったように感じられた。しかし、演習範囲外の正答率は一貫して想定より低く、3年生までの講義で高学年の試験に対応できるだけの知識を定着させる難しさを実感させられた。講義毎の確認問題を工夫するなどして少しでも対応したい。

研究活動:日本薬学会第140回年会に2題 エントリーした。新型コロナウイルスへの対応により大会開催は中止され、学生が学会発表を経験する機会を失うことになり残念であった。

大学運営など:新型コロナウイルス対応のため、薬学部就職説明会が中止となり、様々な面で新興感染症の影響が印象に残る一年となった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 高崎 伸也

1. 教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出るから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	④
総合演習 III B	1 / 30 (前期)	2	17	⑤⑥
臨床医学概論	15 / 15 (前期)	1.5	110	②③④⑪⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
物理・数学演習	15 / 15 (前期)	1	48	④⑤⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	⑪⑫
総合基礎学習 II	15 / 15 (通年)	0.5	99	①④⑥⑨⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (前期)	2	-	⑪⑫
学際連携研究	2 / 15 (前期)	2	198	④⑤
卒業研究(5年)	30 / 30 (後期)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑤
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	100	①②③⑦⑩
臨床検査学	15 / 15 (後期)	1.5	89	②③④⑪⑫
総合演習 III B	1 / 30 (後期)	2	84	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと(双方向の講義スタイル、タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り)が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も4.3-4.4と高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。

大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。毎講義の自学学習の量が少ないようだが、試験結果から習熟度は十分と判断できるため、宿題などを課すことで学生の負担を増加させすぎることが懸念されるためしないこととする。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	生理学1年生	15/15(後期)	2	36
九州文化学園歯科衛生 士学院	生理学国試対策演習3年生	2/2(後期)	2	36

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習II	1	125	—
総合演習III A	3	109	—

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

細胞内における相分離現象に伴う液滴の解明および治療への応用

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

出芽酵母における近位ビオチン化標識による液-液相分離現象の状態の評価法 Methods to evaluate states of liquid-liquid phase separation using proximal biotinylation in saccharomyces

cerevisiae/2020/3/日本薬学会第140年会

天然変性領域の繰り返し配列ペプチドの発現による出芽酵母内の液-液相分離の調節 Control of liquid-liquid phase separation by expression of peptides composed of repetitive sequence of

intrinsically disordered region in saccharomyces cerevisiae/2020/3/日本薬学会第140年会

新規の膜のないオルガネラ探索のための液-液相分離誘導能を有するペプチドの出芽酵母内での発現 Expression of peptides inducing liquid-liquid phase separation for searching novel

membraneless organelles in saccharomyces cerevisiae/2020/3/日本薬学会第140年会

甘草エキスに含まれるミトコンドリア機能改善成分の探索/2020/3/日本薬学会第140年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
出芽酵母のミトコンドリア翻訳異常に有効な甘草エキス成分の同定	長崎国際大学・学長裁量経費	1年間	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	育児・介護に関する教職員へのアンケートを作成し実施した。委員として講演会などの運営に貢献した
国試・CBT対策委員会(薬学科)	委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
同窓会薬学部門支援委員会	副委員長	同窓会薬学部門の支援全般
教務委員会・3年学年主任	学年主任	3年生の学年主任として、総合基礎学習の実施から学習支援全般を行った
長崎国際大学教育基盤センター学習支援部門 薬学分室(薬学部薬学教育支援センター) 運営委員会	委員	4,5,6年の成績不良者に対する補習や合宿など学習支援を行った。
ネットワーク調整委員会	委員	ネットワーク調整全般
入試募集委員会(薬学)	委員	オープンキャンパス、高校訪問などにより広報活動を行った

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・高校訪問し、1,2年生に模擬講義、大学案内を3回行った
- ・全てのオープンキャンパスの運営、参加を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・大学外の講義を受託し、社会貢献した。
- ・高齢者に対して、1年生とともにボランティアに努めた

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関して、講義の内容としては、授業のアンケートもよく質も満足できるものだったと考える。また、講義の担当科目数は、かなり多く十分な量であったと考える。また、本年度は各学年の留年生に対する補習などを頻繁に行い貢献した。また、委員会は特に国試・CBT対策委員会では、年間を通じて複数回行われる単位認定試験の責任者として準備、実施、解析等を行い、十分な仕事量をこなしたと考える。また、様々な委員会で貢献した。高校に服す会、訪問し高校生に対しての広報活動にも努めることができたと思われる。また、入試問題の作成に関して、薬学部、他学部どちらも行き貢献した。研究面も研究室が変わり新たな研究にとりかかったが学会発表まで進めることができ順調であった。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 田中 啓太郎

1. 教育理念

私の教育理念は、学生との対話に重点を置き、主体的に学び、考え、行動できる薬剤師の育成を柱としている。講義は、薬剤師国家試験に合格を念頭に構成し、さらに学生の意欲を喚起する内容を組み込み、高い専門力の育成を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	②
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	2	①
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	24	①②⑨
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
化学演習	15 / 15 (後期)	1	3	①②⑨
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	104	①②④
生物有機化学	15 / 15 (後期)	1.5	61	①②
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の化学(薬学部 1年前期)

基礎の化学では、講義で下記の取り組みを行った。

- ・リフレクションカードを使って学生のコメントや質問を収集して講義中に返答した。
- ・講義の最初に、化学に関するトピックスをプリントで配って学生の興味を引き出した。
- ・講義以外にも隔週で補講を行い、学生の質問にも積極的に対応した。
- ・アクティブラーニング形式を取り入れた講義を行った。

アンケートの評価は全体的に平均以上であったので、学生に一定の評価が得られていると考える。

成績下位の学生を対象とした少人数クラスの講義なのでそれを活かした講義を今後も工夫していきたい。

化学演習(薬学部 1年後期)

講義で下記の取り組みを行った。

- ・演習中心の講義で、事前に問題を配布して学生に解かせた。
- ・講義の最初に、化学に関するトピックスをプリントで配布して興味をもってもらったようにした。
- ・リフレクションカードで質問を受け付けて、講義中に回答した。
- ・講義中に小休止を設けた。
- ・勉強全般にかんするトピックスをプリントで配布した。
- ・化学演習以外の科目についても答えられるものは質問対応した。

化学演習は、前期に単位取得できなかった学生を対象に開講されている科目である。そのため、成績下位学生が受講することからその理解度に合わせて、講義内容を変えている。また、化学に関するトピックスを取り上げ、学生の化学に対する興味を高めることも視野に入れて色々な話をした。今年度の評価は4.2-4.6で昨年度評価(4.6-4.8)から低下した。少人数のアンケートのため参考程度にはなるが、学生の評価は高いと考える。

生物有機化学(薬学部 2年後期)

講義で下記の取り組みを行った。

- ・講義最初に、前回の復習とその日の講義概要を説明。
- ・講義中に演習プリントの配布。
- ・講義中に小休止を設ける。
- ・毎回、復習用のプリントを配布。
- ・定期試験範囲をまとめたものを1か月前に配布。
- ・質問対応を丁寧に行った。
- ・再試験対策の補習を行った。

今年度の評価は、4.1-4.2で昨年度(4.2-4.3)と同等であった。

今年度の取り組みについて評価の値にはみえてこなかったが、自由記述から学生にも好評であることがわかった。教科書が変更になった影響もあり、講義の構成を再検討していく。来年度も、学生の理解度を参考にして配布物の内容を改善していく。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学・化学演習 補習	8	24	2019/4～2019/7月(隔週で6回)+再試験対策2コマ
6年夏季合宿(補習)	2	45	2019/8/8
6年夏季合宿(引率・監督)	3	31	2019/8/10
1年生化学補習	4	40	2019/12/12、2020/1/8

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①薬学部における効果的学習支援プログラムの開発と評価
- ②薬学教育における化学系基礎研究の重要性
- ③新規機能性化合物の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	5	2	2	150万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Synthesis of aggregation inductive luminous organic fluorescence dyes, and evaluation of their fluorescence properties / 2019/9 / 27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress(第27回 国際複素環化学会議)

Synthesis of aggregation induced emission enhancement (AIEE) compounds based on pyridine-amino-maleimide and fluorescence properties in solutions and in solid state / 2019/9 / International Symposium on Dyes & Pigments

Study on deodorization of hydrogen sulfide, ammonia, methyl mercaptan and tobacco smoke by using photocatalyst / 2019/10 / 2019 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry

新規有機系蛍光色素の開発と凝集誘起発光特性(AIEE)の評価1 / 2020/3 / 日本薬学会140年会 (京都)

新規有機系蛍光色素の開発と凝集誘起発光特性(AIEE)の評価2 / 2020/3 / 日本薬学会140年会 (京都)

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費(共同研究者)	長崎国際大学	2019年度	50万円
池谷科学技術振興財団 単年度研究助成A(共同研究者)	池谷科学技術振興財団	2019年度	100万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
機器管理委員会(薬)	委員	IR、旋光度計管理責任者
初年度教育担当責任者(薬)	委員	入学前教育・リメディアル教育担当
薬学教育支援センター運営委員会	委員	成績下位学生・留年生対応 スチューデントアシスタント制度実施責任者
教育基盤センター運営委員会	委員	薬学分室

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①水泳部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①オープンキャンパス 保護者・高校生対応

②生物オリンピックキックオフセミナー 運営補助

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2019年度、薬学教育支援センターで卒業延期生、留年生、成績下位の学生の対応と学習指導に務めた。成績下位学生対策として、1年生の補習授業(物理、化学、生物)を企画して、前期と後期に定期的を開催した。また、薬学共用試験に向けて、4年留年生の学習指導を行った。

薬学部の学習相互支援制度であるスチューデントアシスタント(SA)制度は、SA学生の確保が難しい状況が続いているが、例年並みの確保ができ、前後期を通して制度を円滑に運用することができた。少人数グループでの学習指導だけでなくLA学生による科目別の講習会も企画運用した。CBT・国家試験対策では、4年生のCBT直前の質問対応や6年生の国家試験対策勉強合宿(8月、1月)の企画運用を行った。

講義では、1年生のリメディアル科目で、アクティブラーニングの一環としてグループ学習と課題解決の授業を導入し、学生からも好評であった。今後もアクティブラーニングを取り入れた講義を取り入れていく。授業アンケートの結果を参考に、講義内容の改良も行う。

今年度、留年生および成績下位の学生の学習指導に注力した。留年生数は減少傾向であるが、依然として成績向上が難しい学生がいる状況が続いており、次年度も指導を続けていく。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 出口 雄也

1. 教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「(2)情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	⑧
総合演習 IIIA	1 / 23 (前期)	1.5	2	⑧
地球環境論	15 / 15 (前期)	2	118	①③⑧⑩⑫
食品機能学	15 / 15 (前期)	1.5	6	①②③⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪
臨床栄養学	15 / 15 (前期)	1.5	99	①②③⑩
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑪
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	99	①⑩
衛生薬学実習	8 / 8 (前期)	1	99	①②④⑤⑦⑩⑪
衛生化学 II	7 / 15 (前期)	1.5	98	①⑩
学際連携研究	1 / 15 (前期)	2	198	②⑩
衛生化学 I	8 / 15 (後期)	1.5	85	①②③

総合演習ⅢA	4 / 23 (前期)	1.5	103	⑧
--------	-------------	-----	-----	---

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

地球環境論ではQLEARNを導入し、ルーブリックに基づいたレポート採点結果を学生に公表した。一部の学生(交換留学生や2年生以上の学生)は扱いに慣れておらず、QLEARNに対する不満の声もあったが、紙媒体やメールでの提出を認めるなど臨機応変に対応した。QLEARNでレポートを提出した学生には、評価基準に基づいた採点結果に加えフィードバックも公表することができ、4.3の満足度(例年4.1~4.4)が得られたと感じている。

臨床栄養学、衛生化学Ⅰと専門科目では満足度が過去最低(それぞれ4.2と4.1)であった。「わかりやすい」との自由記述もあるものの、その数が減少している事実を真摯に受け止め、現在の学生の求める手法へと改善する必要があると感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2	24
九州文化学園歯科衛生 士学院	衛生学・公衆衛生学	15/15(後期)	2	31
九州文化学園調理師専 門学校	食生活と健康(前期)	13/13(前期)	2	15
九州文化学園調理師専 門学校	食生活と健康(後期)	20/20(後期)	2	13

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	125	2019/11/15
総合演習ⅢA	2	103	2019/4/17, 2019/4/24

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①食品関連物質の分析法の開発に関する研究
- ②化学物質の発がん機構の解明及び食品成分によるその抑制に関する研究
- ③大気粉塵中のエンドトキシン濃度の季節変動と喘息発作の関連に関する研究
- ④機能性表示食品の機能性と安全性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	6	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Relationship of Asian dust event with the atmospheric endotoxin and protein levels in Sasebo and Kyoto, Japan, in spring/2019/10/Biol. Pharm. Bull./1713頁～1719頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Association between Atmospheric Air Pollutants and Emergency Department Child Patient Visits for Asthma in Sasebo, Japan/2019/8/フォーラム2019:衛生薬学・環境トキシコロジー

佐世保市における大気粉塵の酸化能の測定及びその季節変動/2019/10/第69回日本薬学会関西支部総会・大会

佐世保市におけるPM2.5中のエンドトキシン濃度の季節変動と喘息発作の関連性/2019/10/第69回日本薬学会関西支部総会・大会

飲料中のアスパルテームの安定性に与える温度の影響について/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会

GABAを含有する錠剤・カプセル形状食品の崩壊性について/2020/2/第1回長崎県薬剤師学術大会

2016年に承認された原薬及び製剤の安定性試験に関する調査研究/2020/2/第1回長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	全学就職委員会に薬学部代表として出席。就職ガイダンス(福岡)の引率。病院・薬局の就職担当者との面談。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
就職委員会(薬学部)	委員	就職説明会のサポート
教育支援センター運営委員会(薬学部)	兼務教員	6年生の夏季勉強合宿、冬季勉強会において、「衛生」分野のサポート
国試・CBT対策委員会(薬学部)	委員	週間試験の成績管理を担当。6年生の夏季勉強合宿、冬季勉強会の企画と実施。
CBT実施委員会(薬学部)	管理者	体験受験、本試験、再試験の準備と実施。他大学のCBT再試験のモニター員を担当。
生涯学習・教育委員会	委員	11/24に開催された第9回生涯教育セミナーの資料印刷、会場設営、受付を担当。
CAI運用・活用委員会	委員	CAIの衛生分野について問題を精査

(3) 課外活動の指導等

【国家試験対策】

8/10～8/11にMグレヂデンスで夏季勉強合宿を企画し、渉外、引率、個別質疑対応などを行った。また、センター試験に大学内に立ち入り禁止となる1/17～1/19にMグレヂデンスで勉強会を企画し、渉外、引率、個別質疑対応などを行った。

【教養セミナー】

佐世保市社会福祉協議会の富永氏とボランティア体験学習の日程調整を行い、グループ分け、引率者などを決定した。

12/4にボランティア体験学習の引率を担当した。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

7/21、8/25に開催されたオープンキャンパスにおいて、学生、保護者と懇談した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席

2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成31年度 教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育の在り方」	2019/5/26	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
サイエンス広場で遊ぼう「発泡入浴剤をつくろう」	2020/2/2	佐世保市少年科学館	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

【日本生物学オリンピック】

7/14に行われた国内予選の試験監督を担当した。また、8/15～18に行われた本選の準備、実験サポートに携わった。

【第36回日本薬学会九州支部大会】

一般講演(1-D-11～1-D-15)の座長を担当した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2019年を振り返ると、大学運営面では、最重要課題として6年生の国合格者数、合格率の目標達成のためにも、卒業と国試合格のボーダーにいる学生の意見を重視し、夏季勉強合宿や冬季勉強会に向けて取り組んできたが、まだまだ力不足であった。3年間の取り組みを通して、年々改善していることは実感できており、方向性は見えつつあるので、より良い取り組みとなるよう尽力したい。研究面では、昨年の学会発表1件から、論文1報、学会発表6件と例年並みの成果を出すことができた。学会発表ではこれまでの成果をまとめたつもりであったが、課題も見つかりさらなる研究の必要性を確認することができた。また、新しく取り組み始めた研究について早速学会発表することもでき、今後の研究の進め方が定まり良かった。教育面では2年ぶりに「食品機能学」が開講されたほか、総合演習ⅢAへの茶道教育の導入など授業コマ数が多くなり大変であった。他の先生方の授業コマ数の状況について明確にさせていただいたので、来年度に向け担当授業を他の先生へ引き継ぎできたことは良かった。2020年度は空いた時間を研究へと有効に活用したいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 縄田 陽子

1. 教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

(実践内容)

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあつてこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

(実践内容)

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	119	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	⑧
卒業研究(6年)	1 / 60 (通年)	4	1	⑥

卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	②⑤⑥⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	8	②③④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	8	②③④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	100	④⑤⑥⑦⑩
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑨
薬理学Ⅳ(中枢)	16 / 16 (後期)	1.5	65	②⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

開講中に複数回実施した確認テストは学生側の意欲向上あるいは、自宅での自学率の上昇に繋がった。一方で、予習をし授業に臨む学生の割合が昨年度からあがっていないことから、次年度は、予習する資料をあらかじめ指定し、予習の習慣づけを促していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	2	124	2019/10/9、2019/11/20
総合演習Ⅱ	1	127	2019/12/6
総合演習ⅢA	2	107	2019/5/13、2019/6/11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	1	1	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Ameliorating effects of monoacylglycerol lipase inhibitor via cannabinoid CB1 receptors on the cue-induced reinstatement of methamphetamine-seeking and anxiety-like behaviors in methamphetamine self-administered rats. / 2019/10 / 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology

モノアシルグリセロールリパーゼ阻害薬JZL184はメタンフェタミン自己投与ラットにおけるメタンフェタミン探索行動を抑制する/2020/3/第93回日本薬理学会年会

多面的な視点で薬物依存症の動物モデルを診るーエンドカンナビノイドによる渴望、情動および認知の制御ー/2020/3/第29回神経行動薬理若手研究者の集い

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
薬物依存の形成及び再燃に対するオピオイド受容体アゴニストの作用研究	日本ケミファ株式会社	2020/1/1～2020/4/30	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会(全学)	委員	動物実験室運営
入試・募集委員会(薬学)	委員	・オープンキャンパス運営(当日、施設紹介パネル設置担当) ・出張講義(2回)
国試・CBT対策委員会(薬学)	委員	・総合演習Ⅲ試験編集・印刷
動物室管理担当者(薬学)	委員	・コンベ区域運営 ・メンテナンス連絡担当
生涯学習・教育委員会(薬学)	委員	・生涯学習セミナー運営補佐
同窓会薬学部間支援委員会(薬学)	委員	・同窓会運営補佐

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 高校訪問(進学ガイダンス)

- ・九州文化学園(2019年6月)
- ・佐賀清和高校(2019年10月)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	欠席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストプラクティス部門)受賞(2019年5月)

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

薬理学IVでは、2年目を迎え、復習を兼ねた確認テストを8回実施し学生からは学習意欲の向上につながったとの意見が得られた。また、教養セミナーでは戸惑うこともあったが、無事に終えることが出来たと思う。

2. 研究活動について

本年度は学会発表等の成果発表を実施できた。次年度は、論文投稿・受理を目指す。

3. 大学運営活動、社会活動および国際交流について

社会活動および国際交流に携わることが出来なかった。次年度以降は、どのような形で携わること

が出来るかを模索していきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤井 佑樹

1. 教育理念

人間性と専門性をバランスよく習得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出するため、薬剤に関する知識、自分で考える力、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞に関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの学問と関連していることをイメージさせ、学問を俯瞰出来る力を身につけさせる。

研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク質の精製や細胞増殖制御の実験方法やその原理を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される実験問題に対しての応用力を身につけさせると共に自分で考える力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立たせる。

勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことで学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティの精神を獲得した薬剤師を世に輩出し、社会貢献を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	4 / 23 (通年)	1.5	119	①⑨⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	53	①⑤⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	52	①⑤⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	55	②
卒業研究(5年)	30 / 30 (前期)	2	-	④⑤⑥⑪⑫
コンピュータ基礎演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	123	②④⑪
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	110	①②⑥⑦
卒業研究(5年)	30 / 30 (後期)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
生物学演習	15 / 15 (後期)	1	12	①②⑨⑪
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	100	④⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業の満足度を問うQ13では平均4.2点の高評価を得ることができた。高校で生物を学習する機会のなかった学生で学ぶ意欲が沸くように、写真やイラストを資料に加えたことが本結果に結びついたのでないかと推察し、授業をすることに自信が持てた。来年度も頑張っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
医師会看護専門学校	形態機能学(日常生活の仕組み)	15/15(前期)	1	40

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

遺伝子多様な海洋無脊椎動物から、糖鎖結合タンパク質レクチンを探索し、構造と機能の研究を行っており、以下の研究テーマを配属学生と共に行っている。

- ・新規海洋無脊椎動物レクチンの探索
- ・レクチン刺激により生じたマクロファージ活性化の評価
- ・糖鎖シグナルを介した免疫細胞の増殖制御機構の解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	3	1	1	100万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

A GM1b/asialo-GM1 oligosaccharide-binding R-type lectin from purplish bifurcate mussels *Mytilisepta virgata* and its effect on MAP kinases./2019/11/FEBS J/未定/共著/論文

MytiLec-1 shows glycan-dependent toxicity against brine shrimp *artemia* and induces apoptotic death of Ehrlich ascites carcinoma cells *In vivo*./2019/8/Marine Drugs/pii: E502./共著/論文

Functional Characterization of OXYL, A SghC1qDC LacNAc-specific Lectin from The Crinoid

Feather Star Anneissia Japonica. / 2019/2 / Marine Drugs / pii: E136. / 共著 / 論文
 Microbial Efficacy and Two Step Synthesis of Uridine Derivatives with Spectral Characterization. /
 2019/1 / Acta Pharmaceutica Scientia. / 47頁～68頁 / 共著 / 論文

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

二枚貝イガイ科のβ-トレフォイル構造レクチンを応じた細胞機能解析 / 2019/11 / 日本薬学九州支部大会 学術奨励賞受賞講演

スフィンゴ糖脂質結合性レクチンSeviLの糖鎖結合プロファイル解析 / 2019/11 / 日本薬学会九州支部大会(長崎大学薬学部)

イガイ科R型レクチンの発見とスフィンゴ糖脂質を介した細胞増殖の制御 / 2019/9 / 日本生化学会(神奈川県横浜市 パシフィコ横浜)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
二枚貝レクチンを用いた免疫細胞の増殖制御と創薬に関する研究	杉山産業化学研究所	2019/5～2020/3	100万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	・薬学部に関連した事柄を大学HPに掲載した。 ・薬学科教員に自身のプロフィール欄の更新を促した。
地域連携センター	委員	・公開講座など市民に向けた一般講座の担当者を依頼した。
国家試験対策委員会(薬)	委員	・4-5年生で行われる週間試験の問題の編集、解析を対応した。
学生委員会(薬)	委員	・新入生と在学生を対象とした交流会の企画を行った。 ・春季および秋季に開催される卒業式や入学式の準備や片付けを行った。
教務委員会(薬)	委員	・5年生総合演習内で行われる寄付講座の窓口を担当するとともに、学生のレポート評価も行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

第36回日本薬学会九州支部学術奨励賞 受賞 受賞研究「二枚貝イガイ科の β -トレフォイル構造レクチンを応じた細胞機能解析」

8. 活動全般についての自己点検・評価

2019年度は教育、研究、大学運営と以下のことから、バランスよく取り組めたと考える。

教育活動として薬学部では生物学演習、薬学英语、総合演習II、機能形態学演習、薬剤学演習を、全学共通の科目としてコンピュータ基礎演習IA、栄養科の学生対象の基礎の生物学を担当し、授業アンケートを行った生物学演習では高評価を得ることが出来た(Q13.授業の満足度 4.2点)。加えて、学外でも医師会看護専門学校で形態機能学を担当し、社会貢献した。

研究成果としては査読付きの国際雑誌(計4報)への掲載と国内学会での発表することができた。論文発表では筆頭著者として、伝統ある欧州の生物系雑誌FEBS J (IF:4.5)に筆頭著者として発表することができた。加えて、その研究成果が評価され、第36回日本薬学会九州支部学術奨励賞を受賞し、受賞講演を長崎大学薬学部で行った。

大学運営としては、薬学部では国家試験対策委員として、4,5年生の週間試験を、教務委員として寄付講座を、学生委員として、新入生の交流会、入学式、卒業式の準備などを担当し、薬学部に貢献した。全学委員としては地域連携センター委員として、公開講座の準備や司会を、広報委員として大学

HPのアップデートを務めた。

来年も今年度以上に様々な分野で力を発揮できるように精一杯、職場で研鑽していきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤木 司

1. 教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	2	①④⑨⑩⑪⑫
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	53	①⑤⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	52	①⑤⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	497	④⑤⑥⑦⑫
総合基礎学習Ⅱ	15 / 15 (通年)	0.5	9	①④⑥⑨⑪⑫
微生物・免疫学演習	3 / 15 (前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	3 / 15 (前期)	1	52	⑧⑨
微生物学・免疫学実習	9 / 9 (前期)	1	99	①④⑤⑩
基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	53	②⑨
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	100	④⑩⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	103	①④⑨⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートは基礎の生物学では過去最高値である4.8であった。これまでの講義の仕方、講義内容の伝達方法、学生の理解度を把握することから次回講義へとフィードバックする対策が成果を発揮したのと思われ今後も同様に実施し努めていく予定である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
博多メディカル歯科衛生 士専門学校	生化学	15/15(前期)	2	55

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習 I	1	103	2019/11/28

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	なし
CHサポートセンター運営委員会	委員	なし
教育基盤センター運営委員会	委員	なし
薬学部入試・募集委員会	委員	なし
薬学部CBT・国試対策委員会	委員	なし
薬学部安全管理委員会	委員	なし
薬学部教育支援センター運営委員会	委員	なし
薬学部CAI運用・活用委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部入試・募集改善策定ワーキンググループ	委員	薬学部における今後の入試、募集に関する改善を協議した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

進学ガイダンス(2019年12月9日創成館高等学校)

オープンキャンパス全3回

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席

2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

キャンパスクリーン運動

ボランティアセンター活動報告会(開国際)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関する活動はこれまでの反省や改善点を踏まえて本年度は概ね目標を達成したと考えられる。次年度も継続して教育効果が得られるように改善し、実施したいと考える。研究面においては学会発表、論文発表がなく目標を達成できなかったため次年度に向けた計画、内容を見直し、活発な研究活動を実施できるように努めたい。学内の委員会などに関しては一定の役目を果たせたものと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤本 京子

1. 教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講なので、医療分野とのつながりを意識できない学生が多く存在している。そこで、本授業では細胞と食を関連付け、細胞と組織、細胞と個体、さらに疾病を連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心を持ち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
生化学Ⅲ	4 / 15 (前期)	1.5	101	①⑨⑩⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	7	④⑤⑥⑪⑫
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	99	①④⑤⑩
生物学演習	7 / 15 (後期)	1	12	①②⑨⑪
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	41	②④⑨
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	45	②④⑨
生化学実習	4 / 9 (後期)	1	104	①②④⑪⑫
コンピュータ基礎演習 I B	4 / 15 (後期)	1	122	②④⑪
生化学 I	6 / 15 (後期)	1.5	100	①⑨⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	-
Advanced Preventive Medicine	1 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、前期:生化学Ⅲ、後期:生化学Ⅰ・生物学演習の授業アンケートを実施した。満足度の数値を比較すると、どの科目も全体平均より上回ることができた。とくに、生化学Ⅰでは、目標としていた4.5に達することができた。また、生化学Ⅰでは、学生自身に関する問いかけのうち、質問1:予習復習を行ったか?の項目において、平均4.0と回答しており、例年よりも高い結果となった。これは、配布資料に復習用スライドを作成していたことが良かったのではないかと考えている。1年生は、今後の勉強に対する姿勢において、非常に重要な時期だと考えている。そのため、授業で配布される資料だけに頼らず、教科書をしっかりと効率よく利用する重要性を説き、利用の仕方とともに十分に伝えていかなければならないと感じている。年々難易度を増している国家試験に順応していくためには、文章を読む力を育てていかなければならないと強く感じている。次年度も、このことを念頭に授業を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	栄養生化学	15/15(通年)	1	25

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	107	2019/4/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大腸がん発生のメカニズムと予防に関する研究

個人差と疾患の多様性に関する分子的背景を明らかにする一歩として、ヒト大腸がんモデルマウスの解析により、腸管腫瘍のサイズ増大化に関する因子を探索している。包括的遺伝子発現解析により得られた実行因子候補をクローニングし、それぞれの機能解析を行っている。特に、正常部位と比較して腫瘍細胞内で高発現していた遺伝子群と、有意に発現が減少していた遺伝子群に着目し、それらの機能解析を行っている。がん促進関連遺伝子なら、それらの発現を阻害することで腸管腫瘍サイズの増大化を抑制できる可能性がある。多くの場合、腫瘍サイズと悪性度は比例関係を示しているので、腫瘍サイズの増大化を抑制することは、転移浸潤を抑えることにつながり、医療に大きく貢献できると考えている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ムチン様タンパク質の腫瘍形成における役割/2019/6/第23回日本がん分子標的治療学会学術集会

腫瘍細胞から分泌されたTff2タンパク質はパラクライン的に腫瘍細胞増殖経路を誘導する/
2019/12/第42回年会日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会(全学)	委員	社会福祉学科のキャリア開発に関する授業において、外部講師を招き男女共同参画に関する意識づけを行った。
安全衛生委員会(全学)	委員	有給休暇取得を呼びかけた。
入試募集委員会(薬学)	委員	オープンキャンパス、高校ガイダンスや入試業務などを行い、入学希望者増大に関する活動を行った。
CBT実施委員会(薬学)	委員	CBT本試験、再試験が滞りなく行われるよう努めた。
OSCE実施委員会(薬学)	委員	OSCE本試験が滞りなく実施できるよう努めた。試験当日の学生アルバイトへの指示などを行った。

薬学教育支援センター運営委員会(薬学)	委員	兼務教員として、6年生の合宿に参加した。また、留学生のモチベーションアップのために、日本で働く韓国人研究者の紹介や、卒業生の講演などを行った。
薬学部改善計画策定委員会(薬学)	委員	なし
就職委員会(薬学)	委員	なし (コロナ感染の影響により就職ガイダンスは中止となった。)
安全管理委員会(薬学)	委員	毒劇物試薬の管理状況の調査を行い、長年使用されない試薬の処理を業者に委託した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ(薬学)	テーマ別学習担当	テーマ別学習において、発表会準備や優秀賞投票の集計などを行った。
ハラスメント相談員	相談員	ハラスメントに関する事案について、相談窓口となって聞き取りなどを行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夏のオープンキャンパスにて、体験実習を担当した。自身のDNAを抽出し、それをペンダントにしてお土産にする内容を行った。大学に入学後は抽出したDNAを用いて、各人の遺伝子検査を行うことができることを伝え、興味を惹きつけた。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席

2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
生物学オリンピック動物担当	作題委員	2019/10～2020/7	国際生物学オリンピック日本委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

生物学オリンピック日本大会において準備・当日実施などを行った。この経験をもとに、次年度の国際大会の準備を行う。

また、世界の子供を支援する国際協力NGOへの寄付を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、大学院生の指導教員となり責任感と重圧を感じる一年間だった。なかなか思うように研究活動が進まないことが多かったが、長い目で成長を促すように気持ちを切り替えて指導することに徹した。また、大分大学との共同研究協定を結ぶことができ、研究の視野を広めることができたことは、非常に有意義であった。これまで、値段的に手が届かなかつ代謝産物解析ができるようになり、共同研究をすることで多くの情報を共有できることから、今後の研究において大きな一歩を踏み出すことができた。

教育面では、授業で行った範囲に関連した国試をみせ、低学年のうちから国家試験を意識させるように試みた。国家試験はまだまだ先の事としてモチベーションが低く、授業内容と国試内容を自分でつなげることができない学生が少なからずいるので、どの授業の内容も国家試験に直結しているということを何度も伝えた。リフレクションカードのコメントには、生化学の内容が医療とつながっていることがわかった というコメントがあったので、理解してくれた学生がいたことを嬉しく思う。

担当学生において、早期にSA制度を利用することは非常に有効だということを感じた一年であった。1年次プレースメントテストにおいて、私が担任を務めている学生が成績最下位だったので、すぐに本人を呼び出しSA制度に参加させた。指導する側学生も自分で探し、SA制度参加をお願いをした。すると、1年次の成績は問題なく進級することができた。また、他の学生も前期に3科目再試となったので、後期からSA制度を利用させた。後期は全て本試験で合格することができた。1年生に話を聞くと、もし試験の結果が悪かったら、教えてくれている先輩に申し訳ないと感じるので、勉強をがんばったとのことだった。教える側の上級生も、良い復習になったのでよかったと言っていたので、この制度は今後もどんどん利用しようと考えている。担任として、教える側・教わる側の学生をそれぞれ時々呼び出し、進捗状況を聞くアフターフォローもしっかりと行った。

その他、生物学オリンピックを経験し、次年度に向けた準備等を行っている。本校が世界中の高校生との交流の場として良い思い出になるように、しっかりと努めていきたい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 吉田 達貞

1. 教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を学生に教育するだけでなく、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ、複雑さ、面白さを物理化学的観点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察することができ、医療・保健・福祉の担い手の一員として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することです。よって、担当の授業では、(1)薬学を理解する上で必須となる基礎的な物理化学の概念や原理に基づき広範な生命化学の現象を理解する能力を修得すること、(2)医療や生命現象の膨大な実データをコンピュータを活用した統計論や確率論に基づき体系的かつ客観的に整理、分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得することを重視します。薬剤師が担う医療業務は言うまでもなく全て科学的根拠に基づくものであり、現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに経験したことが無いような問題にも取り組み、独自の答えを与える力が要求されます。したがって、学部の低学年から論理的かつ厳密な思考能力を養う訓練を重ねることは、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、卒業後の将来に亘って大きな財産になるものと信じています。そのため、授業では学生には単なる公式の丸暗記ではなく、その背景にある科学的根拠や理論を辛抱強くじっくりと理解することの大切さを学んで頂きたいと考えています。その手助けをすることが私の教育の責任です。何よりも寄り添い型の授業展開を心掛け、学生との信頼関係を築くことで、一人でも多くの学習意欲を高く維持することに努めて参ります。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
総合演習 III B	1 / 30 (前期)	2	17	①⑨
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
基礎の物理学	15 / 15 (前期)	2	33	②③⑨
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	123	②④⑪
宇宙と薬学	8 / 15 (前期)	1.5	102	②③⑨
医療統計学	15 / 15 (後期)	1.5	98	②④⑩⑪
総合演習 III B	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	122	②④⑪
統計学	15 / 15 (後期)	2	114	①②⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

- ・「基礎の物理学(Aクラス)」では、満足度3.9(2018) → 4.4(2019)、理解度3.8(2018) → 4.2(2019)ともに前年度から幾分の改善を図ることができました。この結果は今年度から3編成のクラス分けとなり、より少人数のクラス担当となったことが多少なりとも影響していると思われます。4次カリから新たに担当の「物理学演習(Aクラス)」との接続をしっかりと視野に入れ、講義資料の改訂を引き続き重ねて参ります。
- ・「コンピュータ基礎演習IB」では、満足度4.3(2018) → 4.5(2019)、理解度4.4(2018) → 4.5(2019)ともに前年度から僅かながら改善を得ることができました。本科目は次年度からは担当せず、新たに別科目を担当することとなりますが、学生からの自由記述のコメントを他の担当科目の授業設計にも活かして参ります。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
「基礎の物理学(A)」 補習	8	6	2019/7/3 4・5限, 2019/7/10 4・5限, 2019/7/17 4・5限, 2019/7/25 4・5限
「コンピュータ基礎演習IA」 補習	1	34	2019/4/12 3限
「コンピュータ基礎演習IA」 補習	1	4	2019/5/20 5限
「統計学(薬)」 補習	1	23	2020/1/15 2限
「総合演習I」 補習	1	112	2019/4/15 3限
「総合演習IIIA」 補習	1	126	2019/5/30 4限
「総合演習IIIB」 補習	1	107	2019/10/4 2限
4年生 総合実習	6	118	2019/11/21, 2019/11/28 3 ~5限
4年生 処方解析実習	3	118	2019/10/31 3~5限
4年生 生物薬剤学実習	3	118	2019/10/4 3~5限

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

分子科学計算を用いた医薬品および生体関連分子の活性・機能発現メカニズムの詳細解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	4	1	1	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Structures of triterpenoids from the leaves of *Lansium domesticum*/2019/9/Journal of natural medicines 73(4)/727頁～734頁/共著/論文

Enhancement of antioxidative activity of astaxanthin by combination with an antioxidant capable of forming intermolecular interactions/2019/11/Free radical research/1頁～11頁/共著/論文

A GM1b/asialo-GM1 oligosaccharide-binding R-type lectin from purplish bifurcate mussels *Mytilisepta virgata* and its effect on MAP kinases/2019/11/The FEBS journal/1頁～19頁/共著/論文

Chemical structures and cytotoxic activities of the constituents isolated from *Hibiscus tiliaceus*/2020/2/Fitoterapia 142/104524 - 104524/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Synthesis of aggregation inductive luminous organic fluorescence dyes, and evaluation of their fluorescence properties/2019/9/第27回国際複素環化学会議

Synthesis of aggregation induced emission enhancement (AIEE) compounds based on pyridine-amino-maleimide and fluorescence properties in solutions and in solid state / 2019/9 / International Symposium on Dyes and Pigments

新規有機系蛍光色素の開発と凝集誘起発光特性(AIEE)の評価1/2020/3/日本薬学会第140年会

新規有機系蛍光色素の開発と凝集誘起発光特性(AIEE)の評価2/2020/3/日本薬学会第140年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費(大学間連携研究)	長崎国際大学	2019/6～2020/3	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター委員会	委員	大学IRコンソーシアム主催の「新入生・上級生調査」の回収率の向上に努めるとともに、面談記録システムやホスピタリティールーブリック、読書管理システムの使用方法に関して、薬学部教職員に対する情報発信等を行った。
教育基盤センター委員会	委員(IR部門兼任)	教育基盤センター紀要にIR部門の一員として薬学部の状況報告を行った。
薬学教育支援センター運営委員会(学科)	兼任	物理系の兼任教員として、6年生学生の自習監督ならびに夏・冬期勉強合宿のサポートを行った。
入学前・初年次教育委員会(学科)	委員	物理・数学系の教員として、入学者教育教材の選定ならびに入学前教育(提出課題の添削)を担当した。
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	CAIを利用した各種の学内試験において、委員の一員として試験の準備と管理、暫定版の新システムへの設問移行を担当した。
CBT実施委員会(学科)	委員	本学CBT体験受験および本試験において、PC管理者として従事した。
OSCE実施委員会(学科)	委員	本学OSCEにおいて、事前準備、会場設営、学生指導、評価者説明、評価入力を担当した。
図書選定委員会(学科)	委員	図書選定に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学生生活サポート室	委員	後期に週1時間、学生の修業や生活に関する相談・サポート対応を行った。
薬学教育協議会・物理化学系教科担当教員会議	委員	2018年度会議(2019/3/23, 千葉市)に関する参加報告を行った。

(3) 課外活動の指導等

①1年生 臨床体験学習の引率/2019年8月20日/長崎リハビリテーション病院

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①オープンキャンパス参加/2019年7月21日、8月4日、8月25日/本学

②地方保護者会 薬学科 面談担当教員/2019年10月12日/鹿児島会場

③推薦入試A日程/2019年11月30日/那覇会場

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性相関部会	幹事	2011年度～現在に至る	日本薬学会構造活性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①生物学オリンピック(JBO2019, IBO2020)における情報学部門を担当し、学外委員とともに試験の準備、円滑な実施に努めた。

②学内クリーンキャンパス運動に参加/2019年5月29日、11月27日/本学

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動： 赴任後2年で総合演習等に関する作問には慣れました。本年度は新たに担当した3科目の講義資料作成に多くの時間を費やすこととなりました。次年度はこれまで苦勞して準備、担当してきた科目の入れ替わりも多く、名残惜しさを覚えますが、自身の教育業務に対するスタンスやモチベーションを見つめ直し、気持ちを切り替え、新担当科目の準備に努めて参ります。講義以外では、担任学生への指導やSNSに関連したトラブル対応を深く考えさせられる一年でした。相談に乗って下さった先生方には大変感謝しております。また、留年生や成績不振者に対する生活や精神面を含めた修業サポートは、学生本人への指導にとどまるだけでなく、保護者に対して早目早目の報連相を心掛け、周囲のご理解・ご協力を得ながら進めて参りたいと思います。

研究活動： 前年度と比較して研究以外の業務が増えたことから、思うように時間を取ることができず、満足のいく結果を得られませんでした。隙間時間を研究に有効活用するという甘い考えは止めて、次年度はまとめて打ち込む時間を作りたいと思います。新しく研究室に配属された5年生と一緒に楽しみながら、卒業研究を進めて参ります。

大学運営活動： IRセンター委員では、面談記録・ホスピタリティーブリック・読書管理等の各種システムの記入率やアンケート回収率の改善に努めました。次年度以降も薬学部教職員への周知を継続していくとともに、意見・要望を収集し、少しでもこれらの仕様改善に繋がるよう同委員会で提案して参りたいと思います。

その他： 生物学オリンピック(JBO2019)ではコンピュータを用いた情報学部門を担当し、台風の影響でプログラム短縮が余儀された中、滞りなく試験を実施することができました。IBO2020でも引き続き、同部門の円滑な試験実施に貢献できるよう外部委員の先生方と協力して準備を進めて参ります。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 榎本 彩乃

1. 教育理念

私の教育理念は、実践の場でも確かな知識をベースとして応用力・判断力を発揮でき、かつ生涯を通じて医薬品の専門家として社会に十分な貢献をできる薬剤師を育てたいというものである。

現在、様々な現場において機械化が進んでおり、薬局においてもその傾向があることは否めない。機械化は、薬剤師の負担やミスの減少に貢献する反面、将来単純作業を行う人材の需要は減少すること考えられる。また諸外国をみると、ピッキング等の比較的単純な作業は薬剤師ではなくテクニシャンの仕事となっている場合もある。これらの事情から、今後薬剤師はこれまで以上に機械では補えないスキルと幅広い知識・判断力といった高い能力が求められるようになると予想される。そのような社会の変化に柔軟に対応していくためには、常に自身の研鑽を怠らず、自ら学んでいく姿勢が必要不可欠である。基礎科目は薬剤師業務とは関係ないという意識をもち易いが、新しい物事を学ぶためには基礎知識が十分にあることはもちろん、基礎知識をもとにして応用する力が重要である。そのため将来にわたっても活用できる知識を身に付けさせ、また応用できる能力を伸ばすことを目標とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
基礎の物理学	15 / 15 (前期)	2	53	②③⑨
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	99	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	15 / 15 (後期)	1	37	①④⑧⑩
生薬学実習	8 / 8 (後期)	1	105	①②③④⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の物理学は評価は振るわなかった。原因は基礎知識があまりない学生も多々いるということを理解せず、前提知識を多くもとめすぎた結果であったと思われる。次年度は物理だけではなく、数学の基礎知識を交えながら授業を進めていこうと思う。

物理化学演習に関しては、予想していたよりも評価は良かったが、数値的には良いわけではない。これはそもそも物理化学という科目が嫌いな学生が多いというのが一番の原因に思うが、それは理解

が追いつかないためであり、工夫が必要であると感じた。ただ、manabaのアンケート機能や、毎回の回収の際にコメントを付ける等して学生のわからないところをできるだけ拾う努力はしたため、学生からは少しわかるようになったと聞くことも多かった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I	1	101	2019/11/25
総合演習III A	1	126	2019/4/10

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

磁気共鳴法による生体情報計測を目的とした機器開発及び計測手法の新規構築

MRIをはじめとした磁気共鳴法では、非侵襲的に生体内の様々な情報を取得することが可能である。特に本研究で利用するオーバーハウザー効果MRI (OMRI)を用いた測定では、生体内の酸素分圧分布やpH分布などを非侵襲的にかつ定量的に取得可能である。これらの情報をより精度よく計測するためには、生体の部位の特徴や疾患に応じた測定機器や手法が必要となる。研究では、電子回路設計をはじめとしたハードウェア面から、OMRI装置の高感度化及び生体計測への最適化を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

OMRI可視化範囲拡大のための多チャンネルEPR励起コイルアレイの開発/2019/11/電子スピ
ンサイエンス学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部学生委員会	委員	委員として各種イベントの準備等を行った
薬学部CBT国試対策委員会	委員	委員として主に4年次の単位認定試験の問題編集、印刷、結果解析を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部1年次学年主任	学年主任	1年生のレポート添削、リメディアル化学への協力などを行った

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	欠席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席

2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
EPR画像化技術とその共振器開発	2020/8/10~12	北里大学保健衛生専門学院 北里ホール(新潟県)	日本酸化ストレス学会 フリーラジカルスクール
第15回SEST若手の会総会 これまでの研究者ライフ	2019/11/7	川崎市コンベンションホール 会議室1, 2	SEST若手の会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、初めて担当する科目については学生のレベルが推測できなかったため、主にマナバのアンケートを使用して理解度を確認するなど、学生のレベル把握に努め、それに応じた説明をするように心がけたが、理解度はそれほど高くなく、次年度でのさらなる工夫が必要であると考ええる。また、前年度も担当した科目については、前年度の反省を踏まえ、資料、説明方法を改善するよう努力した。その結果、担当科目を苦手としている学生からの理解度は授業アンケートの点数ではそれほど高くはなかったが、全体として成績は向上しているという結果がでた。次年度は今年度、学生が苦手としている部分についてより時間をかけて、単にスライドを見ているだけにならないよう手を動かさせる工夫を行う。

研究活動については、前年度獲得した科研費を使用し、複数のプロジェクトを同時進行しているが、講義準備等に時間を費やしすぎたため、成果をだすことができなかった。今後は講義準備を効率よく行い、研究時間についてもマイルストーンを設定し目標達成を図る。

大学運営活動に関しては、大学側から割り当てられた仕事に関しては問題なく遂行できたと思う。今後も割り振られた仕事に関しては責任をもって行う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 大神 正次

1. 教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	2 / 45 (通年)	3	101	②③
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	50	①②③⑥⑨
化学演習	15 / 15 (前期)	1	50	①②③④⑨
放射線医療学	2 / 15 (前期)	1.5	101	①
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	110	①②③④⑤⑥⑨⑩
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	②③
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	104	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

(前期・化学演習)

満足度の項目に関して、前年度の3.4と比較すると平均値で4.3と大幅に改善され、全体平均と同等かそれ以上であった。化学演習ではスモールグループでの教え合い学習や自分の主体的な考えを文字にして書かせるように取り組んだ。また、学生の疑問や質問の他、授業中の不満を丁寧に汲み取りその都度改善していくように心掛けた。満足度以外の項目においても、すべて4.3以上の高い評

価が得られている。学生が興味を持ちやすい身近な話題を取り入れるなど、シラバスと授業内容や資料を見直し、今後もさらに改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学・化学演習 補習	8	23~35	2019/4/22, 2019/5/13, 2019/5/27, 2019/6/17, 2019/6/24, 2019/7/1, 2019/8/20(2コマ)
総合演習I	1	112	2019/11/18
総合演習II	2	125	2019/12/19, 2020/1/8
総合演習IIIA	1	106	2019/5/30

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 生体内分子イメージングを可能とする放射性プローブの開発
- (2) 重粒子線感受性に影響を与える抹消性NMDA受容体の解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	416万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

炭素線腹部照射マウスに誘発される腸管障害に対するNMDA受容体阻害剤の放射線防護効果/
2019/7/27/第56回放射線影響懇話会

腹部腫瘍放射線治療時に生じる腸管障害の解明と新規防護薬の探索/2019/11/16~11/17/第
36回日本薬学会九州支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費(若手研究)	日本学術振興会	2019年度～2021年度	416万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
放射線障害予防委員会	委員	(1)安全管理および施設管理の実施担当者、(2)教育訓練および健康診断の実施、記録、(3)放射線管理状況報告書の作成、(4)委員会の議案作成、(5)放射線障害予防規程関連細則等の作成 など
学生委員会(薬)	委員	特待生等選考(薬GPA算出)、卒業式準備、保護者会準備、など
薬学部薬学教育支援センター運営委員会(薬)	委員	化学系兼任教員、化学補習(1年生)、学生個別対応 など
CBT実施委員会(薬)	委員	管理者、PC管理、試験監督
共同機器管理(薬)	委員	NMR装置管理担当、定期メンテナンスおよびトラブル発生時の対応
OSCE実施委員会(薬)	委員	ST6副責任者
入学前・初年次教育担当責任者	委員	化学担当、プレイスメントテスト等取りまとめ、成績管理、補講等実施管理

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
RI施設管理担当者	放射線取扱主任者、安全管理担当者、施設管理担当者	放射線源の安全使用に関する管理、管理区域に立入る者の入退域管理、放射線被曝および放射線汚染の管理、ならびに放射線取扱施設の点検等に関する業務全般 など
共同機器管理	管理担当	NMR装置のメンテナンス・管理担当、トラブル発生時の対応、渉外
初年度教育担当	化学担当	化学取りまとめ、プレイスメントテスト実施および集計、補習の実施、個別対応 など

(3) 課外活動の指導等

- ・薬学サッカー部 監督
- ・勉強合宿(6年生、1月) 個別対応

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・センター入試 試験監督
- ・オープンキャンパス(夏期参加)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	欠席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

2019年12月7日 エネルギー施設見学会ワークショップ参加、主催：経済産業省 資源エネルギー庁
(佐賀県玄海町)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やポートフォリオをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。

大学運営面においては、放射線管理や共同機器のNMR装置の管理のほか、多くの委員会を掛け持ち各委員会で貢献できていると考えている。

研究面では、大学施設外での共同研究(千葉市・放射線医学総合研究所)を継続しており、炭素線を照射したマウスの腸管サンプルを用いて核医学的トレーサーを使った解析を進めている。得られた結果をまとめ、論文の作成段階にある。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 太田 智絵

1. 教育理念

私は講義や研究室での教育を通じて、学生に生薬・天然物化学に興味を持ってもらい、自ら進んで学習してもらいたいと思っている。生薬・天然物化学の知識をただ単に説明するのではなく、授業で学んだ知識が医療現場においてどのように活用できるかを重点に置き、学生が薬剤師となってからも役立つものにする。さらに、学生の卒業後の漢方薬・生薬認定薬剤師などの認定に興味を持つきっかけをつくれればと思う。

さらに私は1年生の化学も担当しており、本科目は学生にとって化学の基盤となるものと考えている。

そのため、しっかりとした知識を出来るだけ詳細に、わかりやすく教授するように心がけている。学生には薬学の基礎となる化学の面白さを知ってもらい、有機化学や分析化学、天然物化学などの応用科目に繋げていってもらいたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
化学演習	15 / 15 (前期)	1	21	①④⑧⑨
総合基礎学習 I	15 / 15 (通年)	0.5	106	②④⑥⑨⑩
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①④⑥⑨
生薬学実習	8 / 8 (後期)	1	105	①②③④⑨
生薬学Ⅱ	3 / 15 (後期)	1.5	90	①②⑨
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	104	①②④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを実施した科目は化学演習Cと生薬学実習であり、どちらもすべての質問項目において、学内平均を上回ることができたことから、概ね授業満足度は高かったと考える。

化学演習Cは学力的に下位の学生を対象であることから、「解ける問題を確実に解ける」ことを目指し、授業を構成した。具体的には、問題の解き方を解説した後で、その類似問題を授業中および宿題で解いてもらう。つまり、類似問題を3回解いてもらい、確実に習得できるようにした。しかし、学生がこなす問題数が少なく応用が利かないように感じたので、来年度は問題数もこなせるように工夫した。

い。

生薬学実習では、学生が自ら事前に学習することで実験が効率よく進行する内容に設定し、授業中も予習を促すようにした。さらに、実習内容を生薬学Ⅱの授業とリンクするように心がけた。その結果、かなりの学生が予習を行ってから本実習に取り組むようになり、学生の理解度も深まったように思えた。しかし、レポート内容や生薬学Ⅱの試験結果を踏まえると、学生の成績が向上したように思えなかった。来年度は学生の理解度を高めるように工夫を凝らしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 /学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
調剤Ⅰ(事前学習)	9	106	2019/4/19, 2019/4/25, 2019/4/26, 2019/4/29, 2019/5/16, 2019/5/17, 2019/5/23, 2019/5/24, 2019/5/31
総合実習(事前学習)	2	106	2019/11/26, 2019/12/3
総合演習Ⅱ	1	125	2020/1/9
総合演習Ⅰ	3	112	2019/6/4, 2019/6/18, 2019/11/22
化学演習の補習	1	23	2019/4/22
化学演習の補習	1	25	2020/3/13
化学演習の補習	1	35	2019/5/27
化学演習の補習	1	34	2019/6/17
化学演習の補習	1	31	2019/6/24
化学演習の補習	1	31	2019/7/1

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 伝統医薬中の抗癌、抗炎症、メラニン合成調節作用等を持つ成分探索とその作用機構解明
国内外で用いられている伝統医薬から、抗癌、抗炎症、神経細胞分化・保護作用、メラニン合成調節作用、メタボリックシンドローム予防等に効果のある活性成分を単離・同定し、さらに活性成分の作用メカニズムの解明を行っている。これまで、エキスライブラリーの薬理活性スクリーニング、さらに活性画分の調整と活性評価を繰り返すことで、新規化合物を含む多くの活性成分を単離・同定し、分子レベルでの作用機序を解明してきた。現在丁子に含有する化合物のメラニン合成調節作用について解析を進めている。

② 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

これまで利用・研究されていなかった非薬用部位の有効利用を目的に含有成分の探索および活性評価を行っている。これまでに柴胡の地上部の含有成分が抗癌作用を持つことや、当帰の地上部が根と同様に強い抗炎症作用を持つこと、地黄の葉が降圧作用を有することを見出し報告してきた。現在葛の非薬用部位に着目し研究を進めている。

③不妊症に効果のある生薬成分の探索研究

現在社会的問題になっている不妊症に効果のある天然物を探索し、その作用機序解明を行っている。これまで甘草の成分が精子を活性化し、人工受精率を上昇させることを見出し報告してきた。現在甘草以外の天然物からの活性成分探索を行っている。

④ECDスペクトル計算を用いた化合物の絶対立体配置の決定

ECDスペクトルの実測値と量子化学計算により得られる同スペクトルの計算を比較することで、化合物の絶対立体配置の決定を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	6	7	1	1	320万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Structures of triterpenoids from the leaves of *Lansium domesticum*/2019/5/Journal of Natural Medicines/73(4), 727-734/共著/論文

Screening of crude drugs used in Japanese Kampo formulas for autophagy-mediated cell survival of the human hepatocellular carcinoma cell line./2019/6/Medicines/6(2), 63 /共著/論文

Liquiritin and Liquiritigenin Induce Melanogenesis via Enhancement of p38 and PKA Signaling Pathways/2019/6/Medicines/6(2), 68頁/共著/論文

Phytochemical profile of the aerial parts of *Rehmannia glutinosa* Liboschitz var. *purpurea* Makino. /2019/9/Pharmacognosy Magazine/16(67), 128頁～131頁/共著/論文

The old pharmaceutical oleoresin labdanum of *Cistus creticus* L. exerts pronounced in vitro anti-dengue virus activity. / 2019/10 / Journal of Ethnopharmacology / doi: 10.1016/j.jep.2019.112316./共著/論文

Chemical structures and cytotoxic activities of the constituents isolated from *Hibiscus tiliaceus*./2020/2/Fitoterapia/142, 104524-104524/共著/論文

ウコンから血流を良くする新規成分を発見! ? /2019/11/ファルマシア/55(11), 1074頁/単著/トピックス

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

キンカン (Fortunella crassifolia Swingle) 果実からの抗変異原性リモノイドの探索研究/2019/3/日本薬学会第139年会(千葉)

抗原虫活性を有するテトラサイクリックイリドイド類の効率的かつ簡易な単離方法の開発/2019/3/日本薬学会第139年会(千葉)

ジオウ地上部の生物活性と成分解析/2019/3/日本薬学会第139年会(千葉)

ゴボウシ成分Arctigeninのオートファジー阻害の作用機序解析/2019/3/日本薬学会第139年会(千葉)

オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキスの探索/2019/3/日本薬学会第139年会(千葉)

フキ (Petasites japonicus) 地上部含有セスキテルペンの化学構造および抗変異原性/2019/11/第6回アジア環境変異原学会/日本環境変異原学会第48回大会合同大会(東京)

抗原虫活性成分tetracyclic iridoid類の定量分析法の開発と応用/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会(長崎)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平成30年度科学研究費補助金 若手研究	文部科学省および日本 学術振興会	2019年度～2020年度	320万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	2年生学年主任 学外非常勤講師対応
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	模試・販売・学内模試準備 国家試験引率 総合演習Ⅱ単位認定試験とりまとめ
薬学部学生委員会	委員	保護者会、各賞授与式の準備および実施
薬学部薬学教育支援センター 運営委員会	委員	化学演習の補習実施、CBT・国家試験の対策 サポート
薬学部薬用植物園運営委員会	主任	薬用植物の栽培および管理
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCEの準備および実施

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
共同機器管理	管理者	NMR装置およびMS装置のメンテナンス・管理担当

(3) 課外活動の指導等

- ①1年次早期体験学習の引率/10月23日/長崎川棚医療センター
- ②2年次臨床体験学習の引率/8月22日/長崎リハビリテーション病院
- ③5年次寄付講座の引率/2月7日/ゆうゆう薬局等
- ④6年次勉強合宿(夏および冬)での質問対応/8月11日, 1月18日

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①生物学オリンピック国内大会2019の植物学分野 試験準備や実施を担当/8月16日～18日
- ②長崎県立佐世保北中学校 研究所訪問/7月11日
- ①オープンキャンパスへの参加/7月21日, 8月25日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①論文審査8件
- ②学内クリーンキャンパス運動への参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ①ベトナムPHENIKAA Universityと天然物からの新規有用物質の探索に関する共同研究契約の締結式に参加/11月11日～15日/ベトナムPHENIKAA University
- ②Joint Workshop “Natural Products and Herbal Medicines 2019”にて発表/11月11日～15日/ベトナムPHENIKAA University

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育:前年度の授業アンケートを参考にし、分かりやすい講義資料の作成を心掛けた。その結果、今

年度の学生の満足度が学内平均を上回ることができた。来年度も今年度を踏襲して授業を実施する。

研究:今年度は共同研究を活発に行うことができ、原著論文は6報であった。しかし、筆頭著者の原著論文は0報であり自身の成果は不十分であった。一方、学会発表は日本薬学会、九州支部会等で行うことができた。

大学運営:CBT・国試対策委員会、教務委員会、学生委員会、薬学部薬学教育支援センター運営委員会、薬用植物園運営委員会およびOCSE実施委員会を中心に、担当した業務は責任を持って遂行するよう心掛けた。来年度も継続し、しっかり取り組んでいく。

国際交流:所属研究室とベトナムPHENIKAA University間で天然物からの新規有用物質の探索に関する共同研究協定を締結した。今後、ベトナムの薬用植物から、様々な疾患克服に有効な医薬品や健康食品素材の発掘を目指して研究を進めて行く予定である。

全体:授業に対する学生の満足度は概ね高評価であった。しかし、今年度は実務系科目のサポート等も行ったことで授業時間数が増加し、また講義資料を再作成したこともあり授業準備にかなりの時間を費やした。研究面では共同研究を積極的に進めることはできた一方で、自身の研究が疎かになった。来年度は業務の効率化を図ることで、自身の研究に尽力できるよう努める。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 中島 健輔

1. 教育理念

大学人として、自身で考え、学ぶ習慣を身に付けて欲しいと考えている。
 日々の学習習慣がない学生も多数、見受けられるため、そのような学生には
 国家試験合格のためには、継続的に学習をすることが大切であり、
 勉強をしない日を作らず、少しでも机に向かい、勉強時間を増やしていくように指導している。
 効率も重要だが、量をこなしたという自信をつけることが重要と考え、指導を行っている。
 さらに、受け身ではなく、自ら、率先して授業、実習などに参加し、様々な疑問点を抽出し、
 解決までのプロセスを見出せるような教育を心掛けている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①②
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	101	①
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	110	①④
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	110	①④
生物薬剤	4 / 10 (後期)	3	110	①
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	110	①
総合実習	6 / 6 (後期)	1	110	①
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの結果はおおむね良好であった。

今後、更なる改良を行いたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

BDNF産生促進物質の探索

神経細胞の新生・成長などに関与する脳由来神経栄養因子(BDNF)の減少が、うつ病を引き起こすという「神経可塑性仮説」が注目されている。うつ病予防・改善薬の創製を目指し、BDNF産生促進作用を有する天然化合物や食品由来成分の探索を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	416万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(若手研究)代表	日本学術振興会	2019～2021	416万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	高校への出前授業
実務実習運営委員会	委員	実務実習の円滑な実施に尽力した。
共同機器管理委員会	委員	共同機器委員会の活動に参画した。
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会薬学部門支援委員会の活動に参画した。
OSCE実施委員会	委員	OSCEのST責任者として活動を行った。
事前学習運営委員会	委員	事前学習の1つの部門の責任者として活動した。
教育支援センター運営委員会	委員	教育支援センター運営委員会の4活動に参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席

2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度から、実務実習に加えて総合演習を担当することになったが、実務分野を分かりやすく国家試験に役立つように教えることが出来るよう注力できたと感じる。具体的には、国家試験に出題されやすいと思われる分野を集中的に教えることが出来たと考えている。作成したスライドを解説時に提示し、理解が深まるよう工夫を行った。

実務実習に関しては、4月から7月にかけての調剤Ⅰおよび調剤Ⅱの準備、片付け、指導を行い、滞りなく業務を完遂出来た。後期の処方箋解析実習および総合演習もオスキー合格を見据えて、薬学的知識を学生に身に付けてもらうような指導を心掛け、適切に業務を遂行できた。

また、実務実習事前学習総合実習では、軟膏、水剤、計数調剤のパートの主責任者として、調剤手技を学生に伝え、OSCE合格の一助となることが出来たと感じている。OSCEでは、ステーション4責任者として職務を完遂し、滞りなくOSCEを追えることが出来た。

研究に関しては、論文のアクセプトおよび学会におけるその成果発表を行いたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 中村 沙織

1. 教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。

よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	48	②③⑨
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	110	①②③④⑤⑩
分析化学演習	7 / 15 (前期)	1	111	①②③④⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨
生薬学実習	8 / 8 (後期)	1	105	①②③④⑨
日本薬局方概論	5 / 15 (後期)	1.5	107	①②③④
機器分析学	7 / 15 (後期)	1.5	67	①②③④
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

①(基礎の数学)満足度は4.1→4.4→3.7→4.1→4.6とここ数年で一番評価が高かった。個々に声をかけたり、課題提出を促したりと、こちらから積極的に関わっていった結果だと感じる。この結果を維持できるよう、個々の学生に気を配っていききたい。

今年度は、昨年に引き続き、「講義終了後に確認問題を解いて提出する」、「毎回の課題の解答を配

布ではなくポートフォリオに公開し、自己採点後に提出する」というスタイルで行った。

一学生からの質問に対して全体に再説明したり、講義中に問題を解かせている間、巡回して声かけをしたり、課題の提出を促したりと、細かく対応した。

本講義は2クラス制の下位クラスだが、その中でも成績に開きがあり、成績下位層の学習意欲と理解度を向上させる方策が必要だと感じている。

②(機器分析学)満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1と推移している。講義内容が多いため毎年早口を指摘される野に対し、重要事項を何度か繰り返して強調する等の工夫を行ったが、さらにゆっくり話すよう意識しなければならぬと感じた。

配布資料は例年、見やすいもしくは見にくいという両極端な指摘があり、今回は少しシンプルな色味に改善した。さらなる改善を検討したい。講義ごとに質問や感想を募り、次回以降の講義で反映させている。また、復習用の問題を配布しており、学ぶべき要点を示していることで復習の一助になったと感じる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1/37	101	2019/11/11
総合演習Ⅱ	1/39	119	2019/12/11
総合演習ⅢA	1/64	103	2019/6/13

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① ASAP-MS分析法による簡易高選択的分析法の開発
- ② 脳腫瘍放射線療法前後の生体成分分析
- ③ 動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
よくわかる薬学分析化学(第2版)/共著/2019/4/廣川書店/256頁～268頁、284頁～298頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

日焼け止め中紫外線吸収剤のASAP-MS分析/2019/5/第79回分析化学討論会

ASAP-MS法による化粧品中紫外線吸収剤の一斉分析法の開発/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会

腹部腫瘍放射線治療時に生じる腸管障害の解明と新規防護薬の探索/2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	履修の手引の編集、新入生担当割り振り等
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパス、出張講義(進学ガイダンス)等
薬学部学生委員会	委員	保護者会、卒業式の準備等
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	週間試験準備・成績解析、模試・販売・学内試験準備等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 高校生夏休み薬学研究体験/8月7日/本学

② 神崎高等学校進学ガイダンス参加/9月17日/場所:神崎高等学校

③ 活水高等学校進路ガイダンス参加/2月5日/場所:活水高等学校

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県都市計画審議会	委員	2015/3～現在に至る	長崎県土木部都市政策課

(3)社会貢献・ボランティア活動等

①公益財団法人MR認定センターからの受託事業により、MR補完教育問題を作成。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、前期25コマおよび学生実習、後期15コマおよび学生実習と、昨年度より5コマ多く担当した。昨年度の学生アンケート等を参考に講義内容と配布資料を改善し、個々の学生の様子に気を配って声掛けするよう心掛けた結果、基礎の数学では満足度が3.7→4.1→4.6と向上した。機器分析学では例年4.1～4.3を維持している。次年度は講義スピードの改善を行い、

研究面では、学生の卒業研究の指導とともにを行い、3件の学会発表を行った。次年度は論文の投稿につなげたいと考えている。

学部運営面では、今年度半ばから新たに薬学部国試・CBT対策委員会の委員になり、週間試験の準備・解析や、外部講師資料の準備、実力試験の準備等を担当した。その他には薬学部教務委員会の委員として履修の手引きの編集を担当している。薬学部学生委員会では保護者会の面談日程の取りまとめ等を、薬学部入試募集委員会では高校での出張講義に2回参加した。また、高校生薬学研究体験の実験を昨年度に引き続き担当し、募集・広報活動では多少貢献できたと思う。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 波多江 日成子

1. 教育理念

- ・九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。
- ・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
- ・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
- ・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	3	101	⑧⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	⑧⑨
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	49	①⑨
化学演習	15 / 15 (前期)	1	49	④⑧⑨
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	99	①⑩
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	100	⑨⑩
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、合同授業においてはアクティブラーニングを用いて学生間の交流・知識向上に努めた。さらに補講を複数回行い、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。また臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、アンケートの結果も良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。さらに、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習III A	1	107	2019/4/22
総合演習II	1	125	2019/12/11
リメディアル化学補習	1	23	2019/4/22
リメディアル化学補習	1	25	2019/5/13
リメディアル化学補習	1	35	2019/5/27
リメディアル化学補習	1	34	2019/6/17
リメディアル化学補習	1	31	2019/6/24
リメディアル化学補習	1	31	2019/7/1

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ヒト赤血球膜蛋白質バンド3の構造解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

- ・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ヒト赤血球タンパク質バンド3/基質結合体の結晶構造解析 /2020/3/日本薬学会 第140年会
 ペプチド基質を用いたダビガトランの血中濃度測定法の開発 /2020/3/日本薬学会 第140年会
 磁気検出システムを用いたAFP抗原の定量的検出 /2020/3/日本薬学会 第140年会
 血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発 /2020/3/日本薬学会 第140年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会(学科)	委員	オリエンテーション、シラバス編集
国試CBT対策委員会(学科)	委員	試験準備、資料印刷・配布、試験監督割り当て
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	CAI利用試験の問題確認、修正
薬学教育支援センター運営委員会(学科)	委員	1年生リメディアル科目補習、6年生合宿

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学20周年事業準備WG	なし	2020年に大学20周年を迎えるにあたって、記念事業や式典の準備についての会議

(3) 課外活動の指導等

寄附講座 東七卸見学引率(令和2年2月7日)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席

2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。さらに、補習等を行い、聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行っている。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、バンド3タンパク質と基質であるPLPとの共結晶の条件を検討中である。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 福森 良

1. 教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	3	101	①④⑥⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	2	17	①⑨
薬理学Ⅲ(末梢-2)	15 / 15 (前期)	1.5	104	①②⑨
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	110	①②⑥⑦
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	100	①②③④⑥⑩⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	84	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物治療・薬効解析学特論	2 / 15 (前期)	2/1-3年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度の満足度の結果は4.0であった。

昨年度初めて実施した授業評価では4.1であったため、0.1ポイント減少した。

個別の自由記述を見た感想として、満足度の向上を図って追加した資料が、逆に学生の負担と資料が多すぎる煩雑さを産んだと思う。

来年度は資料を整理することで、本来の満足度の向上につなげたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	看護薬理学	15/15(通年)	1	38

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	112	4年通年
総合演習Ⅱ	3	125	5年通年
総合演習ⅢA	2	107	107

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つからない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患(認知症や統合失調症など)の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。

また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに意欲・動因の生起に関係する脳内報酬系を念頭に置き、薬物依存症の動物モデル(薬物自己投与方法を使用)の確立とそれを用いての、薬物依存症の再燃・再発機構の解明を試みています。この研究では、カンナビノイド受容体の変容に焦点を当てた神経化学的アプローチも試みています。本研究の成果により、①薬物への渴望の再燃機構が解明され、また依存症治療薬の開発に寄与できるだけでなく、②精神疾患で見られる再燃・再発のメカニズムさらには、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。このように、薬物依存症を含めた精神疾患発症のメカニズムについて脳内報酬系ならびに脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	210万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Elevation of endocannabinoids in the brain by synthetic cannabinoid JWH-018: mechanism and effect on learning and memory/2019/7/scientific reports/7/共著/査読付き論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
メタンフェタミン退薬後の認知機能障害発現における内因性カンナビノイドシステムの関与/
2019/10/第49回日本神経精神薬理学会年会 福岡
メタンフェタミン反復投与後の退薬時におけるカンナビノイドCB1受容体を介した認知機能障害/
2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会 長崎
メタンフェタミン退薬時に発現する感覚情報処理機能障害におけるカンナビノイドCB1受容体の関与/
2019/11/第36回日本薬学会九州支部大会 長崎

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費 若手研究 大麻主要活性成分 Δ9-THCの 第二世代マウスにおける影響	日本学術振興会	3年	210万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	卒業研究要旨集の編集を行った。
薬学部入試募集委員会	委員	2度の出張講義及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行った。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器の管理運用を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部就職説明会の企画をしたが、今年度は中止となった。 その他に、内定・進路調査を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、大会参加の引率、練習への参加を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学部入試募集委員として県内外の2つの高校へ、出張講義として薬剤師・薬学部ガイダンスを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	欠席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

令和1年10月 第49回日本神経精神薬理学会一般演題奨励賞 受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、昨年度より受け持っている「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。授業アンケートによる満足度の平均は「4.1」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

大学運営面においては、薬学部委員として、3月に薬学部就職委員として薬学部就職説明会を運営することで学生の就職状況の向上に努める。また、薬学部入試募集委員としては今年度現在までに2校の高等学校に赴き「薬剤師の進路ガイダンス、模擬講義」を行うことで入試募集に努めた。

研究面においては、共同研究者として国際論文1報を投稿した。また学会活動としては、10月に福岡で開催された第49回日本神経精神薬理学会において、「一般演題奨励賞」を受賞した。加えて、薬学会九州支部会では、自身と指導学生の2名が口頭発表を行った。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 松下 博昭

1. 教育理念

私の教育理念は、自ら主体的に学び、考え、行動できる専門家の育成である。よって授業ではアクティブラーニングを用いて専門力の向上を重視している。学生には、授業に自主的に参加し、学んでほしいと考えており、そのために主体的に学ぶ授業を取り入れるように努める。授業では学生の主体性を引き出すための課題を出し、それをもとにグループディスカッションなどを経て専門力とコミュニケーション力の育成を目指す。また講義中心の授業の中にも演習を取り込み、その解決を通して情報収集力や課題解決力を高め、主体的に行動できる専門家の育成に努める。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	41	①②④⑥⑧⑨⑩
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	123	②④⑪
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	110	①②⑥⑦⑩
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	62	③
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	61	③
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	100	①②③⑦⑩
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	122	②④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業では、授業評価アンケートの結果を元に授業方法を改善した。また新任教員研修での授業参観から学んだことを自身の授業に積極的に取り入れた。授業方法の改善により、学生がより能動的に授業に参加するようになった。さらに後期の授業評価アンケートでは、授業に対する理解度、満足度が向上した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

アルツハイマー病の原因タンパク質の代謝動態の制御と治療法の開発研究
 老人性アミロイドーシスの病態解析・治療研究
 遺伝性アミロイドーシスの病態解析・治療研究
 天然化合物によるアミロイドーシスの予防を睨んだ創薬研究
 宇宙空間でのアミロイド形成を探索研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	1	2	1	1	100万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 神経系のアミロイドーシス:ここまで進歩した治療と病態研究/共著/2019/9/6/日本内科学会雑誌/1873頁～1882頁

オキシトシンによる社会的絆形成 / 共著/2019/月刊「細胞」ニュー・サイエンス社/51(2)

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Oxytocin and Stress: Neural Mechanisms, Stress-Related Disorders, and Therapeutic Approaches / 2019/Neuroscience/1頁～10頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

アミロイドは微重力下で形成されやすいか? / 2019/日本アミロイドーシス学会

医療人向けトランスサイレチンアミロイドーシス啓発セミナー / 2019/12/21/長崎国際大学

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業・基盤研究B(分担)	日本学術振興会	2019～2021	100万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部就職委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

全てのオープンキャンパスに参加して、高校生と交流し本学への入学を進めた。
また薬学部就職委員会委員として活動した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	出席
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	出席
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	出席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	出席
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席

2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生理学会	理事	2016～現在	日本生理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育では、授業評価アンケートを元に授業方法を改善した。また新任教員研修での授業参観から学んだことを自身の授業に積極的に取り入れた。

研究では、国際雑誌に査読付き論文が1本採択された。また日本アミロイドーシス学会(会長、安東由喜雄)で研究成果を発表した。さらに本年スペインで開催される世界アミロイドーシス学会(会長、安東由喜雄)に演題登録した。

外部資金の獲得では、科学研究費基盤研究B分担を獲得した。

社会貢献では、学外の研究機関として熊本大学脳神経内科学との共同研究を積極的に実施した。

大学運営では、全てのオープンキャンパスに全て参加し、高校生と積極的に交流し、薬学部の受験を進めた。

また外部からアミロイドーシス病態解析学研究室に取材依頼があり、取材に協力し、知名度の向上に貢献した。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 大崎 千尋

1. 教育理念

私の教育理念は学生を国家試験に合格させるための知識を身に付けさせるだけではなく、社会に出た際に自ら考え知識や技術、判断力を駆使し行動できる医療者を育てることである。医療者は、一人では限界があることを知り謙虚さを持ちながら、命のために役立つことを生きがいに貢献したいという姿勢を持つことが必要である。また質の良い医療を提供するためには、チームで行動することは今の時代必須であり、そのためにはメンバー内で強い信頼関係を築きあげること目標に向かって努力する協調性が求められる。

学生には、実習を通して現実を得られたデータをニュートラルな視点で多面的にとらえ、熟慮・評価する力、そしてデータを取得するまでにチームで協力する姿勢を培って欲しいと考えている。そのためにも、学生たちの自主性を重んじ、仲間で話し合い考える時間を確保することや必要な時に必要な量のサポートを提供する授業の流れを心がけるように努めている。

最終的には、医療人としての責任感や一生涯知識・技術の研鑽の志を持ち、学生が社会に羽ばたいていけるような教育を目指している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

なし(担当科目なし)

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
衛生薬学実習	16	112	2019/5/18～2019/6/8
総合実習	18	110	2019/11/21～2019/12/3
処方箋解析実習	18	110	2019/10/24～2019/11/15
生物薬剤実習	15	110	2019/9/26～2019/10/18

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

・長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析

アロマ精油の成分分析や抗菌試験を行っている。特に長崎県内で栽培されている月桃という植物や、波佐見町で栽培されているバラから各々水蒸気抽出を行い、得られたアロマ精油やフローラルウォーターのガスクロマトグラフィー分析(GC)や抗菌性能を調べている。

・微生物を用いた芽胞状態での真菌抑制及び消臭作用の検討(T.Mエンタープライズ社との共同研究)

長崎県内の土壌から採取した単離菌(TM-N5株及びTM-I-3株)について非接触状態で抗真菌作用や消臭能力を発揮することが分かっている。最近の研究では、乾燥状態でも単離菌が真菌抑制作用や消臭作用を示すことが分かってきており、現在は芽胞状態での菌の可能性を検討している。

・光触媒を利用した脱臭に関する研究(株日本理工医学研究所との共同研究)

光触媒材料はほとんどの有機物を効率良く分解除去できることが知られており、最近では大気浄化や水質浄化等に広く応用されている。LED証明器具の面状拡散板(光触媒フィルム)に担持した酸化チタンが開発され、この開発品の居住空間における消臭・除菌効果についての評価を実施している。

・切削油による悪臭問題の解決

切削油を用いる現場では、長い間に渡り切削油に起因する悪臭が問題となっている。現在では有効な対策はなく、またその実態も詳しく調べた調査は少ない。切削油による悪臭の実態を企業と連携し、その悪臭低減対策として微生物資材を用いることを検討している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	5	1	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
The Bacteriological Properties of Bacillus Strain TM-I-3 and Analysis of the Volatile Antifungal Compounds Emitted by this Bacteria、Biocontrol Science / 2019/9/10/Biocontrol Science/129頁～136頁/単著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
TM-I-3株のAspergillus fumigatusおよびCladosporium cladosporioidesの経時的菌糸成長における阻害機構の解明/2019/12/5～12/7/2019年度 室内環境学会学術大会
TM-I-3株の揮発性物質の分析および非接触抗真菌作用のメカニズム解明/2019/12/5～7/2019年度 室内環境学会学術大会
長崎県産月桃エキスのCutibacterium acnesとCandida albicansに対する抗菌活性の評価/2019/12/5～12/7/2019年度 室内環境学会学術大会
Study of malodorous compounds from secondhand smoke in tobacco smoke and thirdhand smoke/2019/10/11～10/14/2019 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chimestry
Study on deodorization of hydrogen sulfide, ammonia, methyl mercaptan and tobacco smoke by photocatalyst / 2019/10/11 ~ 10/14 / 2019 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chimestry

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
金属加工現場の切削油剤に起因する悪臭問題の実態－微生物資材を用いた低減化策の検討	科研費(若手研究)	2020/4～2022/3	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE実施委員会	委員	OSCE ST2 責任者、運営
国試・CBT対策委員会	委員	試験問題準備担当
同窓会薬学部支援委員会	委員	長崎国際大学同窓会薬学部門 会計担当理事

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・オープンキャンパス活動参加(令和元年8月4日/令和元年8月25日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	出席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和元年度前期(4月～7月) / CHサポートセンター・学生生活サポート室相談員として学生の支援を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、当方が大学院卒業を控えている配慮を受け、委員会活動を絞って勤務に当たった。入職して4年目ということで委員会活動の仕事も身に付き、安定して仕事を遂行することができた。新しく所属になった委員会においては、特にOSCE実施委員会においてステーション責任者として円滑な試験実施ができるように取り組むことができた。

教育活動では、主に4つの実習を担当することになり、特に3つの実習は初めて担当するものであったため、上司との連絡・確認を密にとるように心がけた。精一杯取り組み、任務を遂行することができた。学生のモチベーションを高めるためにコーチングの技術を導入した。また希望の学生に対しては補講を行い学生の学力向上に寄与するよう努めた。

研究に関しては、研究テーマに関して新たに企業と連携して取り組める課題をスタートした。また論文執筆も進み、今年度内に1報投稿できた。学会発表も自分自身が1件、担当の学生が2件行うことが

できた。来年は、さらに研究活動を活発にし、助成金の獲得に向けて努力したい。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 倉岡 卓也

1. 教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業を担当していないので、授業アンケートを実施しておりません。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	微生物学	15/15(前期)	2	72

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

(1) 抗生物質を利用した新しい研究用試薬の開発:微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られている。我々の研究室は、放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出した。このあたかもレクチンの様な性質を利用して新しい研究試薬への応用を試みている。現在はカンジダ細胞壁マンナンと冬虫夏草の研究を通して、その有用性を検討中である。

(2)冬虫夏草の人工培養で産生される生理活性物質の探索:昆虫生体培養法を用いて冬虫夏草の安定供給に成功している企業と提携し、この抗腫瘍活性本体(低分子化合物)の特定及び構造決定を目標に冬虫夏草培養液の分離・精製を進めるとともに、正常細胞への影響を動物実験等から評価することで、新規医薬品リード化合物の発掘と同時に他の生物活性の探索している。

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	8	1	1	140万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Specific antiproliferative activity against several human cancer cells possessed by Cordyceps militaris grown in viable pupa of silkworm raised under sterile environment./2018/2/International Journal of Current Microbiology and Applied Sciences/988頁～997頁/共著/論文

Presence of O-glycosidically linked-oligosaccharides in the cell wall mannoprotein of Candida krusei purified with Benanomicin A/2018/12/FEBS Open Bio /129頁～136頁/共著/論文

Distribution of oligomannosyl side chains in the cell wall mannan of Pichia pastoris purified by Benanomicin A/2019/1/International Journal of Current Microbiology and Applied Sciences /2926頁～2935頁/共著/論文

The bacteriological properties of Bacillus strain TM-I-3 and analysis of the volatile antifungal compounds emitted by this bacteria/2019/1/Biocontrol Science/129頁～136頁/共著/論文

Determination of α -1,3-Linked Mannose Residue in the Cell Wall Mannan of Candida tropicalis NBRC 1400 Strain/2020/1/Advances in Microbiology/14頁～26頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Cordyceps roestromata二次代謝産物のヒト白血病細胞に対するアポトーシス誘導活性/2015/3/日本薬学会第135年会(於神戸サンボーホール:神戸)

抗生物質Benanomicin Aで調製したCandida krusei細胞壁マンナン-タンパクのアルカリ不安定糖鎖について/2017/8/環境微生物系学会合同大会2017(於東北大学川内キャンパス:仙台)

Benanomicin Aを用いた冬虫夏草由来マンノース含有多糖の分離/2018/3/日本薬学会第138年会(於もてなしドーム:金沢)

Cordyceps pentatomi Koval二次代謝産物のメラニン産生抑制能/2018/3/日本薬学会第138年会(於もてなしドーム:金沢)

Cordyceps roseostromata二次代謝産物のヒト癌細胞に対する抗腫瘍効果／2018/3／日本薬学会第138年会(於もてなしドーム:金沢)

Cordyceps pentatomi Koval二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響／2019/3／日本薬学会学会第139年会(於幕張メッセ:千葉)

カイコ冬虫夏草Cordyceps militarisの機能解析／2019/3／日本薬学会学会第139年会(於幕張メッセ:千葉)

無菌蚕の蛹を培地として生育したサナギタケの α -グルコシダーゼ及びキサンチンオキシダーゼの阻害効果について／2019/3／日本薬学会学会第139年会(於幕張メッセ:千葉)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
冬虫夏草サナギタケ成分の機能性の検証	経済産業省:中小企業庁	2016/7/15～ 2016/11/30	140万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CAI運用・活用委員会	委員	CAI試験準備
国試・CBT対策委員会	委員	模試・販売・学内試験準備、出席管理
生涯学習・教育委員会	委員	講演会準備・運営
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会・大学間の仲介
就職委員会	委員	就職説明会準備・運営
OSCE実施委員会	委員	ステーション副責任者、OSCE実施計画策定・運営
薬学教育支援センター運営委員会	委員	CBT・国試対策サポート
共同機器管理委員会	委員	共同機器選定
薬用植物運営委員会	委員	薬用植物園管理

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ／ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD／SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD 「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	出席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD／SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 ―統計学の基礎の基礎―	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究室配属生の指導では、成績が振るわない学生に対して大まかな目標を話し合い、助言を行いました。その結果、一時的に成績が上がりましたが、12月の時点での成績は下がってしまいました。持続的に指導できなかつたことが一因であると反省し、今後は定期的にコミュニケーションを取り、指導を行いたいと思います。OSCEについては、実習において自分の経験を活かし、特に計算が苦手な学生の指導を行い、サポートすることができました。OSCE当日では、ステーション副責任者としてステーション責任者と連携しながら円滑な実施に努め、特に問題なくOSCEを実施することができました。研究については、小林教授指導の下で論文1報を投稿し、掲載することができました。一方、別の研究テーマでは、学会に発表できる新たなデータを得ることはできましたが、雑誌に投稿できるまでではないので、今後もデータを積み重ねて雑誌に掲載されるように努力したいと思います。

教員個人による諸活動について 令和元(2019)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 山口 恭士郎

1. 教育理念

6年制薬学生として強い責任感と倫理観をもち、薬学関連分野の幅広い知識をもった信頼できる薬剤師に導いていくことを教育理念としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義を担当しておりませんので、アンケート等はありません。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳酸菌生産物質の有用性について

- ・ヒトの便秘や肌質に及ぼす影響について
- ・高脂肪食投与マウスの代謝に及ぼす影響について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

The Bacteriological properties of Bacillus strain TM-I-3 and analysis of the volatile antifungal compounds emitted by this bacteria / 2019/1 / Biocontrol Science / 129頁～136頁 / 共著 / Original

豆乳の乳酸菌発酵ろ液塗布による薄毛症状の改善効果(第1報) / 2019/12 / 皮膚と美容 / 147頁～154頁 / 共著 / 論文

乳酸菌発酵ろ液PS-B1服用による排便および便の性状, 肌質に対する影響 / 2020/1 / 日本食生活学会誌 / 111頁～122頁 / 共著 / 論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

高脂肪食を摂取した野生型マウスの脂質及び糖質代謝に対する乳酸菌生産物質(PS-B1)の影響 / 2019/03 / 日本薬学会139年会(千葉)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	総合演習Ⅰ～ⅢB(4～6年)の出席管理、模試・販売・学内試験準備
教務委員会(学科)	委員	オリエンテーション、朝学習(1～3年)の出席管理
就職委員会(学科)	委員	第6回地域の期待に応える実践活動サポート 就職ガイダンス時のサポート

生涯学習・教育委員会(学科)	委員	生涯教育セミナー開催時の会場案内・写真撮影
OSCE実施委員会(学科)	委員	調剤Ⅱ実習サポート、総合実習サポート、ステーション副責任者、OSCE実施計画策定・運営等

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3)課外活動の指導等

- ①高大連携: 猶興館高等学校の体験学習、令和元年8月20-21日、学生誘導
- ②オープンキャンパス学科別プログラム体験学習(生化学研究室)、令和元年8月25日、体験学習実施
- ③早期体験学習、令和元年10月16日、長崎医療センター引率

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2019/4/1	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/2	第112回	—	平成31(2019)年度新着任教員対象FD	対象外
2019/4/18	第113回	第1回	ポートフォリオ/ファイルメーカー説明会	任意
2019/4/20	第114回	—	第1回授業研修会	対象外
2019/4/24	第115回	第2回	厳格な成績評価とアセスメント・ポリシー	欠席
2019/4/24	第116回	第3回	2019年度 修学上の配慮が必要な学生に関するFD/SD	後日出席
2019/5/29	第117回	第4回	ハラスメント防止研修	出席
2019/6/26	第118回	第5回	九州・長崎IR誘致の取り組み～現状と課題～	欠席
2019/6/26	第119回	第6回	安全保障貿易管理及び利益相反マネジメントにかかわる研修会	出席
2019/7/13	第120回	—	第2回授業研修会	対象外
2019/7/31	第121回	第7回	長崎国際大学の財務状況全般について	出席
2019/7/31	第122回	第8回	公的研究費コンプライアンス研修	出席
2019/9/10	第123回	—	令和元(2019)年度 教育改革FD「いま、大学に求められているもの」(第3回授業研修会)	欠席
2019/9/25	第124回	第9回	令和元年度 学生支援に関するFD/SD「精神障がいにおける合理的配慮」	出席
2019/9/30	第125回	—	世界を理解するための統計データ分析 —統計学の基礎の基礎—	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、生化学実習の取り纏め業務や実施、調剤Ⅱ実習や総合実習のサポート等を行いました。その他、学科内の委員会活動により大学運営活動に関わることが出来ました。

研究面では、2019年に2報、2020年に1報の論文を投稿することが出来ました。現在執筆中の論文もありますので、来年度中に2報投稿することを目標に努力したいと考えています。また、研究室配属生の卒業研究のサポートを行い学生の研究意欲向上に努めました。